

345 昭和7年5月12日 芳沢外務大臣より
在仏国長岡(春一) 大使、在英国松
平大使他宛(電報)

上海派遣軍の満州転用、内地帰還について

別電 同日芳沢外務大臣より在仏国長岡大使、在英国

松平大使他宛第一一七八号

上海派遣軍の引揚げに関する陸軍省発表要旨に
ついて

合第一一七七号

「普通情報」

今般上海派遣陸軍部隊中一個師団ハ満州ニ転用セラレ他ハ
全部内地ニ帰還セシメラルルコトナリ別電合第一一七八
号ノ通り陸軍省ヨリ発表ヲ見タリ(十一日発表中関係友好
国代表ノ活動云々ハ今後行ハルヘキ円卓会議ヲ指スモノナ
リ)尚右陸軍部隊引上後上海ニハ海軍陸戦隊約二千名引続
キ駐屯ノ筈ナリ

(仏宛ニハ「英、寿府スミ」ト付記ノコト)

(編注) 本電報および別電は「寿府連盟、露、浦潮、米、
伯、馬尼刺、新嘉坡」にも發電された。

(別電)

合第一一七八号

「普通情報」

五月十日陸軍省発表要旨

上海派遣軍ニ属スル第十四師団ハ満州ニ転用セラルルコト
トナリ逐次新任地ニ向ヒツツアリ

五月十一日陸軍省発表要旨

今般成立セル停戦協定ノ運用及上海地方平靜確立ニ関スル
関係友好国代表ノ活躍ニ信頼シ上海派遣軍ノ全勢力ヲ内地
ニ帰還セシメ上海付近今後ノ形勢推移ヲ静観セシメラルル
コトトナリタリ

(仏宛ニハ「英、寿府スミ」ト付記ノコト)

事項二 満州国の成立と日本の承認

1 昭和7年1月4日

在奉天森島(守人)総領事代理より
犬養外務大臣宛(電報)

軍司令部幕僚の東三省新国家建設計画について

て

奉天 1月4日後発

本省 1月4日後着

第一四号(暗、部外極秘)

東三省新国家建設計画ニ関シテハ予テ電報ノ通ナル処林総
領事御帰朝前軍司令官及高級幕僚ニ対シ九国条約トノ関係
上右ハ極メテ慎重考量ヲ要スル次第ヲ御話相成リタル模様
ニテ其結果本庄司令官ヨリ幕僚ニ向ヒ篤ト研究ヲ遂クル様
指図セラレタルニ対シ幕僚ハ本件計画ハ形式上支那側ノ自
発ニ依ル次第ナルヲ以テ九国条約ト抵触スル理由ナク従テ
既定方針ヲ変更スル必要ナキ旨進言シタル趣ナリ当地軍司
令部幕僚ノ腹案ハ最近ノ機会ニ東三省新国家ヲ組織セシメ
其主権者ト我方最高代表者トノ間ニ秘密攻守同盟協定ヲ締

結シ国防ハ全部日本ニ委任シ外交ハ形式上新国家ニ外交部
ヲ設クルモ其最高級職員ハ全部日本人ヲ採用シ軍部ノ内面
的指令ノ下ニ行動セシムヘク右新事態ニ関シ我方ハ新ニ満
州総督ヲ設クヘシト云フニアリ

2 昭和7年1月4日

在奉天森島総領事代理より
犬養外務大臣宛(電報)

臧式毅らの新独立国家建設に関する協議につ

いて

奉天 1月4日後発

本省 1月4日後着

第一五号(暗、部外極秘)

往電第一四号ニ関シ
(一文書)

臧式毅、熙洽、張景惠ハ二月十一日若ハ十八日奉天ニ会合
シ東三省連合新独立国家建設ニ関シ協議スヘシトノ説高ク
既ニ新国家ノ勳章図案ニ対シテモ極秘裡ニ軍司令部ノ指示

ヲ仰キタル模様ナリ尚消息通ノ伝フル所ニ依レハ独立国家
成立ト同時ニ宣統皇帝乗リ出ス予定ナリトノコトナリ

3 昭和7年1月6日 在ハルビン大橋(忠一) 総領事より
犬養外務大臣宛(電報)

全満州の治安維持方策について

ハルビン 1月6日後発
本省 1月6日後着

第一〇号(暗、極秘)

⁽¹⁾我満蒙政策ノ根本義タル全満ノ治安維持ノ方法ニ関シテハ
既ニ客年往電第六八六号ヲ以テ簡単ニ具申シタルモ更ニ右
要領ヲ述フル事左ノ如シ

(一)日鮮人ノ現住地若ハ将来ニ於ケル發展有望地ニ警察網ヲ
張り日鮮人保護ニ当ルト同時ニ一般的治安維持ニ任セシム
ル為鉄道付属地ヲ除ク全満ニ概數二百見当ノ警察署ヲ設置
シ主要地ニ領事館若ハ分館ヲ設置スル事

(二)右警察官ハ主トシテ現ニ各地ニ転戦シツアル兵士中ヨ
リ採用スル事(在満兵中東北窮乏地方出身者多キニ付其救
済ノ意味ヲ含マシム)

(三)主要警察分館ハ簡単ナル無線電信及「トラック」ヲ改装

ラレ度ク其費額ハ関東州及付属地ヲ含ム全満警察ヲ一行政
系統ニ統一シ現関東庁警察(内地ノ治安整ヘハ數ヲ減少シ
得ヘシ)ヲ按配スル事ヲ得ハ全体トシテ余程經費ヲ緊縮シ
得ヘシト思考ス尚本案ニ付テハ本官ヨリ芳沢大使ニ説明シ
置ク可ク亦関東軍側モ賛成ノ模様ナリ
奉天、吉林、齊々哈爾ヘ転電セリ

4 昭和7年1月8日 ※在ハルビン大橋総領事より
犬養外務大臣宛(電報)

張景惠の省長就任式挙行について

ハルビン 1月8日前発
本省 1月8日後着

第一九号(暗)

齊々哈爾発本官宛電報

第二号

大臣ニ転電アリタシ

第二号

張景惠ハ昨六日夜来齊本七日挨拶ノ為軍、当館、満鉄ヲ訪
問シ続イテ広信公司ニ於テ日本側ノ答礼ヲ受ケ直ニ省政府
ニ於テ省長ノ就任式ヲ行ヒ省長就任ノ宣言ヲ宣布シ鈴木旅

セル装甲自動車ヲ以テ連絡シ相互ニ応援セシムルコト
⁽²⁾四右警察官ハ屯田式トシテ成ルヘク其土地ニテ土着スル様
誘導シ其欠員ヲ在満駐屯軍除隊兵中ヨリ補充スルコト(此
ノ目的ヲ達スル為ニハ給与ヲ現在ヨリ幾分減額シ貯蓄帰郷
ノ傾向ヲ減殺シ独立ニ際シテハ少額金融機関ヲシテ助力セ
シムル要アリ)

(五)将来満州新政權トノ商議ニ依リ我カ警察ヲ支那側保安機
関ニ合併セシメ一般治安ヲ担当セシメ得ル様予メ我カ警察
官ヲ訓練シ置クコト

(六)支那政權ヲシテ軍隊ヲ全廢若ハ極端ニ減縮セシメ我カ警
察官ノ脅威ヲラシメサルコト

(七)支那政權ヲシテ全満ヲ解放シ日鮮人ノ居住活動ノ自由ヲ
認メシムルコト

(八)右方法ヲ採用シタル後支那側ノ警察及司法機関完備スル
場合ニハ治外法權ヲ撤廢シ右撤廢前ニ於テモ帝國臣民ヲシ
テ正當ナル地方課税ニ服セシメ差支無カルヘキ事

本件ハ我満蒙政策ノ根本ヲ為シ且ツ内地治安ノ尚乱レ居ル
機ニ乗シ緊急措置的ニ実行シテ急速ニ既成事実ヲ作り置ク
事対外的ニ見テ適當ナルヘキニ付右經費追加予算ニ計上セ

団長本官及満鉄公所長ハ夫々祝詞ヲ述ヘ就任式終了後日本
側官民及邦人顧問連ハ支那側要人ト共ニ省政府ニ於ケル張
ノ招宴ニ臨メリ張ハ本夕日本側ノ歡迎宴ニ列席後哈爾賓ニ
於テ芳沢大使ト会見スヘク帰哈スル予定ナリ尚張ハ同人不
在中吉祥ヲシテ省長代理ノ職務ヲ執ラシムヘキ旨言明セリ
支、北平、奉天、吉林ニ転電アリタシ

5 昭和7年1月8日 在ハルビン大橋総領事より
犬養外務大臣宛(電報)

張景惠黑竜江省省長と馬占山の関係について

ハルビン 1月8日後発
本省 1月8日後着

第二一号(暗)

往電第七号ニ関シ

張景惠ハ七日正午齊々哈爾ニ於テ黑竜江省々長就任式ヲ舉
行シ八日午前二時半帰哈セル処同人ハ今後モ依然当地ニ在
留シ江省ノ政務ハ吉祥ヲシテ代理セシムルコトトシ曩ニ当
地ヨリ齊々哈爾ニ派遣セル警備隊ハ全部当地ニ帰還セシム
ル筈ニシテ同隊長英順ハ張ト同行帰哈セリ
尚張ハ江省ノ政權ヲ将来馬ニ譲ルモノノ如ク差当リ当地ニ

江省政府設立籌備処ヲ暫設シ目下海倫ニ在ル同政府ノ官印及公用文書ヲ一先ツ当地ニ取り付ケ政府人員モ殆ント全部馬側ノ人物ヲ任命シ馬ヲ通シ江省ノ実権ヲ握リタル上近々中ニ三省政府最高機関設立運動ノ為奉天ニ乗り出ス由ナリ

支、北平、奉天、吉林、広東、齊々哈爾、満州里へ転電セリ

6 昭和7年1月12日 在奉天森島総領事代理より
犬養外務大臣宛(電報)

新国家建設不可避の情勢について

奉天 1月12日後発
本省 1月12日後着

第八四号(暗、部外極秘)

今次時局ノ收拾力結局新国家ノ建設ニ至ルヘキハ屢次電報ノ通ナル処右ニ関シ僭越乍ラ卑見左ノ通稟請ス

一、錦州方面ノ事態一段落ト共ニ新国家建設計画ハ急速進展シツアリ既報ノ北寧線借款支払問題ノ解決省政府内整理委員会ノ設置等モ之カ反映ト云フヘク其実現ノ時期極メテ近キニ在ルハ諸般ノ事情ニ照シ推察ニ難カラス(二月十

一日若ハ十八日ト伝ヘラルルハ既電ノ通)思フニ新国家ノ建設ハ時局ノ当初以来当地軍部ノ終始一貫セル方針ニシテ吉林新政権ノ樹立、北滿ノ攻略、錦州政権ノ倒壊等ハ何レモ其實質ニ於テ新国家ノ建設ヲ目標トシ来レルモノナルカ当地方ノ現状ニ於テハ今ヤ一般ノ輿論ハ新国家建設ヲ以テ既定ノ事実ナリトシ更ニ一步ヲ進メ新国家ノ採用スヘキ政体如何ニ関シ論議スルニ止マラス将来日滿關係ノ永續性ヲ確乎ナラシムル為關東州及付屬地ヲモ還付シ東北四省ニ日鮮滿蒙漢五族ノ渾一融和セル樂土ヲ建設シ内鮮人モ進ンテ新国家ノ国籍ヲ取得スヘシトノ意見スラ有力トナリツツアル情勢ナリ曩ニ当方ヨリ該新国家問題ニ関シ早キニ臨ンテ廟議御決定ヲ進言シタルハ右形勢ヲ察知シタルカ為ニ外ナラサル処既ニ前記ノ如キ情勢ヲ馴致セル今日ニ至リテハ仮ニ政府ニ於テ何等別個ノ方策ヲ講セラレントスルトモ時期既ニ遅ク政府ノ御方針ノ如何ニ拘ラス出先軍部限リニ於テ民族自決ノ形式ニ依ル新国家建設ヲ成就セシムルニ至ルハ動カスヘカラサル大勢ト認メ得可ク要ハ単ニ時期ノ問題ニ過キス

二、此ノ間ニ処シ我方ニ於テ考慮スヘキハ新国家ノ建設カ

對外關係ニ及ホスヘキ影響如何ノ問題ニシテ本省ニ於テモ最近ノ米國ノ通牒等ニ関連シ夙ニ御考究中ノ事ト拝察スルモ前述ノ通大勢玆ニ至リテハ新国家ノ建設ヲ既定ノ事実トシテ對外關係上ニ於ケル善後措置ニ関シ速ニ一定ノ方針ヲ決定シ外國側ノ容喙阻止ニ努メ以テ帝國ノ滿蒙ニ於ケル地位確立ニ資スル外途ナキヤニ思考セラル滿蒙ニ於ケル我國ノ地位カ列國ノ等シク認識セル所ナルハ殊ニ時局以来列國カ内心我國ノ態度ニ不信ヲ抱キ乍ラ今日迄實際的措置ニ出テサリシニ鑑ミルモ大体之ヲ認メ得ヘク齊々哈爾進出並ニ錦州占拠ニ際シ我方ニ於テ滿鉄線ノ修理匪賊討伐等ノ如キ表面的且ツ形式的説明ニ依リ切り抜ケ得タルハ一ニ滿蒙ニ於ケル我國ノ地位ト之ニ対スル列國ノ潜在的意識アリタルカ為ナルヘシ從テ

(イ)今次新国家ノ建設ニ当リテモ對外的説明上民族自決主義ニ依リ之カ形式ヲ整フルト共ニ第三國關係ノ諸般ノ事項ハ速ニ解決シ且ツ我國ノ裏面的関与アル事実ニ於テモ全然之ヲ隠蔽スルコトハ不可能ナリトスルモ少クモ形式的ニハ右事実ヲ否認シ得ルノ方途ヲ講シ以テ第三國ニ口実ヲ与フルヲ防クト共ニ

(ロ)新国家ノ政治運用ニ当リテハ欧米人ノ神經ヲ極度ニ刺激スヘキ門戸開放、機會均等主義ノ実行ニ付名実共ニ誠意アル態度ヲ示スコト肝要ナリ

(ハ)又新国家成立ニ伴フ我在滿行政機關整理統一ノ問題ニ付テハ都督若ハ總督等ノ名称ヲ用フルコトハ折角我方新国家建設ノ形式ニ依リテ滿州併合云々ノ非(難)ヲ避ケツツ其實ヲ收メントスルノ建前ト両立セス却ツテ對外關係上新国家計画ノ遂行ニ支障ヲ与フルノ虞アルニ付蔽ニ之ヲ避ケ例ヘハ高級委員トカ其他外國側ノ首肯シ易キ形式ニ依ルコトトシ右機關ノ内容ニ付テモ前記(イ)(ロ)ノ二点ニ付充分実効ヲ期シ得ル様考慮シ置クノ要アリ本件我在滿機關整備ハ新国家ニ対スル我方ノ内面的干与乃至実権把握ノ問題及門戸開放、機會均等ノ実行ト緊密ナル關係アリ我方ニ於テ對外的支障ヲ出来ルタケ排除シツツ新国家建設ノ方策ヲ實現スル上ニ重大ナル影響アルモノナルヲ以テ此際政府ニ於テ新国家問題ニ関スル廟議御決定ノ際之ト不可分ノ問題トシテ方針御決定ノ要アルヘシ

哈爾賓、吉林ヲ除ク在滿各館へ暗送セリ
公使、北平、哈爾賓、吉林ニ転電セリ

7 昭和7年1月16日 在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

奉天省政府の債務整理について

奉天 1月16日後発
本省 1月16日後着

第一〇九号(暗)

往電第(脱)号ニ関シ

奉天省政府ハ旧遼寧省政府所屬各機関及旧軍事機関ノ内外
商人ニ対スル債務ヲ整理スル為十五日奉天省積欠商款整理
委員会ヲ組織シ省政府財政庁及官銀号ノ代表者五名ヲ委員
ニ任命シ金井、色部、首藤ノ三顧問ヲ本会ノ兼任顧問ニ指
命セリ整理方針ハ外国商人ニ関シテハ当該国領事ノ手ヲ經
テ支払要求書ヲ提出セシメ右委員ニ於テ審議ノ上小口ノモ
ノハ即時支払ヲ為シ大口ノモノハ一応確認証ヲ交付シ漸次
支払ヲ為サシムルニアルカ如ク尚滿鉄、北寧兩鉄道関係ノ
如キ重要債務ニ関シテハ本会ヲ離レテ別ニ考慮スル方針ナ
リト云フ
支、北平、吉林、哈爾賓、長春、鉄嶺、遼陽、安東、牛莊
ヘ転電セリ

ケ換ヘニ過キス一種ノ形式ノ変更ニシテ矢釜シキ国際問題
ニハ非ストノ冷静ナル觀察ヲ為スニ至ルヘク此ノ意味ニ於
テ昨今日本ノ新聞等カ新国家組織ニ関シ徒ニ声ヲ大ニシテ
殊更世界ノ視聽ヲ聳動スルハ不賛成ニシテ臧式毅モ大ニ氣
ニシ居レルカ左リトテ強イテ打消ス時ハ却テ反動ヲ起ス虞
アルニ付放任シ居レリト内話セリ

9 昭和7年1月16日 在ハルビン大橋総領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

滿州統治機構について

ハルビン 1月16日後発
本省 1月16日後着

第三七号(暗、極秘)

閣下發奉天總領事宛電報第一五号ニ関シ

(一)在滿警察官ノ帰屬如何ノ問題ヲ考究スルニ先タチ我對滿
政策ノ帰趨如何ノ問題ヲ考フルニ現在ニ於テハ軍側ノ活動
ニ依リ着々新政権ノ樹立ニ向テ進展シ今後連盟委員ノ調査
ノ結果幸ヒニ滿蒙ノ委任統治論ニテモ成熟スレハ兎ニ角然
ラサレハ新政権ノ樹立ハ必至ノ勢ナリ而シテ右ハ滿州ニ於
ケル我權益ヲ擁護シ進ンテ新ニ事実上ノ權益ヲ設定スル為

8 昭和7年1月16日 在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

第三国の対日感情融和方に関する金井省政府
顧問の内話について

奉天 1月16日後発
本省 1月16日後着

第一一一号(暗、部外極秘)

軍司令部ニ於テハ新国家建設上第三国人ニ対シ現在ノ新政
権ハ学良ノ旧政権ニ比シ内外共ニ善政ノ実ヲ挙げ居レリト
ノ印象ヲ与フル事確ニ一面ノ急務ナリト考フルニ至リタル
カ如ク往電第一〇九号奉天省積欠商款整理委員会設置ノ如
キ右政策ノ一端ナルカ右ニ関シ十六日金井省政府顧問ハ当
館員ニ対シ最近北寧線借款支払問題解決ニ依リ当地英国官
民ノ対日感情大ニ融和シ唯米国官民ノ対日感情ハ種々複雑
ナル理由ニ依リ稍々不良ナルカ如キモ之トテ今後我方ニ於
テ注意スレハ次第第二融和スル事疑無ク結局日本ノ指導ニ依
リ新政権ノ遣口ハ旧政権ニ比シ合理的ナリトノ具体的事実
ヲ示スニ於テハ諸外国人ハ新政権及其背後ノ日本ヲ信頼シ
新政権カ其ノ内新国家ニ改編セララルモ右ハ単ニ看板ノ掲

一応妥当ナル形式ナルモ右方法ニ依リ滿蒙ヲ万民安住ノ地
タラシムルコトハ如何ニ強キ力ヲ顧問等ノ形ニ於テ支那政
権ノ背後ヨリ加フルモ性根ノ極端ニ曲リタル支那人ヲシテ
直接支那人ヲ支配セシムル形式ヲトル以上之ヲ期待スルコ
ト困難ナルヘキニ付我方トシテハ新政権ノ力ニ頼ルコトナ
ク独自ノ力ヲ以テ在留内鮮人ノ保護ニ任スルノミナラス進
ンテ支那地方官憲ヲ指導シ駐在地付近ノ治安ヲ維持スル覺
悟ヲ必要トスヘシ從テ将来ノ在滿警察官ハ在来ノ関東庁若
ハ外務警察トハ自ラ特異ニシテ機微ナル使命ヲ帶フルコト
トナリ其活動如何ハ忽チ支那側若ハ第三国トノ紛議ヲ醸シ
延テハ我滿蒙政策ノ全局ニモ果ヲ及ホス虞レアル次第ニ付
其組織ハ充分検討ヲ要スル次第ナリ

(二)本官トシテハ在滿警察ヲ一命令系統ニ統一スルコト所有
見地ヨリシテ絶対必要ナリト信スルモ之ヲ現在ノ如キ政局
ト共ニ幹部ノ異動常ナク且渉外事項ニ無經驗ナル関東庁ニ
統一スルコトニハ反対ニシテ殊ニ今日滿鉄沿線ニ行ハルル
領事事務官兼任主義ヲ全滿ニ拡張スル場合ニハ警察ニ対ス
ル命令ニ途ニ出テ勝チナルコト從來ト差異無ク今後ハ其管
轄区域カ涉外関係繁キ滿州奥地ニ及フタケ弊害甚シカルヘ

シ左リトテ之ヲ外務側ニテ統一スル案ニテハ満州ノ植民地的傾向強カラントスル今日反対論ヲ押切ルコト困難ナルヘク旁若シ此ノ際強ヒテ現在通りノ行政組織ノ下ニ於ケル統制ヲ行ハントスレハ植民地的傾向強キ南滿(大体滿鉄沿線領事ノ管轄区域)ノ警察ハ関東庁ヲシテ統一セシメ北滿ノ警察ハ白露人及東支鉄道ノ關係上國際關係複雑ナルニ鑑ミ外務ニ於テ統轄スルコト然ルヘキカト思考ス

(三)然レトモ前件私案ノ如キハ姑息手段ニ過キササルニ付寧ロ此ノ際帝國政府ニ於テ不必要ニ外國ニ氣兼セス(外國ニ對シ注意スヘキハ實質ニシテ形式ニ非ス)進ンテ寧ロ對外的ニ我方ノ滿蒙ニ對スル固キ決心ヲ示ス意味ニ於テ斷乎トシテ滿州總督若ハ都督制ヲ實現シ所謂四頭政治ヲ統一シ國際關係上益々機微且重大性ヲ加ヘントスル滿蒙建設ヲ合理的ニ促進セラルルコト必要ナリト信ス若シ總督若ハ都督制度カ何等カノ理由ニ依リ容易ニ實現シ難キ場合ニハ関東長官ニ関東軍ヲ指揮命令シ得ル世界的眼光ヲ有スル軍人ヲ任命シ以テ関東軍関東庁ヲ一括シ更ニ在滿領事館ノ所在地及人選ヲ整頓シタル後之ヲシテ関東庁事務官ヲ兼ネ其資格ニ於テ関東長官ニ直屬セシメ其全責任ニ於テ警察並ニ産業ノ事

(韓業階)
ンウンカイ(日本留学生出身)ノ兩名ハ当地ノ事情偵察ト

共ニ馬ノ入城ニ付我軍部其他ト打合せノ為海倫ヨリ本月十三日来齊セリ右代表ト当地軍部ト協議ノ結果昨年往電第一七七号王殿忠ノ軍隊ハ馬ノ希望ニ依リ奉天ニ引揚クルコトトナリ先ヅ日軍ト江省軍ノ衝突ヲ避クル為当地城壁ノ南側ヲ境界トシ日軍ハ其以南ニ江省軍ハ以北ニ駐在スルコトトナレリ又馬代表ハ十六日晚当地日軍幹部及日支要人六十九名ヲ支那料理店ニ招待シ席上「江省ニ於ケル今回ノ日支衝突ハ江省側ノ誤解ニ出テタルモノニシテ誠ニ遺憾ニ堪ヘス江省ノ平和幸福ハ日本ト合作スルニ非サレハ其目的ヲ達シ難キニ付今後ハ日本側ノ指導援助ヲ懇請ス」ト述ヘテ謝罪合作ノ意ヲ表シタリ

(韓)
代表中ノカンハ右宴会後当地ノ情況報告ノ為直ニ哈爾賓經由海倫ニ引返シタリ

前記ノ事情及馬代表ノ本官ニ語レル処ヨリスルニ馬ハ今回ハ愈々肚ヲ決メ茲一週間内ニハ入城スルモノト察セラル

哈爾賓ヨリ支、北平、奉天、吉林ニ転電アリタシ

満州里ニ暗送セリ

務ヲ行ハシムルコトトシ領事官本来ノ事務ニ付テハ関東庁ニ新設サルヘキ有力ナル外事部長及外務大臣ノ指揮命令ニ服セシムルコト然ルヘキカト思考ス右ハ在滿警察及四頭政治統一上及支那政權カ軍部ニ威圧セラルル程度ノ増加及関東軍統治部ノ活動ニ依リ次第ニ活動範圍ヲ狭メラレツツアル在滿領事館ヲ活用スル所以ナルニ付篤ト御考慮相成度シ奉天ニ転電シ吉林、長春、齊々哈爾、満州里、鉄嶺、牛莊、遼陽、安東、間島、鄭家屯ニ暗送セリ

10 昭和7年1月17日

※在ハルビン大橋総領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

チチハルに於ける馬占山代表の行動について

ハルビン 1月17日後発
本省 1月18日後着

第四一号(暗)

齊々哈爾發本官宛電報

第四号

大臣へ転電アリタシ

第三号

(王静修)
馬占山代表オーセイシユー(前江省国防籌備署參謀長)カ

11 昭和7年1月18日

在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

張海鵬、王殿忠部隊の鉄道警備配置について

奉天 1月18日後発
本省 1月18日後着

第一一五号(暗)

今回関東軍司令部ニ於テハ張海鵬(所屬軍隊約五千)ヲ守備隊司令官ノ隷下ニ編入シテ洮昂線一帶ノ警備ニ又王殿忠(所屬軍隊一千五百)ヲ第二十師団ノ隷下ニ編入シテ奉山鐵路一帶警備ニ充ツルコトトシタルカ右ニ関シ張海鵬ハ軍側ト打合ノ為十七日来奉セリ

尚右ハ当座ノ措置ニシテ近ク新國家成立ノ上ハ前者ハ洮昂鐵路護路司令、後者ハ奉山鐵路護路司令トシテ新國家ヨリ夫々任命セラルル予定ナルカ如シ

支、北平へ転電セリ

12 昭和7年1月19日

在鄭家屯大和久(義郎)領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

滿鉄沿線以外の内地に於ける領事館警察の配置継続について

鄭家屯 1月19日前発
本省 1月19日後着

第九号（暗）

在奉天総領事代理宛貴電第一五号ニ関シ

本官ノ私見ニ依レハ今ヤ滿蒙ノ事態ハ軍側ノ活動ニ依リ着
着新政権樹立ニ向テ進行シ政情ノ変転甚シキ今後ニ在リテ
ハ在滿我警察官ノ職責モ特異ニシテ機微ナル使命ヲ帶フル
コトトナリ從テ理想論ヨリスル時ハ全部一命令系統ニ統一
スルコト最モ好マシキコト乍ラ事実問題トシテ滿鉄沿線ノ
如キ我方ノ勢力断然確定シ涉外事項ニ於テモ既定ノ威力ヲ
押通スニ別段支障ナキ地域ニ在リテハ關東庁警察官ニ統一
スル方結局機能發揮ノ上ヨリ見テ良好ナル結果ヲ得ラルヘ
キモ当館ノ如キ滿蒙奥地ニ在リ自然支那側ノ勢力ノ下ニ孤
立セル地帯ニ於テハ涉外關係複雑多岐ニ亘リ關東庁警察官
ノ如ク地方支那側ノ態度ヲ無視シ独断専行ノ遣口ニテハ徒
ニ事端ヲ紛糾セシメ延イテハ邦人ノ奥地發展ヲ阻害シ弊害
多カルヘシ勿論領事官カ關東庁事務官ヲ兼任シ其資格ヲ以
テ同庁警察官ヲ指揮命令スル（脱）スヘキモ結局命令二途
ニ出テ而モ人事關係ノ機微ナル経緯アリ領事ノ立場ハ種々

随一ノ実力者トシテ兎角ノ評判アリシ丁超モ疑惑ヲ避クル
為最近中ニ奉天ニ赴キ本庄司令官ニ直接釈明スル由ナリ斯
クシテ北滿ノ大勢モ表面上一段落ヲ告ケル事トナリタリ
支、北平、奉天、吉林、長春、齊齊哈爾、滿州里、天津、
広東へ転電セリ

14 昭和7年1月21日 在吉林石射（猪太郎）総領事より
芳沢外務大臣宛（電報）

在滿各領事官の地方官兼務による権限拡大に

ついて

吉林 1月21日後発
本省 1月21日後着

第二九号（暗）

奉天宛貴電第一五号ニ関シ

滿蒙ノ内地化ニ連レ在滿各領事官ハ本来ノ使命ノミニテハ
其存在ノ影薄クナリツツアル処對外關係上之ヲ廃止セラル
ヘキニ非サルヲ以テ之ヲ地方官化シテ其存在ノ意義ヲ強カ
ラシムル必要アリ幸ニ都督又ハ其他ノ名義ニ於ケル統一機
関ノ出現ヲ見ルナラハ滿鉄ノ付属地行政権ヲ或ル程度迄回
収シ全滿ノ警察官ト共ニ之ニ帰属セシメ同時ニ各領事ヲシ

困難ノ事情ヲ生シ到底円滿ナル職責ヲ遂行シ難キモノト信
ス依テ滿鉄沿線以外ノ各領事館ハ依然外務省警察官ヲ配置
スルヲ良策ト思考ス

奉天へ転電シ、哈爾賓、吉林、長春、鉄嶺、齊々哈爾へ暗
送セリ

13 昭和7年1月20日 在ハルビン大橋総領事より
芳沢外務大臣宛（電報）

北滿の大勢一段落について

ハルビン 1月20日後発
本省 1月20日後着

第四八号（暗）

在賓県吉林政府並ニ之ニ付和セル反熙治各軍解決ノ為張景
恵ハ過般來熙治代表金宣武ト此等反軍トノ間ニ調停ヲ試ミ
居タル処最近議纏リ十九日馮占海（阿城）張作舟（榆樹）
李杜（三姓）蘇德臣（雙城）等ノ諸將領ハ爾今熙治ニ隸属
スヘキ旨ノ連名通電ヲ發シ賓県政府主席誠允モ同政府ノ取
消シ並ニ從來ノ關係書類引継ノ為二十日来哈張景恵ニ会見
ノ筈ナリ他方海倫ノ馬占山モ參謀長以下自派ノ人物ヲ齊々
哈爾ニ送り着々入齊ノ準備ヲ進メツツアル模様ニテ尚北滿

テ一面該機關下ノ地方官ヲ兼ネシメ（從來ノ關東庁事務官
ニテハ不可実質的^{（ママ）}の官庁トスルコト恰カモ往年滿鉄事務所長
カ領事ヲ兼ネタル如クス）之ヲシテ統一機關所屬ノ地方行
政ヲ掌ラシメ從テ付属地内外ヲ問ハス警察官ノ指揮監督權
ヲ其手ニ収ムルノ方針ニテ進ムヲ得策ト思考ス
奉天へ転電シ在滿各領事へ暗送セリ

15 昭和7年1月21日 ※在ハルビン大橋総領事より
芳沢外務大臣宛（電報）

在滿警察機構の改革について

ハルビン 1月21日前発
本省 1月21日後着

第五〇号（暗、極秘）

滿州里発本官宛電報第三号

外務大臣へ転電アリ度シ

第六号

奉天総領事宛貴電第一五号ニ関シ近ク吉会線完成セハ問島
ト北滿トカ接近シ警察制度ハ勿論從來ノ官制ニテハ對滿政
策上不利ナルヲ以テ大臣級ノ關東長官ヲ任命シ軍司令部ニ
於ケル命令指揮權ヲ与ヘ奉天総領事ニ新設セラルヘキ關東

庁外事総長ヲ兼任セシメ在滿各領事ハ関東庁事務官ヲ兼任シ警察及或種ノ事務ハ右総長ヨリ直接事務官ヲ指揮命令セシムル事トシ他面総長ニ付属スル関東庁警務局ヲ奉天ニ新設シ沿線付属地内外及満州ノ日本警察事務ヲ統率セシム尤右ハ管区広大ニシテ交通通信網モ完全セサルヲ以テ各領事ハ管内限ノ警察事務ニ関シ指揮監督ヲ有スル事即チ現在ノ関東警察事務ヲ拡大シタルモノタル事尙将来在滿各地ニ聘用セラルヘキ日本人ノ中国政府ノ行政産業警察等ノ顧問ハ各管轄地域ニ基キ当該領事ニ監督権ヲ有セシムル事等ナリ奉天ヘ転電アリ度シ

齊々哈爾、長春、間島、北平、吉林ヘ暗送セリ

16 昭和7年1月22日 在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

新政権下における領事官の地位、在滿警察官の帰属等について

奉天 1月22日後発
本省 1月23日前着

第一三七号(暗、部外極秘)
貴電第一五号ニ関シ

満州都督若ハ高級委員長ノ下ニ政治部經濟部関東州部ノ三部ヲ置キ政治部長ハ奉天総領事ノ兼任シ經濟部長ニハ滿鉄總裁若ハ副總裁ヲ当テ関東州部ノ権限ハ関東州租借地ノミニ限ルコト政治部ニハ警保局ヲ置キ租借地外満州全部ノ警察事務ニ関スル大綱ヲ統轄セシメ各地方警察権実行機関トシテハ奉天其他ノ鉄道付属地ノ警察ニ関シテハ監視庁ヲ置キ又北滿間島南満州奥地ノ警察ハ各地総領事ヲシテ之ヲ統轄セシムルコト内地ニ於ケル県知事ト同様ナラシメ又各地領事ハ地域別ニ依リ中心地ノ総領事ノ指揮監督ニ服スルコト

(ロ) 第二案(妥協案)

満州都督若ハ高級委員長ノ下ニ政務(涉外)、警務、經濟、内務其他ノ諸局ヲ置キ北滿及間島ノ警務ハ哈爾濱及竜井村ノ総領事ニ委任シ南満州ノ警務ハ警務局ノ直轄トス但シ南満州警務ニシテ涉外事項ニ関スルモノニ付テハ政務局長ノ指揮監督ヲ受ケ又南満州駐在各領事ニ付テハ現在ノ兼任関東庁事務官職務規定ヲ改正シ其管轄地域内警察官ニ対シ直接ノ指揮監督ヲナシ得ルモノトスルコト守屋書記官、北平、在滿各総領事ヘ転電シ

(甲) 在滿警察官帰属問題ハ新政権成立ニ伴フ我在滿機關統一ノ問題如何ニ係ルモノナル処本件ニ関シテハ先ツ左記諸点ヲ考慮スルノ要アリ

(イ) 北滿及間島地方ト南滿沿線地方トハ我方実力ノ程度並ニ対外關係上ヨリ頗ル異ルモノアルコト

(ロ) 新政権ニ対スル我方ノ統制ハ新政権ノ機構自体ニ喰ヒ入リテ行フ内面的実力把握ト外部ヨリスル「コントロール」トノ二方面存スル処後者ハ在滿日本領事館ノ任務タルヘク即チ各領事館ハ対内的ニハ満州都督若ハ高級委員ノ出張所トシテ知事若ハ探題ノ役目ヲ演シ対外的ニハ新政権ニ対シ派遣セララルル領事館タルヘキコト

(ハ) 前記ノ使命及満州ノ現状ニ鑑ミ在滿各領事ハ直接警察ノ実権ヲ有スルニアラサレハ實際上ハ全然無用トナリ何等ノ経綸ヲモ行ヒ難キニ至ルヘキコト

(乙) 右ノ考慮ノ下ニ在滿警察官帰属問題ヲ考慮スルニ差当リ解決方法トシテハ哈爾濱總領事發閣下宛往電第三七号ノ(九文書)

(二) 案ニ依ルコト然ルヘク又究極ノ対策トシテハ左記二案ノ何レカニ依ルコト然ルヘシト存ス

(イ) 第一案(理想案)

在滿各領事ヘ暗送セリ

17 昭和7年1月23日 ※在ハルビン大橋總領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

新国家における警察の帰属問題等について

ハルビン 1月23日後発
本省 1月23日後着

第五三号(暗)

齊々哈爾發本官宛電報

第九号

外務大臣ヘ転報アリタシ

第七号(極秘) 一月廿一日

閣下發奉天宛往電第一五号ニ関シ
警察帰属問題ハ満州事変ノ帰属如何ニ依リ自ラ種々ノ意見アルヲ免レサルヘキ処関東軍側ニテハ満州ニ新独立国家ヲ建設セシメ他(面)日本側ノ機關トシテハ満州都督府ヲ設ケ新国家ニハ日本人顧問部ヲ付設シ都督ハ右顧問ヲ通シ新国家ノ指導監督ニ当リ又新国家ノ国防ハ其ノ委任ニ依リ都督ノ監督下ニ在ル我カ軍隊ヲ各地ニ配置シ之ニ当ラシムル

コトトシ新国家ノ軍隊ハ地方ノ治安ヲ維持スル程度ニ裁撤シ度キ意向ナルモノノ如シ尤モ新国家ト日本トノ関係ヲ如何ニ定ムヘキヤハ最モ研究ヲ要スヘキ重要ノ点ニシテ関東軍ニ於テモ目下熱心ニ研(究)中ト存セラル就テハ本件貴問ニ対シ各起リ来ル場合ヲ想像シ回答スルコト左ノ如シ

(甲)新国家成立シ同国家ヲシテ既存ノ関係条約ヲ尊重セシムルト同時ニ日本人ニ其ノ国内ヲ解放セシメ日本人ハ自由ニ居住シ土地其ノ他ノ不動産ヲ所有シ農牧商工鉱漁業其ノ他一切ノ企業ヲ営ムコトヲ得ルコトナリタル場合

一、新国家ト日本トノ関係ヲ保護関係程度迄進マシメ得タル時ハ新国家ノ官吏ニ必要数ノ日本人ヲ雇(傭)セシメ治外法権ハ直ニ之ヲ撤廃スルコト

二、保護関係設定迄ニ至ラサルモ顧問制度ニ依リ相当内政ニ干与シ得ルニ至リタル場合ハ成ルヘク速ニ新国家ヲシテ其ノ裁判官及警察官ニ必要数ノ日本人ヲ傭入レシメ其ノ準備成ルヲ待テ治外法権ヲ撤廃スルコト

前項及本項ノ場合我カ治外法権ヲ撤廃スルコトハ内地ヲ解放セシメ且ツ種々ノ特権ヲ日本人ニ許与セシメタル趣旨ヨリスルモ当然ノコトナルノミナラス日支両民族ヲ同一地位

ニ置ク結果両者間ノ感情ヲ融和シ延テハ新国家ノ基礎ヲ鞏固ニスルモノト思考セラル

三、第一項ハ当分実現ノ見込ナク第二項ハ新国家ノ基調稍安定セハ実現ノ可能性アルモ之トテモ其ノ実現スルニハ相当ノ月日ヲ要スヘキニ付過渡期ニ於ケル処置トシテハ我カ在滿警察ハ滿州カ我カ殖民地タル色彩ノ漸次濃厚ニナラントスル傾向アルニモ鑑ミ右統一機関(関東長官ノ上ニ軍都督府若ハ現在関東長官ニ軍人ヲ任命シ其ノ下ニ在滿各機関ヲ統一包擁スル関東庁)ノ下ニ統一スルコト妥当ニアラスヤト思考ス

四、北滿ニ在リテハ国際関係ノ複雑セルト我勢力ノ未タ透徹シ居ラサルニ顧ミ多少手加減ヲ加フル必要アルニ付当分ノ間領事ヲシテ統一機関ノ事務官ヲ兼ねシメ北滿ノ警察官丈ケハ其指揮ニ從ハシムルコト適当ナラスヤト思考セラル

尚在滿警察ヲ我在滿統一機関ノ下ニ統一スルヲ可トスル理由ハ(イ)在滿各機関ハ原則トシテ一機関ノ下ニ統一スルヲ可トスルコト(ロ)警察行政ハ外務省ノ本業ニ非サル為外務省ノ手ニテハ充分ニ能率ヲ發揮シ得サル憾アルコト(ハ脱?)

(ニ)在滿警察ハ全部之ヲ統一シ連絡ヲ密接ニスルニ非サレハ

成績ヲ充分ニ挙げ能ハサルコト(ハ)統一ニ依リ經費ヲ節約シ得ルコト等ニアリ

(乙)満州事変ノ帰結カ我方予テノ声明通ノ既存条約ノ尊重未決諸案件ノ解決以上ニ出テサリシ場合

此場合ニ於テモ南滿ハ従前ニ比シ我殖民地的色彩ノ度ヲ昂ムヘキニ付南滿ノ警察ハ現在ノ関東庁若ハ第三項所載ノ統一機関ノ下ニ統一スルヲ可トシ北滿ハ寧ロ外務省系統ニ属セシムルヲ可トス從テ北滿ヲ南滿ト同一系統ノ下ニ統一スルコトハ北滿ニ執リテハ多少ノ不便ハアルモ第三項末段ノ理由ヲ考慮シ且將來ヲ見越シ此際進テ第三項ノ通統一スルコト妥当ナラスヤト思考ス

哈爾濱ヨリ奉天ヘ転電アリタシ
支、北平、吉林、間島、満州里ヘ暗送セリ

18 昭和7年1月23日 ※在ハルビン大橋総領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

在滿警察帰属に関する意見の訂正について

第五四号(暗)

ハルビン 1月23日後発
本省 1月23日後着

齊々哈爾濱本官宛電報

第一〇号

外務大臣ヘ転報アリタシ

第八号

往電第七号ニ関シ

其ノ後研究ノ結果同電中甲、三ノ場合ニ於テモ乙ノ場合ニ於テモ北滿ノ警察ハ外務省ニ隸属セシムルヲ可トスルコトニ変更シタリ右ニ御訂正相成リタシ又今回ノ満州事変ノ帰結カ既存条約ノ尊重諸案件ノ解決以上ニ大正四年ノ滿蒙条約モ北滿ニ迄延長セシメ得タル場合ニ於テモ北滿ニ於ケル警察ノ所屬ハ当分外務省トスルヲ可ト思考ス

哈爾濱ヨリ奉天ヘ転電アリタシ
支、北平、吉林、間島ヘ暗送シ満州里ヘ転電セリ

19 昭和7年1月24日 在間島岡田(兼一)総領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

長春以北および東地方における警察官の指揮命令系統について

間島 1月24日後発
本省 1月25日前着

第三〇号（暗）

閣下発奉天宛電報第一五号ニ関シ

新国家建設問題ヲ離レテ考フルニ間島地方ハ現在制ニ依リ
外務省警察官ヲ配置シ総領事ノ指揮監督ノ下ニ置クハ統制
及國際關係上適當ト存セラル警察機關ノ朝鮮總督府移管ニ
就テハ間島地方ノ特異性ニ顧ミ之ニ適応スル警察機關ヲ置
クノ要アルヲ以テ同警察官ノ大部ハ軍隊出身ヨリ採用シ軍
隊教練ヲ行ヒ一方支那語ノ教育ヲ施ス等國際警察官タルノ
訓練ヲ為シ居ル事及警察官ノ身分カ朝鮮總督府ニ属スル関
係上自然警察指揮カ朝鮮總督府、領事館ノ兩途ニ出テ二頭
政治ノ弊ヲ醸シ統制ヲ紊ル惧アル事ノ二点等其他ヨリ考ヘ
現制ヲ存続スルコト然ル可シト存セラル

北滿及吉敦沿線地方ニ外務省警察機關配置セラレ又敦図線
鐵道工事モ近ク着手セラレントスル時ニ於テ長春以北及以
東（間島ヲ含ム）ヲ一区画トシ外務省警察機關ヲ充實シ領
事館ト同一系統ニ属スル外務省警察官ヲ統制スルハ警察機
関ノ機能ヲ円滿ニ發揮スル上ニ於テ機宜ノ措置ト認メラル
新国家建設セラルルニ至ラハ或ハ憲兵制度ノ如キ別ニ警察
機關ヲ設置セラルルニシテモ新国家建設ノ過渡期ニ於テ素

質不良ナル支那軍隊及警察官カ整理セラルル迄ハ我警察機
関ノ存続ヲ要スル次第ナルカ新国家建設ノ際ニ於ケル当地
方警察制度ニ関シテハ何分ノ御訓令ヲ俟チ卑見ヲ申出ツル
コトニ致スヘシ

管下四分館及奉天、吉林、哈爾濱ニ転電セリ

20 昭和7年1月24日 在鉄嶺石塚（邦器）領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

在滿全警察官の外務省帰属について

鉄嶺 1月24日後発
本省 1月24日後着

第二〇号（暗）

貴大臣発奉天宛電報第一五号ニ関シ

滿州政情ノ推移ニ伴ヒ今後如何ナル統一的政治機關カ滿州
ニ樹立セラルルトモ外務省ニ於テ在外居留民ノ保護取締ヲ
主管セラルル以上鐵道付属地外駐在警察官ヲ外務省ニ統一
スルコト刻下ノ急務ナルコトハ勿論進シテ此際関東庁現行
官制中南滿州ニ於ケル鐵道線路及付属地ノ警務上ノ取締規
定条項ヲ廃シ之ヲモ外務省ニ移管スルヲ要スレ付属地ノ
内外ニ於テ監督官庁ヲ異ニスル別箇ノ警察機關ヲ対立セラ

ルルコトハ事務ノ統一ヲ阻害スレハナリ從來沿線各地ノ領
事館員手薄ナル為情報ノ蒐集諸般ノ調査等ニ関シ万全ヲ期
シ難キ關係上勢ヒ多数ノ署員ヲ擁スル警察署長ニ其ノ資料
ノ蒐集方ヲ命セサルヘカラサルコト多々アリ然ルニ署長ハ
本来ノ警察事務以外ノ調査等ニ関シ領事ノ指示ヲ喜ハス一
方領事ノ兼任警察官ニ対スル指揮監督ハ名アリテ実無ク之
カ為事務ノ支障ヲ来スコトアリ例ヘハ外交ニ関スル事項ト
雖其ノ資料排日宣伝文書ノ原文等ハ先ツ関東庁ニ郵送シ其
ノ写乃至訳文ヲ領事ニ回付スルカ如シ故ニ此際滿州駐在警
察官ヲ一律外務省ニ隷属セシムルコト緊急事ト思考ス
奉天、吉林、間島、哈爾濱、齊齊哈爾、牛莊、安東、遼
陽、鄭家屯、長春ヘ暗送セリ

21 昭和7年1月26日 在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

県長任命など新国家設立準備について

奉天 1月26日後発
本省 1月26日後着

第一五一号（暗、部外極秘）

自治指導部ニ關係セル有力邦人ヨリ仄聞スル処ニ依レハ新

国家ハ二月早々成立ノ予定ニテ右下準備トシテ從來殆ント
省政府ト關係ナク地方自治ノ名ノ下ニ独立セル各県ニ対シ
不日臧主席ヨリ新ニ県長ヲ任命シ現在ノ地方自治執行委員
長ハ県長ノ兼任トスルコトニ軍部省長自治指導部長三者間
ニ内密ニ諒解ヲ遂ケタル趣ナリ尚今日迄省長ハ有名無実ニ
シテ各県ニ対シ何等指揮監督ノ權ヲ有セス地方ハ日本人自
治指導員ニ依リ實際上統治セラレタル姿ナリシカ今後ハ或
程度迄中央集權実施セラルル仕組トナル理ナリ
支、北平、吉林、哈爾濱、齊々哈爾ヘ転電セリ

22 昭和7年1月26日 在安東米沢（菊二）領事より
芳沢外務大臣宛（電報）

在滿警察官の帰属問題について

安東 1月26日後発
本省 1月26日後着

第二〇号（暗）

閣下発奉天宛電報第一五号ニ関シ

在滿警察官ノ帰属系統ノ問題ハ新ナル滿蒙政權ニ対シ我權
益ノ確保伸張在留内鮮人ノ保護取締産業ノ助長等各般ノ目
的遂行ノ為最モ便宜ニシテ且ツ可能ナル制度トシテ如何ナ

統一スルコト必要ナルヘシト信ス
奉天ニ転電シ在滿各領事ニ暗送セリ

23 昭和7年1月28日

在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

新国家建設に関する軍関係者内話について

奉天 1月28日後発
本省 1月28日後着

第一五八号(暗、部外極秘)

往電第一五一号ニ関シ

軍部要人ノ個人的内話ニ依レハ二月早々奉天吉林黒竜呼倫貝爾(熱河ハ追テ参加スル筈ナルモ地理的政治的關係ニ依リ差当リ参加シ難キ事情アリ)ノ四代表連名ニテ先ツ独立ノ宣言ヲ発シ次イテ十一日若ハ十八日ヲ期シテ憲法ヲ發布シ国号ヲ東和自由国年号ヲ建国(目下研究中ニシテ変更アルヤモ知レス)トシテ宣統帝ヲ大總統ニ迎ヘ不取敢任期ヲ七年トシ其下ニ行政立法司法監察ノ四院ヲ設ケ行政院ノ内容ヲ内務外務軍政産業交通司法財政ノ七部ニ分チ院長ニ臧式毅ヲ推シ別ニ大總統ノ諮問官トシテ參議院ヲ設ケテ重ニ日本人ヲ入レ重要政務ニ関シテハ悉ク參議院ノ同意ヲ要ス

ル形式ヲ採用スヘキヤノ根本問題ト相関連シテ講究ヲ要スヘキ処卑見ニ依レハ此ノ際總督又ハ都督府ノ樹立ニシテ不可能ナラハ名義ノ如何ヲ問ハス實質上同一趣旨ノ統一機關ヲ設置シテ所謂四頭政治ヲ統一セシムヘク此ノ場合右統一機關ニ属スヘキ関東長官ハ単ニ関東州ノミヲ管轄スルコトトシ南滿州ニ於ケル鉄道線路ノ警務上ノ事ハ勿論現在領事ノ職掌ニ属スル付属地外ノ警察事務及滿鉄ニ属スル付属地内行政事務ハ拳ケテ統一機關ノ統轄ニ服セシムルコト望マシク而シテ在滿領事官ハ一面本然ノ資格ニ於テ涉外事務ニ当ルト共ニ他面統一機關下ノ行政官トシテ産業通商貿易方面ノコトヲ司リ警察事務ニ付テハ付属地ノ内外ヲ區別セス一律ノカ指揮命令權ヲ有スルモノタラシムル(在滿領事官ハ此ノ場合兼任官トシテニアラス領事官タル身分ニ於テ当然以上ノ職務管轄ヲ有スルモノトス)コト時宜ニ適スヘキヤニ考フ若シ右統一機關ノ実現困難ノ事情アリ少クトモ表面上現行制度ヲ持續スヘキモノトセハ警察官ノ帰属ニ付テハ現在領事官カ兼任警察官カ関東庁警察官タル身分ニ於テ直接関東長官ノ指揮命令ノ下ニ行動スルヲ實際上阻止シ難キ実状ニ鑑ミ少クトモ付属地外警察官ハ全部之ヲ外務省系

ルコトトスヘク其院長ニ張景惠ヲ推ス計画ニテ独立宣言文並ニ憲法ハ既ニ草案ヲ用意シアリト云フ尚本件ニ関シ板垣大佐ハ宣統帝ト打合セノ為ニ二十七日飛行機ニテ旅順ニ向ヘリ

公使、北平、奉天、吉林、齊齊哈爾ニ転電セリ

24 昭和7年1月28日

三浦(碌郎)関東庁内務局長より
※谷田細田局長宛(電報)

日中開戦の際の海関に対する措置振りについて

て

関東庁 1月28日後発
本省 1月28日後着

25 昭和7年2月2日

在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

新国家成立時期の延期について

奉天 2月2日後発
本省 2月2日後着

第一八三号(暗、極秘)

往電第一五八号ニ関シ

軍幹部ノ内話ニ依レハ新国家成立時期ハ哈爾賓事件ノ為多
少延期セラルル事トナレリ
尚我軍ハ十一日頃ニハ哈爾賓ニ入市シ得ル予定ナリト

26

昭和7年2月4日 在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

新国家独立宣言の内容について

奉天 2月4日後発
本省 2月4日後着

第一八九号(暗、部外極秘)

軍幹部ノ内話ニ依レハ新国家独立宣言中ニハ外国ニ対スル
条約上並ニ契約上ノ義務ハ国際法並ニ国際慣例ニ依リ継承
スヘキモノハ之ヲ継承スル旨記スルコトシ又民国ノ対外
債務継承ノ問題ニ付テハ大体世界大戦後ノ欧州新興国独立
ノ際ノ事例ニ倣フ事トナル可シトノコトナリ
尚新国家成立ニ伴フ在滿各海關接收問題ニ関シテハ軍内部
ニモ慎重論無キニ非サルモ即時断行説有力ナルモノト観測
セラル

27

昭和7年2月4日 林(寿夫) 関東庁警務局長より
永井外務次官宛(電報)

建国式挙行準備について

旅順 2月4日後発
本省 2月4日後着

シメタリ残り二千モ速ニ黒省ヨリ撤退セシムル管ト
北平、天津、朝鮮、済南、上海スミ

29

昭和7年2月12日 在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

新国家建設計画に関する軍司令部幕僚の内話
について

奉天 2月12日後発
本省 2月13日前着

第二一六号(暗、極秘)

貴電第五九号ニ関シ

十二日軍司令部幕僚ニ確カメタル処極秘トシテ左ノ通内話
アリ尚軍ニ於テハ此ノ際計画ノ真相カ外部ニ漏洩スルコト
ハ頗ル不利トスル事情アルニ付新聞記者等ニ対シテハ殊更
要点ヲ避ケ応酬シ居ル次第ニ付外務省ニ於テモ其ノ御含ニ
願ヒタシト付言セリ

哈爾濱事件ノ突発ニ依リ予定計画ノ進捗遅延セルモ既ニ哈
爾濱方面モ平靜ニ帰シタルヲ以テ急キ手配ヲ為スコトトシ
二月二十日頃臧式毅、熙洽、張景惠、馬占山(馬ハ其ノ前
ニ一応齊々哈爾ニ入城セシム)ノ四人ヲ長春ニ集メテ東北

コ第七二号(親展)

(一)滿蒙新国家建設ハ着々進捗シ本月十一日ヲ期シテ建国式
挙行ノ予定ヲ以テ各機關トモ之カ準備ヲ急キツツアリ
(二)昨日參謀本部ノ命令ニ依リ関東軍統治部ヲ特務部ニ改称
シ部長ニ駒井徳三留任セリ新組織其他未定

28

昭和7年2月8日 三宅(光治) 関東軍參謀長より
真崎參謀次長宛(電報)

馬占山と第二師団長との会見について

2月8日後発
2月8日後着

(イ) 関第一九八号(一、二)(秘)
哈市電第二二二二号要旨

馬占山ハ七日来哈午前十一時半第二師団長ト会見シ大興以
来今次反吉林軍トノ戦鬪ニ至ル迄ノ馬ノ立場(万福麟系跋
扈シ馬系勢力小ニシテ馬ノ意圖遂行ニ極メテ困難)ヲ釈明
諒解ヲ求メ且種々ノ謠言アルモ馬ハ先般板垣參謀ト会見以
来日本ト徹底的ニ合作スル意志ニ変化ナシト称セリ尚馬ノ
言ニ依レハ丁超ハ六日呼蘭ニ在リテ約三千ノ兵ヲ呼蘭及ヒ
綏化ニ集中セルカ馬ノ要求ニ依リ内一千名ヲ三姓ニ移動セ

政務委員会ヲ組織シ其ノ決議ヲ以テ独立ノ宣言ヲ発表シ同
時ニ新国家建設ニ関スル審議ヲ行ヒ新国家ノ機構、政体、
国号等ニ関シ約一カ月間篤ト研究セシメタル上三月二十五
日ヨリ三十一日迄ノ間ニ新国家ヲ建設発表セシム国体ハ王
制トナシ溥儀ヲ王ニ戴キ都ハ長春若ハ吉林ニ置ク計画ナル
カ軍部トシテハ成ルヘク長春ヲ選ヒタキ希望ナリ国号ハ滿
蒙ノ二字ヲ冠スル時ハ将来滿蒙以外ノ地方カ其ノ版圖ニ帰
スルコトアルヘキ場合ヲ予想シ不適当ナルヲ以テ目下支那
人学者ヲシテ適當ノ国号ヲ研究セシメツツアルト共ニ版圖
ハ奉天吉林黑龍江ノ外熱河ヲモ加フル管ナルカ熱河ハ政治
上特殊ノ事情アルヲ以テ差当リ有名無実タルヘシ
本件計画ニ関シテハ前記四巨頭ニ対シテハ既ニ充分旨ヲ含
メアルモ別ニ輿論喚起ノ必要アルヲ以テ民衆運動ニ関シ軍
側ニ於テモ研究中ナリ

30

昭和7年2月12日 守島(伍郎) 亜細亞局第一課長より
西(春彦) 通商局第一課長宛

滿蒙審議會の開催通知について

付属書 同日付谷亜細亞局長より武富通商局長宛
對滿蒙実行策案審議委員会会則について

過日御案内ノ満蒙審議会ノ件ニ関シテハ在奉天柳井領事ノ
帰朝（来ル十六日着京ノ筈）ヲ俟チ御協議スルコトト致度
キモ差当リ明十三日（土曜日）午餐後第一会議室ニ於テ御
打合ヲ致度キニ付右ニ御承知相成度

昭和七年二月十二日

守島 亜細亜局第一課長

西 通商局第一課長殿

（付属書）

（極秘）

対満蒙実行策案審議委員会設置ノ件ニ関シテハ貴局第一課
長ヨリ貴局長ニ報告方依頼シ置キタル次第ナル処今般別紙
ノ通外務大臣ノ決裁ヲ得タルニ付右ニ御承知置相成度此段
申進ス

昭和七年二月十二日

谷 亜細亜局長

武富 通商局長殿

対満蒙実行策案審議委員会会則

（極秘）

一、対満蒙実行策案審議委員会（以下審議委員会ト称ス）

（代理 鈴木 中佐）

海軍省 原 軍務局第二課長

（代理 八木 少佐）

- 四、審議委員会ニ関スル庶務ハ外務省ニテ取扱フ
 - 五、委員会ハ委員長ノ召集ニ依リ隨時適當ノ場所ニ集合ス
 - 六、幹事会ハ幹事長ノ召集ニ依リ隨時適當ノ場所ニ集合ス
- 対満蒙実行策ノ立案及実行ニ関スル件

（極秘）

- 一、支那問題処理方針及要綱ニ基ク各種対満蒙実行策ノ立
案ハ別表第一立案分担区分ニ基キ別表第二ノ緩急順ニ依
リ之カ立案ヲ進捗セシム
- 二、分担区分ニヨリ立案セラレタル実行策案ハ其成案ヲ得
ルニ從ヒ対満蒙実行策案審議委員会ノ審議ニ付ス
- 三、右審議委員会ニ於テ審議決定セル策案ニシテ重要ナル
モノハ更ニ担任官府ヨリ閣議ニ提出シ之カ決裁ヲ經然ラ
サルモノハ直ニ之ヲ各実行機関ニ移スモノトス

（極秘）

別表第一、対満蒙実行策立案担任区分表

第一、治安維持ニ関スル事項

ハ各關係官府ニ於テ立案セル実行策案ヲ審査シ之カ適否
並ニ実行ノ能否及時期方法等ヲ研究シ重要ナルモノニ対
シテハ意見ヲ付シテ主務官府ニ返却ノ上閣議ニ請議セシ
メ事ノ輕易ナルモノハ主務官府ヲシテ直ニ之カ実行ニ移
ラシムル如ク処理ス

二、審議委員会ハ内閣書記官長ヲ委員長トシ大藏、拓務、
外務ノ各省及陸海軍ヨリ次官又ハ局長級ノ者概ネ二名宛
ヲ以テ之ヲ組織ス

三、審議委員会ニ幹事長及幹事五名ヲ置キ幹事長ニハ外務
省亜細亜局長ヲ充テ幹事ニハ左記諸官ヲ充ツ

幹事ハ議案ノ準備決議ノ整理等ニ任シ要スレハ委員会ニ
出席シテ意見ヲ開陳ス

大藏省 青木理財局国庫課長

（代理

拓務省 小河管理局第二課長

（代理 森重事務官）

外務省 守島亜細亜局第一課長

（代理

陸軍省 永田軍務局軍事課長

主 副

- 一、日本軍ノ兵力 陸、海 外、藏
- 二、日本軍ノ配備地域 陸、海 外、拓
- 三、日本警察力（水上警察ヲ
含ム） 外、拓 陸、海、藏
- 四、支那側警察制度並施設 外、拓 陸、海
- 五、支那側ノ武力的警察（護
路警察ヲ含ム） 陸 外及拓
- 六、支那側ノ河川港湾警備警
察 海 外及拓
- 七、匪賊招撫 外、拓
- 八、治安維持ニ関スル支那側
諸法令制定及実施 外、拓 陸、海
- 九、司法制度及之カ運用 外 拓
- 十、赤化防止 外、拓 内、陸、海
- 第二、交通通信及運輸ニ関スル事項
- 一、鐵道網ノ整理、擴張及運
營 外、拓、陸 海
- 二、自動車道ノ建設及自動車
運輸 外、拓、陸
- 三、港湾設備及水路 拓、外、海 陸、藏
- 四、航空 外、陸、海 通、拓

五、郵電ノ統制及拡張 六、支那在来運輸機関 七、外人ノ参加ヲ許スヘキ程度 八、海運 九、河川航行権 十、満鉄ノ組織職制権限等ノ変更		陸、海、拓	外、通
		陸、拓	拓、陸、海
		外	
		海、拓	外、通
		外、拓	陸、海
第三、金融ニ関スル事項 一、幣制（本位制等） 二、支那側金融及金融機関 三、紙幣ノ整理 四、日本側金融機関ノ整備		蔵、外、拓	
		蔵、外、拓	
		蔵、外、拓	
		蔵、外、拓	
第四、税制ニ関スル事項 一、関税制度 二、税制（日本人課税ヲ含ム） 三、専売制		外、蔵、拓	
		蔵、外、拓	
		蔵、外、拓	
第五、産業開発ニ関スル事項 一、満蒙政權産業經濟組織ノ方針及要綱		陸、海、拓	外、農、商、資源
		蔵、海、拓	
一、在満邦人教育 二、在満鮮人教育 三、支那人教育 四、教員養成		拓、外	文
		拓、外	文
		拓、外	文
		拓	文
第八、日本ノ満蒙政治機構ニ関スル事項 一、四頭政治ノ統一 第九、支那側政治指導ニ関スル事項 一、満蒙自体ノ政治指導機関ノ編制及統制 二、前項政治指導方針及要綱 三、対支那本土及対第三国関係事項処理 四、満蒙ノ特別区		外、陸、拓	海
		外、陸	
		外、陸	拓、海
		外、拓	同
別表第二、対満蒙実行策立案緩急順 一、最も緊急ヲ要スルモノ (イ)治安維持ニ関スル事項全部 (ロ)交通通信及運輸ニ関スル事項中治安維持及直接国防ニ関係アル事項例ヘハ鉄道、道路、港湾、航空、通信等ニ関スル事項 (ハ)金融ニ関スル事項		陸、海	陸、海、拓
		陸、海	
		陸、海、拓	
		陸、海	

二、農業開発 三、畜産及水産開発 四、林業開発 五、鉱業開発 六、工業開発 七、動力資源ノ開発 八、日本ノ各種企業用資金調達及投資 九、労働問題 十、外人ニ許可スヘキ企業限度 十一、倉庫制度		外、拓	農、陸、海、資源
		同	同
		同	同
		外、拓	商、資源、陸、海
第六、移民ニ関スル事項 一、鮮人移住 二、内地人ノ移住殊ニ屯田制 三、支那人移民ノ制限 四、露国人ノ移民		拓、外	陸、海
		拓、外	陸、海
		拓、外	陸、海
		拓、外	陸、海
第七、教育ニ関スル事項		拓	陸、外
		拓	陸、外
		拓	陸、外
		拓	陸、外

- (ニ)税制ニ関スル事項
- (ハ)朝鮮人ノ救済ニ関スル事項
- (ロ)対満政策機関整備ニ関スル事項
- (ハ)支那側政治指導ニ関スル事項
- (イ)間島ニ関スル事項
- (ロ)商租権等ニ関スル事項
- 二、相当緊急ヲ要スルモノ
- (イ)一般交通通信及運輸ニ関スル事項
- (ロ)重要産業開発ニ関スル事項
- (ハ)移民ニ関スル事項
- 三、左迄緊急ヲ要セサル事項
- 一、教育ニ関スル事項
- 二、一般産業開発ニ関スル事項

31 昭和7年2月13日

在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

新国家の政府組織について

第二二七号（暗、極秘）

奉天 2月13日後発
本省 2月14日前着

往電第一五八号ニ関シ
(二三文書)

確實ナル情報ニ依レハ新国家ノ政府組織ハ別ニ制定セラルヘキ政府組織法ニ依リテ定メラルル予定ニテ其後審議ノ結果

(一)四院制ヲ排シ立法、國務、監察ノ三院制ト為シ國務院ノ下ニ民政、外交、軍政、財務、実業、交通、文教、司法ノ八部ヲ設クルコト

(二)國務院ニハ前記八部ノ外ニ直屬機關トシテ總務処ヲ設ケ右機關ヲシテ予算、法制等ノ重要國務ヲ担当セシム、財務部ハ単ニ徴税、海關等ノ事務ヲ管掌セシムルニ止ムルコトニ変更セラレタルカ未タ確定ニ至ラス審議続行中ノ由尚確定次第軍側ヨリ内報方打合済ミナリ

往電第二一六号本電ト同様転電セリ
(二九文書)

公使、北平、吉林、哈爾賓、齊齊哈爾、長春ニ転電セリ

32 昭和7年2月13日

在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

新国家成立に関する対外通告文の内容について

奉天 2月13日後着

ルコト

(三)通告ハ本国政府ニ宛ツルコトシ在滿各国領事ニ対シテハ写ヲ送付スルニ止ムルコト

(四)國際連盟ニ対シテモ右通告ヲ発シ連盟加入国ニ伝達方申入ルルコト

等ノ諸点ヲ助言スル方如何カト思考シ居ル次第ナルカ当館ニ於テハ國際法上ノ前例等取調ノ途ナキニ付巴奈馬ノ独立等新国家成立ノ際ニ於ケル前例並ニ本省ノ御意向等本官内密ノ含迄ニ至急御回示相成度シ

公使、北平、吉林、哈爾賓、長春、齊齊哈爾ニ転電セリ

33 昭和7年2月13日

在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

国防の日本委任に関する処理手続きなどについて

奉天 2月13日後着
本省 2月13日後着

第二一九号(暗、極秘扱)

往電第一四号ノ後段ニ関シ
(二文書)

新国家トノ間ニ国防等ニ関シ出先限リニ於テ密約等ヲ締結

本省 2月13日後着

第二一八号(暗、至急、部外極秘)

往電第一五八号末段並ニ往電第二一六号ニ関シ
(二三文書)

確實ナル情報ニ依レハ新国家成立ニ当リテハ先ツ第一ニ独立宣言ヲ發表シ次テ新国家ノ憲法トモ云フヘキ人權保障及政府組織法ノ發布ヲ見ル段取ニシテ軍側ニ於テハ既ニ右三者ノ草案ヲ了シ本月二十日頃ヨリ開催ノ支那側要人ノ會議

(往電第二一六号参照)ニ付議スルカ為目下再応審査中ナルカ他方独立宣言ト同時ニ諸外国ニ通報スヘキ通告文ニ関シテモ研究ヲ始メツツアリ新国家成立ニ関スル諸般ノ臆立ハ事実上我軍側ニ於テ為シツツアル実状ニ鑑ミ本件通告文ニ付テモ我方ニ於テ充分ノ考究ヲ遂ケ國際關係上手落ナキ様事前ニ軍側ニ充分ノ知識ヲ与ヘ置クコト肝要ト思惟ス

本官差当リノ考トシテハ
(二九文書)

(一)通告文ノ内容ハ大体独立宣言ニ準シ其内容ニ於テ往電第一八九号ノ通り外国ニ対スル条約上並ニ契約上ノ義務ハ國際法並ニ國際慣例ニ依リ繼承スヘキモノハ之ヲ繼承スルノ趣旨ヲ明記スルコト

(二)通告ノ宛先ハ現在滿州ニ領事館ヲ設置シ居ル国ニ限定ス

スルコトハ大權侵犯ノ結果トナルヘキニ鑑ミ国防ヲ日本ニ委任スルコト參議府内ニ過半数ノ日本人ヲ入ルルコト日本人ヲ官吏ニ任命スルコト並ニ前記諸事項ニ関シテハ追テ正式ニ条約ヲ締結スヘキコト等ニ付テハ新国家側ヨリ軍司令官ニ対シ一方的申入ヲナサシメ軍司令官トシテハ単ニ之ヲ受領シ置クニ止ムルコトニ決定セル由ナリ

公使、北平、吉林、哈爾賓、長春、齊齊哈爾ニ転電セリ

34 昭和7年2月13日

在吉林石射總領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

新国家建国準備手順について

吉林 2月13日後着
本省 2月13日後着

第六五号(暗)

軍部ハ建国促進ノ為当地(脱)部ヲ通シテ二月十五日ヨリ五日間ヲ第一期トシ地方準備ニ、二月二十日ヨリ五日間ヲ第二期トシ各県法團ヲシテ建国促進ノ宣伝ヲ行ハシメ二月二十五日ヨリ五日間ヲ第三期トシ奉天ニ於テ各地代表大會議期間同様宣伝ヲ行ハシメ右民意ノ表頭ニ依リ政治代表會議開催ノ段取トナリ居ル趣ニシテ熙洽ハ明十四日当地各法

団ノ代表ヲ召集シ該代表ヲシテ省内各県ノ法團ヲ指導セシムルコトニ手配中ナリ

哈爾賓ヨリ齊々哈爾へ転報アリタシ

支、北平、奉天、哈爾賓、長春へ転電セリ

35 昭和7年2月14日 在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

関東軍司令部に特務部設置について

奉天 2月14日後発
本省 2月14日後着

第二二五号(暗)

二月二日付ヲ以テ関東軍司令部ニ特務部設置セラレ概ネ從來ノ統治部ノ事務ヲ継承スルコトトシ統治部ヲ廃止シタル旨九日付ヲ以テ軍側ヨリ通知アリタリ軍側ニ就キ確メタル処ニ依レハ特務部ハ軍令ニ依リテ制定セラレタルモノニシテ部員ニハ主トシテ文官ヲ当ツヘキモ人選等未タ確定ニ至ラス又同部ハ産業経済等ノ事項ニ依リ支那側及日本側諸機関トノ連繫ヲ任務トスル企画監督ノ機関ト言ヒ得ヘク從テ諸計画ノ実行ハ支那側並ニ日本側ノ当該機関ニ於テ担当スヘキ次第ナリ

議ノ結果ニ待タサレハ不明ナルモ軍トシテハ長春ヲ希望シ居レリ

支、北平、在滿各領事ニ転電セリ

37 昭和7年2月14日 在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

独立宣言文案に関する軍側内報について

奉天 2月14日後発
本省 2月14日後着

第二二七号(暗、至急極秘)

往電第二二六号ノ一ニ関シ

軍側ヨリノ内報ニ依レハ独立宣言中ニハ大体南京政府トノ絶縁軍閥政治ノ否認三民主義ヲ廃シ五綱主義ヲ執ルコト門戸開放機会均等主義ノ確認及滿蒙在住者(内外人ヲ區別セス)ノ權利ノ平等ノ諸点ヲ包含シ居リ往電第二一八号条約上並對外契約上ニ於ケル權利義務継承ノ点ハ新国家成立ノ際ニ於ケル宣言ニ讓ルコトト成レル由ナリ

公使、北平、在滿各領事へ転電セリ

38 昭和7年2月15日

在ハルビン大橋総領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

支、北平、在滿州各領事ニ転電セリ

36 昭和7年2月14日 在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

東北政務委員會の開催など建國準備手順について

奉天 2月14日後発
本省 2月14日後着

第二二六号(暗、至急、極秘)

往電第二一七号ニ関シ

十四日軍側ヨリ左ノ通内報アリタリ

(一)其後予定ヲ早メ十六十七両日奉天ニ於テ秘密裡ニ東北政務委員會ヲ開キ十八日独立宣言ヲ發布シタル上爾後一ヶ月位ノ間ニ国号政治組織等新国家ノ機構ニ関スル審議ヲ終ヘ右準備完了ヲ待チ新国家成立ノ段取ニ進ムコトナレリ
(二)右會議出席者ハ臧式毅、熙洽、張景惠及馬占山ノ四人ナルカ湯玉麟及蒙古代表者モ名前ノミヲ列スルコトナルヤモ知レス熙及張ハ十五日馬ハ十六日当地着ノ予定ニシテ馬ハ十八日ノ独立宣言後齊齊哈爾ニ入ル筈

(三)東北政務委員會ノ所在地ハ奉天長春何レトナルヤ前述ス

新国家の国体に関する駒井顧問の内話について

ハルビン 2月15日前発
本省 2月15日後着

第一五七号(暗)

奉天発閣下宛電報第二一六号ニ関シ

目下來哈中ノ駒井顧問ノ内話ニ依レハ新国家ノ国体ハ形式上共和制ニシテ溥儀ヲ大總統トスル筈ナルカ右ニ反対ナル復辟派ニ対シテハ過去ニ於テ滿州統治上何等功績ナキモノヲイキナリ帝又ハ王トスルコトハ不適當ニテ將來溥儀ノ施政宜シキヲ得テ滿州人間ニ其希望高マル場合ニ於テ始メテ實現セシムルコトトスレハ可ナル旨説得シ居ル趣ナリ

支、北平、吉林、長春、齊齊哈爾へ転電セリ(奉天脱?)

39 昭和7年2月16日

在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

朝鮮人避難民の原住地帰還とその保護について

奉天 2月16日後発
本省 2月17日後着

第(脱)号(暗)

本官発長春、遼陽、牛莊、鉄嶺、安東、海竜、通化、農安、新民府、掏鹿宛電報

合第一四八号

目下各地ニ收容中ノ鮮人避難民ハ農耕期ノ切迫ニ伴ヒ最近ノ機会ニ原住地ニ帰還セシムル様スヘク朝鮮総督府側ト協議ノ結果大体別電申進ノ方針ニ依リ進ミ度キ意向ノ処右ニ関連シ治安維持ノ為適當ノ措置ヲ講スルニ非サレハ鮮人ノ帰還モ所詮実行困難トナルヘキ虞鮮カラス曩ニ本省ニ於テ各館ヨリ警官派出所新設案ヲ徴セラレ又関東庁ニ於テ目下中央ト警官増員方協議ヲ遂ケツツアルハ要スルニ満蒙ニ於ケル内鮮人発展ノ為治安ノ維持ヲ確保スルノ趣旨ニ出ツルモノニシテ又軍ニ於テハ軍事行動ニ依ル匪賊討伐ノ外支那公安隊ノ充実等ノ手段ニ依リ支那側自身ヲシテ匪賊討伐ニ鋭意努力セシメ居ル実状ナルモ外務省側ニ於ケル派出所新設案又ハ関東庁ノ警官増員案ノ実現迄ニハ猶相当ノ時日アルモノト認メサルヲ得サルヘシ從テ帰還鮮農ニ対スル現地保護ノ為ニハ本省ヨリ電訓アリタル警察官帰属ニ関スル根本問題トハ別個ニ過渡的応急策ヲ講スルコト目前ノ急務ニ

事項2 満州国の成立と日本の承認

避難鮮人ノ原地帰還ニ際シテハ地方ノ状況ニ依リ新ニ警官派遣ノ要アルハ鉄嶺発閣下宛電報第二九号中原地ノ事情ニ徴シ疑ヲ容レサル処本省ニ於ケル警官派出所増設案又ハ関東庁ノ警官増員案ハ右ニ関シテハ思ハレス他方吉林並黒竜江両省ニ関シテハ將來ノ警官帰属問題モアリ此ノ際別個ノ考察ヲ加フル必要アルヘキモ満鉄沿線(鄭家屯モ便宜上沿線同様取扱フノ外ナルヘシ)ニ関スル限りハ関東庁警察官ヲ臨時派遣シ右ニ依リ生スヘキ沿線警備上ノ欠陥ハ差当リ朝鮮総督府ヨリ応援警官ヲ得テ補充スルノ外ナシ右ニ関シテハ先般池田警務局長來奉ノ際朝鮮側ノ都合ヲ聴キ置キタル処最高二百名位ノ応援派遣ノ余力アル由ニ付不取敢關係各館ニ対シ往電合第一四八号^(三九文書)ノ通リ意見ヲ徴シ置キタルモ素ヨリ経費等ノ關係モアリ本官トシテハ事情ノ許ス限り沿線現在ノ警官中ヨリ都合付クル様交渉スル所存ナルモ朝鮮側ヨリ或ル程度ノ応援ヲ求ムルコトハ現地ノ実状上免レ得サル所ト信ス

右ニ関シ先般朝鮮ヨリ安奉線へ派遣ノ応援警官二百名ノ費用月額三万円ハ満鉄ニ於テ負担シ居ルモ鉄道沿線外奥地ノ分ニ付テハ其ノ性質上満鉄ニ支出ヲ求ムヘキ筋合ニアラス

シテ之カ為ニハ必要ノ個所ニ臨時的ニ警官ヲ配置スルト共ニ相当ノ武器ヲ備付ケシメ必要ノ場合鮮農ニ貸与シ警官指導ノ下ニ鮮農ヲシテ自衛的措置ニ出テシムルノ外無シト信ス而シテ之カ実行案トシテハ沿線各地警察ヨリ必要数ノ警官ヲ鮮農居住地ノ為ニ割キ右ニ依ル警備力ノ欠陥ハ朝鮮総督府ヨリ適當数ノ応援ヲ仰キ之ヲ補充スルコト最モ実行性アルヘク必要ニ応シ当館ニ於テ関東庁並ニ總督府ト協議ヲ遂ケ度キ所存ニ付貴館内ニ於テ避難民帰還ノ為警官配置ヲ必要トスル個所、必要警官数及武器ノ数量(最少限度ノ見積リ)至急電報アリ度シ

長春ヨリ農安へ、鉄嶺ヨリ掏鹿へ夫々転報アリ度シ

大臣、吉林、哈爾濱、齊齊哈爾へ転電セリ

40 昭和7年2月17日

在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

満鉄沿線および付属地外警備に朝鮮総督府より応援について

奉天 2月17日後発
本省 2月17日後着

第二四〇号(暗)

且ツ付属地外ノ警備ハ主義上外務省ニ於テ担当シ居ル關係上本省ノ事変關係費中ヨリ支出スルコト至当ナリト認ム尤モ右応援派遣ノ期間ハ前記奥地派出所増設案又ハ関東庁ノ警官増員案実現ニ至ル迄ノコトニシテ経費モ右ノ実現ノ時機ニ依リ増減スル次第ニ付前述諸点御考慮ノ上何分ノ御意見アラハ至急御回電アリタシ尚関東庁警務局長ニ対スル本官ノ交渉ト相平行シ目下上京中ノ関東長官ニ対シ本省ヨリモ御協議相成ルヲ得ハ幸ナリ

在満各領事へ暗送セリ

41 昭和7年2月17日

在吉林石射総領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

建国促進宣伝運動計画について

吉林 2月17日後発
本省 2月17日後着

第七四号(暗、極秘)

⁽¹⁾ 往電第七一号ニ関シ建国促進宣伝運動計画左ノ通

(一)宣伝運動大綱、特別委員会ヲ組織シ団体ノ指導監督並ニ新聞宣伝ノ本部トシ県ニ在リテハ各種団体県大会及県連合大会省ニ在リテハ各種団体省大会及省連合大会全滿ニ在リ

テハ全滿同一団体大会及各団体連合大会ヲシテ各其衝ニ当
ラシメ尚新聞其他婦人団体蒙古族在滿鮮人団体各軍將領名
望家学者等個人利用ノ宣伝及「ラジオ」使用ノ宣伝ヲナス
(二)特別宣伝委員会ハ関東軍司令部各地特務機關省府顧問
自治指導部奉天市政府顧問等ノ代表ヲ以テ組織ス
(三)団体宣伝運動ニハ商會農會教育會各同業組合慈善宗教其
他各団体ヲシテ之ニ当ラシメ民意ハ県省及全滿ノ各級大会
及連合會ヲシテ表現セシム
(四)団体運動實施法則トシテハ第一期ニハ各県団体ノ幹部中
特ニ中心タルヘキ人物ヲシテ積極的ニ活動且ツ他方面トノ
連絡ヲ執ラシメ第二期ニハ各県大会及連合會ヲ開催決議宣
言其他文書宣伝ヲ開始シ省ノ大会及連合會ノ代表者ヲ選ビ
第三期ニハ各団体全滿大会及連合會ノ準備及開催並ニ団体
ノ示威請願運動ヲ行ハシム右県ニ在リテハ建國ヲ露骨ニ要
望セス人民ノ新政權ニ對スル要望兵匪ノ肅清交通金融ノ回
復新政治要望ノ程度トシ省ニ在リテハ県ノ大会及連合會ノ
民意ヲ明白ニ表明スルニ努メ之ヲ新國家ニ協調セシメ全滿
輿論ノ統一ヲ提唱シ全滿大会及連合會ニ於テハ新國家建設
ニ論結スル方針ヲ取り更ニ之ヲ高調スルコト

(四)新聞宣伝ハ在滿漢字新聞即チ盛京時報東三省公報東三省
民報東北日報醒時報正字新聞吉林時報東省日報大北日報黑
龍江民報大東日報滿州報ヲシテ政局及秩序ノ安定建國要望
ノ運動各地各団体ノ状況全滿民意ノ発動等ヲ逐次報道セシ
メ本運動カ一律ニ熾烈トナルヲ遂ニハ論說論評ニ於テ政府
当局ノ緩慢ナルヲ叱咤スル態度ヲモ敢テ執ラシメ出場人物
ノ礼讃及激励ヲナサシム
(六)宣伝材料ハ主トシテ支那側各機關ノ顧問諮議ヨリ事變以
來各官衙及各機關ノ復活状況ヲ始メ必要ナルモノヲ蒐集シ
関東軍參謀長宛報告セシム
(七)各地ノ特務機關ハ支那側幹部ヲ指導シ積極的ニ本運動ヲ
行ハシメ自治指導部ハ特別宣伝委員會ヲ設ケ各県派遣員ニ
對スル実地宣傳方策ヲ作成シ又奉天市政府顧問ハ奉天市長
趙欣伯ヲシテ建國運動ノ主役タラシムル様努力シ省政府及
特別委員會トノ連絡及全滿ノ大会及連合大会ニ關スル各種
準備ニ当ル
哈爾濱ヨリ齊齊哈爾ニ転電アリ度シ
公使、北平、奉天、長春、哈爾濱、間島ニ転電セリ

42 昭和7年2月18日

在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

張景惠を委員長とする東北行政委員會の組織
について

奉天 2月18日(マ)後発
本省 2月18日前着

第二四四号

張景惠、臧式毅、熙洽、馬占山、湯玉麟ノ五名ヲ委員トシ
張ヲ委員長トスル東北行政委員會組織セラレ其旨本十七日
各方面ニ通電セリ尚右委員會ノ名ヲ以テ東北四省ノ独立並
中央及學良政權ト關係断絶ノ旨ノ通電十八日發セラルル筈
公使、北平、天津、在滿各領事ヘ転電セリ

43 昭和7年2月18日

在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

東北行政委員會の新國家建設準備振りにつ
て

奉天 2月18日前発
本省 2月18日前着

第二四五号(暗)

趙欣伯ノ内話ニ依レハ往電第二四四号東北行政委員會ハ快

44 昭和7年2月18日

在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

二月中に新國家建設との軍側計画について

尚軍部ニ於テハ新國家ノ成立ヲ急ギ成ルヘク今月中ニ発表
シ得ル様ニトノ注文ナルモ多少夫レヨリ手間取ルコトナ
ルヘキ見込ナリトノコトナリ
往電第二四四号ノ通転電セリ

第二四九号(暗)

往電第二四五号ニ関シ

為念軍司令部幕僚ニ確カメタル処矢張り今月一杯中ニ新國

奉天 2月18日後発
本省 2月18日後着

家ヲ建設発表セシムル計画ノ下ニ支那側ヲ指導シ居レリト
ノコトナリ

支、北平、天津、在滿各領事へ転電セリ

45 昭和7年2月18日

在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

東北行政委員會の独立宣言について

奉天 2月18日後発
本省 2月18日後着

第二五二号(暗)

二月十八日張景惠、臧式毅、熙洽、馬占山、湯玉麟、呼倫貝爾凌陞、哲里木盟齊王ノ名ヲ以テ宣言ヲ発表シタルカ先ツ東北四省ト一特別区及蒙古各王公ヨリ(成ル)一機關ヲ組織シ東北行政委員會ト命名シタルコトヲ述ヘタル後
一、本会ノ成立ト共ニ中国政府ト關係ヲ脱離シ東北省区ハ完全ニ独立セルニ依リ独立ノ精神ヲ以テ行政ノ改善ヲ計リ軍閥ノ苛政ヲ排除シ善ノ政治ヲ完成スルヲ第一ノ使命トスルコト

二、排外的政策ヲ棄テ國際的戦争ヲ熄メ門戸開放ト機會均等主義ヲ以テ世界民族ト共ニ共存共栄ヲ計ルコトヲ第二ノ

使命トスルコト

三、職業ノ奨励農商ノ發展ニ依リ民利ヲ増進シ以テ階級闘争ヲ終熄セシメ赤化ヲ行ハシメサルヲ第三ノ使命トスルコト

ヲ述ヘ右ハ我東亜種族人民ノ為ニ幸福ヲ求ムル所以ナルコトヲ述ヘ居レリ

支、北平、奉天、在滿各領事ニ転電セリ

46 昭和7年2月18日

在牛莊荒川(充雄)領事より
芳沢外務大臣宛

新国家建設促進運動に対する滿鉄の協力について

牛莊 2月18日付
本省 2月24日着

公信第一五八号

滿蒙新国家建設運動ニ關スル滿鉄地方
部長ノ訓電

東北支那側ニ於ケル滿蒙新国家建設準備ノ為十五日ヨリ實施シツアル促進大宣伝ニ關シ滿鉄ニ於テハ本月十六日地方部長名ヲ以テ沿線各所屬長ニ対シ之レカ支援方左記訓電

如キ新政府樹立ニ關スル宣伝歌數百枚ノ送致ヲ受ケタルヲ以テ市内營商日報及盛京時報等ニ折込市内一円ニ配布セリ

記

何等快樂

(一)来々々々々々

大家快樂都慶賀

独立国家已告成

東亜民族享和平

何等快樂

何等喜歡

(二)来々々々々々

大家快樂都慶賀

減輕担负去苦痛

三千万民保安寧

何等快樂

何等喜歡

建設樂天地歌

(一)東北父老兄弟們

現今正是奮起時

公敵軍閥已無影

救民水火登衽席

(二)東北父老兄弟們

現今正是奮起時

政權有婦得和平

保境安民為宗旨

(三)東北父老兄弟們

現今正是奮起時

滿蒙參千余万民

團結建設樂天地

真痛快

(一)真痛快 真痛快

多年横征暴斂 苛取民財の旧軍閥
経友邦義軍 根本的打破

(二)真痛快 真痛快
歴年驅民為兵 妄殺無辜の旧軍閥
藉善隣兵威 尽数的掃蕩
本信發送先 外務大臣 奉天

48 昭和7年2月19日 在吉林石射総領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

熙洽の吉林帰着について

吉林 2月19日後発
本省 2月19日後着

第八三号

熙洽ハ十九日午前十一時孫、榮兩庁長及浜田三橋兩顧問ト
共ニ帰吉セリ
支、北平、奉天、哈爾賓、間島、長春へ転電セリ

49 昭和7年2月19日 在吉林石射総領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

熙洽の東支護路軍總司令就任などについて

第八八号(暗)

本官発奉天宛電報

第七号

貴電合第一五〇号ニ関シ

(一)当館管内ニ於テハ将来トモ支那側ヲシテ一層直接鮮人保
護ヲ行ハシムル方針ヲ執リ必スシモ我方ニ於テ直接其衝ニ
当ル事ヲ必要トセサル様ニ認メ居ルモ支那側ノ取扱振リ監
視ノ意味ニ於テ既設及設置決定ノ敦化蛟河盤石樺甸ノ外ニ
額穆舒蘭双陽小城子(舒蘭県内)及煙筒山等へモ漸次警察
官出張所ヲ増置シタキ考ヘナリ

(二)配置人員ハ最近開設セル敦化二十名ノ警察官ヲ配置シ居
ル処小サキ場所柄一ケ所ニ多数ノ警察官ヲ駐在セシムル事
ハ所期ノ効果ヲ齎ササル嫌ヒアルニ依リ一ケ所日本人二名
乃至三名鮮人一名乃至二名配置スルヲ適當ナルヤニ考ヘラ
ル

(三)武器ハ本人ノ護身用トセハ兎ニ角支那側軍警ヲ指導スル
事ヲ建前トシ別ニ自衛団的防備ヲ為ス事ハ面白カラスト思
ハル唯東亜勸業等カ集団的農場経営ヲ行ヒ其使用鮮人等ヲ
シテ自衛団ヲ組織スル事ハ最モ機宜ノ措置ト思考スルモ目

吉林 2月19日後発
本省 2月19日後着

第八七号(暗)

十九日于深徴カ館員ニ語ル所ニ依レハ熙洽ハ本日自ラ東支
護路軍總司令ニ就任シ副司令ニ于テ東部線南部線各司令ニ
金壁東ヲ夫々任命シ西部線司令ハ馬占山側ヨリ出ス事トナ
リタルニ付于一兩日中ニ哈市ニ赴キ總司令事務ヲ代行ス
ルト共ニ日本軍側トモ協議ヲ遂ケ依蘭ノ丁超誠允派遣ノ李
杜等反吉林軍將領ニ対スル措置ヲ講スル事トナレル由ナリ
右ハ今次奉天ニ於ケル巨頭會議ノ結果関係者間ニ相当ノ了
解成立セルニ依ルモノト認メラル

哈爾賓ヨリ齊々哈爾へ転電アリタシ

支 北平 奉天 長春 哈爾賓 間島へ転電セリ

50 昭和7年2月19日 在吉林石射総領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

朝鮮人保護のため警察官出張所の増置などについて

吉林 2月19日後発
本省 2月19日後着

下当館管内ニハ右ニ該当スルモノ無シ

哈爾賓ヨリ齊々哈爾へ転電アリタシ

大臣、哈爾賓、間島へ転電シ長春、安東、鉄嶺、牛莊へ暗送セリ

51 昭和7年2月19日 在長春田代(重徳)領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

新国家建設に関する四巨頭の了解りについで

長春

本省 2月19日後着

第四六号

十九日長春市長金壁東ハ本官ニ対シ国家建設ニ関スル會議
ハ長春ニテ開催セラレサルモノノ如ク目下市政府庁舎修繕
中ナルモ右ハ早晚長春カ新国家政治ノ中心タルヘキヲ慮リ
取計ヒタルモノナリ尚極秘ノ打明ケ話ナルカ最近奉天ニ集
合セル四巨頭中ニハ新国家計画ニ対シ充分ノ諒解ヲ有セサ
ル者アルカ如ク現ニ昨日当地ヲ通過帰哈セル馬占山モ右ノ
如キ口吻ヲ洩シ居リタリ云々ト語レリ

支、北平、奉天、吉林、哈爾賓、齊々哈爾へ転電セリ

52 昭和7年2月(19)日 林閣東庁警務局長より
堀切(善次郎) 拓務次官宛(電報)

日本人の新国家への参与に関する記事差止め
について

高第一〇四号 本省 2月19日着

本日左ノ通り管下各警察署長宛電報セリ、追而本件ハ各方
面ニ種々悪影響ヲ及ホス惧レアルニ付全国的ニ記事差止方
特ニ関東軍ヨリ依頼アリシニ付内地及各植民地ニ於テモ同
様記事差止相成ル様御配慮相煩ハン度シ

左記

「日本人カ満蒙新国家ノ政治乃至行政ニ参与シ又ハ之等ノ
機関職員タル事ニ付テハ一切新聞通信等ニ掲載セサル様各
社ニ示達セラレ度シ」

53 昭和7年2月19日 在鉄嶺石塚領事代理より
芳沢外務大臣宛

鉄嶺における宣統帝擁立運動について

鉄嶺 2月19日付
本省 2月24日着

公信機密第一四九号

54 昭和7年2月19日 林閣東庁警務局長より
永井外務次官宛

新国家における県組織規定について

2月19日付
2月24日着

公信関機高支第二一〇四号ノ二(注)

新国家ニ於ケル県組織規定

自治指導部ニ於テハ新国家建設後適用サルヘキ県組織大綱
起草中ナリシカ今回左記ノ通り完成シタルカ其ノ特徴ハ左
記内容要旨ニ記載シアル如ク将来県ヲ以テ重要ナル自治機
関タラシムルモノノ如シ

記

県組織法内容要旨

一、県自治制ノ形態

原則トシテ「団体自治制」ニ依ル

満州ニ於ケル地方自治ハ其ノ沿革上古来ノ鄉村自治制ヲ
参酌スルトキハ一見地方代議機関ニ議決及執行総テノ権
限ヲ集中スル所謂人民自治制ニ依ルヲ妥当トスルカ如ク
思料セラルルモ未タ交通産業共ニ完全ナル発達ヲ見サル

鉄嶺ニ於ケル宣統帝擁立運動ニ関スル件

日本軍ノ哈爾濱占拠ニ依リ満蒙ノ事態モ一段落ヲ告ケタル
ヲ以テ奉天自治指導本部ハ急速ニ新国家ノ建設ヲ実現スヘ
ク東北民衆ノ名ニ於テ新国家ノ元首トシテ宣統帝擁立ヲ
促進センカ為右運動方法ニ関シ各県自治指導委員会ニ指令
ヲ発シタル趣ナルカ鉄嶺県自治指導委員会ハ右指令ニ依リ
県内各界民衆ヲシテ該運動ヲ起サシムル目的ヲ以テ二月十
七日執行委員会ヲ開催シ其方法ヲ討議シ該運動ニハ県政府
自治指導委員等ノ名ヲ用ヒス商務会、農務会、教育会、仏
教会、基教会、紅卍字会等ヲシテ自発的ニ運動ヲ起サシム
ルコトヲ決議シ已ニ関係各方面ニ通達セリ右通達ニ依リ県
下各団体ハ茲四五日中ニ連合總會ヲ開キ奉天当局ニ請願運
動ヲナスコトナレリ

右御参考迄報告ス

本信写送付先 在中華公使 在北平主席

奉天 天津 吉林 哈爾濱 間島 各総

領事

長春 牛莊 遼陽 安東 各領事

掏鹿分館事務取扱

新国家ニ於テ国家意識ノ涵養ト地方自治ノ円満ナル發育

トヲ併行的ニ助長セント欲セハ須ク地方民ノ意思ヲ代表
スル地方代議機関ト国家中央政府ノ方針ヲ代表スル執行
機関トノ対立関係ニ在ル自治制即チ機関対立主義ニ依ル
団体自治ノ制度ニ依ラサルヘカラス

(注) 従来自治指導部ノ標榜セシ機関單一主義ノ人民自治

制ハ国家及中央政府ノ確立ヲ見サリシ政治的混沌時
代即チ事変直後ヨリ国家建設時ニ至ル迄ノ期間ニ於
テハ極メテ有意義ナル地方行政方針ナリシコトヲ認
メサルヘカラス

二、自治施行区域

(1) 県

満州ニ於ケル県ハ辺境地方ヲ除キ概ネ支那本部ニ於ケル
省ト同程度ノ鞏固ナル地縁団体的意識ヲ有シ既存地方
団体トシテ最も重要視スヘキモノナリ故ニ県ハ自治施行
区域トシテ最も広範圍ノ自治権ヲ付与スヘキ地方団体ナ
リ

併レトモ満州ノ現状ヨリ推シテ總テノ県ニ完全ナル自治
ヲ施行スルコトハ困難ナリ地方ノ状況即チ地方資源ノ状

態、土地ノ肥瘦、財政状態又ハ地方民ノ知識程度等ニ依リ国家作用ノ地方団体ヘノ委任ノ程度ハ一律ニ之ヲ規定シ得サルヘシ殊ニ辺境未開地方ニ対シテ国家ハ特殊ノ地方行政ヲ施行スルノ要アリ

斯ル見地ヨリシテ国家ハ自治ヲ施行スル県ヲ特ニ指定シ其他ノ県ハ地方ノ開発ト共ニ漸次自治県タラシムル要アリ

(2) 区、村、街

区ハ単ナル便宜上ノ中間区画ニシテ県又ハ村街ノ如キ強固ナル地方団体意識ヲ有セスト雖モ之ヲ存置スル以上将来有力ナル地方団体タルヘキ素質ヲ有スルモノナリ併レ共現在ノ状態ニ於テハ単ナル県組織上ノ中間機関トシテ特ニ自治団体トシテノ権限ヲ付与スル必要ナカルヘシ

之ニ反シ村街ハ概ネ自然発生の意識ニ於テ從來支那特有ノ自治ヲ施行シ来レル關係上之カ自治促進ニ関シテハ民衆ノ幸福ヲ増進スル意味ニ於テ相当考慮セサルヘカラス仍チ村街ニ於ケル自治ハ当分ノ間村街固有ノ自治制ヲ重シシ将来之ヲ団体自治制ニ発達セシムル様考慮スル程度

政府ノ組織ハ大体往電第二一七号ノ通ニシテ

(三) 文書

一、國務立法監察ノ三院制ヲトリ國務院ノ下ニ民政外交財務実業交通司法軍政ノ七部ヲ設ク(文教ノ事務ハ民政ヲシテ司ラシム)

二、主権者ノ諮問機関トシテ参議院ヲ設ケ予算決算重要官吏ノ任命等重要國務ニハ其同意ヲ要スルコトシ立法院ノ決議ニ対シテモ拒否権ヲ有セシム(約半数日本人ヲ入ル)

三、國務院ニハ前記七部ノ外ニ直屬機関トシテ総務処(秘書人事主計需要ノ四課ヨリ成ル)官吏懲戒委員会考試委員会興安処ヲ設ケ総務処ヲシテ事実上内閣書記局ノ事務ヲ又興安処ヲシテ蒙古ノ事務ヲ扱ハシム

四、監察院ニハ監察処ト審計処トヲ置ク

五、立法院ノ組織ハ未定ナルモ官選民選相半スル予定公使、北平、在滿各領事ニ転電セリ

56 昭和7年2月(21)日

在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

新国家建設に関する三宅閣東軍参謀長の方針

説明について

ニテ可ナルヘシ

三、県自治ノ政治組織

原則トシテ機関対立主義ノ政治組織ニ依ル

即チ代議機関ト執行機関トヲ対立セシメテ代議機関ヲシテ地方民ノ意思ヲ代表セシメ執行機関ノ政權ノ濫用ヲ予防鎮圧セシメントスルナリ併レ共滿州各地ノ現状ヨリシテ完全ナル代議機関ノ組織ハ之ヲ直ニ実現シ得ス依テ当分ノ間ハ代議機関ノ人員ハ成ル可ク少数ニ止メ而モ或程度迄官選的方法ニ依リ之ヲ選出シ別ニ中央ヨリ参事ヲ派遣シ常ニ代議機関ノ議決事項カ県民ノ意思ヲ代表シ居ルヤ否ヤヲ審査セシムルト共ニ一方執行機関カ代議機関ノ議決ヲ忠実ニ執行スルヤ否ヤヲ監視セシムルノ要アリ

(編注) 公信関機高支第二一〇四号の一は見当らない。

55 昭和7年2月21日

在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

新政府組織概要について

奉天 2月21日後発
本省 2月22日前着

第二六七号(暗)

奉天

本省 2月21日後着

第二六八号(暗、極秘扱)

関東軍ニ於テハ本二十一日滿鉄関東東庁海軍並ニ当館ノ責任者ノ会合ヲ求メ其席上三宅参謀長ハ在滿各機関ニ対シテハ夙ニ新国家問題ニ対スル方針並ニ経過等ヲ内談シ其協力ヲ得ル所存ナリシモ哈爾濱事件等ノ為遅延セル次第ナリト前提シ從來ノ経過等ニ関シ説明シ且ツ其質問ニ対シ応答スル所アリタルカ右ハ屢次ノ往電ト重複スル点アルモ為念概要左ノ通

一、十八日東北行政委員会宣言発表後馬占山並ニ熙治ハ帰任シタルモ夫々代表ヲ当地ニ残シ居ルニ付蒙古ノ代表者ヲモ加ヘ引続キ新国家建設問題ニ付討議中ナリ右ニハ溥儀ノ代表者モ本日来奉ノ筈ニテ湯玉麟モ近ク代表者派遣ノコトトナリ居レリ

二、右会議ニ於テハ国号国体国旗政府組織法並ニ官制大綱ヲ審議シ居ル処軍側ヨリハ係員ヲ派シ内面的指導ニ当ラシメ居レリ

三、右審議ハ大体十日位ニテ終了ノ見込ニテ從テ新国家ノ

樹立ハ本月二十八日前後トナルヘク新国家成立ノ声明ニ
次イテ人權保障宣言並ニ政府組織法（別電ス）発表セラ
ルル予定ニシテ主権者ニ溥儀ヲ推スコトハ確定シ居ルモ
國王大統領執政等如何ナル名義ニ依ルヤハ未定ナリ
四、自治指導部ハ政府組織法中ニ規定スルコトナク大体財
団法人ノ如キ形体ニ於テ残存セシメ地方自治ニ関スル啓
蒙機關ニ當ツル所存ナリ
五、日本ニ対スル国防ノ委任等ニ付軍司令官ニ対シ一札ヲ
取付クヘキコト往電第二一九号ノ通
六、首府ハ長春トナル見込
七、新国家設立後ハ鉄道通信郵便運輸港灣電気製鉄重ナル
炭坑、農業（林業牧畜ヲ含ム）金融財政農業移民等事実
上我方ノ統制ノ下ニ置クコト必要ニシテ政府ノ主要部ニ
ハ邦人約百六十名内外ヲ官吏若ハ顧問トシテ入ルル予定
ナリ
公使、北平、在滿各領事ニ転電セリ

57 昭和7年2月21日 在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

新国家建設不可避の状況について

新国家成立前後ニ於ケル満州支那海關対策ニ関シ二十一日
軍司令部特務部ノ希望ニ依リ軍部、滿鉄、関東庁及当館ヨ
リ高級職員各数名出席軍部ノ具体案ニ基キ討議ノ結果大要
左ノ結論ニ到着セリ御意見アラハ御電示ヲ請フ
一、安東、營口、哈爾濱、竜井村ノ各海關監督ヲ指導監視
スル為此際新東北行政委員会ヨリ日本人ノ顧問ヲ派遣シ其
人選ハ軍部ヨリ関東庁及滿鉄ニ一任ス
二、璦琿海關ハ將來新国家権力ノ徹底ヲ俟テ適當ニ措置ス
三、奉山鐵道ハ終点山海關ニ新ニ海關ヲ設置スル事トシ即
時山海關駅長ニ準備ヲ命ジ別ニ第一項ノ手續ニ依リ日本人
顧問ヲ派遣ス
四、近ク新国家成立ト同時ニ從來ノ各海關監督ヲ廃シ第一
項ノ日本人顧問ヲシテ臨時税關長ノ職務ヲ代行セシメ且成
ルヘク最近ノ機会ニ正式ノ日本人税關長及幹部税關吏ヲ任
命ス
五、大連海關ニ対シテハ日本ノ國際的立場ヲ困難ナラシメ
サル為ニ篤ト考慮ヲ加ヘ新国家ヨリ大連海關ニ対シ同関カ
新国家ニ帰属ス可キ事ヲ要求シ同時ニ其ノ收入ヲ新国家ニ
交付アリ度キ旨ヲ関東庁ニ交渉シ応諾セサル場合ハ（實際

第二六九号（暗）

新国家ノ建設ハ屢次電報ノ通我軍側指導ノ下ニ既定ノ方針
トシテ進捗シツアリ政府トシテモ慎重御考慮中ノ事ト拝
察シ居ル処現下ノ状況ヲ以テセハ仮令廟議ニ於テ如何ナル
方策樹立セラルルトスルモ大勢ヲ阻止スルニ由ナク民族自
決ノ形式ニ依リ一路之カ実現ニ邁進スヘキハ疑ヒヲ容ルル
余地ナシ本官等トシテハ事情右ノ通ナル以上此事実ヲ前提
トシテ出来得ル限り對外關係ニ累ヲ来ササル様軍部ヲ指導
スルノ外ナク往電第二七〇号海關問題等諸事右含ミニテ措
置シ居ル次第ニ付何等心得ヘキ事アラハ至急御回電相成度
シ 公使、北平、吉林、哈爾濱、齊々哈爾濱ニ転電セリ

58 昭和7年2月21日 在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

新国家成立前後における海關対策について

問題トシテハ応諾ノ見込ナシ）瓦房店県庁内ニ新ニ海關ヲ
設ケ大連ヨリ奥地ニ輸入セラルヘキ貨物ニ注意シ貨物到着
地付属地外ニ於テ関稅ヲ徴収ス
六、安東鐵道付属地内ヲ汽車ニテ通過スル貨物ニ対シテハ
日本行政権ニ牴触セサル範圍内ニ於テ適當ノ弁法ヲ講ス
七、第五項ニ関シテハ関東庁トシテハ現行日支協定ノ關係
上新国家ノ要求ニヨリ海關ニ強力ヲ加フル事能ハス且新国
家トシテモ関東州ニ対シ手ヲ着ケ難キ事情アルヲ以テ實際
問題トシテハ大連經由奥地向輸入貨物ニ対シテハ二重課税
ニナル結果トナリ結局通商上大連ノ衰微ヲ来ス可ク從テ日
本居留民ノ反対モ激烈ナルヘキ見込ナル処右ハ結局新国家
承認ニ依リ解決ス可キヲ以テ我方トシテハ当分ノヲ默認ス
ルコト
支、北平、天津、在滿各領事、関東長官ヘ転電セリ
支ヨリ上海ヘ転報アリ度シ

奉天 2月21日後発
本省 2月22日前着

59 昭和7年2月22日 在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

溥儀代表鄭孝胥、羅振玉の来奉について

奉天 2月22日後発
本省 2月22日後着

第二七三号（暗）

新国家建設ニ関シ軍部並臧式毅等ト打合ノ為宣統帝代表鄭孝胥、羅振玉二十一日旅順ヨリ来奉セリ

支、北平へ転電セリ

在吉林石射総領事より
芳沢外務大臣宛（電報）

60 昭和7年2月23日

吉林における建国促進示威運動について

吉林 2月23日後発
本省 2月24日前着

第一〇四号（暗）

廿三日吉林デハ建国促進準備委員会主催ノ下ニ建国示威運動ヲ舉行シ長官公署前ニ集合シタル民衆約五六千ハ各建国安民民族自決等ノ標語ヲ記シタル小旗ヲ掲ケ城内主要道路ヲ遊行シ指導員ハ途次新国家擁立ノ宣伝文ヲ撒布シ各所ニ於テ演説ヲ試ミタリ尚廿五日ニハ省内各県民衆ノ示威運動ヲ行フ筈

支、北平、奉天、哈爾賓、長春、間島へ転電セリ

※在ハルビン長岡（半六）総領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

61 昭和7年2月23日

馬占山のチチハル帰来について

ハルビン 2月23日後発
本省 2月23日後着

第一八六号

齊々哈爾濱本官宛電報
第三八号

大臣へ電報アリタシ

第二九号

馬占山哈爾濱經由本廿三日朝当地ニ帰来シタリ

哈爾濱ヨリ公使、北平、奉天、吉林、長春ニ転電請フ

在鉄嶺石塚領事代理より
芳沢外務大臣宛

62 昭和7年2月23日

建国促進宣伝行列挙行について

鉄嶺 2月23日付
本省 2月27日着

公信普通第一五八号

新国家建設促進宣伝行列挙行ノ件

鉄嶺県ニ於ケル新国家建設促進運動ニ関シテハ已ニ報告ノ通ナル処商務会、農務会、教育会其他各団体代表者二十四名ハ十七日県政府ニ於テ協議シ二十一日午前十時鉄嶺西門裡第二小学校ニ参加者ヲ集合セシメ同正午ヨリ城内及付属地ノ主要街路ヲ宣伝行列セルカ商務会主席常郁棟ヲ指揮者トシ参加者約三千名ニ達セリ、其際散布セル宣伝「ピラ」何等御参考迄送付ス（大臣宛ノミ）

本信写送付先 奉天総領事

長春 遼陽 安東 牛莊 各領事

63 昭和7年2月23日 在間島電井村内地人民会より
芳沢外務大臣宛（電報）

間島・琿春地方の行政指導は朝鮮總督において執行方要望について

間島 2月23日後発
本省 2月23日後着

第(脱)号

新満蒙独立国ノ建設ハ我等ノ最モ期待スル所ナリ然レ共此際特ニ間島琿春ハ其特異性ニ鑑ミ之ニ対スル向後必要ナル

施設指導並ニ援助等ハ朝鮮總督ニ於テ直接執行ニ当ラレンコトヲ懇請ス

在安東米沢領事より
芳沢外務大臣宛

64 昭和7年2月23日

安東における建国促進運動について

安東 2月23日付
本省 2月26日着

公信普通第一九二号

当地ニ於ケル建国促進会組織ニ関スル

協議会開催ノ件

本月廿一日当地県公署ニ於テ県自治執行委員会委員長以下各委員及自治指導員等参集シ建国促進会組織ニ関スル協議会ヲ開催シタルカ席上王執行委員長先ツ開会ノ辞ヲ述ヘ次テ本島指導員ハ奉天ニ於ケル満蒙新国家建設ノ進展ニ伴ヒ当県各界代表者カ樂土建設ノ促進運動ヲ開始スルニ至ルヘキコトハ欣快ニ堪エスト所感ヲ述ヘ王執行委員長座長トナリ本会組織ニ関シ各委員ニ諮詢シ異議ナク組織スルコトニ決定シ更ニ其ノ実行運動ニ付協議ヲ遂ケ満場一致左ノ如ク議決セリ

(一) 本会ノ目的ヲ達成スル為商工班、農林班、教育班、宗教班ノ四班ヲ設ケ各班担任者ハ安東全県各団体ノ建国促進連合大会ノ開催ヲ指導スルモノトス

(二) 二月廿四日正午ヲ期シ市県商會農會市県教育會及市県宗教団体ノ各會ハ連合大会ヲ安東市商會ニ開催シ宣言決議ヲ為シ之ヲ中外ニ公表スルト共ニ各會代表者ヲ赴奉セシメ建国促進ヲ請願スルモノトス

(三) 促進會開催運動期日ヲ二月廿一日ヨリ二月廿四日迄トス

(四) 市県ニ於ケル各団体ハ建国促進會ノ担任者ト協議シ敵敵ニシテ且盛大ナル連合大会ヲ開催スルニ遺憾ナカラシム右担任班ト右団体トノ組織左ノ如シ

担任班……………各団体
商工班……………市県商會団体
農林班……………農會農會團體
教育班……………市県教育會團體
宗教班……………市県各宗教團體

(五) 催物トシテ高脚踊ノ示威運動ヲ行ヒ又劇場映画館等ヲ利用シ建国促進ノ必要ヲ宣伝ス

(六) 各學校生徒ヲシテ促進歌ヲ日々學習セシム

4、教育班ハ事務所ヲ第三小學校ニ置キ全県ニ於ケル教育者トノ連絡指導ニ当ル其ノ担任者左ノ如シ
教育 処 李、林、沈課長
教育 會 單會長
各 學 校 畢、張、寧校長
5、宗教班ハ事務所ヲ清真小學校内ニ置キ全県ニ於ケル各宗教徒ノ連絡指導ニ当ル其ノ担任者左ノ如シ
總 務 處 舒、王課長
地方警察署 邢分署長
各 教 徒 馮、馬、蔡、劉福三、錢子安
右報告申進ス
本信写送付先 公使 北平 奉天

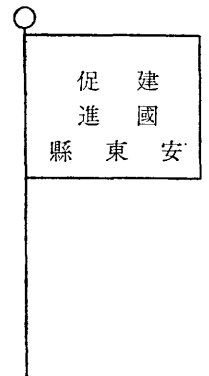
65 昭和7年2月24日 在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

新國家の海關收入に対する方針について

奉天 2月24日後発
本省 2月24日後着

第二八六号(暗)
往電第二八五号ニ関シ

(七) 左ノ如キ建国促進旗ヲ作製ス



(八) 事務所及担任者氏名左ノ如ク定ム

1、建国促進會本部ヲ県公署内ニ置キ一切ノ促進事務ヲ總括ス

2、商工班ハ事務所ヲ市商會内ニ置キ全県ニ於ケル商工業者トノ連絡指導ニ当ル其ノ担任者左ノ如シ

警 務 處 劉閣樂課長

水上警務處 王督察長 兼 警査員

実 業 處 林陶課長 呂質甫 陳海秋

3、農林班ハ事務所ヲ財務處ニ置キ全県ニ於ケル農林業者ノ連絡指導ニ当ル其ノ担任者左ノ如シ

財 務 處 于、王課長 劉課長

実 業 處 張課長

地方警察署 李課長 王督察長

新國家ニ於テハ大連海關ニ對シ實際上手ヲ付クル能ハサルモ其他ノ税關ニ對シテハ其收入中五分税丈ケハ外債担保分トシテ銀行ニ積立テ残余ヲ新國家ニ於テ処分スル予定ニテ此点ニ関シテハ特ニ声明ヲナスコトナク新國家成立ノ際總括的ニ条約上ノ對外義務ハ繼承尊重スル意味ノ宣言ヲナス筈ナリ
支、北平、天津、在滿各領事ニ転電セリ

66 昭和7年2月24日 在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

郵政回收実行案閣東庁通信局長より提示について

奉天 2月24日後発
本省 2月24日後着

第二九一号(暗)

廿三日閣東庁桜井通信局長來訪ノ際同局長ハ郵政制度ニ関シテハ軍側ヨリナルヘク速ニ回收ニ着手方再三申出アリタルモ輕々ニ処置シ得サル為自分ノ手ニテ今日迄引延ハシ來レルモ新國家成立ノ際ニハ愈回收ノ実行ヲ要ストテ其際ニ於ケル腹案トシテ(一)外人郵便局長ヲ始メ現従業員ハナルヘ

ク之ヲ使用スル方得策ニ付同人等カ新国家ニ忠誠ヲ誓フニ於テハ其ノ身分ヲ（「ベンション」ヲ含ム）保障シタル上留任セシメ（二）従業員ノ動搖ヲ防ク為新国家成立前当地郵便局長「ポレットイ」及哈爾賓郵便局長「スミス」ノ兩人ニ行政委員会ヨリ予メ（一）ノ趣旨ヲ内示シ置クコト（三）郵便貯金ハ現金ハ南京ニ送付シアルモ其金額百万円内外ヲ出テサルニ依リ新国家ニ於テ支払ノ義務ニ応スルコト（四）築造物ノ外廿万円内外ノ現在軍用資金ハ押収ス（五）新国家ト南京政府トノ間ニ紛糾起レハ国際郵便物等ノ関係モアルニ付関東庁通信局ニ於テ業務上ノ事項トシテ便宜取扱方ヲ双方ノ間ニ斡旋スルコトノ諸項ヲ示シ本官ノ所見ヲ求メタルカ右諸項ハ本官トシテモ同感ニ付通信局並ニ当館ヨリ同一歩調ヲ以テ軍側ニ折衝スルコトニ打合せ置キタリ

支、北平へ転電シ在滿各領事へ暗送セリ

67 昭和7年2月24日 ※在ハルビン長岡総領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

馬占山の黒竜江省長官就任式挙行について

ハルビン 2月24日後発
本省 2月25日後着

唱へ付属地ニ入り最後ニ県政府ヲ訪問午後一時四十分予定
通散会セリ

支、北平、奉天、吉林、哈爾賓へ転電セリ

69 昭和7年2月24日 在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛（電報）

新国家首都長春に確定について

長春 2月24日後発
本省 2月25日前着

第五二号（暗）

新国家ノ首府ハ愈々当長春ニ確定ノ様子ニテ本二十四日吉林ヨリ全省警務署長修長余来長、市長金壁東、県知事趙汝楨ト連絡ノ上中央政府所属各官庁ニ充當シ得ヘキ建物ノ調査ヲ始メ市政府（旧道尹公署）権運局、陸軍病院、各大銀行、県政府、市公安局、第二中学校等十五、六個所ノ建物ニ対シ三、四日内ニ修繕ニ取掛カル予定（市政府建物既ニ修理中ナルハ既電ノ通）ノ下ニ関係建物ノ図面ヲ携へ明朝修署長ハ吉林ニ帰ル筈

支、北平、奉天、吉林、哈爾賓へ転電セリ

第一九二号
齊々哈爾賓本官宛電報

第三九号

外務大臣へ電報アリタシ

第三〇号

馬占山ハ二十三日正午日支白人参列ノ下ニ江省長官就任式ヲ挙行シタリ

哈爾賓ヨリ公使、北平、奉天、吉林、長春へ転電アリタシ
満州里へ転電セリ

68 昭和7年2月24日 在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛（電報）

建国促進長春市民大会の開催について

長春 2月24日後発
本省 2月24日後着

第五一号（暗）

自治指導部派遣員ノ手配ニ依ル建国促進長春市民大会ハ本廿四日午前十一時ヨリ開カレ商務会、農務会、学校、弁護士会代表参集ノ上演説、宣言、決議、旗行列ノ順序ニテ行列ハ露西亞人楽隊ヲ先頭ニ目抜ノ通ヲ市政府ニ至リ万歳ヲ

70 昭和7年2月24日 在牛莊荒川領事より
芳沢外務大臣宛

牛莊管内における新国家建設促進運動について

て

牛莊 2月24日付
本省 2月29日着

公信公第一八五号

満蒙新国家建設促進運動ニ関スル件

当館管内各県ニ於ケル自治委員会ハ本月廿一日県内官民代表者ヲ県公署ニ招集シ本月廿二日ヨリ廿五日ニ至ル間ニ行フヘキ満蒙新国家建設促進運動ノ実行方法ニ付協議ヲ重ネ一、宣伝

奉天指導部ヨリ送付セル各種「スローガン」及宣伝ビラヲ町村各地ニ遍ク配布又ハ貼付セシムルト同時ニ学校生徒ノ旗行列ヲ行ヒ楽隊又ハ支那固有ノ高脚踊等ヲ以テ之ニ氣勢ヲ添フルコト

二、県民大会

県公署所在地ニ県民大会ヲ開催シ有志ノ新国家促進演説ニ次テ省政府ニ提出スヘキ決議文等ヲ付議スルコト

三、県民代表派遣

県民代表ヲ奉天ニ派遣シ前記決議文ヲ二月廿五日省政府ニ提出セシム、当日ハ各学校生徒ハ樂隊ト共ニ代表ヲ停車場迄見送り其ノ行ヲ盛大ナラシムルコト

四、地方部宣伝

各県地方村落ニ於テハ区民大会ヲ開催シ各村代表者及農商各団体ノ主ナル者集合シ滿蒙新國家建設ニ関スル趣旨ヲ管内一般人其他住民ニ徹底セシムルコト

等ヲ協議決定シタルカ其後ニ於ケル各地ノ運動実況ハ左ノ如シ

記

營口ニ於ケル新國家建設運動大会ハ二月二十二日正午ヨリ小紅樓劇場ニ於テ開催セラレ各界代表十四名ノ演説アリテ聴衆千数百名ニ及ヘリ

左記奉天省長ニ贈呈スヘキ決議文ヲ委員長朗読シ決議文贈呈ノ為赴奉スル代表者二名ヲ推挙シ午後一時過閉会セリ又各学校学生生徒ノ市中遊行隊五百余名ハ午前九時県公署ニ集合委員長ヨリ一場ノ挨拶アリタル後小旗ヲ手ニシテ市中ヲ遊行シ遊行隊ニハ高脚早船仮装隊或ハ樂隊等ヲ以テ新

外有志二三ノ祝辞並ニ将来ニ対スル希望等アリ聴衆ヲシテ相当多大ノ感動ヲ与ヘ盛會裡ニ散会セルカ各会トモ左記ノ如キ決議ヲナシ即時省政府ニ打電セリト云フ

記

永年軍閥專政ノ為人民ハ極度ノ不安ノ内ニ今日ニ及ヒシモ茲ニ民意ヲ基本トスル新國家ノ建設サルニ遭ヒ歎喜ニ堪エサル次第ニシテ本会ハ一日モ早く新國家建設セラレテ教育ノ普及民心ノ安定ヲ齎ラスヘキ庶政ノ速カニ実現セラレシコトヲ要望ス

海城縣教育會

吾カ三千万民衆ハ久シク軍閥ノ圧迫ヲ受ケ人民ヲシテ塗炭ノ苦衷ニ陥レタリ希クハ新國家ハ東北民衆ノ國家トシテ南京政府ト絶縁シ廉潔政府ヲ組織スルト共ニ苛政ヲ排シ善政ヲ敷キ匪賊ヲ掃滅シ農村ノ振興ヲ図リ以テ安心立命ノ樂土ヲ建設サレムコトヲ要望ス

海城縣農務會

多年軍閥ノ虐政下ニ在リタル吾人ハ從來ノ軍閥政治ヲ排除シテ民意ヲ基礎トスル民衆自治ノ共和国ヲ建設シ速カニ匪賊ヲ掃滅シテ秩序ヲ回復シ一般民衆負担ノ軽減、金融ノ円滑、交通ノ発達、商工業ノ振興等ヲ図リ民衆ヲシテ其緒ニ安シセシムヘキ善政ノ施行セラレン事ヲ期ス

國家建設促進歌ヲ高唱セシメツツ練リ廻リ宣伝ビラヲ散布セリ尚市内各商民ハ軒々ヨリ色取りノ「慶祝新國家建設促進」ノビラヲ吊セリ

營口縣民大会決議文(二月二十二日)

我我營口縣民ハ新國家促進運動ノタメ茲ニ營口縣民大会ヲ開キ吾人ノ平素要望セル左記事項ヲ滿場一致ヲ以テ決議ス

決議事項

- 一、新國家ヲ速カニ成立セシムルコト
 - 二、新國家ノ政体ヲ立憲共和制トナスコト
 - 三、弊政ヲ改革シ民力ヲ培養スルコト
 - 四、交通網ノ完成並ニ實業ヲ開發スルコト
 - 五、教育ヲ刷新シ其普及ヲ計ルコト
 - 六、官吏ヲ精選シ善政ノ徹底ヲ計ルコト
- 海城縣ニ於テハ廿二日農務會、商工会ニ於テ時ヲ異ニシテ滿蒙新國家建設ニ関スル記念大会開催セラレ參會者各百数十名アリ趙縣長代理ヨリ新國家建設ニ対スル感想並ニ今後庶民ノ採ルヘキ態度等ニ付キ訓示アリ次テ各會長等何レモ此新國家建設ハ吾カ三千万民衆ノ宿望スル処ナリト旧軍閥政治ヲ排撃シ熱心ニシテ而モ条理整然タル演説ヲ為シタル

海城縣商工会

尚右ノ外各会トモ左記具體的弁法ノ決議ヲナシ廿三日書面ヲ以テ省政府ニ進達セリト

一、教育會決議事項

(一)義務教育ノ普及

各列強ニ於ケル教育普及及其弁法ヲ模倣シ滿六歲ニ達シタルモノハ勿論男女貧富ノ別ナク一律ニ入校セシメ在校滿六年ヲ以テ義務教育トナシ各種教育ノ基礎タラシムルコト

(二)教育主義ノ變更

教育ノ施設ハ実利ヲ考ヘ職業的教育ニ留意シ以テ有用ヲ期スヘキナリ即チ蚕桑、森林、農作、商業、土木、機械、建築等各科ノ如シ勿論中小學校ノ別ナク均シク施設ヲ広メ実効ヲ収メシム

(三)卒業生ノ就職斡旋

職業教育ノ擴張ヲ行フト共ニ之等卒業生ニ對シテハ極力其就職ヲ斡旋シ學成ラサル者ハ之ヲ用ヒス以テ求學者ノ欲望ヲ満足セシムルコト

(四)教育費ノ獨立

教育経費ハ他種事業費ト混同スヘキモノニ非ス因テ茲ニ教育費ノ独立及自由分配無掣肘ナルコトヲ希望ス

二、商工会決議事項

(一)省ニハ省金融機関アリ県ニハ県金融機関アリテ市面ヲ流転シ商民ヲ救済シ商工業ノ発展トナリ始メテ円満ナル地歩恢復スルモノナルヲ以テ県金融機関ノ設置ヲ請願ス

(二)商農ニ対スル減税方ヲ顧慮シ其負担ヲ軽減セラレ度

(三)阿片、モヒ、及海洛英等毒物一切ヲ嚴禁シ一般人民ヲ此苦境ヨリ救出就職セシムルト共ニ和平ノ幸福ヲ享ケシムルコト

三、農務会決議事項

(一)民衆ヲ代表新国家成立後各級官長ヲ督励シ人材登用ニ意ヲ用ヒ廉潔ナル政治ヲ施行シ人民ヲ寵愛シ今後官民一致連絡シテ從來ノ如キ疎隔ナカラシムルコトニ努ムルコト

(二)旧制田賦ト畝税トハ重税ナルヲ以テ其一ヲ減免以テ人民ノ負担ヲ軽減スルコト

(三)時局変化ニ依リ地方流民多ク賊団ニ投シ治安ヲ擾害ス

会ヲ開催シタルカ其ノ状況左ノ如シ

記

一、日 時 本二十三日 自午前十一時 至午後零時三十分

一、場 所 復県農務会

一、参集人数 全境九区代表計十七名付属地居住中国人代表三十二名其ノ他各種団体員等總計二百余名

一、大会状況

生立学校校長孫顯忠ハ議長トシテ登壇本日ハ東北新国家建設促進運動大会日ナリ我東北四省ニ於ケル惡劣極マル軍閥ハ既ニ掃尽シ今ヤ我等ノ熱望シ居タル新国家ノ建設サルルニ当リ東北四民ハ協力一致之カ完成ニ努力スヘキモノナリト希望ヲ述ヘ次テ各区代表相踵テ建国促進ニ関スル演説ヲナシ終リニ臨ミテ孫議長ハ宣言文ヲ朗読シタル上來ル本月廿五日奉天ニ派遣スル代表者ヲ選舉セリ同日午後一時ヨリ各団体ノ会衆其ノ他ノ者ハ「歡迎新国家建設」ト記セル大小布旗ヲ押立テ行進余興トシテ支那固有ノ高脚会及樂隊ヲ加ヘ宣伝ビラヲ撒布シツツ付属地内

ル為人民安スルヲ得ス多数軍警ヲ派遣シテ徹底的勦滅ヲ期スルコト

(四年末金融滯塞シ諸事業停頓スルニ至リ人民ノ生活日ニ漸ク窮乏ヲ告ク省立各銀行ノ低利資金貸出ヲ断行シ農民救済ヲナスコト

大石橋商務会主催、海、蓋三県連合ノ新国家建設促進宣傳運動ハ去ル二十一日支那側有力者等ノ協議ニ基ツキ廿三日午前十時ヨリ実施シタルカ其状況左記ノ如シ

記

各種団体及各戸ヨリ一名以上ノ農商民等計四百名支那側小学校ニ集合宣傳隊ヲ組織シ商務会長ヨリ建国運動ニ関スル一場ノ挨拶アリタル後新国家建設ヲ祝スノ大旗ヲ押立テ音楽隊高脚会ヲ先頭ニ小学生百数十名モ各受持教師ニ統率セラレ之ニ参加シ隊伍ヲ整ヘ各自小旗ヲ手ニシテ宣唱歌ヲ高唱スルト共ニ宣伝ビラヲ撒布シツツ支那街ヨリ逐次付属地内ヲ一巡シ前記小学校ニ帰還午後二時解散セリ尚宣傳隊ノ外一般民衆モ之ニ参加スルモノ多ク其数一千数百名ニ達シ稀ニ見ル盛會ヲ極メタリ

復県農務会ニ於テハ廿三日午前十一時ヨリ復県連合県民大

外ヲ遊行一週シ大ニ氣勢ヲ揚ケタルカ付属地内外居住支那人ハ爆竹ヲ放チテ之ヲ歡迎スル等盛大裡ニ之ヲ行ヒ予期以上ノ効果ヲ歟メ午後二時三十分散會セリ

尚同県松樹区ニ於テハ二十二日午後一時ヨリ同地公安分局内ニ於テ管内農、商、学、等各団体及村民代表者並区民等約六百余名ノ参集者アリ同地王公安分局長開會ノ辭ヲ宣シ引続キ新国家建設趣旨ニ関シ簡單ナル説明ヲ試ミ次テ公学校教諭劉伝喜ノ宣言文ヲ朗読其ノ他有志ノ演説アリ終ニ臨ミ二十三日瓦房店ニ開催スル復県連合大会ニ列席スル代表者二名ヲ推選ノ後一隊ハ建国ト記セル小旗及建国促進會ト大書セル大旗ヲ先頭ニ高脚会ノ余興アリテ市街ヲ遊行一週シタル上散會セルカ近來稀ニ見ル催シニテ相当効果ヲ歟タリ

本信發送先

外務大臣、奉天

71

昭和7年2月24日

在鉄嶺石塚領事代理より
芳沢外務大臣宛

開原県における新国家建設促進運動について

鉄嶺 2月24日付

本省 3月1日着

公信普通第一六五号

開原県ニ於ケル新国家建設促進運動ニ関スル件

開原県各団体ハ他地方ノ新国家建設促進運動ト呼応シ本月二十三日県民大会及宣伝行列ヲ挙行セルカ其ノ状況左ノ如シ

開原県城南開運動場ヲ会場トシ県民大会ヲ開催セルカ集合スル者各団体、各学校生徒其他一般民衆約一万ニ及ヒ自治執行委員長丁一青開会ノ辞ヲ述ヘ各代表者ノ演説アリタル後丁一青ハ大要別紙訳文ノ如キ決議並各団体ノ宣言ヲ朗読シ、省政府ニ対スル請願書ヲ決議シ更ニ右請願書提出ノ為省政府ニ派遣スヘキ各界代表者六名ヲ選定シタル後直ニ市中游行ニ移リ各種宣伝「ピラ」ヲ撒布シ（宣伝「ピラ」ハ二月二十三日付拙信第一五八号添付ト同シ）氣勢ヲ上ケタリ尚開原付属地華商公議會モ城内ノ運動ト歩調ヲ合セ同日公議會ニ於テ大会ヲ開催シ付属地内外ニ亘リ建国歌ヲ高唱游行セリ

右報告ス

本信写送付先

奉天総領事

長春、安東、牛莊、遼陽各領事

（別紙）

宣言

旧軍閥ノ苛斂誅求至ラサルナク徒ラニ自己擁護ノタメ軍備ヲ拡張シ惡吏ハ之ヲ機トシテ私腹ヲ肥ヤシ重税惡稅搾取其ノ極ニ達ス、吾人農民ハ食フニ食ナク播クニ種子ナキノ窮状ニアリ匪賊ハ年ト共ニ加ハリ家財ヲ強奪シ婦女ヲ姦シ住家ヲ焼キ強暴言語ヲ絶ス、吾人十萬農民ハ天ニ哭シ地ニ慟シ其暴威ニ対シ坐視スルノ外ナキニ至レリ、此時ニ当リ東方ノ義軍天ニ代リテ之ヲ誅ス、我等農民ハ枕ヲ高クシテ眠リ、意ヲ安ンシテ業ヲ励ムヲ得ヘシ、義軍ニ報ユルノ道ハ旧軍閥ト絶縁シ四民平等博愛ヲ旨トシ理想的安樂郷タル新国家ノ建設ニアリ而シテ吾人ノ數千年來渴望シ来リシ王道政治ノ実現ニヨリ爰ニ始メテ吾人永遠ノ樂土ヲ得ヘシ、吾人ハ一致團結シテ新国家建設促成ヲ期ス

二十一年二月二十三日

開原県農會 會長 王錫九

宣言

旧軍閥虐政ノ下ニ民衆ノ疲弊困憊其極ニ達セリ、外ニ戰亂相次ギ内ニ匪賊横行ヲ極ム、貿易ノ途ハ阻害セラレ、交通機關ハ破壞セラレ彼等ノ掠奪放火脅威ニヨリ本県主産物タル農作物ハ其大半ヲ失フニ至レリ、吾人商工業ニ従事スルモノ亦何ヲ以テカ生活ノ途ヲ求メン商工業界ノ不振言語ニ絶セリ、幸ニシテ東方ノ善隣義軍ヲ以テ天ニ代リ之ニ誅ヲ加ヘ今ヤ平和ノ曙光普遍セントス、此時ニ当リテ吾人多年ノ渴望タル王道政治ノ復活ヲ期シ新国家ヲ建設シテ旧軍閥ト絶チ理想的平和郷タル樂土ノ建設ヲ期セントス

二十一年二月二十三日

開原県商務會 會長 徐榮郷

決議文

吾人ハ新国家建設促進ノ為県当局ニ請願シ速ニ県民大会ヲ開キ其ノ目的ヲ達成センコトヲ期ス
右決議ス

農會 商務會

宣言

吾人ハ旧軍閥ノ羈絆ヲ脱シ理想的安樂境タル新国家建設ノ促進ヲ期ス

二十一年二月二十三日

開原県々民大会 會長 丁一青

開原県民大会決議文

吾人開原県民ハ一致團結ヲ以テ一日モ速ニ滿蒙ヲ中華民國ト絶チ王道主義ニ基ク新国家ヲ建設シ之ヲ達成ヲ期スルタメニ省民大会ノ開催ヲ請願ス
右決議ス

二十一年二月二十三日

開原県々民大会 會長 丁一青

請願書

旧軍閥政治ノ横暴ハ苛斂誅求ヲ極メ無辜ノ良民ニ塗炭ノ苦ヲ与フ加フルニ惡吏匪賊ハ白昼横行ヲ恣ニシ惡業エ善亡ヒ天道地ニ落テ人義ソノ影ヲ潜ム、我等県民ハ疲弊困憊ノ極

ニ達シ膏血將ニ尽キントシ慟哭スルニ涙ナキノ慘状ヲ呈ス
幸ニシテ東方善隣ノ義憤ニヨリ暴戾ノ吸血兇ハ一掃セラレ
更ニ一步ヲ進ンテ匪賊將ニ蕩尽セラレントス暗雲西ニ去ツ
テ光明天ニ来ル正義ハ高唱セラレ吾人ノ求ムル善政、吾人
ノ渴望スル王道政治実現ハ其ノ機熟シタルヲ信ス今ヤ窮極
ノ民衆ハ公明正大ノ政治ヲ希冀シ産業ノ発達治安ノ維持、
教育ノ普及、交通機関ノ改修完備、金融ノ調節等急ヲ要ス
ルモノ多シ

冀クハ東北四省ヲ一丸トシ旧軍閥ト絶チ其ノ羈絆ヲ脱シ真
ニ王道政治ヲ敢行シ得ヘキ理想的安樂境ヲ建設センコトヲ
之ニヨリテ東北三千万同胞ノ福利ハ増進セラレ進ンテ門戸
開放、機會均等四民平等ノ大慈悲心ノ發現ニヨリ新國家ハ
無比ノ樂土タラシムル事ヲ得是レ実ニ吾人カ天ニ報ユル道
ニシテ親善ナル先進國ニ対スル義務ナリ爰ニ開原県民大会
ノ決議ニ基キ新國家建設ノタメニ速ニ省民大会ヲ開催セラ
レンコトヲ期ス

二十一年二月二十三日

開原県民代表
自治執行委員長

72 昭和7年2月25日

在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

新國家成立後の大連海關收入の帰属について

奉天 2月25日後発
本省 2月25日後着

第二九九号（暗、部外極秘）
（六五文書）
往電第二八六号ニ関シ

二十五日開東庁海軍及當館代表者軍參謀長ノ希望ニ依リ合
合ノ際開東庁内務局長ヨリ新國家ヨリ開東庁ニ対シ大連海
關ヲ否認スルニ付其收入全額ヲ新國家ニ送付方依頼シ来ル
場合開東庁トシテハ中央ニ請訓シテ態度ヲ決定スルノ外ナ
キモ自分一己ノ意見トシテハ全然新國家ノ要求ヲ卻ケ従来
通りノ取扱ヲナスコトモ忌々シク就テハ五歩稅タケハ除外
スルトシテモ残余ハ中央ニ引渡ササルコトニ何トカ理由ヲ
付ケ得ラレスヤトノ話アリタルニ付當館代表者ヨリ現行条

約ノ關係上大連稅關ニ關スル限り従来通り措置スルノ外ナ
カルヘキ旨ヲ答ヘタルトコロ最後ニ參謀長ヨリ大連海關收
入ハ滿州全關稅收入ノ半分ヲ占ムルヲ以テ條約ニ違反セス
又關係國ノ感情ヲ害スルコトナクシテ何トカ五歩稅以外ノ
分ヲ新國家ニ受取ル巧妙ナル方法ナキヤ、此ノ上トモ御研
究願ヒタシトノ希望申出アリタリ當館トシテハ今後トモ大
連稅關ニハ手ヲ触レス現状維持ノ方針ヲ以テ關係各方面ヲ
充分說得ニ努ムヘキモ為念
支、北平ヘ転電セリ

73 昭和7年2月25日

在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

新國家の国号、政体など決定について

奉天 2月25日後発
本省 2月25日後着

第三〇二号（暗）

新國家ノ国号、国体、政体及国旗等ニ関シ過去数日來奉
天、吉林、黑龍、熱河各首腦者ノ代表及宣統帝ノ代表奉天
ニ会シ討論研究シタルカ宣統帝側ニ於テハ飽迄帝王ノ名ヲ
以テ君臨ヲ主張シタルモ地方代表ノ大多數ハ之ニ反対シ結

74 昭和7年2月25日

在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

県自治委員會の組織について

奉天 2月25日後発
本省 2月25日後着

第三〇三号（暗）

奉天省政府ハ過般發布ニ係ル県公署組織暫行條例第四条ニ
基キ二月十二日付省政府命令ヲ以テ従来ノ県自治執行委員
會ヲ取消シ改メテ県自治委員會組織方各県宛訓令セリ
支、北平、在滿各領事ヘ転電セリ

75 昭和7年2月25日

在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

新国家の国号、国旗などに関する東北行政委員会の発表について

第三〇七号

奉天 2月25日後発
本省 2月26日前着

廿五日午後四時東北行政委員会ハ張景惠公館ニ於テ新国家ノ国号「満州国」、元首「執政」、国旗「新五色旗」ノ外新国家ノ政治ハ民本主義ニ依ルコト及新国家成立ト同時ニ年号民国ヲ廃シ大同ト称スルコトヲ発表シ右ニ対スル説明トシテ執政ハ人民ニ推戴セラレ立憲制ニ依リ統治スルコト及将来民意ニ基キ憲法ヲ制定スヘク執政政治ハ憲法制定ニ至ル迄ノ統治形態ナルコトヲ発表セリ
連盟ヨリ在欧各大使ヘ転電アリタシ
又夫々所屬公館ヘ転電アリタシ
在支各館、連盟、在米大使ヘ転電セリ

76 昭和7年2月25日

在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛（電報）

日建国促進会ヲ組織シ同会ハ廿四日安東市總商会ニ於テ大会ヲ開催シ各界ノ代表者ヲ推挙シ建国促進陳情ノ為廿六日赴奉スルコトトナリタルカ同大会ノ状況ハ左記ノ如シ

記

一、一般状況

二月廿四日正午ヨリ安東市總商会ニ於テ安東県建国促進県民大会ヲ開催シ参会者各界官民代表約一千二百名会場立錫ノ余地ナキニ至リ場外ニ約五百名参集シ定刻ニ爆竹ヲ合図ニ商工班代表呂載甫登壇開会ノ辞ヲ宣シ次テ議長選舉ニ移リ安東県自治執行委員長王介公ハ赴奉不在ノ為県公署総務課長黃福元ハ議長ニ推挙セラレテ登壇別紙第一号ノ宣言決議ヲ朗読シ万場一致可決シ更ニ商工班代表呂載甫農林班代表張德俊教育班代表単榮道宗教班代表劉福三ノ順序ニ別紙第二号ノ宣言決議ヲ朗読シ賛意ヲ求メ奉天省政府特派員修松麟ハ新国家建設ノ暁ハ東北四省ノ国民民福ハ増進セラレ一般民衆ノ期待スル理想國ヲ出現スルモノナリトテ交通産業教育資源等ノ開発ニツキ説明シ本日安東県民ノ本大会開催ハ東北民衆ノ同慶ニ堪ヘサルモノナリトテ祝辭ヲ述ヘ次テ小学校生徒約二百名ハ

首都予定地長春をめぐる動向について

長春 2月25日後発
本省 2月26日前着

第五三号（暗）

長春カ首府トナルヘキヲ見越シ当地滿鉄地方事務所ニ於テハ極秘裡ニ都市拡張計画ニ付腹案ヲ作成シ本社側ト折衝中ナルカ最近吉林熙長官ハ当地支那側官憲ニ対シ長春市周圍卅支里ノ土地ノ売買ヲ禁止スヘキ旨ヲ内示シ利権屋等ノ策動ヲ予防スル為外部ニ対シテモ然ルヘク布告ヲ発スルコトトナレル趣ナリ

公使、北平、奉天、吉林、哈爾濱ニ転電セリ

77 昭和7年2月25日

在安東米沢領事より
芳沢外務大臣宛

安東県建国促進県民大会の開催について

安東 2月25日付
本省 2月29日前着

公信普通第二〇三号

安東県建国促進県民大会開催ノ件

滿蒙新国家成立ヲ促進セシムル為安東ニ於テハ本月廿一

曩ニ配布セラレタル建国促進歌ヲ唱和シ一般参会者ニ多大ノ感動ヲ与ヘ最後ニ議長黃福元ノ発声ニテ新国家万歳ヲ三唱シ閉会シタルカ之ヨリ音楽隊ヲ先頭ニ旗行列及高脚踊仮装行列等ニ約二千名参加市内ノ示威行列ヲ為シ無事午後三時散会セリ

二、建国促進陳情各界代表者ノ推挙

安東県各界ニ於テハ奉天省政府ニ建国促進陳情代表者ヲ左記十名推挙シ該一行ハ二月廿六日赴奉ノ予定ナリ

県民大会代表

張学礼
黃福元

商 工 班

（市県ノ商会団体ニシテ全県商工ノ連絡及指導ニ当ル）

姚星三
呂載甫

農 工 班

（県農會団体ニシテ全県農林業者ノ連絡指導ニ当ル）

張德俊
于崇謙

教 育 班

（市県教育會団体ニシテ全県教育會ノ連絡指導ニ当ル）

単榮道
于学礼

宗 教 班

（市県各宗教団体ニシテ各宗教徒ノ事務連絡及指導ニ当ル）

劉福三
供啓三

三、本会開催ニ付テ指導員ノ状況

安東県本島、金井ノ兩自治指導員ハ本会開催ニ当リ自治執行委員長以下ノ各委員其他各界有力者ヲ操縦シ裏面

ニ在リテ熱心ニ計画スル所アリタリ
別紙第一号

安東県建国促進県民大会宣言

安東地方各界ハ東北行政委員会成立ノ宣言ヲ謹読シ本月廿四日総商会ニ会場ヲ設ケ建国促進県民大会ヲ開催シ謹テ宣言ス

竊カニ想フニ中国ヲ建テテヨリ数千年久シキニ亘リ其間分合変遷屢々行ハレタリ漢晋以降ハ分裂シテ東西南北トナリ其ノ最モ甚タシキハ十六大都市トナル是レ總テ時勢ノ造成セシ所ナリ論者或ハ之ヲ偏安トナシ或ハ割拠ナリト罵ル之皆君主制時代ニシテ其ノ当時ニ於ケル正統学説ニ拘泥スルカタメ既ニ国体ハ革命トナリ分合有リト雖モ民衆ハ固ヨリ之カ主タリ常ニ本分ヲ守リテ尚且民権ヲ失フ之蓋シ潮流ノ趨ク所時勢ノ然ラシムルモノナル乎我東北ハ事変後既ニ四ヶ月ヲ経過セリ幸ニ各方面ノ援助ニ依リ東北ノ政權ハ我東北ノ自治ニ依リテ極力整頓セラレツツアリ而シテ旧政權カ没落以來各地ニ多数匪賊横行シ機ヲ窺ヒテ各地方ニ掠奪殺傷ヲ行フ民衆ノ生キタル心地ナシ耕地ハ荒廢シ人家ハ倒ル且大小ノ商業ハ消沈シ各種工

業又閉鎖ニ近シ金融停滯シテ全ク融通ノ途ナシ此ノ如ク混淆セル状態ヲ持續スルニ於テハ我等地方民衆ノ死活ニ係ルモノニシテ治安ヲ熱望スルコト実ニ久シキ間ナリ今諸君ハ時勢ノ必要ニ鑑ミ此ノ難局ヲ挽回シテ徹底的治安ヲ建議ス且民衆ノ福利ヲ増進シ東亜民族万全ノ策及主旨トスル熱望盛ナリ我安東ハ当然省会ノ方針ニ一致シテ進ムヘシ茲ニ滿腔ノ同意ヲ表明スルモノナリ望ム所ハ安東東北新國家建設促進県民大会ノ決議ヲ採納シ迅速ニ新共和國家ヲ建設シ以テ民意ヲ安ンセラレンコトヲ懇請シテ止マス

安東県總商会安東県農會安東県教育會安東県宗教団体全体民衆一同頭首

別紙第二号

安東県建国促進県民大会決議

安東各地方団体並ニ農工商各界代表ハ二月廿四日正午安東県總商会ニ会場ヲ設ケ安東県建国促進県民大会ヲ開會シ東北四省ニ対シ可成速カニ新共和國家ヲ建設シ民意ヲ安ンセラレンコトヲ一致議決ス並各界ヨリ代表ヲ公選シ奉天ニ赴キ促進並ニ宣言發表ヲ請願スルモノナリ

記報告ス

記

長春、二十四日午前十一時市内消防隊広場ニ集合参会者

ハ付属地、商埠地、城内ノ各商務會、弁護士會、

農務會、教育會、役員會、學生（旧正休ミ等ニ

テ中学男女生参加ヲ見ス）一般市民計約千名會場

ニハ演壇ヲ設ケ万国旗ヲ飾リ十一月十日付自治指

導部長于冲漢ノ名ニ於テ發セラレタル指導部布告

第一号並ニ十余種ノ宣伝「ボスター」ヲ掲ケ予メ

配付シタル標語入手旗ヲ持チタル参会者ヲ前ニシ

テ各委員ノ演説アリ委員長ニ依リ新國家組織促進

電請文案ニ対スル滿場ノ承認賛成方ヲ促シタル後

寬城子東鉄俱樂部ヨリ賃雇シタル露西亞人樂隊ヲ

シテ歡喜ノ波ヲ打タセ市内要路ヲ一巡行列午後一

時四十分県政府側ニテ解散シタルカ前記布告並ニ

宣伝「ボスター」ハ市内到ル処ニ貼布シ大東晚報

ノ印刷ニ係ル十萬枚ノ五色ノ標語「ビラ」ハ街樹

ニ花ヲ咲カセタリ「ボスター」「ビラ」ノ標語内

容ハ奉天ニ生レタル自治指導部ヨリ統一サレタル

右報告申進ス
二月廿四日

本信写送付先 公使 北平 奉天 長春 牛莊 鉄嶺
遼陽

78 昭和7年2月25日 在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛

長春管内各地の建国促進運動について

長春 2月25日付
本省 3月5日着

公信機密第一〇五号

管内各地ノ建国促進運動ニ関スル件

當長春ニ於ケル本件運動ノ概要ニ関シテハ不取敢電報シ置キタル通りナルカ茲ニ其詳細並ニ公主嶺、四平街等ノ分左

モノニシテ当地ニテ案出シタルモノナン特ニ目立
チタルハ抗日排日ヲ以テ名声高キ教育局長張硯田
ノ指導演説ナリシカ先以テ盛會裡ニ運動ハ終了セ
リ

公主嶺、二十二日午前十一時支那街県自治執行委員会事務
所前ニ集合委員演説ノ後先頭ニ新国家要望ノ大幟
ヲ立テ楽隊ニ次テ学生、商務會、農務會、紅十字
會、回教團等宗教団医師會各団員、県吏員、一般
市民ノ順序ニテ要路ヲ行列シ付属地駅前ニ於テ記
念撮影ノ後午後一時支那街商務會前ニテ盛會裡ニ
解散セリ

宣伝「ポスター」其他印刷物ハ長春ト同様ノモノ
ナリ

四平街、十九日ヨリ三日間ニ亘リ或ハ元宵節ノ高脚會、燈
籠會ヲ利用シ或ハ学生、商務會員ヲ加ヘテ旗行列
ヲ行ヒ市民大会ヲ支那街戲場ニ開催スル等此參會
者約六百名梨樹県自治執行委員長關朝山ヲ先頭ト
シテノ行列万歳ハ本運動ニ一層ノ氣勢ヲ加ヘタリ
「ポスター」一切ハ奉天ヨリ送来ノモノヲ用ヒタ

- 一、自決ノ方法ニ依リ即チ新国家ヲ建設セヨ
- 一、新国家ノ建設ハ即チ自謀生存ナリ
- 一、国民政府ハ既ニ吾等ヲ拋棄セリ
- 一、中国ヲ救ハント欲セハ先ツ東北ヲ救フヘシ
- 一、速ニ党派專政的南京政府ヲ離脱セヨ
- 一、新国家ノ民衆ハ幸福ヲ謀ルヘシ
- 一、自決ハ即チ生存ノ途徑タリ
- 一、東北民衆ハ速ニ自決スルヲ要ス
- 一、建国安民
- 一、民衆自決
- 一、自立自決
- 一、促進建国
- 一、新国家ハ日ト俱ニ新ナリ
- 一、新国家ハ民衆ヲ愛撫ス
- 一、打倒暴民軍閥專政
- 一、新国家ノ新政權ヲ擁護セヨ
- 一、吾人ハ独立ノ精神ヲ具フヘシ

79

昭和7年2月26日

在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

リ
其他地方、都市ト連合シ得サル為メ各地別ニ二十六日迄ニ
本運動宣伝大会ヲ開催スル筈ニテ奉天ヨリノ印刷
物ハ夫々關係地代表ニ交付セリ

標語ノ種類ハ別紙ノ通り

本信写送付先 在華公使 北平 奉天 吉林 安東 營

口 鉄嶺 遼陽 哈爾賓

關東長官

（別紙）

- 一、今年ノ元宵節ハ即チ吾等東北民衆自決ノ記念日ナリ
- 一、今日建設スル新国家ハ即チ東北民衆新精神ノ表現ナリ
- 一、民衆ハ二十年前ノ社会的的生活ト景象トヲ回想セヨ
- 一、民衆ハ二十年来經過シタル苦痛ヲ回想セヨ
- 一、民衆ハ速ニ團結シテ立ち自抜自救タルヘシ
- 一、新国家ノ建設ハ東北民衆ノ幸福ナリ
- 一、二十年前ノ景象ヲ回復シ即チ自ラ生路ヲ開クヘシ
- 一、吾等ハ一途ノ活路アルノミ即チ新国家ヲ建設セヨ
- 一、東北三千万民衆ハ党人ノ命ヲ従フヘカラス
- 一、再ヒ党派專政國府ノ憐ヲ乞フ必要ナシ

溥儀の執政就任および建国宣言の発表予定に

ついて

奉天 2月26日後発
本省 2月27日前着

第三一一号（暗）

溥儀ハ二十九日奉天ニ来リ同日執政ニ就任シ三月一日ヨリ
十日迄ノ間ニ建国宣言ヲ発スル予定ノ趣ナルカ三月一日ハ
清朝ノ記念日（愛親覺羅力撫順方面ニ於テ敵軍ヲ撃滅シ清
朝ノ基礎ヲ定メタル日）ナルヲ以テ軍トシテハ成ルヘク同
日ヲ期シ建国宣言ヲ発セシメタル後最近ノ機會ニ新国都長
春ニ乘込ミ改メテ建国式ヲ挙行セシメタキ希望ナリト云フ
公使、北平、在滿各領事ニ転電セリ

80 昭和7年2月26日

在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

溥儀の吉林居住説について

奉天 2月26日後発
本省 2月27日前着

第三一二号（暗）

（七九文書）
往電第三一二号ニ関シ

軍部ヨリ内聞スルニ溥儀ハ三月初旬長春ニ於テ建国式挙行ノ後吉林ニ赴キ当分吉林ニ居住スルコトニ内定シ居レリト公使、北平、在滿各領事ニ転電セリ

81 昭和7年2月26日 在吉林石射総領事より
芳沢外務大臣宛

吉林における建国促進運動状況について

吉林 2月26日付
本省 3月8日着

公信機密第一四八号

吉林ニ於ケル建国促進運動状況報告ノ件

当地ニ於テハ熙長官、榮教育庁長ヲ初メトシ清室関係者及滿州旗人出ノ有力者多キ関係上客年末頃ヨリ既ニ建国促進ノ運動微温的ナラ行ハレ殊ニ教育庁長榮孟枚等ハ其主宰シ居ル省政府機関紙吉林日報等ヲ通シ積極的ニ新政権樹立ノ氣運醸成ニ努メ来リタリ、然ル処二月上旬ヨリ奉天ヲ中心トシ本件促進運動漸次具体化シ同月十五六日頃東北巨頭ノ奉天集会ト相前後シ吉林建国促進宣傳運動準備委員会成立シ長官公署秘書長李銘書同委員会ヲ主宰シタルカ同十八日東北行政委員会ノ独立宣言書発表セラルルヤ之ヲ吉林建国

近ク奉天ニ於テ挙行セラルル全滿ノ新国家建国促進運動ニ参加セシムルコトナリ二十六日正午吉林発奉天ニ向ハシメタリ

尚右運動ニハ吉林在住鮮人約六百モ之ニ参加シ全省代表中ニハ当地鮮人民会長高享鎮モ全省鮮人代表トシテ同行セリ吉林ニ於ケル建国促進運動ノ概況叙上ノ如クナル処之ヲ側面ヨリ見レハ其ノ運動概シテ熱情ヲ欠キ例之示威遊行中手旗ヲ破毀シ或ハ指導員ノ口号ニ唱和セサルモノ多数ヲ出シタルカ如キ事実アリ他方一般民衆中本件運動ヲ冷眼視スル者モ不尠官憲ノ力ニ依リ漸クオ茶ヲ濁シタル觀アリ

右報告申進ス

本信写送付先 在支公使及北平 奉天 哈爾濱 間島各

総領事 長春 齊々哈爾各領事 局子街

琿春 百草溝 頭道溝各分館主任

82 昭和7年2月26日

在牛莊荒川領事より
芳沢外務大臣宛

蓋平海城方面における建国促進宣傳運動の状況について

促進委員会ト改称省長官公署内ニ其辦事処設置セラレ省會公安局長、省政府秘書工会代表等ハ連絡宣傳、団体指導、調査監察等ノ幹部ニ任命セラレタリ（二月廿四日付拙信公第一三七号参照）翌十九日照熙長官ハ奉天ヨリ歸吉スルト共ニ直チニ建国促進委員長ニ就任シタルカ既ニ省内各県代表者モ殆ント全部出揃ヒタルヲ以テ之レヨリ具体的運動ニ移リ連日演說会演劇ボスター伝單及新聞記事等ニ依リ氣勢ヲ煽リ同月二十三日ニハ吉林建国促進委員会主催ノ下ニ示威運動ヲ挙行シタル処之ニ参加シタル民衆ハ約五千ニシテ各

各「民族自決」「建国安民」等ノ標語ヲ記載シタル小旗ヲ掲ケ長官公署前ヲ出発シ城内主要道路ヲ遊行シ其ノ間指導員ハ新国家擁立ニ関スル諸種ノ宣傳文ヲ散布シ市内各所ニ於テ宣傳演說ヲ試ミタリ

次テ二十五日曩ニ選出セラレタル省内各県ノ代表及軍隊公安隊ヲ参加セシメ吉林全省ノ建国促進デモヲ挙行シ之ニ参加シタル群衆ハ約六千ニシテ前回同様市街主要道路ヲ遊行シテ氣勢ヲ挙ケタリ

之ヨリ先委員会ニ於テハ吉林電灯廠長林鶴阜（元省議會議長）以下各県代表及農商工会其他ノ代表二十二名ヲ選出シ

公第一九四号

昭和七年二月二十六日

在牛莊領事 荒川 充雄

外務大臣 芳沢 謙吉殿

蓋平海城方面ニ於ケル建国促進宣傳運動

其後ノ状況

管内各県ニ於ケル新国家建設運動状況ハ二十四日付公第一八五号往信ヲ以テ報告ノ通りナル処其後蓋平県ニ於テハ商務会主催ヲ以テ二十五日午前十時ヨリ城内同商会ニ建国促進宣傳運動ニ関スル県民大会ヲ開催シ辛泉長ノ開會ノ辭ニ次キ奉天ヨリ派遣セラレタル王指導員及楊教育局長等建国要望ニ関スル演說ヲ為シ左記決議文ヲ作成之ヲ省政府ニ打電スルト共ニ午後零時ヨリ遊行運動ニ移リタルカ音楽隊高脚會警察騎馬隊及同歩隊各機關首領各団体小中学生並ニ付近村落ヨリ集合セル民衆等無慮数千名之ニ参加シ各自宣傳歌及建国歌ヲ高唱祝建国等ノ標識アル手旗ヲ携ヘ各所ニ宣傳ビラヲ撒布シツツ城内外ヲ遊行一巡ノ後商務總會ニ帰還

シ建国万歳ヲ三唱シテ無事解散セルカ尚其一団ハ付属地内公学堂主催ノ游行運動ニ参加シ盛況裡ニ午後三時終了セル趣ナリ

記

東北民衆ハ軍權暴政ノ下ニ呻吟シ自由ヲ得サルコト実ニ久シ民国以来共和制ヲ取りタリト雖モ從來ノ專政ト異ナル処ナク戰禍絶エス苛斂誅求亦止ム処ナシ加フルニ災害多ク人民ノ困窮其ノ極ニ達シ政道治ラサル情勢ニ在リシカ事変動發以來旧軍閥遂ニ滅亡シ此機ニ新政權樹立スル処トナレリ從來省各政治ヲ行ヒ民治ヲ高唱シ来リタルモ不統一ニシテ所期ノ目的ヲ収メ得ス胡匪各地ニ蜂起シ人民四散ノ形ナリ若シ夫レ根本的ニ救済ノ方法ヲ考究スルニ非サレハ今ヤ滿州ノ不運去リ東亞ノ平和確立セラル機運ニアルヲ感知シ此ノ機ニ臨ミ速カニ完全ナル新國家ヲ建設シ種族の旧觀念ヲ排除シ連省政治タラシメ乱ヲ避ケ正ニ返リ克ク統一ヲ図リテ人民保護ニ努メナハ人心順応シ来リ國家ノ繁榮容易ナルヘシ國体成リ三千万民衆ノ信服ヲ得テ然ル後自治ヲ講スルカ万全ノ策ナルヘク目下ノ急務トシテ是ヨリ善ナルハ莫ルヘシ各界ハ皇城ニ全民大会ヲ開催シ滿場一致之ニ賛意ヲ

公信関機高支第二七七〇号

東北新國家樹立狀況

東北新國家建設促進運動ハ既定計画ニ基キ着々進捗シ今ヤ東北各地ニ於テハ一斉ニ新聞紙、宣伝文、ポスター等ノ文書宣伝、学校其他ニ於ケル講演、市民学生生徒等ノ宣伝遊行等ニ依リ氣勢ヲ煽リツツアリ而シテ本運動ハ今ヤ第三期タル中央集中期ニ達セントシ各地法團主催ノ下ニ地方民大会ヲ開キ新國家建設要望ノ宣言、決議ヲナシ続々省政府行政委員會ニ打電スル等全ク全東北ヲ挙ケテ建国運動ニ狂奔シツツアル狀況ニシテ来ル二十九日奉天ニ於テ各地代表大

會ヲ開キ吉林、黑竜江兩省ニ於ケル大宣伝ト相俟ツテ終局的促進宣伝ヲナシ之カ終了ト共ニ三月一日ヲ以テ新國家ノ樹立ヲ見ル予定ナリ

一方新國家ノ根本大項ヲ決定スヘキ東北首腦者會議ハ本月十六、十七ノ兩日奉天ニ於テ開催セラレ其ノ結果十八日東北行政委員會ヲ組織シ同委員會ノ名ヲ以テ「東北四省及内蒙古ハ國民政府ヨリ離脱シ獨立國家ヲ建設スル」旨ノ宣言書ヲ發表シ爾來奉天城内東北法律研究会内ニ於テ委員長張景惠委員臧式毅並熙治、馬占山ノ代表等相集マリ根本問題

表スルモノニシテ茲ニ謹テ本県人民ヲ代表シ赤誠ヲ披瀝シテ宣言ス建国ノ參考トモナラハ此上ナキ幸ナリ

海城縣ニ於テモ亦同二十五日城内小南門運動場ニ於テ午後一時ヨリ建国促進宣伝運動ニ関スル県民大会ヲ開催シ孫縣長ノ開會ノ辭ニ次キ奉天ヨリ派遣セラレタル李指導員及辛商務會長等既往二十余年ニ互ル東北軍閥ノ專政ヲ痛罵スルト共ニ今次事變發生後ニ於ケル東北政情ノ變遷狀況ヲ説明シ各界代表等各決議文ヲ朗誦シテ滿場ヨリ事後承認ヲ求メ各機關ヨリ代表五名ヲ選出シテ省政府ニ派遣本日ノ狀況報告方ヲ申合せ同二時半ヨリ游行運動ニ移リタルカ付属地東語学舎生徒及商民等モ之ニ参加シ其數無慮二千百余名ニ達シ蓋平県同様ノ宣伝ヲ行ヒ同四時盛會裡ニ散会セリト

本信送付先

外務大臣 奉天

83 昭和7年2月26日

林閣東庁警務局長より
永井外務次官宛

滿州新國家の樹立狀況について

2月26日付

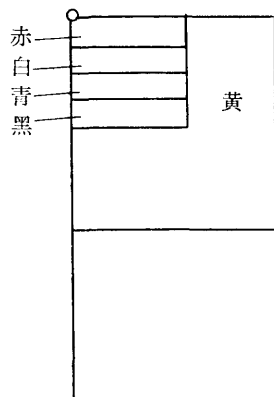
2月29日着

タル新國家ノ國体、政体、元首、國旗、國号、元号、首都等ニ関シ連日協議ヲ重ネタル結果國名ヲ「滿州國」ト定メ元首ヲ「執政」ト称シ元号ヲ「大同」ト称シ國旗ハ新五色旗（左記様式）ヲ用ヒ首都ヲ長春ニ奠ムルコトニ決定シ昨日午後五時大同元年二月二十五日付同委員會ノ名ヲ以テ之ヲ中外ニ發表スルト共ニ新國家ノ版圖トナルヘキ奉天、吉林、黑竜江、熱河各省政府、哈爾賓特別区長官公署、呼倫貝爾都統、哲里木盟、卓索圖盟、昭烏達盟各盟長公署宛通電ヲ發セリ

行政委員會ニ於テ國体政体ノ決定ニ就テハ議論百出シ立憲共和制ヲ主張スルモノ多カリシモ吉林代表謝介石及中途列席シタル呼倫貝爾代表等ハ極力帝制ヲ主張シテ止マス容易ニ決定ヲ見サリシモ大体宣統帝ヲ第一次執政ニ推戴スル共和國トシ執政ノ下ニ各獨立セル立法、國務、監察ノ三院ヲ設置シ民本主義ニ依ル政治ヲ行フコトニ内定セシ模様ナリ而シテ各地ニ於ケル建国促進運動ノ終了ヲ俟ツテ愈々三月一日ヲ期シ宣統帝ヲ長春ニ迎ヘ執政ニ推戴スルト共ニ國家組織ノ大綱ヲ發表シ全東北ヲ挙ケテ盛大ナル建国祭ヲ舉行スル予定ナリト云フ尚熱河主席湯玉麟ハ東北行政委員會ニ

加ハリ居リ又事実上熱河ハ新国家ノ版図トスヘキ意図ナル
モ湯玉麟ハ目下滿蒙新国家、張学良、反張学良運動ノ各方
面ニ連絡シ居リ自己ノ地位擁護ニ汲々タル模様ナルモ東北
新国家確立ノ曉ハ結局之ニ合同スルモノト認メラル

国旗様式



84 昭和7年2月27日 在北平矢野参事官より
芳沢外務大臣宛(電報)

満州新国家成立などに関する中国新聞論評に ついて

北平 2月27日後発
本省 2月27日後着

第一〇六号

満州新国家成立状況ハ連日連合会ニ依リ報道セラルル外上

滿蒙独立ハ既ニ實現セリ今ヤ中国ノ領土及行政ノ完成ヲ保
全スヘシトスル国際条約ハ以テ日本ヲ牽制スルニ足ラス是
非曲直ノ弁ヲ以テ日本ニ勝タントスルハ誤リナリ此ノ上隱
忍自重ヲ重ネサルヲ切望ス
公使、奉天、天津ヘ転電セリ

85 昭和7年2月(27)日 在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

鉞山執照、鉞業許可証の提出検査について

奉天 本省 2月27日後着

第三〇〇号(暗)

奉天実業庁ニ於テ一月廿六日付ヲ以テ民国廿年九月以前発
給ノ鉞山執照及鉞業許可証ヲ領有スルモノハ本弁法布告ノ
日ヨリ起算シ三箇月以内ニ一律実業庁ニ提出シ検査ヲ受ク
ヘク何等理由無クシテ検査ヲ受ケサルモノニ対シテハ權利
ヲ取消スヘキ旨ノ弁法ヲ制定セリ尚右ハ実業庁ニ於テ台帳
紛失ノ結果ニ基ク整理等ノ必要ニ出ツルモノノ趣ニ付在京
政友会代議士森峰一ニ通知ヲ請フ
支、北平、在滿州各領事ヘ転電セリ

海戦況支那側有利説ニ伴ヒ東北武力回収ノ主張漸ク多キヲ
加ヘ北平工会抗日会、北平、河北、天津、平綏各党部、北
平市民衆救国会等相次テ張景惠等所謂売国奴討伐乃至滿州
武力回収方中央ニ電請シ居ル処漢字紙論評左ノ通

一、北平晨报

日本ノ煽動操縦ニ係ル滿蒙偽国ハ独立ト言フモ日本保護國
タルハ世界ノ認ムル所斯クテ日本ハ朝鮮ノ如ク数年乃至十
年ニテ之ヲ合併スヘシ日本ノ野心ハ右ニ止マラス上海事件
モ之ニ依リ中央政府ヲ圧迫シテ列国ト協同シ全中国ノ新政
権ヲ樹立セントスルモノニテ五港中立地帯設定提議モ其ノ
一端ナリ滿蒙ノ併呑中国ノ共管ハ日本ノ對華方針ナリ日本
ハ将来新独立国ヲ利用シテ中国ニ難ヲ備フヘキハ明カナル
ヲ以テ此ノ際領土保全ノ為ニモ独立国消滅方法ニ付研究ス
ヘキナリ

二、京報

東北新国家ノ現出問題ノ重大ナルハ上海事變ノ比ニ非ス政
府ハ顧慮ノ要ナシ十九路軍ハ連勝シ居ルニ非スヤ中国ハ上
海ニ於ケルト同様新国家ニ対シ即時痛撃ヲ加フヘキナリ

三、世界日報

86 昭和7年2月27日 在ハルビン長岡総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

新国家への朝鮮人の参加について

ハルビン 2月27日後発
本省 2月27日後着

第二一四号(暗)

新国家創設ニ関スル宣伝等ハ過般来当地ニモ相当大袈裟ニ
行ハレ居ル処(委細取纏メ郵報ス)奉天ヨリ来哈中ナル自
治指導部員永江劉二去ル二十四日本官ニ対シ關係方面ニ於
テハ愈新国家ニ朝鮮人ヲモ参加セシムル事ニ決定シタルヲ
以テ当地ニ於テモ鮮人側ノ促進運動奉天ニ開カルヘキ大会
ヘノ代表派遣方等取計フ筈ナルニ付援助ヲ得度シト申出タ
ルヲ以テ右ニ関スル限り鮮人ノ集会其他ニ対シ全然傍觀的
方針ヲ執ルヘキ旨警察署長ニ指示シ置キタリ尚永江ノ語ル
処ニ依レハ新国家ハ日、鮮、漢、滿、蒙ノ滿蒙在住五民族
ニ依リ組織セラルヘク(白系露人ニハ全然触レ居ラス)属
地主義若ハ登録主義ニ依リ内地人及鮮人ハ日本ト新国家ト
ノ二重国籍保持者トナルヘキカ内地人ノ参加ハ当分発表セ
ラレサル趣ナリ

露、支、北平、奉天、吉林、長春、間島へ転電シ浦潮、齊々哈爾、満州里へ暗送セリ

87 昭和7年2月28日

林閣東庁警務局長より
堀切拓務次官宛

新国家建国宣言発表の遅延について

2月28日付
3月1日着

三月一日発表ノ予定ナリシ新国家建国宣言ハ行政委員会ニ於テ協議ノ結果宣統帝ニ対シ満州国ノ執政タルノ正式承諾ヲ求ムル為本日吉林実業厅长張燕卿外三名ヲ旅順ニ特派シ更ニ日ヲ改メテ之ヲ長春ニ迎ヘ建国宣言ヲ発表スルコトニ変更サレタリ、而シテ宣統帝ノ出馬ハ三月四日建国宣言ハ五日頃トナル見込ナリ

88 昭和7年2月29日

在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

建国宣言中の国際関係部分に関する疑義について

奉天 2月29日後発
本省 3月1日後着

別電

同日在吉林石射総領事より芳沢外務大臣宛第一一七号

右計画要領について

吉林 2月29日後発
本省 2月29日後着

第一一六号(暗、極秘扱)

関東軍司令部ニ於テ立案シ最近当地軍側へ配布アリタル建国祝賀宣伝計画内閣セル処右要領別電ノ通
哈爾濱ヨリ齊々哈爾へ転電アリ度シ

支、北平、奉天、哈爾濱、長春、間島へ転電セリ

(別電)

吉林 2月29日後発
本省 3月1日前着

第一一七号(暗、極秘)

建国祝賀宣伝計画要領
(一)東北新国家ノ組織内容ヲ一般民衆ニ徹底セシメ支那本土及南京政府トノ絶縁ヲ明確ニ認識セシムルニ努メ新国家カ五民族安住ノ理想境ニシテ民衆ノ利益ノ為始メラレシモノナル事及世界平和ハ満蒙ヨリトノ理想ヲ高調ス
(二)支那側主唱トナリテ主催ス之カ為各省府内ニ祝賀宣伝

第三一一号(暗)

新国家成立ニ関シ愈三月一日付ヲ以テ満州国政府ノ名ニ依リ建国宣言ヲ発スルコトナレリ右宣言中国際関係ニ付テハ凡ソ国際間ノ從來ノ通例ハ之ヲ遵守シ又今日迄各国ト定ムル所ノ条約上ノ債務ニシテ満州新国家領土内ニ存スルモノハ之ヲ継続承認ストアリテ文意甚タ曖昧ナルニ付軍部ニ注意シタルカ軍部ノ意見ニ依レハ貴電第八八号ノ次第ハ未タ閣議ノ決定ヲ経サルノミナラス三月一日ハ清朝ニ取リ最モ有意義ナル記念日ニテ特ニ同日ヲ選ヒ建国宣言ヲ発セシムル関係上今更草案變更ノ余裕ナキヲ以テ追テ新国家ノ外交総長ヲシテ改メテ国際関係ニ関スル声明ヲ発セシムルコトト致度ク右草案ニ関シテハ慎重研究シ度シトノ事ナレハ本省ニ於テモ中央陸軍当局トモ御打合セノ上文案等ニ付御意見アラハ御取纏メ至急御電報相成度シ
公使ニ転電セリ

89 昭和7年2月29日

在吉林石射総領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

関東軍司令部立案の建国祝賀宣伝計画について

て

委員会ヲ設ケ各市県へ必要ノ指令ヲ発シ市県ノ同委員ヲシテ活動セシム

(三)今次事件以来ノ日本軍ノ行動将来ノ治安維持等ニ就キ充分ナル説明ヲ為シ日本軍トノ協力ノ必要ヲ力説ス

(四)各市ニ於テ文書、団体運動、新聞特別号記念売出、娯業興業其他城門列車講話国民ノ裝飾及電報飛行機利用等ノ各種宣伝ヲ為ス(宣言ノ如キハ外国ヲ著シク刺戟スルカ如キモノヲ避ケ対外信義尊重ノ旨ヲ宣伝シ列国ノ同情ヲ博スルニ努ム)

(五)在満外国人ノ団体個人等ヲシテ奉天大連哈爾濱等ニ於テ祝意ヲ表セシムルニ努メ日本国民側ヲシテ全滿各地ニ於テ表忠塔等へノ建国報告祭祝賀大会等ヲ行ハシム

(六)本件計画ハ新国家成立後実施ス

哈爾濱ヨリ齊々哈爾へ転電アリ度シ

公使、北平、奉天、哈爾濱、長春、間島へ転電セリ

90 昭和7年2月29日

在吉林石射総領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

吉林における新国家成立祝賀游行大会について

て

第一一八号（暗）
（八九文書）
往電第一一七号ニ関シ

吉林 2月29日後発
本省 2月29日後着

当地ニ於テハ二十九日午後二回ニ亘リ吉林建国促進委員会主催ノ新国家成立祝賀游行大会舉行サレ裝飾自動車二十余台ハ市中ヲ練廻リ建国祝賀ノ宣伝「ビラ」ヲ多数撒布セリ前電ノ通転電セリ

91 昭和7年3月1日 在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

新国家の建国宣言と溥儀の長春来着予定など
について

奉天 3月1日前発
本省 3月1日前着

第三三二号（暗）
（八九文書）
往電第三三一号ニ関シ

三月一日奉天ニ於テ新国家ノ建国宣言ヲ行ヒ其後十日迄ノ間ニ溥儀ハ旅順發長春ニ直行シ執政ニ就任スルコトニ決定当日ハ軍司令官モ列席スル筈ナリ

尚本廿九日当地ニ於テ全滿各県代表者ニ依リ盛大ナル建国促進行列行ハレタリ
支、北平、在滿各領事へ転電セリ

92 昭和7年3月1日 在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

満州国建国宣言発表について

付記 満州国建国宣言

奉天 3月1日後発
本省 3月2日前着

第三三六号（暗、至急）

新国家建国宣言ハ本一日午前十時満州政府ノ名ニ依リ張景惠公館ニ於テ發表セラレタリ
宣言文郵送ス
公使ヨリ上海へ転報アリ度シ
公使、南京、漢口、広東、福州、天津、北平、青島、濟南、在滿各領事へ転電セリ

（付記）

満州国建国宣言

想フニ我カ滿蒙各地ハ辺陲ニ属在シ開国綿遠ナリ。諸レヲ

往籍ニ徴シテ分併稽フヘシ。地質膏腴、民風樸茂。開放ヲ經ルニ迫ンテ生聚日ニ繁ク、物産豊饒実ニ奥府トナル。乃チ辛亥革命自リ共和国成立以來、東省ノ軍閥ハ中原変乱ノ機ニ乗シテ、政權ヲ攫取シ、三省ニ抛リテ己カ有トナシ、貔貅相繼キ、竟ニ將ニ廿年ナラントス。狼厲貪婪、驕奢淫佚、民生ノ休戚ヲ顧ミルコトナク一ニ惟レ私利ヲノミ是レ図ル。

内ハ則チ暴斂横征、恣意揮霍、以テ幣制紊乱、百業凋零ヲ致セリ。且復時ニ野心ヲ逞ウシテ兵ヲ閥内ニ進メ、地方ヲ擾害シ、民命ヲ傷殘ス。一再敗衄スルモ尚ホ後悔セス。外ハ則チ信義ヲ蟻棄シ、蒙ヲ隣邦ニ開キ、夙ニ親仁ノ規ヲ昧マシ、専ラ取ツテ排外ヲ事ト為ス。加フルニ警政修マラサルヲ以テ、盜匪ノ横行四境ニ遍ク、至ル処、擄掠焚殺シテ村里一空、老若溝壑、餓殍途ニ載ス、我カ滿蒙三千万民衆、命ヲ此ノ殘暴無法ノ区域内ニ託スルハ死ヲ待ツノミ、何ソ能ク自ラ脱センヤ。今ヤ何ノ幸ソ、手ヲ隣師ニ借リテ茲ニ醜類ヲ驅リ、積年軍閥盤踞シ、稅政萃聚セル地ヲ挙ケ一旦ニシテ之ヲ廓清ス。此レ天我カ滿蒙ノ民ニ蘇息ノ良機ヲ予ヘシナリ。吾人ノ当ニ奮然トシテ興起シ邁往勇進、以

テ更始ヲ図ルヘキノミ。

是ヲ惟フニ内、中原ヲ顧ミレハ改革自リ以還、初メハ則チ群雄角逐シテ争戰頻年、近クハ則チ一党專横ニシテ国政ヲ把持ス。何ヲカ民生ト云フ、実ニ之ヲ死ニ置クナリ。何ヲカ民權ト云フ、唯利ヲ是レ專ラニスルナリ。何ヲカ民族ト云フ、但タ党アルヲ知ルノミ。既ニ曰ク天下ヲ公ト為スト。又曰ク党ヲ以テ国ヲ治ムト。矛盾乖謬、自ヲ欺キ、人ヲ欺ク。種々ノ詐偽ハ窮詰スルニ勝ヘス。比来内訌迭々起リ、疆土分崩シ、党且自ラ存スル能ハス、国何ソ能ク顧ミラレン。是ニ於テ赤匪横行シ、災祲洊リニ起ル。毒、海内ヲ痛マシメ、民怨沸騰シ政体ノ不良ヲ痛心疾首セサルハ無し。而シテ曩昔ノ政治清明ノ会ヲ追思ス。直ニ唐虞三代ノ遠キ如キハ幾及スヘカラス。此レ我カ各友邦ノ共ニ目睹シ、而シテ同シク感慨ヲ深ウスル所ナリ。夫レ二十年試験ノ得ル所ヲ以テスレハ其ノ結果一ニ此ニ至ル。亦廢然トシテ返ルヘシ矣。乃チ猶疾ヲ諱シ、医ヲ忌ミ、其ノ旧惡ヲ怙ミ、詞ヲ民意ノ從違未タ遏抑スヘカラサルニ藉ランカ、然ラハ則チ其ノ往ク所ヲ縱ニセハ、浸ク共產ニ至リ、自ラ亡国滅種ノ地ニ陥ラサレハ已マサラン。

今、我カ満蒙民衆ハ天賦ノ機縁ヲ以テ、カメテ振拔ヲ求メ、自ラ政治ヲ万惡国家ノ範圍外ニ脱セサレハ、勢必ス胥ヒ載セテ溺ニ及ヒ、同尽ニ帰サンノミ。数月来幾度カ奉天、吉林、黒竜江、熱河、東省特別区、蒙古各盟旗ノ官紳士民ノ集合ヲ經テ、詳ニ研討ヲ加ヘ、意思既ニ一致ニ趨ク。以爲ヘラク爲政ハ多言ヲ取ラス、只実行如何ヲ視ルノミ。政体ハ何等ヲ分タス、只安集ヲ以テ主ト爲ス。満蒙ハ旧時本ト別ニ一國ヲ爲ス。今ヤ時局ノ必要ヲ以テ自ラ樹立ヲ謀ラサル能ハスト。応ニ即チ三千万民衆ノ意向ヲ以テ即日宣告シテ中華民國ト關係ヲ脱離シ、満州國ヲ創立ス。玆ニ特ニ建設綱要ヲ將テ中外ニ昭布シ、咸ク聞知セシム。竊ニ惟フニ政ハ道ニ本ツキ、道ハ天ニ本ツク。新国家建設ノ旨ハ一ニ以テ順天安民ヲ主ト爲ス。施政ハ必ス真正ノ民意ニ徇ヒ、私見ノ存スルヲ容サス。凡ソ新国家領土内ニ在リテ居住スル者ハ皆種族ノ岐視尊卑ノ分別ナシ。原有ノ漢族、満族、蒙族及日本、朝鮮ノ各族ヲ除クノ外、即チ其他ノ國人ニシテ長久ニ居留ヲ願フ者モ亦平等ノ待遇ヲ享クルコトヲ得。其ノ応ニ得ヘキ權利ヲ保障シ、其ヲシテ糸毫モ侵損アラシメス。並ニ力ヲ竭クシテ往日黒暗ノ政治ヲ剷除

シ、法律ノ改良ヲ求メ、地方自治ヲ勵行シ、廣ク人材ヲ収メテ賢俊ヲ登用シ、実業ヲ奨励シ、金融ヲ統一シ、富源ヲ開闢シ、生計ヲ維持シ、警兵ヲ訓練シ、匪禍ヲ肅清セム。更ニ進ンテ教育ノ普及ヲ言ヘハ、当ニ礼教ヲ是レ崇フヘシ。王道主義ヲ実行シ、必ス境内一切ノ民族ヲシテ熙熙皞皞トシテ春台ニ登ルカ如クナラシメ、東亜永久ノ光榮ヲ保チテ世界政治ノ模型ト爲サム。其ノ對外政策ハ則チ信義ヲ尊重シテ、カメテ親睦ヲ求メ、凡ソ國際間ノ旧有ノ通例ハ遵守ヲ敬謹セサルコトナシ。其ノ中華民國以前各國ト定ムル所ノ条約、債務ノ満蒙新國領土以内ニ属スルモノハ、皆國際慣例ニ照シ繼續承認シ、其ノ自ラ我カ新國境内ニ投資シテ商業ヲ創興シ利源ヲ開拓スルコトヲ願フモノ有ラハ、何國ニ論ナク一律ニ歡迎シ、以テ門戸開放機會均等ノ實際ヲ達セム。

以上宣布セル各節ハ新国家立國主要ノ大綱タリ。新国家成立ノ日ヨリ起リ、即チ当ニ新組織ノ政府ニ由リテ其ノ責任ヲ負フヘシ極メテ誠懇ナル表示ヲ以テ、三千万民衆ノ前ニ向ヒ実行ヲ宣誓ス。

天地昭鑑、此ノ言ヲ渝フルコトナシ。

大同元年三月一日

満州国政府

93 昭和7年3月1日 林閣東庁警務局長より
堀切拓務次官宛(電報)

溥儀執政推戴の特使旅順到着について

3月1日後着

高第一七四号

東北四省、蒙古及哈爾濱特別区各代表馮漢卿外五名ハ溥儀ニ対シ執政推戴ノ正式特使トシテ派遣セラレ本日午前九時旅順ニ到着セリ

94 昭和7年3月2日 在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

海閣接収案に対する軍側修正について

別電 同日在奉天森島総領事代理より芳沢外務大臣宛

第三四一号

右修正案

奉天 3月2日後発
本省 3月2日後着

第三四〇号(暗、至急極秘)

貴電第八七号ニ関シ

軍司令部ニ於テハ高柳博士ノ意見ニ基キ別電第三四一号ノ如キ貴方第一案及第二案ニ対スル修正案ヲ立案シ之ヲ当地出先各官憲ノ一致ノ意見トシテ閣議決定上ノ参考ニ資スル為至急電稟方ニ関シ相談ヲ受ケタルニ付本官ハ之ヲ承諾セリ軍部ヨリモ陸軍省宛同様電報セリ本案ハ大連海關通過輸入ノ外国貨物ニ対スル二重課税ヲ避クル方針ニ依リ起草セラレタルモノナリ

本電別電ト共ニ公使、北平、安東、牛莊、間島、哈爾濱ヘ転電セリ

(別電)

奉天 3月2日後発
本省 3月3日前着

第三四一号(暗、至急極秘)

(別電)

第一案(貴方第一案ニ依ル場合執ル可キ手段)

(一)新国家ニ於テ外債担保部分以外ノ関稅收入(大連收入ヲ含ム)ヲ抑留スルニ当リ新国家財政總長ヨリ總稅務司ニ公文ヲ以テ其承認方ヲ交渉スルコト

(二) 右交渉ヲ促進スル目的ヲ以テ総稅務司秘書官長岸本広吉氏ニ対シ高柳氏(又ハ適當ノ人)ヨリ私信ヲ以テ右ノ旨通知シ置クコト

(三) 右交渉中海関組織ノ現状ヲ維持スルコト

(四) 各地海関監督ハ従前ノ者ヲ新國家ニ於テ新タニ任命ノ形式ヲ取り且一時本邦人顧問ヲ派遣シ置クコト

(五) 新國家ハ関稅自主權ヲ有スルニ依リ中華民國トノ輸出入品ニ対シ輸出入稅ヲ課スルコト

山海関ニ新タニ海関ヲ設置スルコト

(六) 右交渉中海関監督ニ対シ總稅務司ヘノ関稅收入全部ノ送付方中止ヲ命スルコト

(七) 各関稅收入全部ノ送付方中止ハ大連海関稅務司ヘモ通牒スルコト

(八) 第一案ノ纏マリタル場合ニハ滿州海関行政ニ関シ總稅務司ハ新國家行政總長ノ命令ヲ遵奉スヘキコト

第二案(貴方第二案ニ対スル修正意見)

(一) 第一案カ不成立ノ場合ニハ第二案ニ依リ大連以外ノ在滿海関ハ新國家ニ於テ直ニ之ヲ接收ス

接收ノ方法ハ差当リ第一案中ノ顧問ヲシテ関稅事務ヲ担当

於テ外人及中華民國人館員ヲ罷免シ右邦人ヲ以テ其後任ニ當ツルコト右邦人ノ当然受ク可キ「ペンション」ヲ若シ總稅務司ニ於テ支給セサル場合ニハ新國家ニ於テ関稅收入中外債担保ノ部分ヨリ支給ノ方法ヲ講スルコト

(六) 日本政府ニ於テハ新國家ヲ承認シタル場合ニハ直ニ新國家ト大連海関ニ関スル協定ヲ改正スルコト

95 昭和7年3月2日 在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

軍司令部特務部の長春移転について

奉天 3月2日後発
本省 3月3日前着

第三四二号(暗)

当地軍司令部特務部ハ新國家トノ連絡上長春ニ移ルコトトナリタル結果二月末日限り殘務整理員一部分ヲ殘シ大部分囑託ヲ解除(殆ト全部滿鉄現職員ヨリ派遣セラレタルモノナリ)セラレ右殘務整理員ハ数日中全部長春ニ赴ク筈ナリ尚従来同部ノ担当シタル奉天ニ於ケル各種行政事務ハ軍司令部自体ニ於テ処理スルコトトナレル由

支、北平、長春、哈爾賓、吉林へ転電セリ

セシメ現在海関員中(日本人ヲモ含ム)留任希望者銓衡ノ上且南京政府ト完全ニ關係ヲ絶タシメタル後採用スルコト

(二)⁽²⁾ 関稅收入中外債担保ノ部分ハ将来中華民國及債權國トノ交渉ニ依リ合理的分担ヲ為スヘキモ右交渉ノ纏マルニ至ル迄関稅收入全部ヲ新國家ニ於テ留保スルコト

(三) 大連海関收入ハ其特殊ノ關係ニ依リ新國家ニ於テ留保シ得サルモノト思ハルルニ付新國家ノ分担スル外債担保ノ收入ハ右收入中ヨリ差引計算ヲ為スコトトセハ対外關係ニ於テ何等支障無カルヘキコト

(四) 大連海関ヲ接收シ得ルニ至ル迄ハ関東州租借地トノ境界ニ新國家ニ於テ新タニ海関ヲ設置シ大連海関ノ徵稅事務ヲ調査及監視スルト共ニ中華民國ヨリノ輸出品ニ対シ輸入稅ヲ課スルコト而シテ付屬地通過ノ關係上輸入業者ニシテ右輸入稅ヲ支払ハサル場合ニハ当該海関ヲ監視ニ止メ貨物到着地ノ付屬地及屬地ヲ管轄スル稅捐局ニ於テ課稅スルコト

山海関ニ海関ヲ設置シ中華民國トノ輸出入品ニ対シ輸出入稅ヲ課スルコト

(五) 新國家ノ海関接收ニ対抗シ万一總稅務司ニ於テ海関勤務ノ邦人ヲ解職スルカ如キ無謀ノ策ニ出ツル場合ハ新國家ニ

96 昭和7年3月3日 在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

軍司令部特務部の動向について

奉天 3月3日後発
本省 3月4日前着

第三四六号(暗)

往電第三四二号ニ関シ

其後軍部幕僚ニ確メタル所ニ依レハ特務部ハ長春ニ移動スルモノニ非ス依然奉天ニ存続スルモ組織變更上一応旧職員ヲ解職セル次第ナルカ従来同部ニ於テ内面的ニ支那機關ヲ指導シ来レル殘務ヲ新國家ニ引継ク為少数ノ旧職員カ長春ニ赴クニ過キストノコトナリ

支、北平、長春、哈爾賓、吉林へ転電セリ

97 昭和7年3月3日 ※在ハルビン長岡總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

満州里市民の満州国成立に関する態度について

ハルビン 3月3日前発
本省 3月3日後着

第二三〇号（暗）

満州里発本官宛電報

合第一一号

本官発大臣宛電報

第一七号

新国家成立ニ関スル県大会及其関連事項ノ自動的促進方ニ
関シ指導員二名来滿幹旋シタルモノニ反響スル民意ノ発動
ナシ右ハ蘇炳文ノ態度ニ嫌ラサル為呼倫貝爾一帶ノ軍隊側
ハ極メテ平静ナル態度ヲ持シ帰スル処蘇ニ遠慮セル結果ナ
リト思料ス蘇カ今以テ馬ヲ積極的ニ支持セサルハ旧地位ノ
關係上感情ノ蟠リニテ将来ノ其ノ地位ヲ氣遣フ他面学良ヨ
リ威嚇電信モアルモノノ如ク旁蘇連側ノ意向ヲモ付度シ居
ル模様ナレハ斯ル空氣ハ新国家ニ対スル認識不足ト相俟テ
当地方ノ民意発揚カ萎縮シタルモノナリ

哈爾賓ヨリ大臣、支、北平、奉天ニ転電アリ度シ

哈爾賓へ転電シ齊齊哈爾へ暗送セリ

98

昭和7年3月3日

在天津桑島総領事より
芳沢外務大臣宛（電報）

満州国官吏への日本人任用に曹汝霖疑義表明

について

第九七号（暗）

二日曹汝霖カ館員ニ語リタル所左ノ通御参考迄

東北民衆ノ自決ニ依ル満州新国家ノ樹立ニハ異論ナキモ伝
フルカ如ク其政体ヲ日本、朝鮮、漢、滿、蒙ノ五族ヲ根幹
トセル共和トシ而カモ今後日本人ヲ政府ノ要路ニ任用スル
ニ於テハ如何ニ日本カ領土的野心無キ旨説明スルモノ外人
士ノ猜疑ハ氷解シ能ハサルヘク現ニ一部外国人間ニハ第二
次執政ハ日本人ノ就任ヲ見ルヘシトスラ疑ヲ抱キ居ル向ア
ルニ付日本人ハ顧問若ハ諮議ノ如キ地位ニ置キ官吏ニ任用
スルコトハ差控ヘラルルコト然ルヘキヤニ思料セラル
支、北平、奉天へ転電セリ

99 昭和7年3月3日

在安東米沢領事より
芳沢外務大臣宛（電報）

鴨綠江流域に警察官駐在所設置に関する朝鮮
總督府申出について

安東 3月3日後発

第四四号（暗）

本省 3月3日後着

昨二日朝鮮總督府立田警務課長本官ヲ来訪シ鴨綠江流域一
帯ニ於ケル馬匪賊ノ横行ト之ニ対スル支那側警備ノ不充
分トノ結果移住鮮人ニシテ鉄道沿線又ハ鮮内へ避難セルモノ
夥キ數ニ上リ是等ハ農耕期ノ切迫ト共ニ速ニ原地へ帰還セ
シムル必要アル処其ノ前提条件タル地方ノ治安未タ全カラ
ス馬匪賊到ル所ニ蠢動シ居ルニ加ヘ支那人強盜各地ニ激増
シ移住鮮人ヲ苦シムル為鮮内帰還者ハ依然続出シツツアル
ノ実情ニシテ右ハ新国家ノ建設ヲ見ルモ早急ニ之カ改善ヲ
期待シ得カラサルニ付避難民ノ原地帰還及現住鮮農ノ引留
ノ為警備上何等対策ヲ講スル必要アリト認メラルト述ヘ差
当リ実行可能且有効ナル措置トシテ此ノ際鴨綠江流域三十
三ヶ所ニ警察官駐在所ヲ設ケ一ヶ所三名乃至十一名合計百
九十九名ノ警察官ヲ常置スルコトトシ右警察官ハ平安北道
及咸鏡南道勤務警察官ヲ外務省警察官ニ兼任シ（右兩道ニ
於ケル国境第一線ノ警察官ハ全部外務省警察官ニ兼任シ必
要ニ応シ駐在所勤務者ト適宜交替セシムルモノトス）之ニ
当ルノ案ヲ提出シ右実現方ニ付必要ノ手段ヲ執ラレ度旨申

出タリ

右ニ対シテハ当館ノ朝鮮側ニ対スル特殊關係ニ鑑ミ特ニ贊
否ヲ明言スルコトナク輕ク應對シ居リタル処朝鮮側警察官
ノ満州進出ハ

(一)在滿警察官ノ帰属系統ヲ複雑ニシ統一問題ノ解決ヲ更ニ
困難ナラシムルコト

(二)新国家警察機關ニハ相当多數ノ日本人顧問入込ミ支那側
ヲ指導シテ治安ノ維持ニ努メ自然鮮人保護ノ方面ニモ從
来ニ比シ改善ヲ加ヘラルルコトヲ期待シ得ヘキ点ニ於テ
必要ノ理由少キコト及

(三)支那官民ニ対シ新国家カ日本ノ圧力ノ下ニ満州併合ノ端
緒ヲ開クモノナルカノ如キ印象ヲ与フルノ虞アルコト等
対内対外關係共ニ充分ノ考慮ヲ施スノ要アリト認メラル
ルモ又一面

(一)在滿警察官ノ帰属問題ニシテ容易ニ解決シ得サル事情ア
リトセハ警察官ノ充実カ当面ノ急務ナルヘク

(二)新国家ノ警察力ハ早急鴨綠江流域一帶ニ迄充実シ独力治
安維持ヲ完ウシ得ヘシトモ思ハレサルニ付新ニ外務省警
察官ヲ配置セラルヘキ警察署ヨリ融通ヲ受ケ得ルニ非サ

ル限り上流地方ノ現状ニ鑑ミ鮮人現地保護ノ為前記朝鮮側提案(一ヶ年予算事務費、旅費、家賃、賞与計六万五千六百円)ハ必スシモ一考ノ価値ナキニ非ストモ考ヘラル就テハ先方ニ対シ回答ノ都合モアリ何分ノ儀至急御電示ヲ請フ

100

昭和7年3月4日

在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

満州国執政就任式の出席者について

奉天 3月4日後発
本省 3月4日後着

第三五二号(暗)

来ル九日長春ニ於テ行ハルヘキ満州国執政ノ就任式ニハ関東軍司令官、同参謀長、各部長、関東長官若ハ警務局長、朝鮮総督府殖産局長、満鉄總裁若ハ代表、陸軍省参事官、海軍在満特設機関長等出席ノ筈ニテ奉天、吉林、哈爾濱各総領事館ヨリモ総領事若ハ其代理者ノ出席ヲ希望スル旨当地軍司令官ヨリ申出アリタリ

支、北平、吉林、哈爾濱へ転電セリ

内聞スル所ニ依レハ軍部ニ於テ吉林省ノ財源タル樵運局ヲ熙洽ノ手近ニ移シ同人等カ勝手ニ手ヲ付クルコトアルヘキニ対シ難色アリタルカ為ナリト言フ転電先冒頭往電ノ通

103

昭和7年3月4日

林関東庁警務局長より
堀切拓務次官、永井外務次官他宛

満蒙新国家樹立促進運動の状況について

3月4日付
3月9日着

関機高支第三〇〇二号

昭和七年三月四日

関東庁警務局長

拓務次官殿
内閣書記官長殿
外務次官殿
内務省警保局長殿
指定庁府県長官殿

満蒙新国家樹立促進運動

満蒙ニ於ケル建国促進運動ハ二月二十九日奉天ニ於ケル全満連合大会ニ依リ一段落ヲ告ケタルカ這回ノ促進宣伝ハ国

101 昭和7年3月4日

在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

執政就任式への参列について

長春 3月4日前発
本省 3月4日後着

第六〇号(暗)

近日当地ニテ挙行セラルヘキ執政就任式等ノ式典ニ際シ本官モ招待ヲ受クルカ如キ模様ナル処一応非公式ニ参列スルコト差支無キヤニ存セラルルモ新国家承認前ノコトニモアリ何分ノ儀御指示相仰キ度シ尚新国家ノ中枢機関当地ニ設置セラルルニ伴ヒ本官ノ心得置クヘキコトモアラハ併セテ御回示相成度シ

102 昭和7年3月4日

在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

樵運局の吉林移転中止の事情について

長春 3月4日前発
本省 3月4日後着

第六一号(暗)

樵運局ノ吉林移転ヘ遽ニ取止トナリ当地商埠小学校ニ於テ引続キ事務ヲ執ルコトトナリタルカ右移転取止ノ事情ニ付

家觀念ニ乏シキ支那民衆ヲシテ平和ノ楽土タル新国家ノ樹立ニ多分ノ関心ヲ持タシメ不知不識ノ間ニ新国家樹立ノ氣運ヲ育ミ予期以上ノ成果ヲ得タルカ如ク観取セラルル其ノ運動状況大略左記ノ如シ

記

一、奉天省

東北ニ於ケル建国運動ノ基幹ハ実ニ奉天省ニシテ夙ニ奉天自治指導部ニ於テ作成セラレタル周密ナル宣伝計画(既報)ニ基キ特別宣伝委員会リーダートナリ盛大ニ挙行セラレタリ

即チ第一期準備期間ニ於テ各県指導員ヲ召集シ宣伝ニ関スル諸般ノ打合せ並ニ準備ヲナスト共ニ第二期ニ於テハ全省各地ニ於テ建国要望ノ烽火ヲ挙ケシメ先ツ各県諸団体ノ主催ノ下ニ数多ノスローガンヲ掲ケテ文書、言論ニ依リ宣伝或ハデモンストレーション等ニ依リ民衆ヲ煽動シテ氣運ヲ醸成シ次イテ各県大会ヲ開キテ建国要望ノ熱弁ヲ振ヒ熱狂セル群衆ヲ駆ツテ一氣ニ建国要望ノ宣言決議ヲナシ之ヲ省政府ニ打電スルト共ニ代表ヲ奉天ニ派遣セリ

其ノ間運動ノ中心地タル奉天ニ於テハ実業団体、宗教団

体、慈善団体、学生団体等ノ主催ニ依リ各種ノ宣伝運動ヲ
ナスト共ニ言論機関ニ依リ或ハ懇談会等ニ依リ建国意見ヲ
発表シテ氣運ノ醸成ニ努メタリ

而シテ各県ヨリ集レル代表五百数十名ニ上リ二十八日奉天
自治指導部講堂ニ於テ奉天全省建国促進連合大会ヲ開催シ
各地代表ノ熱烈ナル建国要望演説並宣言決議文ノ朗読ニ次
イテ來賓各省代表等ノ演説アリ最後ニ議長謝桐森大会決議
案ヲ朗読全会一致ヲ以テ可決シ新國家ノ万歳ヲ三唱シテ盛
會裡ニ終了セリ

二、吉林省

吉林省ニ於テモ北部ニ蟠居セル反吉林軍ノ勢力範圍ヲ除キ
大要奉天ニ於ケルト同様二月中旬ヨリ各地一斉ニ宣伝ヲ開
始シ地方民大会ヲ開催シテ氣勢ヲ挙ケタル後二十四日ヨリ
吉林ニ連合大会ヲ開キ大々の宣伝ヲナシタル結果民衆間ニ
於ケル建国要望ノ氣運益々抬頭セリ而シテ奉天ニ於ケル東
北行政委員會ニ於テ新國家ノ首都ヲ長春ニ奠メラルヤ長
春吉林方面ニ於ケル民衆ノ建国関心ヲ一層強メタリ而シテ
吉林省連合大会ニ於ケル建国要望決議ヲ東北行政委員會ニ
打電スルト共ニ代表トシテ林鶴皋外数名ヲ選出シテ奉天ニ

ナシ全滿大会ニ打電セリ

四、全滿建国促進運動連合大会

前記ノ如クシテ醸成セラレタル建国運動ノ結成トモ称スヘ
キ且最終的ノ建国運動ハ全滿建国促進運動連合大会ノ名ヲ
以テ二月二十九日奉天城内自治指導部講堂ニ於テ盛大ニ行
ハレタリ

即チ同日午後一時ヨリ自治指導部大講堂ニ於テ各省其他ノ
官民代表並ニ來賓等約一千名列席シ瀋陽縣長謝桐森主催者
トシテ開會ノ辞ヲ述ヘ亜テ詮衡委員ヲ挙ケテ議長選舉ヲ行
ヒタル結果謝桐森議長ニ推サレテ午後一時二十分ヨリ黒竜
江省代表鄂昌勲其他各代表及全滿学生団代表李志剛滿蒙青
年同盟會代表唐述成並ニ吉林省在住朝鮮人代表、哈爾賓鮮
人代表齊齊哈爾在住鮮人人民會代表興京仁等交々立チ宣言及
決議文ヲ朗読シ終リテ來賓トシテ瀋海鐵路局長兼交通委員
會々長丁鑑修熱弁ヲ振ヒタル後議長謝桐森左記ノ如キ本大
會宣言並ニ決議文ヲ朗読滿場異議ナク可決シ直ニ左記(三)ノ
如キ通電ヲ發スル事ヲ滿堂ニ諮リ其ノ賛成ヲ得了スルヤ奏
樂裡ニ講堂ノ正面ニ新五色旗ヲ垂レ一同脱帽三拜ヲナシ全
滿建国促進大会ノ万歳ヲ三唱シ午後二時四十分閉會ト共ニ

送り全滿大会ニ臨ミ吉林全民衆ノ建国要望歎願書ヲ提出セ
リ

又哈爾賓特別区ニ於ケル各種団体ニ依ツテ大宣伝行ハレ次
テ全市民大会ヲ開キテ建国要望決議ヲナシ盛ニ氣勢ヲ挙ケ
タリ

三、黒竜江省

黒竜江省ハ最初馬占山ノ真意不明ナルト旧政權ノ策動ニ依
リ一般ニ建国氣運薄カリシモ二月中旬ニ至リ馬占山ハ急転
直下新國家建設ニ合流スルノ態ニ出テタル為齊々哈爾ヲ中
心トシテ建国熱次第ニ抬頭シ同地商務會ヲ中心トシテ建国
籌備委員會ヲ組織シ各種団体ト協力シテ宣伝ニ努メタルカ
二十三日馬占山齊々哈爾ニ入城シテ省長就任式ヲ行ヒ新國
家建設ニ努力セル為建国氣運頓ニ旺盛トナリ奉吉兩省ト呼
応シテ全省ニ亘リ宣伝ヲナシ二十五日齊々哈爾ニ全省建国
促進大会ヲ開催シ最短期間ニ新國家ヲ成立セシムヘキコト
ヲ決議シ代表ヲ奉天ニ送り全滿大会ニ臨マシメタリ

又呼倫貝爾ニ於テハ海拉爾、滿州里ヲ中心トシテ蒙古人、
漢民族共ニ建国運動ヲ行ヒ飛行機ニテビラヲ撒布スル等ノ
熱誠ヲ示シ二十九日建国促進大会ヲ開キテ建国要望決議ヲ

直ニ遊行ニ移リ音楽隊ヲ先頭ニ自動車約七十台ヲ連ネ学生
隊約三百名之ニ続キ隊伍ヲ組ミ城内ヲ遊行シタル後大西辺
門ヨリ大西関通リヲ付屬地ニ出テ途中宣伝ビラヲ撒布シツ
ツ奉天駅浪速通軍司令部前ヲ通過シテ商埠地ニ入り総領事
館前ヲ經テ午後五時過自治指導部ニ帰着散會セリ

記

一、全滿促進建国連合大会宣言

茲ニ全滿民衆ソノ束縛ヲ脱シ一堂ニ相會シ建国ノ大計ヲ
討論ス之空前ノ新局面ニシテ真正ナル民意此処ニ現ハル
歎喜鼓舞又言ヲ待タス惟建国ノ理由ニ関シテハ外間未タ
必スシモ明カニセス依テ此処ニ謹ンテ公意ニ基キ詳カニ
開陳セントス

全滿民族ハ古之ヲ肅慎ト称シ風俗礼教ハ地僻遠ニアル為
歴代数千年未タ改マルモノナシ清朝興京ヨリ崛起シ中夏
ニ入リテ主トナルモ滿州ノ故地猶旧俗ニ從フ夫レ政ハ時
ニ因ルヲ貴フ文化ヲ異ニスルモノヲ尚ヘハ足ヲ削リテ履
ニ適ハスモノニシテ障害必ス多シ是民族歴史ノ建国ニ必
須ナル理由ノ第一ナリ漢ハ遼東ヲ取り唐ハ高麗ヲ滅シタ
ルモ終ニ淪亡ニ至ル榆関ノ東、地長キコト線ノ如ク中土

ヨリ遠ク隔リ別ニ一区ヲ為ス漢唐ノ盛ナル時能ク取リシ
モ然カモ守ル能ハサリシハ蓋シ此ニ因リ此ニ基キ地理関
係又建国ニ必須ナル理由ノ第二ナリ往昔扶余ハ長春ニ建
国シ渤海ハ寧安ニ建国シ女真ハ阿城ニ建国シ満州ハ興京
ニ建国ス

其小ナルモノハ一隅ニ保聚シテ祚ヲ伝ヘルコト数百年其
大ナルモノハ東土ニ基ヲ肇キ中原ニ進拠シ王業ヲ興スモ
ノ既ニ三、四之歴史ノ前例ノ建国ニ必須ナル理由ノ第
三ナリ近來内地禍乱相嗣キ立国二十年今ニ寧日ナシ加之
軍閥割拠シ苛政民ヲ虐クルハ既ニ豆ヲ煮ルニ其箕ヲ燃ク
如キモノ將ニ玉石同焚ノ勢ニアリ地方状況ニ基キテ建国
セサルヘカラサル理由ノ第四ナリ

更ニ進ンデ之ヲ言ヘハ民ハ邦ノ本トナス古ニ明訓アリ民
ニ聴キ民ニ視レハ天且違ハスト全満地方既ニ人民ヲ主体
トナシ全満ノ建設自ラ民意ヲ以テ従トナス民意ニシテ新
政府ヲ樹立スルニアラハ則チ政府以テ立チ民意ニシテ新
国家ヲ建設スルニアラハ即チ国家以テ成ル民衆ノ最モ好
ンテ戴カントスル人アラハ則チ推挙セラレテ元首トナル
民衆ノ設施セントスルモノアラハ則チ發布セラレテ政令

五、実業ヲ開発シ以テ資源ヲ厚クス

六、教育ヲ普及シ以テ民智ヲ開ク

七、交通ヲ便利ナラシメテ地方ヲ振興セシム

八、国交ヲ敦睦ニシテ永ヘニ和平ヲ享ク

三、通電

惟フニ東北各省ハ事変以來人民ハ失業シ盜匪ハ蜂起シテ
姦淫掠奪シ十室中九室ハ空トナレリ生靈ハ此ノ塗炭ニ遭
ヘルハ試ニ歴史上未曾有ノ事ニシテ其ノ原因ヲ糺セハ其
ノ弊政未タ除カレス統治ニ人無キニ因リ致セシ処ナリ今
ヤ地方ノ秩序ハ漸次恢復セリト雖中樞人ヲ欠ケル為依然
治理ニ困難ナリ近ク各方面ノ情況大局ノ趨勢ヲ体察ス
ルニ応ニ速ニ国家ヲ建設シテ以前ノ惡弊ヲ掃除シ新猷ヲ
布キ善政ヲ施行スヘキニシテ東北ノ偉業既ニ能ク開発サ
レンカ満蒙ノ基礎モ亦確定スルヲ得之ニ因テ三千万民衆
カ平和ナル幸福ヲ享クルコトヲ得ルモノナリ此ノ故ニ一
致奮起シテ建国ヲ主張シ議ヲ誠歴シテ通電シ公鑒ヲ請フ

全満建国促進運動連合大会

トナル

全満民衆ノ意志既ニ決シタリ応ニ速ニ新規ヲ奠メテ人心
ヲ收拾スルノ計ヲナスヘシ此又人民ノ公意ニ基キテ建国
セサルヘカラサル重要理由ナリ以上五項ノ理由ハ皆全満
地方ノ具有スル特殊素因ニシテ亦我全満民衆各人ノ言ハ
ント欲スルトコロナリ茲ニ二月二十九日奉天省城ニ於テ
全満促進建国大会ヲ開キ上述ノ理由ニ拠リ建国問題ヲ討
論シ且ツ議決ヲ經テ東北行政委員会ニ提出請願シ期ヲ剋
シテ新国家ヲ建設シ元首ヲ推戴シ同時ニ善政王道主義ニ
基キテ人民ノ幸福ヲ増進セントス茲ニ満場一致ノ賛同ヲ
得テ特ニ茲ニ宣言ス

大同元年二月二十九日

全満促進建国運動連合大会

二、議決事項

一、団体政体ノ如何ヲ問ハス須ラク民意ヲ以テ師トナス
ヘシ

二、元首ヲ推挙シ以テ国政ヲ執ル

三、賦税ヲ減輕シ以テ民国ヲ救フ

四、匪患ヲ剿靖シ以テ民生ヲ維持ス

104 昭和7年3月5日

在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

自治指導部の縮小と長春移転について

奉天 3月5日後発
本省 3月5日後着

第三五四号（暗）

従来支那人間ニ非難ノ声高カリシ自治指導部ハ今回新国家
成立ト同時ニ根本的ニ組織ヲ変更且縮小シ之ヲ長春ニ移シ
テ主トシテ自治指導上ノ宣伝ノミヲ取扱ハシメ同時ニ従来
奉天省各地ニ派遣シアル自治指導員ハ全部之ヲ引揚ケシメ
改メテ奉天吉林黒竜三省ノ各県ニ相談役トシテ日本人ノ参
事ヲ入ルルコトナレリ

所屬分館ニ転電セリ

支、北平、在満各領事ヘ転電セリ

105 昭和7年3月5日

在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

塩務行政に関する軍司令部の意向について

第三五六号（暗、極秘）

奉天 3月5日（脱）
本省 3月6日前着

(1) 当地軍司令部ニ於テ塩務行政ニ関スル新国家ノ声明内容案
及塩税ニ関スル応急実施案ニ関シ左記甲、乙両号ノ通り立案シ五日ノ打合会ニ於テ関係方面ト協議シタルカ右乙号ノ第二項ハ先顧問(曩ニ邦人顧問ヲ派遣シタル由)又ハ適当ナルモノヲ塩運使及権運局長ニ任命シ云々トアルヲ以テ当館代表ヨリ右ハ対外関係上日本人ヲ避ケ支那人ヲ任命スルコト然ルヘシト考フル旨意見ヲ陳述シ置キタル由ナリ尚右案文ハ過般石原中佐携帯陸軍省ニ提出シアル趣ニ付陸軍省側ト御打合ノ上御意見アラハ至急折返シ御回電アリタシ

(甲号)

塩務行政ニ関スル声明内容案

新国家成立ト共ニ領土内ニ於ケル完全ナル塩務行政ヲ実施スルニ付左ノ通取計フ

- (一) 従来ノ徵税機関タル在営口ノ稽核分所及其所属機関タル各地ノ塩税局、査驗署ヲ廃止シ其事務ハ一切塩運使署及其ノ所属機関タル公署及難務署ニ於テ処理ス
- (二) 従来ノ塩税ヲ担保トスル外債ニ対スル新国家ノ負担ニ付テハ過去ノ慣例ヲ考慮スルト共ニ合理的方法ニ依リ借款国ニ対シ直接責任ヲ負フ可キ用意ヲ有スルヲ以テ各相手国ノ

申込ニ対シ新国家ハ何時ニテモ交渉ニ応スヘシ
(三) 稽核所及其所属機関勤務者ニシテ引続キ塩務行政ニ従事シタキモノハ銓衡ノ上採用スルニ付支那政府トノ関係ヲ離脱シ申込ムヘシ(銀行関係ハ中央銀行又ハ東三省官銀号ニ取扱ハシムル事トシ新国家財政総長ヨリ右銀行及中国銀行ニ命令スルコト)

(乙号)

塩税ニ関スル応急実施案

(一) 塩運使並ニ吉黒権運局顧問ノ任命

東三省塩運使並ニ吉黒権運局長ハ塩務稽核総所長ノ管轄外ニ在リ南京政府財政部塩務署ニ直屬シ稽核所長ニ対立シ之ヲ監督スル立場ニ在リ依テ是等塩運使及局長ノ機能ヲ完全ニ發揮セシメンカ為塩運使顧問並ニ局長顧問ヲ派遣ス

(二) 新国家成立ト共ニ塩運使並ニ権運局長ヲ任命ス

新国家成立ト共ニ先ノ顧問又ハ適當ナル者ヲ塩運使並ニ権運局長ニ任命シ稽核所ハ直ニ裁撤ノ上其事務ハ塩運使ニ管轄セシム

(三) 徵税吏ノ調達

現在徵税ハ稽核所員之ニ当レル為稽核所裁撤ニ伴ヒ徵税不

能トナラサル様顧問ハ予メ塩運使署中ニ是等人員ヲ用意シ置クヲ要ス

(四) 稽核所ノ建物財産其他ノ押収

新国家成立新塩運使並ニ局長任命ト共ニ直ニ実力ニ依リ稽核所ノ建物其他ヲ押収スヘシ(成ルヘク穩便ノ方法ヲ執ル事トス)

(五) 担保権尊重ニ関シ外交総長ヨリ領事団ニ声明セシム

国際法上当然尊重スヘキ義務ナキモ国際友好ノ精神ニ基キ東三省稽核所分担額ヲ妥当ナル方法ニ依リ決定シ外国債権国ニ交付スルノ用意ヲ有スル旨適當ナル時機ニ外交総長ヨリ領事団ニ声明セシム
支、北平、長春、牛莊ニ転電セリ
支ヨリ上海ヘ転報アリタシ

106

昭和7年3月5日

在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

海關接收準備案の通報について

第三五七号(暗、至急、極秘)

奉天 3月5日後発
本省 3月6日前着

(1) 往電第三四一号ニ関シ

実行期目前ニ迫リタルヲ以テ当地軍部ニ於テハ高柳博士ヲ顧問トシテ海關接收ニ関シ左ノ通ノ準備案ヲハ五日打合会ニ於テ関係方面ト協議セル処軍部ニ於テハ別ニ御異存ナキ限リ即時右準備案実行ノ答ニ付御含アリタク尚当地司令部ヨリハ別ニ東京ニ電報セサルニ付貴方ニ於テ陸軍省側ト適當御打合アリタシ本件準備案ニ関シテハ別ニ電報スヘキ海關顧問ニ対スル訓示案、海關接收ニ関スル声明内容案及海關接收ニ付満州政府ノ執ル可キ措置ト一括御攻究ヲ請フ
左記

海關接收準備案

- 一、第一案ハ不取敢進ムトスルモ結局実行不可能ト思ハルルニ依リ第二案ニ依ル準備ヲ整ヘ閣議ノ決定ヲ待ツ事
- 二、新国家ノ行政委員長ヨリ在来ノ海關監督ニ対シ新任命ノ形式ヲ執リ邦人顧問派遣方ヲ通牒スルコト
- 三、邦人顧問ヲ奉天ニ召集シ直ニ各任地ニ派遣シ置クコト
- 四、現任海關吏員ハ日本人、外国人、中華民國人何レモ新国家ヨリ「ペンション」支給ニ対シ保障ヲ与ヘサル限リ其ノ儘在職ヲ肯セサルヘキニ依リ各顧問ハ任地ニ於テ海關監

督ヲ通シ各地税務司ヨリ事務ヲ引継クコト此ノ場合関員補充ノ為予メ手配ヲ為シ置クコト

五、若シ事務引継ヲ為ササル税務司アリトスルモ実力ヲ以テ争フコト無ク之ヲ其ノ儘放置スルコト

六、新国家ノ中央銀行成立セサル以前ハ東三省官銀号ヲシテ関税収入ヲ取扱ハシムルコト

七、徴税事務及海関金兩ノ計算ハ従来通りトシ関務整理ヲ俟テ海関金兩ノ計算ハ随時財政庁長ヨリ各関ニ通知スルコト

八、山海関ニハ当分海関監督ヲ任命セサルコト

但シ山海関駅長ニ臨時関税事務ヲ囑託シ顧問ヲ派遣スルコト

九、中華民國ヨリノ輸入品ニ徴税スル為瓦房店ニ海関設置ノ準備ヲ為スコト

公使ヨリ上海ヘ転報アリ度シ

公使、北平、牛莊、安東、齊々哈爾、哈爾賓、閭島ヘ転電セリ

107 昭和7年3月5日 在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

タル区域ノ負担部分ニ付テハ合理的ノ方法ニ依リ債権国ニ対シ直接責任ヲ負フヘキ用意ヲ有スルヲ以テ各相手国ノ申込ニ対シ満州国ハ何時ニテモ之カ交渉ニ応スヘシ

六、第一項ノ海関ニ現在勤務スルモノカ満州国ノ海関ニ就職セントスル時ハ銓衡ノ上採用スルニ付中華民國政府トノ関係ヲ離脱シ申込ムヘシ

(五、六項ハ第一案実施ノ時ハ不用ニシテ第二案ノ時追加声明ス)

(乙号)

海関接收ニ付満州政府ノ執ルヘキ措置

一、行政委員長ハ不取敢各地海関ニ海関監督(在来ノモノ)ヲ任命シ且日本人顧問一名、補助員二名宛ヲ招聘派遣スルコト

二、山海関駅長ニ命シ新ニ海関ヲ設置スヘキ準備ヲ為サシメ且日本人顧問一名、補助員二名ヲ招聘派遣スルコト

三、新政府成立シ財政総長ノ就任ヲ俟テ総長ヨリ海関接收ニ関スル声明ヲ為シ且各地海関監督及大連税務司ニ対シ関税取扱銀行ヲ中国銀行、新中央銀行又ハ東三省官銀号

海関接收に関する声明案および新政府の措置
に關し通報について

奉天 3月5日後発
本省 3月5日後着

第三五八号(暗、至急、極秘)
往電第三五七号ニ関シ
(一〇六文書)

当地軍部ニ於テハ新国家成立ト同時ニ声明スヘキ海関接收案ノ内容及海関接收ニ付満州政府ノ執ルヘキ措置ニ関シ左記甲、乙兩号ノ通リ起草シ五日ノ打合会ニ於テ関係方面ノ意見一致セルニ付陸軍省側ト御打合ノ上御意見アラハ即時御申越アリ度ク尚軍司令部ヨリハ別ニ東京ニ電報セス

(甲号)

海関接收ニ関スル声明内容案

一、牛莊、大連、安東、竜井村、琿春、哈爾賓及愛琿ノ七海関ハ満州国ニ帰属ス

二、山海関其ノ他必要ノ地ニ新ニ海関ヲ設置ス

三、中華民國ヨリノ輸入品ニ対シ輸入税ヲ課ス

四、輸出入税率ハ当分従前通トス

五、⁽²⁾ 中華民國海関税ヲ担保トスル対外借款中満州国ノ領土

ニ変更スヘキ命令ヲ発スルコト
(一〇六文書)
往電第三五七号ノ通転電セリ
支ヨリ上海ニ転報アリ度シ

108 昭和7年3月5日 在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

海関顧問に対する訓示案通報について

奉天 3月5日後発
本省 3月5日後着

第三五九号(暗)
往電第三五七号ニ関シ
(一〇六文書)

当地軍司令部ニ於テハ海関顧問ニ対スル訓示案ヲ左ノ通立案シ五日ノ打合会ニ於テ関係方面ノ同意ヲ求メタリ尚宮口、安東、哈爾賓、竜井村、山海関ノ五ヶ所及瓦房店ニ新設スヘキ税関長トシテ満鉄関係者六名ノ人選ヲ了シタルカ愛琿ハ僻地ナル為当分顧問ヲ派遣セサル由

海関顧問ニ対スル訓示案

一、顧問ハ各任地ニ到着ノ上先ツ海関監督ヲ訪問シ顧問ニ任命セラレタル辞令ヲ示シテ挨拶スルコト

竜井村ニハ海関監督専任者ナク延吉市政籌備処長兼任ス琿

春ニ赴任スルモノハ竜井村ヲ経テ右籌備処長ニ挨拶スルコト

二、関税徴収事務ハ外人タル税務司及中外関員ニ委任セラレ税金ノ収入ハ官銀号(目下中国銀行)出張員ニ当ル、海関監督ハ別ノ事務所ヲ有シ唯関務ヲ監督スルニ止ルカ故ニ顧問赴任ノ上ハ日々海関監督ノ事務所ニ出勤シ差当リ新国家財政総長ヨリノ命令ヲ俟ツコト

三、税務司以下在来ノ関員カ執務ヲ停止シタル場合ニハ海関ニ残レル関員ヲ指揮シテ直ニ自ラ徴税事務ニ当ルコト

四、在来ノ関員カ右徴税事務ヲ妨害スルカ如キ場合ニハ地方巡警又ハ日本軍ノ援助ヲ仰クコト

五、関税徴収ノ実績其他重要ノ事件ハ当分毎日財政総長ニ電報又ハ書面ニ由リ報告スルコト

六、関税ハ従来ノ例ニ依リ徴スルモ新国家ヨリ見レハ中華民國ハ一外国ナルカ故ニ民国トノ輸出入品ニ対シ新ニ輸出入税ヲ課スルコト(輸出税ハ既ニ転口税トシテ課シ居ルニ付實際ハ輸入税ヲ課スルノミ)從テ帆船又ハ馬車ニ依ル民国トノ出入品ニ対シ新ニ課税スルコト

現職ノ儘ニテ兼任セシムル事トナレリ

哈爾賓ヨリ公使、北平、奉天、吉林ニ転電アリ度シ

満州里へ転電セリ

110 昭和7年3月5日 ※在ハルビン長岡総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

満州里における恐慌状態について

ハルビン 3月5日前発
本省 3月5日後着

第二三三号(暗)

満州里発本官宛電報第一二二号

本官発外務大臣宛電報第一八号

今四日正午頃市内露支人店舗ハ一斉ニ其ノ門戸ヲ閉シ謠言百出物情騒然タルモノアルヲ以テ内査セルニ右ハ滿蒙新国家成立祝賀方法ニ付李市長ヲ中心トスル当地商会有力者間ニ於テ内々協議中ノ事実ヲ嗅キ付ケタル当地支那軍部ニテハ昨日来突然彈圧ノ拳ニ出テ関係者ニ対シ種々威圧ヲ加ヘタル模様ニテ更ニ之ヲ機會ニ「クーデター」ヲ敢行シ新国家反対ノ旗幟ヲ鮮明ニスヘシトノ謠言伝ハリ大恐慌ヲ来シタル結果ニ依ル趣ナルカ元来蘇炳文一味ノ軍閥カ新国家成

七、此ノ過渡期ニ際シ幾分ノ脱税ハ已ムヲ得サルトスルモ関員其他商人ニシテ不正行為アルモノハ厳ニ監視シ海関監督ト協議ノ上処罰スルコト

殊ニ武器及阿片ノ輸入ヲ取締ルコト

八、海関監督、税務司其他関員ニ対シテハ相当敬意ヲ表スルコト

支ヨリ上海へ転報アリタシ

支、北平、牛莊、安東、哈爾賓、間島、満州里へ転電セリ

109 昭和7年3月5日 ※在ハルビン長岡総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

馬占山の軍政庁長兼任について

ハルビン 3月5日前発
本省 3月5日後着

第二三二号(暗)

齊齊哈爾発本官宛電報第四四号

外務大臣へ電報アリ度シ

第三四号

軍部ニテハ馬占山ニ対シ新国家中央政府ノ軍政庁長ニ就任方申入レタル処同人ハ江省ヲ離ルル事ヲ好マサリシニ依リ

立ニ不満ヲ抱キ居ル次第ハ既電ノ通ニテ右ハ更ニ丁超軍ト氣脈ヲ通シ殊ニ蘇連側ノ対呼倫貝爾及對外蒙政策上ヨリスル裏面的策動ニ依リ一層拡張セラルルモノノ如ク目下ノ所差当リ直接行動ニ出ツルカ如キ模様無キモ成行警戒中ナリ

哈爾賓ヨリ外務大臣、在支公使、北平、奉天へ転電アリ度シ

哈爾賓、齊齊哈爾へ転電セリ

111 昭和7年3月5日 ※在ハルビン長岡総領事代理より
芳沢外務大臣宛

奉天における建国促進運動について

ハルビン 3月5日付
本省 3月12日着

公信普通第一〇四号

当地建国宣伝状況報告ノ件

曩ニ奉天ニ於テ東北行政委員会成立シテ以来当地支那側ニ於テハ新政権成立ノ趣旨及其使命ニ関スル宣伝並ニ建国促進「デモ」市民大会等来哈中ナル指導部委員指揮下ニ行ハレタルカ其ノ概況次ノ如シ

一、新政権ノ成立趣旨及使命ニ関スル鮑市長放送

二月二十日特別区市政管理局長鮑觀澄ハ哈爾賓「ラヂオ」局ヨリ日露支三個國語ヲ以テ東北行政委員會ノ成立趣旨及使命ニ関シ約三十分間ニ亘リ大体左記要領ノ放送ヲ為セリ

「東北官民カ理想トシ居ル東北新政權即チ東北行政委員會ハ本月十八日既ニ成立シ今後東北民衆ノ福利増進ノ為メ其ノ機能ヲ發揮スルコトニナツタノハ慶賀ノ至リテアル、蓋シ滿州ノ地ハ從來幾多國家發祥ノ地タル歴史ヲ有シ遼、金アリ下ツテ元カアル、清朝亦此処ニ發祥シテ二百年ノ歴史ヲ持ツテ居ル、由來滿州ハ天恵ノ地ナルモ張學良並ニ之ニ類スル其他ノ旧軍閥ノ為ニ民衆ハ二十年間水火ノ苦ニ遇ヒ來ツタ然レトモ我々ハ如何カシテ此ノ苦境ヲ脱シヨウト心掛クルコト多年即チ民衆ノ自覺ハ今日ノ機會ヲ逸スルコトナカツタ

日本ノ軍事行動ハ純然タル居留民保護及既得權益ノ擁護ニ在リ其ノ軍紀ノ嚴正ナルハ感佩ノ外ナイ
新政權ハ一方旧勢力ヲ破壊シテ建設セネハ駄目タ然モ夫レハ急ヲ要スル、東北行政委員會ハ即チ新政權樹立ノ第一歩ニシテ奉天、吉林、黑龍江、熱河ノ四省東省特別区

呼倫貝爾並蒙旗ヲ其圈内ニ置キ各省区ヨリ委員一名ヲ挙げ内一名ヲ委員長ニ推シ政權ヲ執行スル、凡ソ政務ハ七省区カ團結協力シテ執行スルモノニシテ民衆ノ需ムル所ニ適合スル即チ民意ニ依ル政治カ「モットー」テアル換言スレハ新政權ハ時代、土地及人民ニ適合セルモノテ最高永久無限ナルモノテアル」云々

二、建国促進市民大会

二月二十五日鮑市長ヲ司會者トスル新國家成立促進市民大会ハ中央寺院橫運動場（特務機關前）ニテ開催サレ集合スル者無慮二万余先ツ鮑市長ノ開會ノ趣旨ニ関スル新政權慶賀ノ演說アリ次テ自治指導委員王永蒼ハ新國家ニ関シ「本國家ハ純正ナル民意ニ依リ組織スルモノニシテ理想ノ樂土タラシメンコトヲ期シ東北ニ現住スル日支鮮人等ノ合衆國ナリト冒頭シ指導部ハ正義、公理ヲ「モットー」トスルモノナリト同部ノ意義ヲ説明シ次テ各界ノ宣言發表セラレ最後ニ「哈爾濱市民ハ新政權ノ成立ニ對シ絶大ナル慶祝意ヲ表シ新國家成立ノ促進ヲ期ス」トノ決議ヲ為シ之ヲ奉天行政委員長及委員、關東軍統治部、自治指導部内特別宣傳委員會、臧省長、熙長官、馬黑竜

江省長官、湯熱河主席、蒙古各王公宛通電シ一方飛行機ヲ以テ空中ヨリ新政權ノ標語伝單ヲ全市ニ散布シ大ニ人氣勢ヲ添ヘ夜間ハ盛ナル提灯行列ヲ舉行セリ

三、鮮人市民大会

同月二十六日ニハ來哈中ノ永江指導員ノ指揮下ニ在哈鮮人市民大会ヲ開催シ集マル者約四十名（一）滿蒙新國家建設促進委員會ニ對シ祝電ヲ發スルコト（二）金策東、金漢奎ノ二名ヲ市民代表トシテ新國家慶祝ノ為赴奉セシムルコトヲ決議シ之ヲ張景惠及關東軍統治部ニ電報セル趣ナリ
右何等御參考迄ニ報告申進ス

本信写送付先 在中華民國公使 奉天 吉林 間島 長春 齊齊哈爾 滿州里各總領事領事

112 昭和7年3月6日 在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

執政就任式参列について

奉天 3月6日後発
本省 3月6日後着

第三六一号（暗、至急）
（一〇〇文書）
往電第三五二号ニ関シ

軍側ニテハ本官等各地領事ノ執政就任式参列ハ当然ノ儀トシテ熱望シ居ル処外務省系機關ハ對外關係上關東軍又ハ關東庁等トモ立場ヲ異ニスル点アリ承認問題等ニ関連シ機微ナル關係アリト思考セラルルモ他方新國家成立後ニ於テハ事實上ノ政權トシテ諸般ノ事項ニ関シ折衝ヲ要スル次第モアリ本官差当リノ考トシテハ本官自ラ参列スルコト無ク資格云々ニ触レス漠然ト館員ヲ出席セシメ置ク方然ルヘシト存スルニ付右様取計ヒ差支無キヤ折返シ御回電請フ
哈爾濱、吉林、間島ヘ転電セリ

113 昭和7年3月6日 在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

執政就任式に館員列席を軍側要望について

奉天 3月6日後発
本省 3月6日後着

第三六二号（暗）
（一二文書）

往電第三六一号ニ関シ

今後益々軍側ト折衝ヲ要スル此ノ際館員ヲモ列席セシメサルニ於テハ軍側トノ關係ニ悪影響ヲ來ス虞大ナルモノアルニ付現地ノ機微ナル事情御諒察ノ上最小限度ニ於テ冒頭往

電ノ卑見是非御採納ヲ得度ク為念電報ス
哈爾賓、吉林、間島ニ転電セリ

114 昭和7年3月6日 在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

在滿各海關監督に顧問派遣について

奉天 3月6日後発
本省 3月6日後着

第三六三号(暗)

往電第三四一号ニ関シ
(九四文書)

当地軍部ニ於テハ在滿各海關監督ノ顧問トシテ竜井村ニ宮
本元槌ヲ、琿春ニ内田孝ヲ、山海関ニ佐藤五平ヲ、安東ニ
崎川清三ヲ、營口ニ小沢茂一、哈爾賓ニハ加藤達次郎ヲ各
助手二名ヲ帶同派遣スルコトトシ六日発夫々關係地ニ出発
スルコトトナリタルニ付各顧問ニ対シ其ノ地領事宛当館ヨ
リ紹介状ヲ交付シ置キタリ
間島、安東、牛莊、哈爾賓へ転電セリ
間島ヨリ琿春へ転電アリ度シ

115 昭和7年3月7日 在吉林石射総領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

執政就任式に出席の可否について

吉林 3月7日後発
本省 3月7日後着

第一三五号(暗、至急)

吉林交渉署長ハ長官公署訓令ニ基ク旨ヲ以テ新國家ノ国
名、元首名、年号、首都所在地ノ決定並九日長春ニ於テ執
政就任式挙行ノ旨六日付公文ヲ以テ本官宛正式ニ通知シ来
リ且右就任式ニハ吉林省各日本領事館ヨリ参列方照会越セ
リ右参列方ニ関シテハ奉天発閣下宛電報第三六一号ノ次第
モアリ至急御回電ヲ請フ
(一二二文書)

間島ヨリ各分館へ転電アリタシ

哈爾賓ヨリ齊齊哈爾へ転電アリタシ

支、北平、奉天、長春、哈爾賓、間島へ転電セリ

116 昭和7年3月7日 ※在ハルビン長岡総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

万国寶の黒河脱出について

ハルビン 3月7日後発
本省 3月7日後着

第二四一号(暗)

齊々哈爾賓本官宛電報

第四六号

大臣へ電報アリタシ

第三六号

黒河ニ隠レ居タル万国寶ハ馬占山ノ注意ニ依リ二日早朝家
族ヲ連レ同地脱出浦潮經由北平ニ赴キタリ尚同地官憲ハ不
満乍ラ新政府ニ服従スルコトニ決定セル旨黒河ヨリ電報アリ
タリ

哈爾賓ヨリ公使、北平、奉天、吉林へ転電アリタシ

満州里へ暗送セリ

117 昭和7年3月7日 ※在ハルビン長岡総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

万国寶などのモスクワ行について

ハルビン 3月7日後発
本省 3月7日後着

第二四二号(暗)

齊齊哈爾賓本官宛電報

第四七号

118 昭和7年3月7日 林閣東庁警務局長より
永井外務次官宛(電報)

溥儀夫妻の旅順出発について

関東庁 3月7日後発
3月7日後着

高第二〇三号(暗)
宣統帝ハ從者羅振玉、鄭孝胥外二八名ト共ニ本日前七時三
十分旅順発自動車ニテ大連ニ向ヒ同九時八分沙河河口駅ヨリ
乗車湯崗子ニ向フ尚宣統帝妃ハ万繩栳外一〇名ト共ニ前九
時五分旅順発同十一時二十九分沙河河口駅発列車ニテ湯崗子

ニ向フ追テ宣統帝ハ八日朝同地発特別列車ニテ正式ニ長春ニ向ヒ九日執政就任式ヲ行フ答

119 昭和7年3月7日 芳沢外務大臣より
在奉天森島総領事代理宛（電報）

執政就任式への領事館側参列者について

本省 3月7日後発

第一一一号（暗）

満州建国式ニ領事参列ノ件

貴電第三六一号及長春来電第六〇号前段ニ関シ

新政権ヨリ招待アリタル際ニハ「ローカルコンサル」トシテ非公式ニ（帝政府ノ代表トシテニ非ス）長春ヨリハ田代領事、奉天、吉林、哈爾濱ヨリハ適當ノ館員参列スルコトト致度

訓令トシテ長春、吉林、哈爾濱ニ転電シ其他ノ在満領事ニ暗送アリ度

支、北平ニ転電セリ

120 昭和7年3月8日 在間島岡田総領事より
芳沢外務大臣宛（電報）

間島における新国家反対の空気について

溥儀ならびに熙洽など要人の長春到着について

長春 3月8日後発
本省 3月8日後着

第六四号

溥儀八日午後三時無事着長嶺重警戒裡ニ市政府ニ入レリ尚熙洽、馬占山、張海鵬、臧式毅、張景惠等ノ要人モ相前後シテ来長セリ

公使、北平、天津、在満各領事ニ転電セリ

122 昭和7年3月8日 林関東庁警務局長より
芳沢外務大臣宛（電報）

溥儀の長春到着について

関東庁 3月8日後発
3月8日後着

高第二一四号

宣統帝溥儀ハ迎接使張景惠以下約六十名ヲ従ヘ本日午前八時特別列車ニテ湯崗子発後三時無事長春ニ到着市政府ニ入レリ

123 昭和7年3月9日 在琿春毛利（此吉）分館主任より
芳沢外務大臣宛（電報）

間島 3月8日後発
本省 3月8日後着

第一〇四号（暗）

局子街発閣下宛電報第六号ニ関シ
七日啓籌備処長ハ当館田中ニ対シ当地方支那人民間有識者階級ハ一般ニ新国家ノ前途ニ不安ヲ抱キ其成立ヲ衷心ヨリ歓迎スルモノ極メテ少シ從テ自分及吉興ニ対シテモ反感ヲ抱ク向鮮カラサル状態ニテ是等民衆ノ指導ニ付テハ随分困難ナル事情アリ殊ニ吉興ハ部下軍隊ノ反逆、軍隊内ノ吉興反対ノ空氣等衷心同情ニ堪ヘサルモノアルモ自分トシテハ既ニ長官ヨリ九日以降大同ノ年号ヲ用ヒテ新国家成立ヲ名実共表示スヘキ旨ノ訓令ニ接シ居ルニ依リ此際吉興トモ協議ノ上明八日各界代表ヲ召集シテ新国家成立ノ事情ヲ説明シ劈頭ニ民衆指導ノ具体案ヲモ議定シテ徐々ニ彼等ヲシテ新国家ヲ信頼セシムル様何等措置ヲ講スル所存ナリト内話セル趣ナリ御参考迄

121 昭和7年3月8日 在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛（電報）

琿春県における建国式挙行について

琿春 3月9日後発
本省 3月9日後着

第一〇号

九日正午県政府ニ於テ建国式挙行セラレ午後三時ヨリ日満官民五百四十名ヲ招待、県政府主催ノ祝賀会開カル、新国旗ハ一般民間ニ於テハ掲揚者無シ

支、北平、間島、奉天、吉林、長春ヘ転電セリ

124 昭和7年3月9日 在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛（電報）

執政就任式挙行について

長春 3月9日後発
本省 3月9日後着

第六五号

執政就任式ハ予定通り本九日午後三時ヨリ市政府ニ於テ新政権各要人参列ノ下ニ挙行セラレ邦人側来賓トシテ関東軍司令官、満鉄總裁、関東庁警務局長等二十名出席式ハ約二十分ニシテ終了続イテ国旗掲揚式ニ移リ無事終了セリ
支、北平、天津、在満各領事ニ転電セリ

125 昭和7年3月10日 在間島岡田総領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

間島における新国家成立行事について

間島 3月10日後発
本省 3月10日後着

第一一五号(暗)

八日吉警備司令啓籌備処長ハ支那人官民有力者ヲ召集シ
(当地及頭道溝商埠局長モ参列)新国家成立ノ経過及吉林
省長官電訓ノ次第ヲ披瀝シテ大勢ニ順応スヘキ旨ヲ力説シ
タル上一同ト協議ノ結果(一)九日ヨリ大同ノ年号ヲ使用スル
コト(二)九日ハ休業シテ新国家ノ将来ノ為默禱スルコト(三)九
日ヨリ三日間新国旗ヲ掲ケ祝意ヲ表スルコトヲ決定シ建国
祝賀会ハ吉林ヨリノ訓令ヲ待テ行フコトト為セル趣ナリ右
ニ依リ当地ニ於テハ商埠局其他ノ官衙(海関ヲ除キ)ハ九
日ヨリ新国旗ヲ掲揚シ居レリ

支、北平、奉天、吉林、長春、朝鮮総督、四分館ニ転電セ
リ

126 昭和7年3月10日 在間島岡田総領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

シ新国家建設記念日タル九日ヨリ三日間一般市民ノ新国旗
掲揚ヲ命令シタルモ応セス却テ掲揚反対ヲ密達シタル為警
備司令ハ激怒シ再ヒ商務会長ヲ招キ新国家ニ敬意ヲ表セサ
ルモノハ嚴罰ニ処スト示達シタル結果全市ハ九日午後二時
ニ至リ漸ク新国旗ヲ掲揚スルニ至レリ
前電ノ通転電セリ

128 昭和7年3月10日 在吉林石射総領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

吉林建国祝賀大会の状況について

吉林 3月10日後発
本省 3月11日前着

第一三八号(暗)

吉林建国祝賀大会ハ予テノ計画通り十日午前十時城内公共
運動場ニ於テ挙行ノ大祝賀式ニ始マリ(日本側来賓トシテ
約五十名出席)午後二時ヨリ日支各個ノ旗行列ニ移リ参会
者無慮一万ニ上リ夜ハ長官公署ニ於ケル祝宴及提灯行列ア
リ(一語脱)極メタリ

哈爾濱ヨリ齊々哈爾へ転電アリ度シ

支、北平、奉天、哈爾濱、間島、長春へ転電セリ

新国家反対分子の策動警戒について

間島 3月10日後発
本省 3月11日前着

第一一六号(暗、至急)

本官発局子街、頭道溝、琿春、百草溝宛電報合第一〇八号
新国家建設ニ関シ支那官民中ニ不平ヲ抱キ居ルモノアルニ
乗シ共產黨員カ暴動ヲ起サント企テ居リ尚支那軍憲ノ態度
モ怪シキ状態ニアルヲ以テ此際署長各分署長ヲ督励シ査察
警戒ニ努メラレ度シ
外務大臣、吉林へ転電セリ

127 昭和7年3月10日 在局子街田中(作)分館主任より
芳沢外務大臣宛(電報)

局子街における新国家反対運動について

局子街 3月10日後発
本省 3月10日後着

第七号(暗)

往電第六号ニ関シ

当地排日首脳者ハ八日会合シ新国家反対及建国運動ニ関ス
ル一切ノ命令ニ不服従ヲ決議シ吉警備司令ハ商務会長ニ対

129 昭和7年3月10日 在ブラゴエシチェンスク豊原(幸夫)
領事館事務代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

黒河に兵変勃発の情報について

ブラゴエシチェンスク 3月10日前発
本 省 3月10日後着

第一七号(暗、至急)

本十日正午対岸黒河在留邦人宮崎夫妻突如当地ニ逃走シ来
レリ同人ノ談ニ依レハ本日午前一時頃同地ニ兵変勃発シ市
内ハ大混乱ニ陥リ銃殺掠奪行ハレ在留邦人(約三十名)ノ
生死不明ナリト云フ原因ハ幹部ニ対スル反感給料不渡等ニ
アルモノノ如ク本十日ハ満州新国旗掲揚当日ニシテ反日的
気分旺盛ナル同地ノ事ト成行キ憂慮セラル
右不取敢
露、支、浦潮、奉天、哈爾濱、齊々哈爾、満州里へ転電セ
リ

130 昭和7年3月(11)日 在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

朝鮮人農民保護に関する奉天省政府の訓令に

奉天

本省 3月11日前着

第三八七号

奉天省政府ニ於テハ二月二十九日鮮農保護ニ関シ各県ニ対シ更ニ大要左ノ趣旨ノ訓令ヲ発セリ

前遼寧省政府ニ於テハ華人ト韓人トノ共同耕作ヲ禁シ韓人ヲ雇傭シテ耕作セシムルコトトセル結果却テ韓民ノ反抗ヲ買ヒ衝突ヲ起シ訴訟事件ヲ見ルニ至レリ今ヤ新政施行サレ東省ニ於テハ種族ノ別ナク一律ニ一視同仁ノ事トナリタルニ付韓僑ノ本省ニ在住スルモノハ農工ヲ論セス蔑視圧迫スルコトアルヲ得ス水田ノ水利税ハ之ヲ半減シ改メテ一畝ニ付五角ヲ徴収スルコトト致シ度旨実業庁ヨリ訂正アリタルニ付右様取計ヒ方各県ニ令ス

哈爾濱ヨリ齊齊哈爾、滿州里ニ転電アリタシ

転電先、在滿各館、朝鮮政務總監

131 昭和7年3月11日

在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

滿州国成立に関する各国あて通電について

日間臨時休業シタルカ支那各界首脳者ヨリ成レル建国慶祝

委員会主催ノ下ニ十、十一、十二日ノ三日ニ亘リ大袈裟ナ

ル祝賀会舉行セラレ第一日ニハ特務機関前広場ヲ会場トシ

各機関代表及商民等約五万人集合、司会者タル鮑觀澄(哈

爾賓特市区市長)ノ新国家成立ニ関スル宣伝的演説アリ新国

旗掲揚式、宣言朗読等ヲ終リ游行ニ移リ愛国号ノ低空飛行

ニ依ル伝單散布、各戸ノ新国旗掲揚、電柱、車馬、自動車

等ノ「ポスター」ト相俟チ大イニ氣勢ヲ挙ケ在哈内鮮人側

ニ於テモ旗行列(参加者約千五百名)ヲ行ヒ調子ヲ合セテ

祝賀気分ノ発散ニ努メタルカ夜間ハ「イルミネーション」、

支那芝居等ニテ市中ハ相当ノ賑ヒヲ見セタリ

第二日ニハ会場ニ於テ終日奏楽及演芸ヲ為シ夜ハ市中ノ提

燈行列アリ又東支俱樂部ニテ催サレタル晩餐会ニハ駐屯中

ノ我軍將校全部及主要内外人等四百余名招待セラレテ護路

軍副司令、鮑市長及浜江市政籌備処長等ノ挨拶アリ多門師

団長ハ滿州国ヲ慶祝スル意味ノ謝辞ヲ述ヘタリ

第三日タル十二日ニ於テモ大体第二日ニ準スル祝賀会行ハレタリ

公使、北平、奉天、長春、吉林ニ転電シ、齊々哈爾、滿州

第三八九号(暗)

奉天 3月11日後発

本省 3月11日後着

新国家ハ滿州ニ領事若ハ名譽領事ヲ派遣シ居ル国(本邦ヲ含ミ十七個国)及支那ノ外務大臣ニ宛国家成立ニ関スル通電ヲ発スルト共ニ在滿各国領事ニ右写ヲ送付シ他方連盟事務局ニ対シ公文ニテ本件通告ヲ為シ且ツ前記十七個国以外ノ諸国ニ対シ通知方依頼スル事ニ決定セリ右通電ノ内容ハ当館トモ打合済ニシテ(全文郵送)十二日発電セラルル見込

支、北平へ転電セリ

132 昭和7年3月12日

在ハルビン長岡総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

ハルビン中国側官庁の滿州国成立祝賀状況な

どについで

ハルビン 3月12日後発
本省 3月12日後着

第二六四号

当地支那側官庁ハ滿州国成立ニ祝意ヲ表スル為九日ヨリ四

里ニ暗送セリ

133 昭和7年3月12日

在ハルビン長岡総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

建国祝賀晩餐会にハルビン各国領事不参加に

ついで

ハルビン 3月12日後発
本省 3月12日後着

第二六六号(暗)

(二三文書)

往電第二六四号ニ関シ

第二日(十一日)ノ祝賀晩餐会ニハ当地各国領事ニ対シテ

モ夫々招待状ヲ発シタルカ本国ノ訓令ナキ以上参列シ得サ

ル旨回答越セル趣ニテ本官以外一人モ列席セス

支、北平、奉天、吉林、長春ニ転電シ、齊々哈爾、滿州里

ニ暗送セリ

134 昭和7年3月(12)日

在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

滿州国政府重要職員の発表について

長春 3月12日後着
本省

第六七号

満州国政府重要職員十一日発表ノモノ左ノ通

立法院々長 趙 欣 伯
 國務院総務庁長 駒 井 徳 三
 警察総監 修 長 余
 憲兵司令 徳 楞 額
 長春特別市々長 金 璧 東
 支、北平、天津、在満各領事ニ転電セリ

135 昭和7年3月12日 閣議決定

満蒙問題処理方針要綱

- 一、満蒙ニ付テハ帝国ノ支援ノ下ニ該地ヲ政治、経済、国防、交通、通信等諸般ノ関係ニ於テ帝国存立ノ重要要素タルノ性能ヲ顕現スルモノヲラシメムコトヲ期ス
- 二、満蒙ハ支那本部政権ヨリ分離独立セル一政権ノ統治支配地域トナレル現状ニ鑑ミ逐次一国家タルノ実質ヲ具有スル様之ヲ誘導ス
- 三、現下ニ於ケル満蒙ノ治安維持ハ主トシテ帝国之ニ任ス将来ニ於ケル満蒙ノ治安維持及満鉄以外ノ鉄道保護ハ主

公信関機高支第三五八一号ノ二^(注)

恭親王ノ動静

大連市星ヶ浦水明荘居住ノ恭親王ハ曩ニ今回満州新国家ノ執政トシテ就任シタル溥儀氏ニ随ヒ首都長春ニ赴キ執政ノ相談役トシテ国政ノ補佐ニ当ルヘキ旨洩ラシ居タル処既ニ溥儀氏ノ執政就任ヲ見タルモ本名ハ依然大連ニ滞在シ居ルヲ以テ事情内査スルニ本名ノ語ル処ニヨレハ本月五日在旅中ナリシ溥儀氏ノ招致ヲ受ケ直ニ赴旅ノ上面接シタルニ此際自分ヲ同行スルハ四囲ノ関係上種々都合ノ点モアリ後日執政ニ就任ノ上適當ノ機会ヲ見テ招電ヲ発スヘキヲ以テ何分ノ通知ヲナス迄其儘自邸ニ止マラレ度トノ事ナルヲ以テ出發ヲ差控ヘタル次第ナルカ九日既ニ執政ノ就任式モ取り行ハレ完全ニ新国家モ成立シタルヲ以テ何レ数日中ニ招電アルヘク目下何時ニテモ出發シ得ヘキ様準備ヲ整ヘ入電ヲ待望シツアル次第ナリト語り居レリ

(編注) 公信関機高支第三五八一号の一は見当らない。

137 昭和7年3月14日

在長春田代領事より
 芳沢外務大臣宛(電報)

トシテ新国家ノ警察乃至警察的軍隊ヲシテ之ニ当ラシム右目的ノ為之等新国家側治安維持機関ノ建設刷新ヲ図ラシメ特ニ邦人ヲ之カ指導の骨幹タラシム

四、満蒙ノ地ヲ以テ帝国ノ対露対支国防ノ第一線トシ外部ヨリノ攪乱ハ之ヲ許サス右目的ノ為メ駐滿帝国陸軍ノ兵力ヲ之ニ適応スル如ク増加シ又必要ナル海軍施設ヲナスヘシ新国家正規陸軍ハ之カ存在ヲ許サス

五、満蒙ニ於ケル我權益ノ回復拡充ハ新国家ヲ相手トシテ之ヲ行フ

六、以上各般ノ施策実行ニ当リテハ努メテ国際法乃至国際条約抵触ヲ避ケ就中満蒙政権問題ニ関スル施策ハ九国条約等ノ関係上出来得ル限り新国家側ノ自主的発意ニ基クカ如キ形式ニ依ルヲ可トス

七、満蒙ニ関スル帝国ノ政策遂行ノ為メ速ニ統制機関ノ設置ヲ要ス但シ差当リ現状ヲ維持ス

136 昭和7年3月12日

林閣東庁警務局長より
 永井外務次官宛

恭親王の動静について

3月12日付

執政就任式後の各省代表の動静について

長春 3月14日後発
 本省 3月14日後着

第七二号(暗)

執政就任式ニ引続キ会議中ナリシ各省代表中臧式毅、馬占山ハ十二日、張海鵬、熙洽ハ十三日何レモ引揚ケ目下張景惠ノミ滞在シ居ル処右会議ハ主トシテ主要幹部人選割当及今後ノ連絡打合せ等ヲ協議シタル趣ナリ

支、北平、奉天、吉林、哈爾賓、齊齊哈爾、鄭家屯ヘ転電セリ

138 昭和7年3月14日

在間島岡田総領事より
 芳沢外務大臣宛

満州国執政就任式に参列方通知について

付属書 三月六日付謝介石吉林交涉署署長より在間島岡田総領事宛照会第二十二号
 右通知

公信機密第二二〇号

満州新国家ノ成立及執政就任典礼等通知ノ件

間島 3月14日付
 本省 3月22日着

吉林交渉署署長謝介石ヨリ本月六日付公文ヲ以テ別紙ノ通り満州新国家ノ成立及執政就任典禮ニ参列方通知ノ次第アリタル処右ハ回答ヲ発セス握リ潰シ置ケリ此段報告ス

本信写送付先 在華公使 奉天 吉林 長春 朝鮮総督

管下四分館

(付属書)

照会第二十二号

為照会事案前奉

吉林省長官公署令開案准

東北行政委員会来電以本会成立後籌議東北各省区暨蒙古区域建設新国家事項茲經議決新国家之名称定為満州国元首稱為執政年号定為大同国旗用新五色旗首都定在長春令仰知照此令茲又奉

吉林省長官公署電開本月九日執政在長春舉行就任典禮仰即照会駐吉林省日本各領事館屆時参与以襄盛典各等因奉此除分行外相應照会

貴總領事請煩

查照為荷須至照会者此照会

大日本駐延總領事岡田兼一

(2) 迎接使

(3) 湯崗子出発

(4) 長春到着

五、首都市民ノ歡迎

六、執政就任式

(1) 就任式次第

(2) 執政宣言

(3) 執政答詞

(4) 就任式列席者

一、宣統廢帝管内亡命

昭和六年九月十八日夜間奉天北方柳条溝付近ニ於テ東北軍ノ精銳ヲ以テ誇レル第七旅王以哲ノ率ユル支那兵ニ依リ國際交通路ノ一部タル我滿鉄線路ヲ爆破サレタルニ端ヲ発シ遂ニ満州事變ヲ惹起シ事態益々重大化スルニ至リタル折柄天津ニ於テハ張壁一派ノ反張學良派ニ依リ暴動勃発シ予テヨリ同地日本租界ニ居住中ナリシ前清宣統帝溥儀ハ身ニ危害ノ及ハムコトヲ慮リ十一月十日近臣者数名ト共ニ窃カニ同地ヲ脱出シ十三日突然營口ニ上陸シ我官憲ニ保護ヲ申出タルカ其ノ要請ヲ拒否スルニ於テハ實際同人ノ身辺ニ危険ノ及ハサルコトヲ保障シ得サルノ実情ナリシヲ以テ我方ニ於テハ其ノ申出ヲ容レ一時湯崗子ニ居住セ

中華民國二十一年三月六日

吉林交渉署署長 謝 介石

139

昭和7年3月15日 関東庁警務局高等警察課

溥儀の天津脱出から満州国執政就任に至るまでの経過について

(極秘)

昭和七年三月十五日

満州国執政宣統廢帝溥儀

関東庁警務局高等警察課

目 次

一、宣統廢帝管内亡命

二、満州国執政宣統廢帝溥儀推戴

(1) 第一回特使

(2) 第二回推戴使

(3) 執政府先発隊首都入

三、警衛警戒ノ状況

四、執政溥儀出発

(1) 旅順出発

シメタルモ当時恰モ同地方ハ頻リニ匪賊出没シ甚タ不安ノ状態ニアリシ為メ一行ノ希望ニ依リ絶対安全地タル旅順ニ居住スルコトナリ十一月十八日窃ニ同地出発十九日旅順ニ到着セリ尚天津ニ残レル同妃鴻秋ニ於テハ十一月二十六日兄潤良及芳子等ト天津ヲ脱出シ一行十名ト共ニ二十八日海路大連ニ来リ爾來鄭孝胥、羅振玉等近臣者ニ衛ラレ共ニ旅順ニ蟄居スルニ至リタルモノナリ

当時諸種ノ事情ヲ考慮シ逸早く宣統廢帝及同妃ノ所在及行動ニ就テハ関東庁ニ於テ発表スル事項ノ外一切新聞通信等ニ掲載スルコトヲ禁止シ所在ヲ秘シテ保護ヲ加ヘ居タルモノナルカ之カ理由ニ就テハ十一月二十二日午後五時関東庁警務局長談トシテ次ノ如ク發表セリ

「予テ天津日本租界ニ居住中ナリシ前清宣統帝溥儀ハ先般天津ニ於テ暴動勃発シタル際危害ノ其ノ身ニ及ハムコトヲ虞レタル為メカ十日同地ヲ脱出シタルモノノ如キ処十三日突然營口ニ上陸シ保護方ヲ申出タルモ其ノ要請ヲ拒ム場合實際同人ノ身辺ニ危害ノ及ハサルコトヲ保障シ得サル事情ナリシヲ以テ我方ニ於テハ人道上ノ見地ヨリ其ノ申出ヲ容レ之ヲ安全ノ地点ニ收容シ保護ヲ加フルコトトセリ

而シテ同人カ我方ノ保護下ニ在ルニ当リ政治運動ノ渦中ニ入

ルコトハ帝國ノ希望セサル処ナルヲ以テ同人ト外部トノ接触ヲ絶ツコトニ関シテハ細心ノ考慮ヲ払ヒツツアリ」

然ルニ今回東北三千万民衆ノ熱望ニ依リ満州国執政ニ推戴サレ三月六日旅順出發九日長春假執政ニ於テ盛大ナル執政就任式ヲ行ヒ一國ノ元首トナルニ至リタルモノナリ

然レトモ三月八日湯崗子出發前ノ行動ニ就テハ諸種ノ事情モアリ従前通りノカ發表ヲ禁止シ爾後ノ行動ニ限り同日午前七時ヲ期シ解禁スルニ至リタリ

二、満州国執政宣統廢帝溥儀推戴

(1) 第一回特使

東北民衆ノ齊シク待望セル大満州国ハ年号ヲ大同ト称シ三月一日ヲ以テ成立シ同時ニ新国組織ノ大綱ヲ中外ニ宣言スルニ至リタルカ新国家ノ元首問題ニ就テハ東北各省代表ヲ以テ組織セル東北行政委員会ニ於テ数次ニ亘リ審査熟議ノ結果三千万民衆ノ要望スル宣統廢帝溥儀ヲ推戴スルコトニ決定シ出廬懇請ノ特使トシテ奉天代表馮涵清、吉林代表張燕卿、黑龍江代表趙仲仁、蒙古代表蘇寶麟、呼倫貝爾代表凌陞、哈市特別区代表葆康ノ六名ハ従者八名ヲ伴ヒ二月二十九日午後十時四十分奉天出發大連經由翌一日午後零時十五分旅順ニ到着シ直チニ溥儀ノ仮館ニ入りテ出廬ヲ懇請スル処アリタルモ責任過

九時發列車ニテ右ノ快報ヲ齎ラシテ帰來スルニ至リタリ

(3) 執政府先發隊首都入

一方新国家政府ニ於テハ宣統帝溥儀執政受諾ノ報ニ接シタル為メ之カ先發トシテ三月六日午後一時長春着列車ニテ左記ノ通り執政関係者一行四十三名長春ニ到着シ執政府準備事務処員ノ案内ニテ付属地福順棧、日升棧、北平棧等各支那旅館ニ分宿シ長春ニ於テ執政ヲ迎フルコトトセリ

(イ) 俗称内務大臣

佟濟熙、宝熙、王季烈、鄭禹、林榮、金卓、金賢、胡嗣瑗

(ロ) 俗称随侍

李志源、嚴相江、李長安

(ハ) 俗称護軍

劉金山、鄭志棟、張公田、連雲亭、霍連明、李芝林、^(ママ)对芝明、卞廷彬

(ニ) 厨 夫

閔長立、陳曾貴、馬金華、劉国珍、劉德海、盧長有、韓永惠、仲同財、王豊年

(ホ) 給 仕

龐長寿、周春拌、周長瑞、周長清

(ヘ) 從 卒

大ノ故ヲ以テ一応辭退シタリトテ已ムヲ得ス使節六名ハ溥儀ノ意向ヲ齎ラシテ即日出發奉天ニ引キ返ヘシタリ

(2) 第二回推戴使

第一回特使奉天帰着ト同時ニ各代表再ヒ相会シ鳩首協議ノ結果三千万民衆ノ為メ再度特使ヲ派遣シテ溥儀ノ出廬ヲ懇請スルコトナリ先キノ六代表ニ更ニ各地教育、商工各界代表ヲ加ヘ即チ奉天省代表馮涵清、吉林省代表張燕卿、黑龍江代表趙仲仁、呼倫貝爾代表凌陞、齊々哈爾爾代表蘇寶麟、哈爾濱特別区代表葆康、奉天地方法団代表張景弼、謝相森、孫煥章、張其昌、侯顯模、吉林地方法団代表林鶴琴、程科甲、江崇德、范泉魁、黑龍江地方法団代表鄂昌勲、李宝源、潘淵竜、許蘭坡、哈爾濱地方法団代表楊貫三、許永銘、蒙古地方法団代表色拉哈旺珠爾、烏勒吉都楞、倭克吉布、加毅、吳双海、德樹元外五名計三十二名ヲ第二回推戴使トシテ三日午後十時四十分奉天發列車ニテ出發シ四日午前九時十分旅順ニ到着シ一応同地ヤマトホテルニ入りテ少憩ノ後午後二時一同宣統廢帝溥儀ヲ訪問シ新国家執政推戴書ヲ奉呈シ再度三千万民衆ノ総意ヲ以テ出廬ヲ懇請スル処アリタル為メ溥儀モ遂ニ之ヲ容レテ出廬ヲ承諾シ午後四時ヨリ推戴使一行ヲ旅順ヤマトホテルニ招待シテ其ノ勞ヲ犒フ処アリタルカ代表ノ内一部ハ同夜

孫貴、孫義、王俊

(ト) 女 中

富余氏、李余氏、李張氏、杜楊氏、張馬氏、進慶、高嬌、德媽

三、警衛警戒ノ狀況

宣統廢帝溥儀ヲ満州新国家ノ執政ニ推戴シ元首トナスコトニ決シ第一回特使派遣セラルルニ至リタル為メ三月一日関東軍參謀和智少佐、甘粕正彦ノ兩名ハ之カ沿道警護問題ニ付関東庁警務局ニ出頭シ協議ノ結果四日午後一時ヨリ奉天ニ於テ各関係者会集打合ヲ為スコトニ決シ当日奉天特務機關公館ニ於テ軍部、憲兵隊、警務局、滿鉄等各関係当局者会集シ宣統帝溥儀旅順仮館出發長春ニ赴ク途中沿道ノ警衛問題ニ付協議ノ結果付属地内ニ於ケル警戒ハ我軍警之ニ当リ付属地外ハ支那側之ヲ行フヲ本旨トシ旅順、大連間ハ自動車ニ依リ私服憲兵、警察官ノカ警戒ニ当リ大連沙河河口駅ヨリ私服憲兵二名私服警察官一名警護者二名従者七名ヲ以テ警衛警戒ニ任シ湯崗子迄ハ密行ノ形式ヲ採リ同地ニ一応下車シ湯崗子ニ於テ新満州政府ヨリノ迎接使ノ到着ヲ待ツテ正式ニ出發スルコトトナシ同地滞在中ハ常駐独立守備隊兵十二名ノ外ニ將校以下若干名ヲ配置スルノ外警部補二名巡查十六名警戒ニ当リ湯崗子出發後ノ警乗ハ私服憲兵將校、警視ノ

外憲兵五、私服將校一、警察官五、独立守備隊五名ヲ以テ当リ沿道警戒ハ主トシテ独立守備隊之ニ当リ人家ニ接近セル地点及駅構内踏切等ハ警察官憲兵之カ警戒ニ任スルコトナシ之カ為メ満鉄ハ湯崗子ヨリ特別列車ヲ仕立テルコトナレリ
尚長春駅到着ノ際ハ吉林省長、独立守備隊司令官、吉長鐵路守備隊司令官、各省長及省長代理張海鵬其ノ他車窓ヨリ一斉ニ行札シ終リテ行札者駅長ノ先導ニ依リ地下道ヲ経テ直ニ駅玄関ヨリ自動車ニ移乗シ日本橋通ヨリ商埠地ヲ経テ仮執政府ニ入ルコトス尚駅構内及之カ道筋ニハ我守備隊憲兵、警察官ヲ適當ニ配置シテ警戒ニ任スルノ外駅前広場ニハ儀仗トシテ吉長鐵路守備隊ヨリ二ケ中隊、市公安局、県公安局ヨリ巡警各百名ヲ堵列セシメ一般警戒ニ任スルコトセリ

四、執政溥儀出苑

(1) 旅順出苑

斯クテ三月六日午前七時三十分溥儀ハ側近者鄭孝胥、鄭垂（親子）羅振玉、羅振邦（親子）其ノ他ヲ從ヘ上角利一、工藤鉄三郎、甘粕正彦等ト一行三十名ハ自動車八台ニ分乗シ旅順飯館ヲ出苑シ大連沙河口駅ニ向ヒ同九時八分同駅発列車ニテ出苑同日午後零時四十三分湯崗子ニ下車シ對翠閣ニ滞在シ茲ニ新政府ヨリノ迎接使ノ到着ヲ待ツコトセリ尚之等一行

ニ遅ルコト約一時間即チ午前九時五分執政妃鴻秋ハ万繩枕外十名之ニ扈從シ自動車ニテ旅順出苑同十時三十九分沙河口駅発列車ニテ同駅出苑午後六時八分無事湯崗子ニ到着シ一行ノ滞在セル對翠閣ニ入リタリ

(2) 迎接使

然シテ一方奉天ニ於テハ張景惠、趙欣伯、凌陞、趙仲仁、謝介石、馮涵清、李榮、鮑觀澄、張景弼、吳傑民、蘇正格、錢穆孫、新井顧問、張秘書等十名迎接使トシテ七日午前十時十五分奉天発列車ニテ出苑午後零時四十分湯崗子ニ到着シ直ニ對翠閣ニ入リタルカ各迎接使共翌八日溥儀ニ扈從シ奠都タル長春ニ向フコトセリ

(3) 湯崗子出苑

翌三月八日午前七時三十分溥儀ハ對翠閣庭前ニ於テ各新聞記者ヲ召シテ次ノ如キ挨拶ヲ為シタリ

「余ハ満州国三千万民衆ノ切ナル懇望ニ依リマシテ只今ヨリ当地出苑新國都長春ニ向ヒマス何レ執政就任ニ際シ余ノ信スル処ヲ宣布スル考テアリマスカ不取敢來集ノ記者諸君ノ熱意ニ對シ深甚ナル敬意ヲ表シマス」

右挨拶終ルヤ直ニ旅館ヲ出テ我私服憲兵ノ先導ニテ溥儀夫婦及扈從者一行同地駅ニ赴キ貴賓室ニ於テ少憩ノ後特別列車ニ

テ午前八時湯崗子駅出苑一路長春ニ向ヒタリ

(4) 長春到着

而シテ一行ハ途中公主嶺迄出迎ヘタル吉林長官熙洽、蒙辺督弁張海鵬、吉林省財政厅长榮厚其ノ他ノ案内ノ下ニ予定ノ通り同日午後三時長春駅ニ到着シ列車内ニ於テ蒙古王齊王、凌陞、馬占山、金壁東、森独立守備隊司令官、小川第一大隊長、田代領事等ノ伺候ヲ受ケ長春全市日滿官民各界代表等歡迎裡ニ駅ヨリ自動車ニテ日本橋北大街ヲ経テ北門外東六馬路ヨリ長春市政府（新政府外交部）ニ無事到着シ執政居室ニ於テ側近扈從者ヨリ無事安着ノ挨拶ヲ受ケタリ

五、首都市民ノ歡迎

当日駅前広場並ニ通過沿道ニ於テハ内外人多數堵列シ何レモ衷心ヨリ歡迎シ近來稀ニ見ル盛況ヲ呈シタリ尚城内ニ於テハ商民一般何レモ新國旗ヲ掲揚シ夜間ハ給行燈ヲ掲ケテ歡迎ノ意ヲ表シ又新國家慶祝委員會ニ於テハ各宣伝員ヲシテ城内外一円ニ亘リ牆壁電柱等ニ新國家ニ對スル歡迎標語並宣伝文數種ヲ貼付セシメ又馬車自動車ニハ一律ニ新國旗（小旗）ヲ掲ケシメ遍ク新興國家ノ慶祝ヲ徹底セシメタル為メ歡迎奉祝気分全市ニ漲リ未曾有ノ盛觀ヲ呈シタリ一方長春市公安局ニ於テハ管内各分所及保安隊ノ総動員ヲ行ヒ七日午後五時ヨリ一斉ニ特別警戒ヲ開始

シ督察長ノ指揮スル便衣警戒員ハ管内各宿屋料理店劇場等ノ檢索ヲ行ヒ公安隊長ノ指揮スル制服隊ハ市内各要所ニ立哨スル外各戸ニ付キ搜索的戸口調査ヲ実施スル等執政長春着前ノ警戒最モ周密ヲ極メ尚其ノ後モ引続キ巡察隊ヲ組織シテ間斷ナク市内ノ巡邏ヲ行ヒ嚴重ナル警戒ヲ実施セリ

六、執政就任式

新國執政就任式ハ三月九日午後三時ヨリ長春假執政府ニ於テ張景惠、齊王、凌陞、熙洽、馬占山、張海鵬、臧式毅、各省文武官及民衆代表並ニ日本側本庄閣東軍司令官、内田滿鉄総裁、林閣東庁警務局長、森独立守備隊司令官、二宮憲兵隊長、小林海軍少將、田代長春領事、石射吉林総領事、板垣參謀、森岡奉天領事、大迫中佐等列席ノ上挙行同二十五分終了シ引統庭前ニ於テ國旗掲揚式ヲ行ヒ後記念撮影ヲ為シ祝宴ニ移リ約三十分ニシテ解散シタリ此ノ間絶ヘスラヂオ放送ヲ行ヘリ式次第並ニ執政宣言等次ノ如シ

(1) 就任式次第

1、奏樂

2、参列者入場

行政委員會委員、蒙古三公、各省文武官、各省民衆代表、來賓

奉天付属地商務会長	李 玉 樞
東三省民報社長	張 夢 九
瀋陽県自治委員会会長	于 繼 昌
奉天省政府代表	陳 玉 銘
奉天交通委員会会長	丁 鑑 修
奉天市商会代表会長	方 煌 恩
奉天省農会代表	劉 宝 恩
奉天省教育会代表	房 向 春
2、吉林側	
省 長 官	熙 治
省長官公署高等顧問	榮 厚
省長官公署高等顧問	鍾 毓
吉林永衡官銀号総弁	劉 煥 芳
吉林財政庁長	孫 其 昌
吉林交渉署長	謝 介 石
吉林教育庁長	榮 孟 枚
吉海鐵路総弁	艾 迺 芳
吉林全省警務処長	修 長 余
吉林民政庁長	王 惕 卿
吉林実業庁長	張 燕 卿

吉林憲兵隊長	張 祥 廉
吉林高等法院長	富 春 田
吉林省印花処長	張 書 翰
穆稜煤鋁公司督弁	馬 德 恩
長春市長	趙 汝 棐
吉林交渉署参事官	孫 輔 忱
長春商会代表	史 煥 亭
吉林電燈廠長	林 鶴 泉
吉林市政籌備処長	程 科 甲
吉林工商會長	江 宗 德
吉林各県代表	関 長 慶
同	李 英 佐
同	張 文 楷
同	三 希 堂
同	謝 雨 琴
同	程 坤 元
同	沈 同 瑞
吉林省八旗代表	鐘 同 嶽
長春付属地商務会代表	左 春 榮
寛城子商務会代表	李 明 恩

3、執政就任	
4、一同起立最敬礼	
5、執政答礼	
6、国璽捧呈 (張景惠)	
執政璽捧呈 (戚式毅)	
7、執政宣言 (鄭孝胥代読)	
8、来賓敬礼	
9、執政答礼	
10、来賓祝詞 (内田満鉄総裁)	
11、執政答詞 (宝熙代読)	
12、閉 式	
13、奏 楽	
14、執政退出	
15、一同退出	
(2)執政宣言	
人類ハ須ク道德ヲ重ンスヘキニ種族ノ別アリ則チ他ヲ抑制シ己ヲ稱揚ス其ノ道德タルヤ甚タ薄シ人類ハ須ク仁義ヲ重ンスヘキニ國際間ノ争アリ則チ人ヲ損シ己ヲ利ス其ノ仁愛タルヤ甚タ薄シ今我國ヲ建立スルニ当リ道德仁愛ヲ以テ主トナシ種族ノ別及國際間ノ争ヲ除去セハ正ニ王道樂土ノ実現ヲ見ルヘ	

シ凡ノ我國民タル者務メテ之ヲ勉励セヨ	
(3)執政答詞	
我東北三千万民衆カ満州独立国ノ成立ヲ宣言セシ以来予ニ再三新國家執政ノ撰行ヲ乞ハル惟フニ満州ハ予ノ祖宗發祥ノ地ニシテ茲ニ重ネテ推戴ヲ受ケ竟ニ辞退シ難ク止ムナク之ヲ受諾ス今日滿鉄総裁閣下並ニ貴賓各位ノ御來臨ヲ得町重ナル祝詞ヲ受ケ感謝ニ不堪予德薄クシテ才鮮シ只管期待ニ副ハサラシコトヲ懼ル願ハクハ国交ヲ親睦ニシテ民意ヲ尊重シ外ニ和シ内ヲ輯メ以テ東亞ノ榮光ヲ發揮セシメントス是レ則チ各位ト共ニ欣快トスル所ナリ茲ニ謹ンテ答謝ス	
(4)就任式列席者	
1、奉天側	
省 長	臧 式 毅
省長公署参議	王 慶 璋
省長公署秘書	李 其 毅
遼西十三県代表	張 其 昌
奉天中部十五県代表	謝 桐 森
奉天南部十一県代表	侯 顯 謀
奉天東部十七県代表	孫 煥 章
奉天駐在班禪公務処長	羅 崇 嘉

吉黒樵運局長	魏 宋 蓮
吉林全省硝磺総局長	梁 廷 栢
長春教育局長	張 祖 田
3、黒竜江省側	
省 長 官	馬 占 山
省長官公署秘書	韓 雲 楷
同 委 員	趙 仲 仁
黒竜江省民治指導会代表兼全省代表	潘 淵 竜
同	関 溥 濤
同	李 師 汝
同	鄂 昌 勲
同	許 蘭 坡
4、哈市特別区側	
東北行政委員長	張 景 恵
哈爾賓江防艦隊部参謀長	范 熙 申
東省鐵路総弁	李 紹 庚
同 理 事	金 榮 桂
哈爾賓特別市代表	許 永 銘
東省鐵路々警処諮議	劉 永 銘
浜江市政籌備処長	趙 伯 俊

浜江市商會長	張 沖
哈爾賓駐在黒竜江交渉総弁	馬 忠 駿
東北特別区高等法院長	陳 克 正
特別区行政長官公署政務庁長	宋 文 林
浜江地方法院長	郭 芸 林
紳士代表	姚 香 齡
5、蒙古側	
蒙辺督弁	張 海 鵬
同公署参議	広 綸
呼倫貝爾新巴爾虎右翼總管輔国公	巴 嘎 巴 迪
副都統公署右庁幫弁	蘇 勒 巴 阿
同 左庁幫弁	倭 克 吉 布
副都統公署鄂署特総管輔国公	凌 陸
哲里木盟科爾沁左翼中旗貝子	色 拉 哈 旺 珠 爾
同右翼中旗札薩克公署交渉長	烏 勒 吉 都 楞
哲里木盟長	齊 默 特 色 木 丕 勒
同 盟代表	蘇 玉 書
6、宣統帝側近旧臣	
内務大臣代表	宝 熙
宣統帝弟	溥 佳

京師憲兵司令	德 楞 額
宣統傳育	鄭 孝 胥
同	羅 振 玉
7、日本側	
本庄関東軍司令官	
内田満鉄総裁	
森独立守備隊司令官	
林関東庁警務局長	
板垣関東軍参謀	
小林海軍少将	
石射吉林総領事	
川石満鉄理事	
村田黒竜江省顧問	
大迫中佐	
田代長春領事	
金井奉天省政府顧問	
三橋吉林省顧問	
中野自治指導部顧問	
土岐陸軍参与官	
住友関東軍副官	

二宮関東憲兵隊長	
滝川哈爾賓領事	
駒井関東軍特務部長	
和智、林両参謀	
森岡奉天領事	
新聞記者其ノ他二十二名	
140 昭和7年3月15日 在ハルビン長岡総領事代理より 芳沢外務大臣宛	
満州国建国祝賀会における鮑ハルビン特別市市長の演説について	
付属書 鮑市長演説内容	
公信普通第一二三号	
満州国建国祝賀会ニ於ケル哈爾賓特別市市長鮑 観澄ノ演説報告ノ件	
本月十一日当地東支倶楽部ニ於テ建国慶祝委員会カ多門師 団長以下在哈中ノ我軍将校及主要内外人ヲ招宴シタル件ニ 関シテハ曩ニ電報ノ次第アル処其ノ席上主人役タル特別市	
ハルビン 3月15日付 本 省 3月24日着	

市長鮑觀澄ノ為シタル演説ノ邦語訳概要左ノ如ク右ハ同市長ニ於テ支那語及英語ヲ以テ之ヲ行ヒ更ニ通訳ヲシテ夫々邦語並露語ニテ朗読セシメタルモノニシテ相当案ヲ練リテ作リ上ケタル一種ノ宣言トモ見ルヘク從テ当地支那人側トシテ想到シ得ラルル新興國發生ノ由來及其ノ理想並ニ抱負ヲ宣明シタルモノト認メラル

右報告ス

本信写送付先

在中華民國公使 北平参事官 奉天 吉林 長春 齊
齊哈爾 滿州里各総領事領事

(付屬書)

左 記

我等三千万民衆カ日夜渴望シテ止マス又先進領袖諸公カ長時日ニ亘リ計畫セル新國家モ愈々先日元首ノ正式就任ニヨリ國基是レヨリ堅固トナリ氣象一新ノ局面トナリ慶賀ノ至リテアリマス、我等市民ハ昨日既ニ盛大ナル慶祝ノ大会ヲ舉行シマシタカ今夕今一度賀宴ヲ開キ中外來賓各位ト共ニ祝杯ヲ挙ケテ此ノ喜ヒヲ共ニスルヲ得ル事ハ私共一同感激ニ堪ヘナイ次第デアリマスカ茲ニ一言我新國家ノ立國方針

云ヘハ國民自己ノ損失テアリ道德的ニ言ヘハ人類愛ノ精神ニモ悖ル次第デアリマス我等今回ノ建國ハ当然全力ヲ竭シテ富源ノ開發ニ基調ヲ置キマス、又一面ニ於テ國民ノ生存權問題ヲ解決シ一面ニ於テ目下全世界ヲ脅威シテ居ル經濟恐慌、各大都市ヲ悩マシツアル不景氣ノ緩和、解脱ニモ少ナカラス貢獻シ得ルコトト信シマス從テ此ノ開國ノ盛典ヲ慶賀スルコトハ只々我國民ノ慶賀ノミニ止マラスシテ全世界ノ各國苟クモ此經濟恐慌潮流中ニ渦マカルモノハ皆同慶ノ心理ヲ持ツモノト存シマス、御承知ノ通り当哈爾濱市ハ從來華洋雜居ノ都市テ今迄ト雖モ國籍ヲ超越シテ各其ノ長トスル所ヲ發揮シ各其ノ專業ニイソシンテ今日ノ繁盛ヲ來タシタノデアリマスカ不肖市長ノ職ヲ忝ウシテ爾以上万一以前國別ノ差異ニヨリ十分其ノ事業ヲ發展シ得ナカシタ様ノ障礙カアルトセハ私ハ今カラ拳ツテ此等ノ障礙ヲ一切排除シ各其ノ欠ヲ充タラシメンコトニ努力スル考デアリマス

要之有無ハ之ヲ相通セシメ優劣ハ之ヲ相依ラシメ大小ハ之ヲ相助ケシメ強弱ハ之ヲ相頼セシメ以テ我等ノ理想トシ相互扶助ノ精神ヲ徹セシメ私等ノ大同主義ヲ以テ實現セシメ

ニ関シ述ヘタイト存シマス、今回新國家ノ成立ハ從來ノ如キ一二人ノ私欲ノ為メ武力ヲ藉リテ一切民衆ノ生活ヲ顧ミナカツタ所ノ一般政權ノ成立トハ事異リ、コレハ全然民意ノ上ニ立チ大勢ニ順応シタ所ノモノテ其ノ動機タルヤ時代ノ需要ニ応シ其ノ目的タルヤ全國民ノ生存權解決ニアルノデアリマス從テ根本的ニソレハ純潔ナル理想公正ナル精神ニヨリ出來タモノテ實ニ之ヲ天地ニ建シテ悼^(マツ)ラス之ヲ鬼神ニ質ネテ疑ナキモノデアリマス、凡ソ我等ノ將來ノ一切ノ建設ハ一庶一富一教ノ三段ノ上ニ立ツテ居リマスカ之ヲ近代語テ言ヘハ即チ(一)移民ノ歡迎(二)生活ノ改良(三)教育ノ普及ソレデアリマス、從ツテ政權成立ノ当初ニ於テ「門戶開放、機會均等」ヲ標榜シタ次第デアリマシテ私等ハ歴史のニ地理的ニ特殊利益ヲ有スル接壤隣邦トハ充分提携スル國策ニヨル外我等ハ如何ナル他ノ國家ト雖モ我新國家ノ目的達成ニ援助ト同情トヲ与フモノハ彼此ヲ分タス物質方面ニモセヨ人材方面ニモセヨ一律ニ歡迎シテ止マナイ積リデアリマス、換言スレハ我等ハ自動的ニ門戶開放、機會均等ノ立場ニ立テ居ルモノデアリマス、滿州ハ世界有數ノ天賦ノ區テ寶藏ヲソノママ埋没シテ開發シナイコトハ經濟的ヨリ

ント欲シマス以テ茲ニ於テ此世界ノ最大樂土タルヘキ新國家ノ内ノ哈爾濱ヲシテ同時ニ世界中ノ最平和的、最理想的、最繁榮の大都市タラシムルコトカ出來ルノデアリマス、コレハ私カ日夜戦々兢々自ラ勵メントスル所デアルト同時ニ御臨席諸君ニモ此ノ大理想到達ニ對シ充分ノ御指導ト御援助ヲ願テ止マナイ次第デアリマス

141 昭和7年3月15日

在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛

長春を京師と改称について

長春 3月15日付
本省 3月22日着

公信普通第一二九号

長春ヲ改称シテ京師トセル次第報告ノ件

本月九日滿州國執政長春ニ於テ就任中央機關ヲ當長春ニ創設シテ首府トナルヤ滿州國政府ハ全國各地方当局ニ對シ以後長春ヲ京師ト改称スヘキコト即チ長春市ヲ京師特別市、長春警衛隊ヲ京師警衛隊ト称スヘシト訓令セリ尚對外的ニハ新京長春ト称スルコトニ發表セリ

本信写送付先 在華公使 北平 天津

在滿各総領事 領事 分館主任

142 昭和7年3月15日 在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛

満州国成立に関する謝外交部総長の対外声明

送付について

付属書 同日付在長春田代領事より在中国重光公使他宛

右対外声明

長春 3月15日付
本省 3月22日着

公信普通第一三〇号

一、満州国外交部総長ノ対外独立声明電送付ノ件
昭和七年三月十五日付合領第八一号

(付属書)

3月15日付

公信普通

満州国外交部総長ノ対外独立声明電送付ノ件

既電新国家満州国外交部総長謝介石ノ本月十二日付対外同
文電報原文ハ別紙写ノ英文ニシテ發送先ハ日、英、米、
仏、独、伊、蘇連、澳太利、白耳義、丁抹、和蘭、ヘモノ

ニヤ、ラトビヤ、リトアニア、波蘭、葡萄牙、チェッコノ
十七ヶ国外務大臣、外務卿、外務委員ナル趣ナリ

本信發送先 在華公使 北平 天津

在滿各総領事 領事 分館主任

本信写送付先 外務大臣

(別紙)

DEPARTMENT OF FOREIGN AFFAIRS
THE STATE OF MANCHURIA
(TRANSLATION) CHANGCHUN

March 12th, 1932

Sir:

I have the honor of informing you that the Provinces
of Fengtien, Kirin, Heilungkiang and Jehol, the Tung-
sheng Special District and Mongolian Mengs (Leagues)
under several Banners have united themselves to estab-
lish an independent government severing their relations
with the Republic of China and created "Man-Chou-
Kuo" (the State of Manchuria) on March 1st, 1932.

It must be known to you that the old military

life of the people and to exert all possible power for
the promotion of their happiness and peace.

As regards the relations with foreign nations it has
been definitely decided that the diplomatic intercourse
shall conform to the several principles hereinafter
stated:

1. That the Government shall conduct the affairs
of the State according to the primary principle
of faith and confidence and the spirit of harmony
and friendship, and pledges to maintain and
promote international peace.
2. That the Government shall respect international
justice in accordance with the international laws
and conventions.
3. That the Government shall succeed those liable
obligations due the Republic of China by virtue
of treaty stipulations with foreign countries in
the light of the international laws and conventions
and that these obligations shall be faithfully

discharged.

4. That the Government shall not infringe upon the acquired rights of the peoples of foreign countries within the limits of the State of Manchuria, and further that their persons and properties shall be given a full protection.

5. That the Government welcomes the entry of the peoples of foreign nations into and their residence in Manchuria and that all races shall be accorded an equal and equitable treatment.

6. That the trade and commerce with foreign countries shall be facilitated thus contributing to the development of world economy.

7. That with regard to the economic activities of the peoples of foreign nations within the State of Manchuria, the principle of the Open Door shall be observed.

It is the earnest desire of this Government that your Government will fully understand the purport of the

establishment of the State of Manchuria hereinbefore stated and that formal diplomatic relations be established between your Government and the State of Manchuria. With the assurances of my highest esteem and distinguished consideration.

Respectfully,

Hsieh Chieh-shin

Minister for Foreign Affairs

March twelfth, The First Year of T'a-tung

143 昭和7年3月17日 在ハルビン大橋総領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

満洲国国旗の海関掲揚拒否に関するハルビン
税務司の内話について

ハルビン 3月17日後発
本省 3月17日後着

第三〇六号(暗)

当地税務司「ブレットジョン」昨十六日館員ヲ来訪ノ上最近海関監督日本人顧問来哈シタル後監督側ヨリ海関ニ新国

家国旗掲揚方ヲ強制シ来リタルモ同人トシテハ從來ノ国民

党旗ニ代フルニ海関旗ヲ以テスルハ可ナルモ中央政府ヨリ任命サレ居ル自分トシテハ新国家国旗掲揚要求ニハ応ジ難キニ付然ルヘク顧問へ御執成シアリタシト述へ尙自分

(「ブ」)ハ既ニ二十七年間支那海関ニ勤務シ一年半後ニハ一万二千磅ノ「ペンション」ヲ貰ヒ帰国スルコトニナリ居ル処海関問題ハ列国ノ利害関係大ナルニ付事ヲ急イテ徒ニ「トラブル」ヲ起スハ御互ニ不利益ナルヘク若シ監督側ニ於テ強制接收ノ態度ニ出ソレハ自分ハ当地ヲ去ルノミナリトシテ嘆願的乍ラ強硬ナル語氣ヲ漏ラシタル趣ナリ御参考

迄
支、北平、奉天、長春、安東、牛莊、間島、満州里へ転電
セリ

144 昭和7年3月(17)日 在ソ連広田(弘毅)大使より
芳沢外務大臣宛(電報)

万国寶などモスクワ着の情報について

モスクワ

本省 3月17日後着

第一八五号(暗)

貴電第一一八号ニ関シ

齊肇予、万国寶及馬(馬占山ノ息)ノ外馬夫人「ブラゴエ」副領事張大田及通訳ハ十四日当地着莫德恵ハ予テ電報ニ接シ居タル為使者ヲ停車場ニ派シ出迎ヘシメ其一部ハ莫方ニ止宿ス一行ハ当地ニ約一週間滞在後独逸ニ赴クヘク莫夫妻モ多分其頃独逸ニ赴クコトナルヘシ尚満州新政府ヨリ莫ニ宛テ李紹庚カ東支督弁代理ニ任命セラレタル旨ノ電報アリタリ(王曾思ノ天羽ニ対スル談話)

145 昭和7年3月18日 芳沢外務大臣より
在長春田代領事宛(電報)

在満日本領事より満洲国あて公文の形式について

第一四号(暗)

本省 3月18日発

新国家側官憲ニ対シ在満帝国領事ヨリ公文発送ノ必要アル場合ニハ其ノ形式トシテハ帝国ノ新国家ニ対スル特殊ノ関係等ヲ考慮スルト同時ニ我方ニ於テ国際法上新国家ヲ默示的ニ承認シタル形トナルカ如キ事ハ之ヲ避クルノ要アルニ顧ミ左記ノ形式ニ依ル事トシタルニ付右御含ノ上可然御取

計アリ度

一、奉天、吉林、黒竜江等ノ省長宛ノ分ニ関シテハ相手方ノ官名全部及自己ノ官名ヲ記スルコト

二、新国家ノ外交総長又ハ外交部ニ宛ツル場合ニハ領事ノ官氏名又ハ領事館名ヲ記スルハ差支ナキモ相手方ノ名宛ニハ「満州国」ナル文字ヲ付加スル事ハ何レノ場合ニモ避クルコトトシ必要ニ応シ左記五種ノ形式ノ何レカニ依ルコト

(イ)一人称ノ書翰トシテ相手方ノ宛名ハ全然記載セス単ニ領事館名ヲ記スルカ（大正二年十月五日付満蒙鉄道借款修築ニ関スル交換公文参照）（往電第十五号ノ例）

(ロ)三人称ノ覚書若クハ節略トシ其ノ本文中ニ相手方ノ名ヲ引用スル場合ニハ官名ヲ付記セス単ニ氏名ノミヲ記載スルカ又ハ

(ハ)一人称ノ書翰トシ宛名トシテハ相手方ノ官名ヲ除キ氏名ノミヲ記載スルコト

ヲ原則トシ諸般ノ関係上已ムヲ得サル場合ニハ

(ニ)三人称ノ覚書又ハ節略トシ其ノ本文中ニ相手方ノ名ヲ引用スル場合ニハ単ニ「外交総長謝介石」若クハ「外

交部」ト記載スルカ又ハ

(ロ)一人称ノ書翰トシテ宛名ハ「外交総長謝介石」トスルコト（一九二七年九江租界ニ関スル英支交換公文参照）

訓令トシテ在満各領事（分館ヲ含ム）ニ転電アリタシ

146 昭和7年3月18日 芳沢外務大臣より
在長春田代領事宛（電報）

満州国成立通告に対する回答について

別電 同日芳沢外務大臣より在長春田代領事宛第一五号

号

右回答

本省 3月18日発

第一六号（暗）

満州国成立通告回答ノ件

貴電第七一号ニ関シ

謝介石ニ対シ別電第一五号ノ通り通告セラレ度

別電ト共ニ支、北平、南京、広東、米、連盟ニ転電シ米ヲシテ加奈陀、玖馬、墨国、伯国ニ転電セシメ伯国ヲシテ南米各公使ニ転電セシメ又連盟ヲシテ在欧大公使ニ転電セシム在満領事ニ可然転報アリ度

（別電）

第一五号（暗）

満州国成立通告回答ノ件

拝啓陳者本日芳沢外務大臣ヨリ同大臣ニ於テ十二日付貴信ヲ接受セル旨及同大臣ハ右通報ノ如ク新政府ニシテ住民ノ幸福ト平和ノ向上ニ努力シ又涉外関係ニ付テハ条約ヲ尊重シ外国人ノ生命財産其他權益ヲ保護シ又門戸開放ノ主義ヲ格守スル等公正妥当ノ方針ニ依リ措置セラルルニ於テハ右ハ極東ノ平和ヲ維持シ人類ノ寧福ヲ増進スル所以ニシテ新政府ノ前途ノ為歓迎スヘキ事ト思考シ居ル旨電報ニ接シ候条右御通報旁々得貴意候

年 月 日

在長春日本帝国領事館

147 昭和7年3月19日 在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛（電報）

満州国成立通告に対する回答発出について

長春 3月19日後発
本省 3月19日後着

第八一号（暗）

（四六文書）
貴電第一六号ニ関シ

本十九日謝介石ニ通告シ置ケリ

公使、北平、南京、在満各領事ニ転電セリ

148 昭和7年3月21日 ※在ハルビン大橋総領事より
芳沢外務大臣宛（電報）

満州里およびハイラルにおける新国旗掲揚の

状況について

ハルビン 3月21日前発
本省 3月21日後着

第三二〇号（暗）

満州里発本官宛電報第二九号

本官発大臣宛電報

第四六号

従来海拉爾蒙古政府以外種々ノ口実ヲ設ケテ新国旗掲揚ヲ肯セサリシ当地方各機関ハ其後漸ク満州新事態ノ認識ト新国家ヨリノ訓令モアリ本廿日ヨリ当地及海拉爾ノ護路軍司令部市政籌備処及県公署ハ一斉ニ新国旗ヲ掲揚セルカ税関郵便局及電信局ハ民国系統ノコトトテ依然旧国旗ヲ掲ケ警察署市政公署学校等ハ東支特別区機関タル為カ新旧何レノ

国旗ヲ掲揚セス

哈爾濱ヨリ外務大臣、在支公使、北平、奉天、長春へ転電アリタシ

哈爾濱、齊々哈爾ニ転電セリ

149 昭和7年3月23日 芳沢外務大臣より
在長春田代領事宛(電報)

滿州国成立通告に対する反応調査について

本省 3月23日発

第一七号(暗)

滿州国承認関係

二十日長春發電通ハ十二日付謝介石通電ニ対スル各国ノ回電ハ十八日仏及伊十九日日本二十日「エストニア」ノ四ヶ国ノ分到着シ爾余各国ヨリモ統々回答到着ノ模様ナルカ外交部ハ右ハ新国家承認ノ前提ナリトシ喜ヒ居ル趣報シ居ル処右真相御確メノ上回電アリ度
支、北平、奉天へ転電セリ

150 昭和7年3月26日 在上海重光公使より
芳沢外務大臣宛(電報)

大連海關の現状変更回避について

上海 3月26日後発
本省 3月27日前着

第五七五号(暗)

本官發奉天宛電報

第一六号

本庄司令官ニ松岡ヨリ左ノ通御伝ヘアリ度シ

新政府側ヨリ最近大連ヲ含ム在滿海關ハ外債償還額ヲ除キタル関稅剩餘ヲ差押フヘシトノ内容ヲ有スル通牒ヲ總稅務司ニ向ケ送達中ナル趣ノ処当方面ノ支那側ハ勿論列國側ニ多大ノ衝動ヲ与ヘ居ル模様ナリ然ルニ此ノ際急速ニ滿州關稅ノ現状ヲ變更スルカ如キ行動ニ出ツルノ結果連盟及英國等ノ感情ヲ刺戟スルコトハ折角築上ケツツアル建國ノ偉業ノ完成ニ障礙ヲ及ホスモノニシテ大局上得策ナラスヤト認ム又帝國ハ從來關東州租借地ノ行政權ニ對シ滿州政權ヲシテ一指ヲモ染メシメサルノ方針ヲ堅持シ来リ且日支間大連稅關設置ノ協定現存セル關係ニモ鑑ミ大連稅關ノ現状ヲ變更シ又ハ其ノ稅收ヲ差押フルカ如キ新國家ノ措置ヲ認容スルカ如キハ帝國ノ威信問題ナルノミナラス從來支那側

事項2 滿州国の成立と日本の承認

ノ條約違反ヲ責メツツアル我立場ヲ困難ナラシムルモノナリ今日新政府ノ執リ得ル措置ハ大連ヲ除ク滿州海關ノ關稅剩餘ヲ差押ヘ(大連ニハ直接、間接トモ全然手ヲ触レス)爾余ノ措置ニ付テハ徐ニ時機ノ到来ヲ待ツノ一途アルノミニシテ之カ実行ニ際シテハ予メ充分總稅務司等ト妥協ニ努ムルヲ適當ト存ス要スルニ枝葉ノ問題ニテ新國家ノ將來ニ累ヲ及ホス惧アルコトハ此ノ際努メテ之ヲ避クルコト賢明ナラスヤ事態切迫セルモノアルニ付特別ノ御考慮ヲ煩度シ
尚右ニ關スル前途ノ御見込御回示ヲ請フ
大臣へ転電セリ

151 昭和7年3月26日 在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

郵政接收に関する協議内容について

奉天

本省 3月26日後着

第四六〇号(暗、極秘)

最近当地支那側郵便局ニ於テハ郵政ノ接收ヲ予期シ從來十日目毎ニ南京宛送付シ居リタル收入金ヲ三日目毎ニ送金シ又營造物ヲ第三人名義ニ書換ヘントスル模様アリ此緊急

速ニ郵政ヲ接收スルニ非サレハ新國家ノ為不利ヲ来スコト明カト認メラレタルニ依リ二十四日軍幕僚、桜井關東庁逋信局長、藤井逋信事務官及本官等協議ノ結果大要左ノ通り下相談ヲ纏メタリ

第一、接收ノ時期

新國家ニ於テハ可及的速ニ郵政回收ニ着手スルヲ適當トスヘシ

第二、接收方法

一、外國人ニ對シテハ其身分(「ペンション」ヲ含ム)ヲ保障シ新國家ニ對シ忠誠ヲ誓フニ於テハ改メテ新規採用

條件ヲ以テ留任セシムルモ差支無キコト

二、從事員ノ動搖ヲ防ク為接收着手ト同時ニ奉天及哈爾濱ノ兩管理局長ニ對シ新國家ニ忠誠ヲ誓フモノハ繼續使用スヘキ旨ヲ内示スルコト

三、郵便貯金ハ總額百万円内外ヲ出テサルニ依リ新國家ニ於テ支払ノ義務ニ応スルコト

四、營造物並運用資金ハ即時押収スルコト

第三、接收後ノ措置事項

一、各國ノ新國家承認問題ハ暫ク別トシ接收後直ニ万国郵

万国郵便連合に加入申込について

奉天
本省 3月26日後着

第四六一号（暗、極秘）

（一五二文書）
往電第四六〇号ニ関シ

（一）郵政接收後ノ措置事項トシテ万国郵便連合ニ加入申込ヲ為ス事ハ新国家ニ対スル外国ノ承認前ニ於テハ実効ヲ奏スル事無キモノト認メラレタルモ通信省側係員ノ希望モアリ且先般ノ対外通告ト同様別段実害無キモノト認メタルニ依リ同意シ置キタリ

（二）郵便切手ハ従来南京ヨリ送付ヲ受ケ居リタル処現在在庫品約三ヶ月分ヲ余スニ過キサルヲ以テ其中満州国内使用ノ分トシテ新切手ヲ調製シ現在ノ在庫品ヲ引延ハシ対外郵便物ノミニ使用スル事トシ右期間中ニ於テ対外郵便物ニ対スル措置方法ヲ慎重考究スル事ナルヤモ知レス
前電ノ通転電セリ

153 昭和7年3月26日 在吉林石射総領事より
芳沢外務大臣宛

一 中国人官吏の満州国観について

ナリ聊カ望ヲ囑シ得ルハ臧式毅ナルカ此人ハ出盧以来嘗テ意見ヲ出サス消極主義ニ隠レ居ル有様ニテ如此首脳者ヲ以テシテ果シテ新政府ヲ維持シウヘキヤ心許ナシ是レ有識者間ニ一貫スル懸念ナリ

二、新国家ナルモノニ対シ賛成ト反対トアルハ免レサルコトナルモ反対論ハ満蒙ハ最早ヤ日本ニ奪ラレタルモ同様ニテ次ニ来ルヘキモノハ併合ナリ吾人ハ斯ノ如キ状態ニ甘ンスルヲ得ス南方ト協力シテ満蒙ヲ回復セサルヘカラスト為スモノニシテ下級官吏ノ一部分及在満南方人ノ殆ント総テハ斯ノ如キ考ヲ持チ居レリ是ニ対シ賛成論者ハ民国革命以来ノ稅政カ日本ノ手ニ依リテ艾除サレ其ノ支持ニ依リテ新国家カ生レタルハ却テ幸ヒト謂フヘク斯クナリタル上ハ何処迄モ日本ニ頼リ行ク行クハ立派ナ国家ニ仕立テ上ケ日本ト対等ノ國際關係ニ到達スヘキコトヲ理想トシテ進ムヘキモノナリ満蒙ニ三千万ノ支那人カ存スルコトハ力強キ事実ニシテ此ノ民衆ノ意思ハ日本モ無視シ得サルヘク万一日本ニ併合セラルルモ東亞カ乱レテ白人ノ手ニ支配サルヨリハ幾分ニテモ増シニアラスヤト為スモノニシテ此論者ハ土着ノ有識者ニ多シ

便連合ニ加入申込ヲ為スコト

二、連合国ニシテ郵便及為替ノ交換ヲ拒絶スルモノアル場合ハ第三国ニ於テ媒介ノ任ニ当ル等適當ノ方法ヲ講スルコト

三、南京政府ト新国家間ニ紛糾起リタル場合ハ國際郵便（為替ヲ含ム）等ノ關係モアルニ付業務關係ノ事項トシテ関東庁通信局便宜取扱方ヲ兩者間ニ斡旋スル等ノ方法ニ依リ解決ニ努ムルコト

第四、郵便切手及葉書ニ関スル事項

一、現行ノ切手及葉書在庫品ハ其儘使用スルコト

二、在庫品尽キタル時ハ新規ニ調製使用スルコト（外国特別郵便物ニ使用セサル建前ナルコトハ前記第三ノ二ノ通ナリ）

尚桜井局長ハ新国家側トノ議取纏メノ為二十五日長春ニ赴キタルカ二十六日帰奉ノ予定

支、北平、在満各領事ヘ転電セリ
所屬分館ヘ然ルヘク転電アリタシ

152 昭和7年3月26日 在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

公信機密第二四一号

支那側要人ヨリ観タル新国家ノ姿態等ニ

関シ報告ノ件

吉林 3月26日付
本省 4月6日着

新国家ニ対スル支那側民心ノ帰趨如何ニ就テハ関心ト興味トヲ以テ觀察中ナルカ昨二十五日延吉市政籌備処長啓彬本官ヲ来訪シ本官ノ質問ニ答ヘ頗ル興味アリ又「インストラクティヴ」ナル打明話ヲ為セリ其大要左ノ如シ

一、自分ハ延吉ノ辺陬ニ於テ新国家ノ空氣モ充分頭ニ這入リ居ラス從テ新国家ニ関シテ自分ヨリ管内民衆ニ説示スル所モ權威ヲ伴ハサルニ付新国家ナルモノノ空氣ヲ味ヒ旁来省シ約一週間ヲ長春ニ過シタル次第ナリ新国家ニ関シテ有識者ノ憂フル所ハ政府首脳者ニ人物無キ点ナリ國務總理鄭孝胥ハ古クヨリ聞エタル学者且人格者ナルカ未タ曾テ政治ノ経験無ク此ノ人カ内閣ノ首班ニ立ツコトニ就テハ何人モ頭ヲ横ニ振ラサルモノ無シ、馬占山、張景惠ハ人望モ手腕モナク熙洽ハ真面目ナルモ政治ハ素人ナルノミナラス部下ニ人材ヲ集メテ働カスコトノ下手ナ人

三、満人カ新国家ノ出現ヲ喜フハ当然ナルカ其熱度ハ関内ニ居住スル満人ニ高ク満州ニ於ケル満人ハ却テ冷淡ナリ蓋シ関内ニ於ケル満人ハ久シク漢人ノ社会内ニ持立シ是レト融和セス民国革命ノ際ハ漢人ヨリ多大ノ迫害ト虐待トヲ受ケ其ノ恨ミヲ忘ルルヲ得ス何時カハ再ヒ清朝ヲ恢復シ自分等ノ世ニシ度シトノ念ハ常ニ根底強キ潜在意識トナリ居タル際料ラスモ満人ノ宗家ヲ元首ト戴ク新国家ノ出現トナリ日頃ノ思ヒカ幾分ニテモ達セラレタルカ如キ心地スレハナリ反之満州土着ノ満人ハ元來満州ノ主人公ニシテ漢人ハ後カラ次第ニ移住シ來レルカ為漢人ノ方ヨリ進ンテ満人ノ俗ニ馴染ミ之ト融和スルノ態度ニ出テ來レルカ為メ彼等満人ノ腦裏ニハ滿漢ノ區別余リ強ク印象セラレサリシヲ以テ新国家ノ出現ニ対シ特ニ熱度ヲ昂クルニ至ラサルナリ自分ハ北京満人ニシテ夙クヨリ清朝ノ恢復ヲ冀ヒ居タル次第ナルカ当省長官熙治モ亦早クヨリ同一ノ希望ヲ有シ省政府ニ於ケル儀式等ノ際ニ於テ孫文遺囑ヲ親ラ讀ミ上ケルコトヲ嫌忌シ居タルコトハ人ノ知ル所ナリ

四、事變前久シク唱ヘラレタル日支親善ハ到底實現シ得サ

リ積リテ今日ノ如キ仕儀トナリタルモノナリ日本ニシテ已往ニ鑑ミ大ニ慎ム所アラハ日滿ノ融合ハ自然ニ達成セラレ日滿ノ區別ノ如キハ長キ年月ノ内ニハ自然解消スルニ至ラン云々

尚本官ノ觀察スル所ニテハ下級民衆及農工商業者ハ世ノ中カ泰平トナルヤ否ヤヲ問題トシ其ノ新国家タルト否トニ対シテハ関心ヲ有セサルモ三民主義ヤ国民党是等南方ノ空氣ニ感染セル份子ハ新国家ヲ以テ日本ノ案山子ナリトシ今ニモ第三國ノ干渉ニ依リ日本ノ勢力カ驅逐セラルルカ如キ誤謬ニ陥リ國際連盟英米ノ態度上海方面ノ戰況等日本ニ不利ナル点ヲ誇大ニ宣傳シ官憲ノ目ノ届カサル所ニテ排日氣勢ヲ昂ケ居リ又從來ヨリノ支那軍伍卒ノ間ニモ反日觀念植付ケラレ何人カ之ヲ煽動スレハ直ニ銚ヲ日本ニ向ケントスル氣勢アルハ否ムヘカラス教化方面ニ於ケル王德林部隊カ根強ク我方ニ反抗シ居ルハ支那側官軍及地方民カ陰ニ之レニ同情シ居ルカ為メナリトセラル尚先日熙治ト会谈ノ際熙ハ日本軍部ハ強力ヲ信シ過キ万事力ニテ支那ノ事ヲ決セントシ居ルカ如キモ斯ハ間違ヒニテ支那ノ事ハ力ノミニテ行クモノニアラス此ノ点ハ日本側トシテモ考フヘキコトナリ是

ル状態ニ在リタリ自分ハ宣統ノ初年日本留学ヨリ帰ルヤ理藩部ニ職ヲ奉シタリ當時政府ニ於テ最モ苦心セラレ居タルハ滿漢融合ノ問題ナリシカ自分ハ攝政醇親王ニ上書シ滿漢ノ融合ハ満人カ漢人ヲ征服シタル当初ニ於テ之ヲ計畫スヘカリシモノニシテ満人カ漢人ニ押シ詰メラレ居ル今日ニ於テハ謂フヘクシテ行ハレ難シ真ニ滿漢融合ヲ實現セント欲セハ我々満人ノ力ヲ以テモウ一度漢人ヲ叩キ其上ニテ融合ヲ云々スヘキモノナリ是レカ為ニハ武力ヲ養ハサルヘカラス依テ満人ノ青年ヲ蒙古ニ連レ行キ同地ニ於テ大ニ武ヲ練ルヘントノ意見ヲ述ヘタリ此ノ事當時ノ理藩部大臣肅親王ノ耳ニ入リ大ニ叱ラレタルコトアリ日支ノ關係モ之レト同様ニシテ日支ノ真ノ親善ニハ一度ハ今回ノ如キ事變ノ發生ヲ必要トシタリシナリ唯今後日本トシテ最モ注意スヘキハ滿州國人ニ臨ムニ征服者ノ態度ヲ以テセス対等ノ心持ニテ之ニ接スルコトナリ日露戰爭後日本カ滿州ニ進出シタル當時ニ於テ斯ノ如キ対等ノ態度ヲ以テ滿州ニ臨ミシナランニハ日滿ノ融和ハ之ヲ實現シ得タリシナラン然ルニ日本ハ征服者対被征服者ノ態度ヲ以テ臨ミタルカ為遂ニ支那人ノ感情ヲ荒マシメ積

レハ貴官ノミノ御含ミ迄ニ御話スル次第ナリト語レル事實ハ相当考慮ニ価スヘキモノナリト史料ス
右御參考迄ニ報告ス

本信写送付先 在華公使及北平 奉天 哈爾濱 間島各
總領事 長春 齊々哈爾各領事

154 昭和7年3月(27)日 在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

郵政接收命令の内容について

奉天 本省 3月27日前着

第四六二号(暗、極秘)

往電第四六〇号ニ関シ

郵政接收著手ト同時ニ交通總長ヨリ奉天哈爾濱兩監理局長ニ対シ接收命令ヲ発スル予定ニシテ右命令中ニハ大要左記諸点ヲ記載スル筈

(一)日支職員ノ身分及給与、現業務ノ取扱ハ何分ノ命令アル迄從來ノ通ト心得ヘシ

(二)一切ノ郵政所屬財産ハ滿州國ニ帰屬セシニ付爾今不動産ノ移転及担保權ノ設定ヲ嚴禁ス

(三)金庫及郵政切手類等ハ一切接收員ノ検査ヲ受クヘシ
(四)一切ノ現有財産目録ヲ提出シ且一切ノ重要書類ハ取纏ノ上接收ノ検査ヲ受クヘシ
(五)現在及将来ノ預金並収納金ハ之ヲ交通総長ノ指定スル銀行(命令中ニハ銀行名ヲ明記ス)ニ預入スヘク右預金ノ払戻ニハ交通総長ノ任命シタル加印者ノ加印ヲ要ス
冒頭往電ノ通り転電セリ

155

昭和7年3月27日 ※在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

大橋総領事辞職要請について

長春 3月27日後発
本省 3月27日後着

第九一号(暗、極秘)

大橋総領事ヨリ

帰朝ハ連盟委員ノ来満後トシ夫レ迄ハ引続キ当地ニ滞在シ新国家ノ仕事ニ携リ度ニ付至急本官辞職方御聴許ノ上御発表アリ度尚家族ハ直ニ帰朝スヘキ処旅費計算ハ本官辞職前一応帰朝シタルモノトシ御計算方特ニ御詮議ヲ請フ

方御話願度シ

157

昭和7年3月29日 在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

海關接收より大連海關除外について

奉天 3月29日後発
本省 3月30日前着

第四七七号(暗)

本官発公使宛電報

第二六四号

本庄司令官ヨリ左ノ通り松岡代議士ニ御伝ヘアリ度シ

貴電拝承御好意深謝ニ堪エス関税問題ニ関シ御来示ノ御意見ハ本官ニ於テモ大体同感シ居ル所ニシテ満州国ノ健全ナル発達ニ貢献スルカ為ニハ此際對外関係ニ支障ヲ来ササルヲ得策ト認メ我閣議決定ノ趣旨ニ基キ先ツ第一ニ在満海關收入中外償還額ヲ除キタル剩余ヲ新国家ノ手ニ収メシメ度キ方針ニテ先般来福本大連税関長並目下大連滞在中ノ総税務司支那語秘書丁貴堂ヲ通シ総税務司ト談合ヲ続ケシメ居ル次第ナリ尚右案実行上ニ於ケル細目ノ諸点ニ関シテハ総領事館、関東庁、満鉄等関係機関ト慎重協議ヲ遂ケ居リ

156

昭和7年3月29日 在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

関東軍司令部の国際法顧問に斎藤良衛招聘について

奉天 3月29日後発
本省 3月30日前着

第四七六号(暗)

軍司令部側ニ於テハ先般来国際法ノ顧問招聘ノ議アリ本官ヨリハ斎藤良衛氏又ハ横田東大助教授力適任ナルヘキ旨私見ヲ述ヘ置キタル事アル処二十九日軍司令官ニ会見ノ際斎藤氏ニ付再度意見ヲ求メラレタルニ依リ同氏ノ支那関係条約ニ関スル権威者タルコトヲ力説シ関税塩税等對外的問題多キ此際同氏ヲ招聘セラルルハ最モ機宜ヲ得タルモノト思考スル旨所見ヲ述ヘタルニ軍司令官ハ幕僚ニ於テモ同氏招聘ノコトニ意見一致シ居ル次第モアリ早速陸軍省側ヨリ同氏ニ交渉スヘキモ外務省ヨリモ同氏ニ是非引受方懸念アリタキ旨依頼アリ諸般ノ關係上同氏ノ顧問就任ハ外務省側トシテモ甚タ好都合ト思考セラルルニ付是非共右様御取計ノ上結果御電報ヲ請フ尚同氏承諾ノ場合ハ四月中旬頃迄ニ着

現ニ政府ニ於テハ支那本部ヨリノ輸入品ニ対シ輸入税ノ賦課ヲ承認シ居ルモ出先諸機関トノ協議ノ結果對外關係ヲ顧慮シ当分ノラスラ実行セサルコトセル外大連税関ニ対シテハ貴電御来示ト同一ノ理由ニ基キ前記総税務司トノ談合不成立ノ場合ニ於テモ全然手ヲ触レサル方針ヲ執リ居ル次第ニシテ万一大連以外ノ海關收入ヲ差押フルノ已ム無キニ至ル場合ニ於テモ外償還ニ対シテハ合理的理由ニ依リ之ヲ分担スル用意アルコトヲ声明セシムル方針ナリ
尚総税務司トノ談合ニ付テハ之カ促進上充分意ヲ用ヒ居ルニ付右御含置キヲ請フ
大臣ヘ転電セリ

158

昭和7年3月29日 在局子街田中分館主任より
芳沢外務大臣宛(電報)

間島に関する日本新聞掲載記事への反応について

局子街 3月29日後発
本省 3月29日後着

第一一号(暗)

本官発間島宛電報

第一号

最近我新聞紙上ニ間島ヲ朝鮮ノ延長タラシメ又ハ鮮人ノ自治地域タラシメントノ記事掲載サル為當地軍警当局ノ神經ヲ著シク刺戟シ市政籌備処長ノ如キ本官ニ対シ不滿ノ意ヲ仄カス一方延吉県長ハ今回二ヶ月停止セル自治新制ト内容大略同様ナル「区郷制試弁簡章」ナルモノヲ遽ニ立案シ省政府ノ認可ヲ得次第実施セントシツアルカ右ハ朝鮮延長又ハ朝鮮人自治政策ノ実行ヲ予想シ将来本制度ニ依リ自国人ヲシテ自治行政ノ要位ヲ占ムル余地ヲ存セシメ我方ヲ牽制セントスル意図ニ出テタルモノト観測セラル

斯ル情勢ハ当地方官民間ニ潜在スル反新国家思想ヲ益々深刻ナラシムル虞アルヲ以テ我方トシテハ新国家ノ自奮の健全ナル発達ヲ期待スル見地ヨリスルモ右ノ如キ動モスレハ領土的野心抱藏ヲ疑ハシムル意見ノ公表及運動ハ此ノ際一切見合ス様致度シ

大臣、奉天、吉林へ転電シ頭道溝、琿春、百草溝へ暗送セリ

159 昭和7年3月(29)日

在牛莊荒川領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

塩税徴収事務の塩運公署移管について

宮口

本省 3月29日前着

第四八号(暗)

本廿八日塩運使永田顧問塩務稽核所ニ至リ塩税徴収機関接収方船津協理ニ交渉ノ結果同協理ノ注意ニ依リ塩税徴収事務ヲ新政府ノ名ニ依リ塩運公署ニ於テ行フ旨公布シ稽核所ノ塩税徴収事務ヲ差止メ本日ヨリ塩運公署ニ於テ塩税徴収事務ヲ行フコトナレリ

支、北平、奉天へ転電セリ

160 昭和7年3月30日

在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

青年連盟幹部小沢開作の協和党組織について

奉天 3月30日後発

本省 3月30日後着

第四七九号(暗、部外極秘)

青年連盟ノ幹部ニシテ満州事件前迄長春ニ齒科医ヲ開業シ居リタル小沢開作ナル者ハ従来時局ニ関シ我軍部ノ為ニ貢獻スル処多カリシ由ナル処今回青年連盟有力分子ト計リ満

事項2 満州国の成立と日本の承認

州ニ於ケル日滿蒙韓露各国人ヲ基礎トシテ一種ノ「ファシズム」ヲ宣伝シ之ヲ以テ三民主義ニ對抗スル目的ヲ以テ軍部方面ノ有力ナル内密援助ノ下ニ共和党^(ワコ)ナルモノヲ組織セルカ追テ陣容ノ整備ヲ俟チ別ニ相当有力者ヲ首領トシテ表面的活動ヲ開始セントシ首領ニハ予備陸軍大佐河本大作ノ呼声高シ

(御裁量ニ依リ所屬分館へ転電アリタシ)

支、在滿各領事へ転電セリ

161 昭和7年3月31日

在上海重光公使より
芳沢外務大臣宛(電報)

東三省海關の接收は満州国による一方的措置

不可避について

上海 3月31日後発
本省 3月31日後着

第六〇一号(暗)

本官発奉天宛電報

第二〇号

貴電第二号ニ関シ

松岡代議士ヨリ左ノ通本庄司令官ニ御伝ヘアリタシ

貴電拜誦更ニ支那側ヲ探リタル処宋子文ハ海關問題ニ関シ満州国ト交渉スル如キハ偶々以テ支那政府カ満州国ヲ認ムルモノト見ラルル嫌アリ依テ如何ナル話合ニモ断シテ応スヘカラストノ頗ル強硬ナル態度ヲ採リ且ツ満州国ノ海關ニ対シ執ルヘキ措置ヲ日本攻撃ノ種トシ之ヲ以テ極力列強及連盟ニ対シ利用スルノ覚悟ヲ定メ居ル模様ニテ実ハ円満ナル話合ヲ希望セル総稅務司モ頗ル難渋ナル立場ニアリ現ニ満州国ノ通牒ニ対シテモ回答スラ発シ居ラサル有様ニシテ支那側トノ交渉ハ絶望的ナリ本件ハ結局満州国限リ一方的ニ処置スルノ外ナシト思ハル就テハ此ノ際貴電後段御来示ノ如キ寛大ナル方針ニ依リ一方的ニ処置シ其ノ寛大ニシテ公平ナル処置ヲ一日モ速ニ中外ニ闡明宣伝セラレ然ルヘキカ思付ノ儘卑見御参考迄具申ス

本件ノ関スル限リ最早支那カ相手ニアラス要ハ支那海關ニ重大ナル關係ヲ有スル英國初メ列強ヲシテ我カ満州国ノ指導的措置ノ如何ニモ思慮アリ且ツ公明ナルコトヲ首肯センメ漸次満州国ニ好意ヲ持タシムルニアリ尚当方面ニ於テハ満州各地ニ於テ貴電後段ノ趣旨ニ反スルカ如キ措置ヲ執リ居ルヤノ新聞報道伝ヘラレ我方ニ不利ノ空氣ヲ作り居ル処

右ハ或ハ上司ニ経伺セサル出先顧問等ノ措置ナリトモ存セラルルニ付御如オナキ儀ナカラ前記御方針ノ徹底方此ノ上トモ御配慮ヲ得ハ幸ト存ス
大臣ニ転電セリ

162 昭和7年4月(1)日 在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

東北海軍の現状について

奉天
本省 4月1日後着

第四八八号(暗)

東北海軍ノ現状等ニ関シ当地海軍特務機関ヨリノ情報ニ依レハ江防艦隊ハ二月中旬我方ニ帰順シタリ又従来沿岸一帯ニ亘リ密輸取締ニ当リ居タル小型軍艦五隻中三隻ハ天津ニ逃亡セルモ二隻ハ我海軍側ノ司令ニ依リ密輸取締ニ当ル事トナレル趣ナリ尚葫蘆島築港ニ関シテハ商港兼軍港トシテ使用スル目的ヲ以テ陸軍側トモ了解ノ上調査ヲ進メツツアリ一方渤海艦隊モ将来新国家ニ帰属セシムル様海軍側ヨリ仕向ケル趣ナリ

支、北平、哈爾賓、安東、牛莊、天津、青島へ転電セリ

以內ニ直接出動ノコトトナレル趣ナリ

支、北平、奉天、吉林、長春、連盟及在欧米各大使ニ転電セリ

165 昭和7年4月(3)日 在奉天森島総領事代理より
※芳沢外務大臣宛(電報)

満州国の対外郵便連絡について

奉天
本省 4月3日前着

第五〇一号(暗)

(電表)
柳井領事へ

渡辺事務官ヨリ送付ノ滿蒙新政権ノ外国郵便通送ニ関スル調査ニ関シ御来示ノ諸点殊ニ万国郵便連合加入ノ不可能ナル点並第三国側ニ於テ業務連絡ヲ拒否スヘキ点ハ本官ニ於テモ全然同様ニ認め居ル処ナリ又郵便連絡断絶ノ虞アル間ハ滿蒙ハ従来ノ慣行ニ從テ対外郵便連絡ヲ為スコトヲ可トストノ結論ハ若シ右ニシテ支障無ク実行シ得レハ妙案ナルモ事実問題ヨリ云フニ現在滿州国ニ於テ保存中ノ切手ハ三ヶ月分ニ過キス而モ右切手ハ従来南京政府ヨリ送付ヲ受ケ居ル關係上南京側ヨリノ供給杜絶ノ場合ニハ(可能性頗ル

163 昭和7年4月(2)日 林閣東庁警務局長より
永井外務次官宛(電報)

郵政権の回収実施について

旅順
本省 4月2日前着

高第三〇三号

滿州国家ニ於テハ本日其領域内ノ郵政権ヲ回収セリ

164 昭和7年4月2日 芳沢外務大臣より
在間島岡田総領事宛(電報)

間島地方に朝鮮軍二個大隊出動について

本省 4月2日発

第七一号(暗、極秘至急)

間島出兵ニ関スル件

往電第六六号ニ関シ

貴地方ニ皇軍出動ノ件四月二日閣議決定シ御裁可ヲ経テ中央軍部ヨリ朝鮮軍司令官ニ対シ帝國臣民保護ノ為歩兵二箇大隊ニ相当スル兵力(兵力ハ貴官限り絶対極秘トセラレタシ)派遣方発令セラレ其結果羅南第十九師団ヨリ廿四時間

多カルヘシ)支那本部ニ人ヲ派シテ切手ノ買入ヲ行フカ日本切手ノ媒介ニ依ルカ又ハ滿州国ニ於テ從前通りノ切手ヲ偽造スルカ三者其ノ一ヲ択フノ外適當ノ方法ヲ見出シ難シ尙当地方ハ支那本部ヨリノ移民多キニ鑑ミ支那本部宛郵便為替ノ問題モ亦重要性ヲ有スヘキ処本官差当リノ考ニテハ右ニ対スル措置トシテハ関東庁通信局ニ於テ銀為替取扱ノ途ヲ開クノ外無カルヘシ前記諸問題ニ付テハ当方ニ於テモ關係者間ニ充分攻究ヲ遂クヘキモ予メ通信省側トモ御協議ヲ遂ケ置カルル様致シタシ
長春へ転電セリ

166 昭和7年4月(4)日 在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

満州国における米国人商業活動の規制振りに

ついて

奉天
本省 4月4日後着

第五一二号(暗)

貴電第一六一号ニ関シ

(一)当地桑港間無線通信ニハ三月三十日漸ク新協定調印ヲ了

セル次第ナルノミナラス同協定（大体旧協定通り）ニ依
レハ米国ト満州国間ノ無線通信ハ「コーボレーション」
ノミカ取扱フコトトナリ居レルニ顧ミ新ニ無電台ヲ設ク
ル計画アルモノト認メ難シ但シ長春ニ放送台新設ノ計画
アルヤノ聞込アルモ真偽明カナラス尚「ウエスターン、
エレクトリック」会社ハ主トシテ電話機ヲ製造シ居レル
趣ナルニ哈爾濱ニ於テ電話増設ノ計画アル模様ナル為混
同シタルニ非サヤト察セラル

(二) 米人側商業的活動ニ対スル我方實際ノ取扱振リニ関シテ
ハ新国家機関等ニ入込ミ居レル顧問等ニテ新規買入ヲ邦
商ニノミ振リ向クルモノアルヤニテ（当館ニ於テ軍ト連
絡シテ緩和方取計ヒ中）当地外国商人中ニハ不平ヲ抱キ
又前途ヲ悲観セルモノアリ米商トシテモ「アンダーセ
ン、マイヤー」商会ノ如ク電気機械其他各種機械及材料
ヲ売リ込ミ居レルモノハ相当打撃ヲ受クル模様ナルカ米
国ノ対滿主要輸出品タル石油及自動車ハ依然輸入セラル
ヘク又機械類ト雖モ邦商売込品ハ米國ニ於テ製造セラレ
又ハ芝浦製作所其他在本邦米系会社ノ製品鮮カラサル
ヘク此点ハ説明上考慮ニ加ヘル価値アルヘシ尤モ為替関

国家要人ニシテ不快ノ念ヲ抱クモノスラアル趣ナル処右ハ
日本ノ国策カ満州ヲ将来第二ノ朝鮮タラシムルニアリトス
レハ兎ニ角然ラサルニ於テハ何等カノ形式ニ依テ予メ新国
家側ノ諒解ヲ取付ケ苟クモ独立国トシテノ体面ヲ傷クルカ
如キ印象ヲ与ヘサル様考慮ヲ加ヘ置クノ要アリト存セラ
ル、御参考迄
支、北平、奉天、吉林、哈爾濱へ転電セリ

168 昭和7年4月5日 在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛（電報）

外国の満州投資に関する駒井総務司長の談話
について

長春
本省 4月5日後着

第一一七号（暗）
閣下発奉天宛電報第一六一号ニ関シ
駒井総務司長ノ本官ニ語ル所ニ依レハ外国ノ満州投資ニ就
テハ未タ具体的実例ヲ挙クル程度ニ至ラサルモ新国家ニ於
テハ都市計画等ノ施設ニ就キ米國ヲ始メ外国ノ投資ヲ歡迎
シ門戸開放、機会均等ノ実ヲ示シ度キ意向ニシテ例ヘハ都

係ニ依リ目下米國品ノ輸入極メテ困難ナル為輸入著シク
減少シ居レルハ事実ナルカ二月下旬満鉄カ「レール」三
万五千「キロ」噸ヲ買入レタル際モ欧米モノハ別電ノ通
CIF大連噸当リ最低九十三円以上ナリシニハ輻製鉄所
ノモノハ八十三円ナリシ為之ヲ購入スルコトトナリタル
次第ナリ
本電ノミハ爾濱長春へ転電セリ

167 昭和7年4月5日 在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛（電報）

日本側の一方的対満措置に大橋外交部総務司
長不満表明について

長春
本省 4月5日前着

第一一五号（暗、極秘）
大橋ノ内話ニ依レハ最近日本側ニ於テ満州各地ニ領事館ノ
増設乃至鮮人保護ノ名ノ下ニ多数ノ警官駐在署ノ設置或ハ
集团的日本移民ノ渡満計画等予メ新政府ノ諒解ヲ得ル事ナ
ク謂ハハ一方的ニ事ヲ運ヒ恰モ満州ノ地ヲ日本ノ領土化セ
ルカ如キ印象ヲ与フル施設頻々トシテ伝ヘラルルニ連レ新

市計画ニ就キ投資並ニ工事請負ヲ兼ネタル米國ノ有力ナル
会社ト折衝スルコト等モ考ヘ居レル趣ナリ
奉天、哈爾濱ニ転電セリ

169 昭和7年4月6日 在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

郵便電信両業務の管理について

奉天
本省 4月6日後着

第五二四号（暗）

郵電制度ニ関シテハ新国家成立以来未タ統一セル制度制定
ニ至ラス先般来本邦ノ委任経営、特殊会社ニ依ル民営、半
官半民案等種々ノ考案論議ニ上リ居リタル処関東庁通信局
側ヨリノ通報ニ依レハ此際先ツ制度ノ整備ヲ行ヒタル上根
本案ヲ考究決定スルコト至当ナリトノ同局側ノ意向ニ基キ
交通部ノ外局トシテ郵電総局ヲ設置シ郵便並電信両業務ヲ
同局ニ於テ一括統轄スルコトニ内部ノ意見一致ヲ見タル由
ナリ

支、北平、長春へ転電セリ

170 昭和7年4月(6)日 在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

満州国の電信協約加入手続について

奉天 本省 4月6日後着

第五二五号(暗)

往電第五二四号ニ関シ

五日通信省並軍側ヨリ新国家ニ於テ電信協約加入ノ手続ヲ
執ルコトニ関シ本官ノ意見ヲ求メ来レルニ依リ郵便条約加
入ノ手続ト同様承認前ニ於テハ効果無カルヘキコト明白ト
思考スルモ別段差支無カルヘキ旨回答シ置キタリ
支、北平、長春へ転電セリ

171 昭和7年4月6日 在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

海関接收根本方針ならびに海関監督等の執るべき措置について

別電 同日在長春田代領事より芳沢外務大臣宛第一二四、一二五号

右根本方針ならびに腹案内容について

長春 4月6日後着

依リ之ヲ負担スルノ用意ヲ有スルコト

ロ、税率其ノ他ハ満州国ノ成立シタル三月一日現在ノモノヲ使用シ当分ノ変更セサルコト

ハ、海関職員ニ付テハ当分其ノ儘職務ニ従事スルコトヲ

許容スルコト

尚通告ニ対スル税務司ノ回答ニ付テハ合理的ノ猶予期間ヲ許容スルコト

二、本通告ト同時ニ満州国政府ノ真意ヲ宣明シ各国ヲシテ誤解ヲ生セシメサル様外交部ヨリ談話ノ形式ヲ以テ適当ナル発表ヲ為スコト

三、税務司及必要ナル海関幹部ヲ懷柔スル為其ノ「パーソナル、ロス」ヲ保障スヘキコトヲ閣議ニ於テ決定シ之ヲ海関監督ニ通知シ交渉ニ便セシムルコト

四、税務司ニ海関収入ノ差押ニ応セサルトキハ正式ノ声明書ヲ発シ第二案ノ接收手続ニ移ルコト

(二)

長春 4月6日後着
本省 4月7日前着

第一二五号(暗)

第一二三号(暗、極秘)

本省 4月6日後着

海関問題措置打合ノ為財政部ニ於テハ各地海関監督邦人顧問ヲ当地ニ招集シ四、五兩日ニ亘リ種々協議シタル結果別電第一二四号ノ如キ根本方針並別電第一二五号ノ如キ海関監督並顧問ニ於テ執ルヘキ措置ニ関スル腹案ヲ作成セリ右内容ハ政府ノ正式決定迄ニハ多少変更セラルルコトアルヘキモ不取敢御含迄電報ス
公使、北平、奉天、哈爾賓、牛莊、安東、間島、満州里、関東庁へ転電セリ

(別電)

(一)

長春 4月6日後着
本省 4月6日後着

第一二四号(別電)(暗)

一、財政部長ヨリ各海関税務司ニ対シ公文ヲ以テ海関収入ノ差押方ヲ通告スルコト

本通告文中ニハ左ノ事項ヲ付記スルコト

イ、外債担保ニ相当スル海関収入ニ付テハ合理的方法ニ

一、各海関顧問ハ帰任後速ニ適當ナル方法ニ依リ海関職員

ニ付万一ノ場合ニ於ケル去就ノ態度ヲ内査シ其ノ結果ニ基キ左記計画ヲ建テ之ヲ報告スルコト

イ、最悪ノ場合ニ於ケル海関職員ノ補充計画

ロ、各海関別歳入歳出予算

ハ、税務司及海関幹部ノ「パーソナル、ロス」保障見込額

ニ、本件実行ニ必要ナル経費予算

ホ、実力行使ノ具体的方法

ヘ、現在ノ海関ノ外新国家ノ海関ヲ併置スル場合ニ於ケル具体的計画ト港湾ニ付テハ差当リ之ヲ如何ニスヘキカニ付具体案ヲ作成シ報告スルコト

二、財政部ニ於テハ右報告ニ依リ手配ヲ為シ準備完了ト同時ニ財政総長ヨリ各海関監督ニ対シ税務司宛ノ通告文ヲ添ヘ実行着手方ヲ命令スヘキニ依リ軍部、領事及公安隊ト連絡ヲ執リ海関収入ノ差押ニ着手スルコト

三、本件実行ニ当リテハ出来得ル限り穩便ナル方法ヲ執リ特ニ外国人ニ対シテハ絶対ニ暴力ヲ加フルカ如キコト無キ様注意スルコト

四、尚本件実施ニ付顧問ニ於テ執ルヘキ措置左ノ如シ
(イ)付属地ニ於テ公安隊ヲ使用スルカ如キ場合ニハ顧問モ
領事館ヨリ警察ニ対シ之カ黙認方ヲ懇談スルコト
(ロ)軍部、領事館、公安隊及日本側警察トハ特ニ予メ充分
ナル打合ヲ遂ケ之カ協力方ヲ懇談シ置クコト

172 昭和7年4月7日 芳沢外務大臣より
在間島岡田総領事宛(電報)

間島に対する関東軍の方策ならびに朝鮮軍と
の協定について

別電 同日芳沢外務大臣より在間島岡田総領事宛第七
九、八〇号
間島に対する関東軍の方策ならびに間島処理に
関する朝鮮軍との協定について

本省 4月7日発

第七八号(極秘)

間島ニ対スル関東、朝鮮両軍ノ政策内報ノ件
間島ニ対スル今後ノ政策ニ付テハ目下当方ニ於テモ慎重考
慮中ナルカ本件ニ関スル関東軍ノ意見並朝鮮側トノ協定別
電第七九号及第八〇号ノ通りナル趣陸軍省ヨリ内示アリタ
ルニ付貴官限リ御参考迄ニ内報ス

別電ト共ニ支、奉天、吉林、長春ニ転電セリ
(別電)

本省 4月7日発

第七九号(別電ノ一、暗、極秘)

間島ニ対スル関東、朝鮮両軍ノ政策内報
四月五日関東軍司令官陸軍大臣宛電報(関参三三四)

間島ニ対スル軍ノ方策左ノ如ク朝鮮軍並朝鮮総督府職員ニ
ハ奉天ニ於テ諒承セシメタリ尚右ニ基ク朝鮮側トノ指導方
針等ノ協定後電ス

間島方面ニ対スル関東軍ノ方策左ノ如シ
一、将来派兵久シキニ亘ル場合ニ於テハ朝鮮軍ノ部隊ヲ充
当スルモ之ヲ関東軍ノ指揮ニ入ルル如ク要望ス
但シ諜報ニ関シテハ此ノ限ニアラス

二、間島ノ一般行政ハ吉林省ノ一部トシテ満州国政府ノ専
任事項タルモ該地域ノ特殊性ニ鑑ミ朝鮮人ノ生活ニ適応
セル自治行政ヲ行ハシメ成ルヘク吉林一分省トシテ統治
シ得ル組織ヲ形成セシムル如ク満州国ヲ指導ス

三、間島ニ於ケル満州国ノ軍隊及警察ハ朝鮮軍派遣間警備

上著シク治安維持上必要ナル場合ニハ一時朝鮮軍派遣隊

長ノ区処若クハ指揮ヲ受ケシムル如ク満州国政府ヲ指導
ス

四、朝鮮軍派遣間該軍並朝鮮総督府総領事館ト連繫ヲ緊密
ナラシムル為連絡期間認定ヲ促進シ必要ニ応シ関東軍ヨ
リモ職員ヲ派遣ス

五、間島ニ於ケル朝鮮総督府等ノ施策ハ関東軍ノ同意セル
モノニ限り満州国政府ニ要望ス朝鮮軍ノ派遣ニ伴フ必要
ナル緊急事項ハ臨機処理スルモ関東軍ノ施策ト背馳スル
時ハ随時之ヲ変更スルコトヲ得ルコトトス

朝鮮済

(二)

第八〇号(別電ノ二、暗、極秘)

本省 4月7日発

間島ニ対スル関東、朝鮮両軍ノ政策内報ノ件

四月五日関東軍参謀長発参謀総長参謀次長宛電報(関参三
三五)

関参三三四、軍司令官ヨリ電報セル間島処理ニ関スル朝鮮
側トノ協定左ノ如クナルニ付参考迄

間島地方治安維持及ヒ統治ニ関スル指導方針

(1)満州国建設ノ大方針ニ遵拠シ其ノ範圍ニ於テ地方的特種
事情ニ適応スル如ク指導ス

(2)治安維持ノタメ直接必要ナル手段ハ機ヲ逸セス之カ実現
ヲ期ス

(3)治安維持ノ為支那軍隊及公安隊ヲ区処シ逐次之ヲ改編シ
テ其実力ノ充実ヲ期ス

(4)現状ヲ基礎トシ順ヲ追ツテ新国家ノ組織及内政ニ推移ス
ルト共ニ既往ニ於ケル悪政ノ改善ニ勉ム

(5)人事ノ異動ハ人心ニ動揺ヲ来ササル如ク徐ロニ之ヲ行フ
(6)延吉市政籌備処及各県ニハ総督府及居住内鮮人代表者等
ヲ顧問或ハ官吏トシテ採用セシム

(イ)延吉市政籌備処

総督府ヨリ

内鮮人民代表者 各一名

(ロ)各県

内地人 二名

鮮人 一名

(ハ)軍隊

顧問 一名
教官 二名

(7) 関東軍主管事項

(イ) 行政組織ニ関スル事項

(ロ) 官吏ノ任免ニ関スル事項

(ハ) 顧問ノ任免ニ関スル事項

(ニ) 中央政府及省政府ノ財源タルヘキ間接税ニ関スル事項
但シ官吏及顧問等ハ朝鮮軍及朝鮮總督府ノ推薦ニ依リ
関東軍ニ於テ処理スルモノトス

(8) 朝鮮軍司令部及總督府ニ主トシテ委任スル事項

(イ) 治安維持ニ関スル事項

(ロ) 間島ノ特種事情ニ応スル民政ノ指導 (新国家官制ノ範
囲ニ於テ)

(ハ) 地方官公吏ノ人事ニ関スル指導

(ニ) 地方自治団体ノ指導

173 昭和7年4月8日 在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛 (電報)

在滿警察の統一に関する関東庁の意向につ
て

ノ如ク進捗シタル以上ハ結局併呑ノ外ナキニ付今日ヨリ警
察系統ヲ統一シ置クヲ必要ト思考シ前記ノ通り回電セル次
第ナリト内話セリ
支、哈爾賓、吉林、長春ヘ転電セリ

174 昭和7年4月11日 ※在ハルビン長岡總領事代理より
芳沢外務大臣宛 (電報)

馬占山の対ソ援助要請の風説について

ハルビン 4月11日後発
本省 4月11日後着

第四〇〇号 (暗)

満州里発本官宛電報

合第三二号

本官発大臣宛電報

第五〇号

貴電合第九五七号ニ関シ

当館諜報者ノ報告ニ依レハ最近馬占山ヨリ再三当地蘇連領
事ノ許ニ密使ヲ派シテ自分 (馬) カ今次日本ノ傀儡ニ過キ
サル満州国独立ニ参劃シタルハ事情已ムヲ得サル一時的弁
法ニシテ其真意ニ非ス近ク失地回復ノ挙ニ出ツヘキニ付其

第五四〇号 (暗、部外極秘)

七日連盟調査委員準備会ニ於テ関東庁林警務局長ニ落合ヒ
タル処同局長ハ拓務省ヨリ関東庁ニ対シ外務省ニ於テ予算
ニ計上中ノ警察官増員計画ニ関シ関東庁側トノ関係並ニ関
東庁側ノ所見回示方電報シ来レルニ依リ関東庁ヨリ同庁ト
シテハ在滿警察ノ統一ヲ希望シ居ル次第ニシテ從テ予算ノ
点ハ暫ク別トスルモ兼任制度ノ実施等ニ依リ指揮系統ニ付
弁法ヲ講シ度キ旨回電セリト内話セリ右ニ対シ本官ヨリ関
東庁ノ警察官ハ元来沿線ノミニ配置セラルヘキ筋合ニシテ
南滿奥地ニ於テハ領事館警察官ノ資格ニ非サレハ駐屯スル
ヲ得ス從テ南滿以外ニ関東庁警察官ヲ配置スルカ如キハ全
然不可能ナリ又指揮系統ノ統一ト云フモ地域的關係上例ヘ
ハ先般ノ盤石事件等ノ場合ニ備フルカ為吉林、海竜兩館管
轄区域ノ接触地点等極メテ狭キ範圍ニ於テ相互連絡ノ途ヲ
講シ得ルニ過キス右トモ別ニ兼任制度ヲ待タス平素ノ連
絡ニ依リ充分ノ目的ヲ達成シ得ヘシト述ヘタルニ同局長ハ
本官限リ極秘ニ願度シトテ実ハ関東長官ハ満州ノ事態今日

奉天 4月8日後発
本省 4月8日後着

際ニハ何分ノ援助アリタキ旨申出テタルニ對シ蘇連領事ハ
馬ノ真意ハ了解セルモ大勢姦ニ至ル以上馬一個人ノ蹶起ヲ
見ルトモ到底挽回ノ見込ナキニ付満州国政府幹部ノ總意ヲ
取纏メ援助方願出ツルニ於テハ蘇連側モ何等考慮スヘシト
回答シ目下夫レ以上兩者ノ交渉ハ進捗シ居ラサル模様ナリ
尚從來蘇炳文モ蘇連側ト相当連絡アル模様ナルモ蘇及馬ノ
關係ハ未タ釈然タラス殊ニ当地駐在中ノ蘇ノ參謀長孫麟ハ
馬ニ對シ常ニ快カラサル口吻ヲ漏ラシ蘇ハ馬ノ態度如何ニ
拘ラス独自ノ立場ニ於テ善処スヘシト内話セル趣ナリ右聞
込ノ儘
哈爾賓ヨリ大臣、支、北平、奉天、長春ヘ転電アリタシ
露、哈爾賓、齊々哈爾、武市ヘ転電セリ

175 昭和7年4月11日 在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛 (電報)

馬占山脱出に関する風評について

長春 4月11日後発
本省 4月12日前着

第一四三号 (暗)

閣下發満州里「ブラゴエスチエンスク」宛電報合第九五七

号ニ関シ馬ノ行方不明ハ政府部内ニ於テモ重大視シ其誠意ヲ疑ヒ早クモ省長更迭説起リ居ル趣ノ処本月六日黒竜江省民政庁長趙仲仁カ謝介石ニ宛テタル電報ニ依レハ馬ハ程志遠警備司令ニ対シ拝泉克山地方ノ軍隊視察ニ赴クト称シ二日早朝省城ヲ出発シタル後拝泉克山ノ兩地ヨリ程ニ対シ省長職務代行方ヲ命スルト共ニ趙ニ対シテハ間モナク帰還スヘキニ付程ヲ援助政務ヲ処理スヘキ旨電命アリタル為留守幹部ハ馬ノ思惑及遣リロニ不審ヲ抱キ種々調査シタルニ六日夕刻黒河ニ到着セル形跡アルヲ知リタル趣ナリ馬ノ新政府入りハ兎角部下ニ喜ハレサル処ナル上部下軍隊ニ対シ三ヶ月分ノ俸給ヲ支給セス又事変中各方面ヨリ同省ニ寄せタル慰問金現大洋二百万元以上アルモ之ヲ将卒ニ分与セス且戦死者ニ弔慰金ヲモ与ヘサル為部下ノ反感益々昂マリ最近黒河ニ於ケル馬ノ私邸掠奪事件等アリ進退ニ窮シタル為ニ非サヤト為ス者アリ又一説ニハ趙仲仁一派ノ術策ニ陥リタルモノナリトモ称セラル御参考迄

支、北平、哈爾濱、齊々哈爾、吉林、奉天へ転電セリ

支、北平、天津へ転電セリ

177 昭和7年4月13日 ※在ハルビン長岡総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

馬占山背叛の原因について

ハルビン 4月13日後発
本省 4月13日後着

第四〇六号(暗)

齊々哈爾發本官宛電報

合第六号

本官發外務大臣宛電報第(脱)号貴電合第九五三号ニ関シ馬占山ハ七日黒河ニ到着シ同地ヨリ省政府ニ対シ自分ハ旅行中感冒ニ罹リタルニ付暫ク同地ニテ静養シタキ旨電報シ来リタルニ付其後軍部ヨリハ二、三回支那側要人ヨリ十数回至急帰城方ヲ促セルモ馬ハ依然病氣療養ニ藉口シテ帰城ヲ肯ンセス他方馬ノ出發後同居室捜査ノ結果關係重要書類ハ勿論満州国建設前迄使用シタル辺防軍司令及省主席ノ官印並南方諸団体ヨリ同人ニ対シ送付シ来レル慰勞金現大洋二百萬元ヲ携行セルコト及其他ノ事情ヨリ察スルニ同人ハ再ヒ当地ニ歸ラサル覚悟ニテ出發シタルモノト認メラル

176 昭和7年4月(12)日

在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

奉天における外国人商業活動の縮小ぶりについて

奉天
本省 4月12日後着

第五六八号(暗)

当地外国機械商ハ從來兵工廠、迫撃砲廠等ノ軍衙及鐵道ニ對スル売込ヲ主トシ居タルカ最近店舗ヲ縮小又ハ閉鎖セントスルモノ続出シ「チェッコ、スロバキヤ」ノ「スコダ」商会ハ既ニ事務所ノ一部ヲ天津ニ移シ英國商「ジャーデン、エンヂニヤリング、コーポレイション」ハ從來売込高ノ九割ハ兵工廠納メナリシカ五月下旬閉鎖天津ニ引揚クルコトナリ其他独逸商「カルロウイツ」、「シームセン」等著名ナルモノモ天津方面ノ支店ヲ擴張シ当地ハ縮小又ハ閉鎖シテ売掛代金回収ニ必要上店員ヲ残存セシメントスル実情ナリ右ハ旧軍衙ノ閉鎖ニ伴フ已ムヲ得サル現象ナルカ鐵道ニ関シテハ殊ニ独逸人側ハ將來日本品ノ為独逸品売込ノ見込ナキモノト見越シ居ルモノ多シ

馬脱走ノ主ナル原因ハ日本側ノ急激ナル干渉及圧迫殊ニ最近總務庁長及警務庁長ニ日本人ヲ任命スルコトナレルコト並日本軍隊カ永久当地ニ駐在スルコトナレル様子アルニ對シ大イニ憤慨セルト同時ニ自己ノ立場ノ今後益々困難ナルヲ甚タシク憂慮シツツアリタル折柄省政府代表韓樹業カ客月末北平方面ヨリ帰来シ張學良ヨリ何等カノ密令ヲ齎シタルヨリ馬ヲシテ脱走ヲ決セシメタルモノノ如シ同人カ平素ヨリ日本側ノ干渉ヲ好マス最近ハ機會アル毎ニ日本側カ自分ニ對シ余リニ干渉ヲ加フルトキハ自分ハ下野スル外ナシト公然言明シ居リタルト韓ノ帰来セル頃ヨリ馬カ軍側ニ對シ拝泉方面ニ出張ノ必要ヲ申出テ始メタル由ナルトニ徴シ間違ナキモノト思考セラル馬カ今後如何ナル行動ニ出ツルヤハ遽ニ断言シ難キモ彼ハ黒河ニアリテ当分時局ヲ觀望シ時期ヲ見テ同地ニ獨立政府ヲ樹ツルカ又ハ下野スルモノニアラスヤト察セラル警備司令程志遠ハ馬ノ意思ヲ確ムル為十日使ヲ黒河ニ派遣セリ馬ハ蘇連ト多少連絡アル疑ナキニアラサルモ蘇連カ如何ナル程度迄彼ヲ援助スルヤニ付テハ明カナラス

馬ノ逃走ニ依リ当地民(情)一時動揺シタルモ茲二三日来

稍々落着キタリ
哈爾賓ヨリ公使、北平、奉天、長春、吉林、「ブラゴエ」
へ転電アリタシ
在露大使、哈爾賓、満州里へ転電セリ

178 昭和7年4月15日 在北平矢野参事官より
芳沢外務大臣宛(電報)

日本の対満政策批判の馬占山通電について

北平 4月15日後発
本省 4月16日前着

第一八三号

十四日ノ漢字紙ニ十二日付馬占山通電ト称スルモノ掲載セラレタルカ右ハ先ツ過去四十四日間自分カ日本側ト然ル可ク連絡シ来レルハ一ニ実力ヲ維持シテ再挙ヲ計ランカ為メナリシカ今次連盟調査団来訪ニ際シ日本側ノ陰謀ヲ世界ニ宣告スヘント冒頭シ次テ(一)新国家ノ組織ハ全部日本軍ノ強制指導ニ依ルモノニテ三月十日軍部ノ命ニ依リ開催セル國務會議ハ政府ニ總務庁ヲ設ケ各部一切ノ実権ヲ管掌スルコトヲ決議シ十日ノ同會議ニ於テ駒井、板垣ハ新国家官吏ノ半数省政府官吏ノ四割ハ日本人ヲ任用スヘキ旨発表シ又各

長春 4月15日前発
本省 4月15日前着

第一五四号(暗、部外極秘)

貴電第四一号ニ関シ

國務院ヨリ入手セル官吏表(満州側ヲモ含ム)ハ本日中ニ発送スヘシ現在採用内定セル邦人約二百三十名アリ大体事実上執務シ居ルモ大部分ニ対シ辞令ハ未タ発令シ居ラサル為職名確定シ居ラサルモ要職者概ネ左ノ通ナリ
國務院總務長官駒井徳三、法制局長松木俠、興安局次長菊竹実蔵、參議府秘書局長荒井静雄、外交部總務司司長大橋忠一、財政部總務司司長阪谷希一、稅務司司長源田松三、交通部總務司司長大迫幸男、鐵道司司長森田成之、司法部總務司司長栗山茂二、実業部總務司司長牧野克巳、民政部總務司司長中野琥逸、警務司司長甘粕正彦

180 昭和7年4月15日 閣議決定

満州国鐵道港灣河川ニ関スル処理方針

付 満鉄總裁宛拓務省通牒及指令

満州国鐵道港灣河川ニ関スル処理方針

省總務及警務庁長ニハ日本人ヲ任命セリ(二)三月十六日本庄司令官ハ黑竜江視察ノ際日本ハ如何ナル犠牲ヲ払フモ東三省ハ放棄セス新国家ニ反対スル者ニ対シテハ日本軍ハ之カ討伐ノ責任ヲ負フヘク第三国カ干涉セハ之ト宣戦スヘシト語レリ(三)土地交通等ニ関シ國務會議ハ(1)旧軍閥所有地ノ没収、広大ナル土地ヲ所有スル人民ノ土地ノ半数買収及未開放地ハ国有トシテ日本政府ノ移民ノ用ニ供スルコト(2)呼海鐵道ヲ実価ノ一割ニ過キサル三百萬元借款ノ抵当トシ期限ヲ永久占領同様ノ五十年トスルコト等各項ヲ議決セリト述ヘ最後ニ余ハ新国家ノ真相既ニ判明セルヲ以テ調査団来訪ニ際シ活動スヘク軍ヲ要害ニ配置シ軍政職員ヲ密カニ黒河ニ派シ置キタルカ自ラハ四月七日黒河ニ到着即日事務ヲ開始セリト述ヘ居レリ
公使、奉天、吉林、哈爾賓、齊々哈爾、長春へ転電セリ
天津へ郵送セリ

179 昭和7年4月15日

在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

満州国政府の日本人官吏内定者について

満蒙新国家ニ対シテハ本年三月十二日閣議ニ於テ帝國トシテハ差当リ承認ヲ与フル事ナキモ新国家ヲ相手方トシテ出来得ル限り非公式ノ方法ヲ以テ之ト事実上ノ關係ヲ結ヒ以テ帝國ノ權益ノ實現拡充及事実上ノ既成状態ノ形式ニ努ムヘキ旨決定ノ次第アル処今般滿蒙ニ於ケル鐵道ノ管理其ノ他ノ事項ニ関シ満州国執政ヨリ関東軍司令官ニ対シ別紙第一号ノ通り文書ノ提出アリ仍テ関東軍司令官ト南滿州鐵道株式會社總裁トノ間ニ別紙第二号ノ如キ協定ヲ締結セリ別紙第一号ハ満州国執政ト関東軍司令官トノ間ノ地方的取極ナルカ右ハ前記閣議決定ノ趣旨ニ合致スルモノナルニ付政府ハ之ヲ承認スヘク又別紙第二号ハ前記地方的取極ニ依リ生シタル新事態ノ処理ニ関スル関東軍司令官ト南滿州鐵道株式會社總裁トノ協定ニシテ政府ニ於テ之ヲ承認シ支障ナキノミナラス其ノ趣旨トスル所ハ滿蒙現下ノ情勢ニ即シ適當ナルモノト認メラルルヲ以テ

(イ)之ヲ南滿州鐵道株式會社ニ対シ正式ニ有効ナラシムル為ニハ政府ヨリ同會社ニ絶対極秘ノ指令ヲ与フルノ形式ニ依ル事トシ又

(ロ)本件ニ関シ帝國及南滿州鐵道株式會社ト満州國トノ關係

ヲ正式化スルニ当リテハ帝国及満州国ノ対外關係殊ニ門戸開放機會均等ノ原則並ニ対支借款団規約トノ關係ヲ考慮シテ適宜其ノ形式ヲ調整スル事トシ
別紙第一号及第二号ヲ承認スル事ト致度但別紙第二号ニ關シテハ別添了解事項ニ依ルモノトス

別紙第二号ニ關スル諒解事項

- 一、本協定ハ非常時ノ措置トシテ之ヲ認メ可成速ニ其ノ正式化ヲ計ルコト
- 二、本協定ハ南滿州鐵道株式會社ノ委託ニカカル鐵道ノミニ限リ同社固有ノ鐵道ニ及ハサルコト
- 三、本協定ハ滿鐵ニ對スル法令等ニ基ク政府ノ監督權ノ作用ニ影響ナキコト
- 四、南滿州鐵道株式會社ハ委託經營ニ關スル特別勘定ヲ設クルコト
- 五、河川ノ委託經營トハ河川ノ航運事業ヲ意味シ治水事業ヲ包含セサルコト
- 六、付表第二鐵道計畫中第二次建設線以下ハ關係省間ニ更ニ協議ヲ遂ケテ実行スルコト
- 七、協定本文第十五条ニ依ル協定内容ノ變更ハ国防上緊急

(参考)

滿蒙新國家成立ニ伴フ對外關係處理要綱四

「我方ハ出来得ル限り非公式ノ方法ヲ以テ新國家トノ間ニ事實上ノ關係ヲ結ヒ(私法的契約ノ形式ヲ原則トシ例外的ニハ帝國出先官憲ト新國家若クハ其ノ官憲トノ地方的取極ノ形式ニ依ル)以テ帝國權益ノ實現拡充及事實上ノ既成狀態ノ形成ニ努ムルコト」

(別紙)

別紙第一号

逕啓者此次滿州事變以來

貴國竭力維持滿蒙全境之治安以致

貴國軍隊及人民均受重大之損害本執政深懷感謝且確認此後

敝國之安全發展必賴

貴國之援助指導為此對於左開各項特求

貴國之允可

一 敝國關於日後之國防及維持治安委諸

貴國而其所需經費均由敝國負擔

二 敝國承認

貴國軍隊凡為國防上所必要將已修鐵路港灣水路航空路等

必要アル場合ヲ想定スルモノトス

八、南滿州鐵道株式會社カ政府ニ納入スル金額ハ守備ノ為滿州國ニ駐節スル國軍費用ノ財源ニ充當スルコト

九、委託經營ノ利益金(總收入ヨリ營業費、新借款利子及旧借款利子ノ約半額ヲ控除シタル殘額)ノ約百分ノ五ヲ委託經營者ニ取得セシムルコト

十、委託經營ニ依ル總收入ヨリ(1)營業費(2)新借款利子(3)旧借款利子ノ約半額(4)委託經營者取得金(5)納入金ノ順序ニ依リ控除スルコト

十一、第十条ニ關スル協定第一条括弧内ノ借款利子中四兆、兆昂及吉敦線ニ關スルモノハ國軍費用中經常費ノ全額ヲ支弁シ得ルニ至ル迄其ノ支払ヲ為ササルモノトス但其ノ約半額ハ第三年度(昭和九年度)ヨリ之ヲ支払フコト

經營者取得金及旧借款利子ノ支払ハ前年度納入金額ヲ低下セサルコトヲ條件トスルコト

十二、過剩利益(委託經營利益金ヨリ納入金、委託經營者ノ取得金、借款元利金ヲ控除シタル殘額)ハ委託經營者及滿州國政府ニ於テ取得スルコト

之管理並新路之布設均委諸

貴國或

貴國所指定之機關

三 敝國對於

貴國軍隊認為必要之各種施設協力援助

四 敝國參議府就

貴國國人選有達識名望者任為參議其他中央及地方各官署之官吏亦可任用

貴國人而其人物之選定委諸

貴軍司令官之推薦其解職亦應商得

貴軍司令官之同意前項參議之人数及參議總數有更改時若貴國有所建議則依兩國協議以增減之

五 將來由兩國締結正式條約時即以上開各項之宗旨及規定為立約之根本 此致

大日本帝國關東軍司令官本庄繁

大同元年三月十日

別紙第二号

鐵道港灣河川ノ委託經營並新設等ニ關スル協定

溥儀花押

関東軍司令官（以下甲ト称ス）ト南満州鉄道株式会社総裁（以下乙ト称ス）トノ間ニ甲ノ管理ニ属スル満州国政府ノ鉄道港湾及河川（以下鉄道港湾河川ト称ス）ノ経営並ニ新設等ニ関シ協定ヲ為スコト

第七条 甲ハ監督官ヲ南満州鉄道株式会社ニ派遣シ鉄道港湾河川ノ経営ヲ監督セシムルモノトス

第八条 鉄道港湾河川ニ関スル左記各項ノ資金ハ乙ニ於テ之ヲ調達スルモノトス

一、民間出資及之ニ準スルモノノ償還ニ要スル資金

二、新設買取並拡築改良ニ要スル資金

三、車輛船舶ノ新造改造ニ要スル資金

四、其ノ他之ニ準スル資金

第一条 甲ハ付表第一ニ定ムル鉄道港湾河川（付帯事業ヲ含ム）ノ経営ヲ乙ニ委託スルモノトス

第九条 前条ノ資金及現ニ乙ノ有スル鉄道借款並工事請負契約ニ基ク債権額ヲ貸金総額トシ鉄道港湾河川ニ属スル一切ノ財産（営業権ヲ含ム）ヲ担保トスル借款契約ヲ乙ト満州国政府トノ間ニ締結スルモノトス

第二条 乙ハ法令並本協定ノ定ムル所ニ依リ鉄道港湾河川ノ経営ヲ為スモノトス

第十条 乙ハ別ニ協定スル金額ヲ日本政府ニ納入スルモノトス

第三条 乙ハ鉄道港湾河川ノ経営ニ関シ甲ノ指揮監督ヲ受クルモノトス

第十一条 鉄道港湾河川ニ関スル工事ハ付表第二ノ定ムル所ニ依リ乙ヲシテ之ヲ施行セシムルモノトス

第四条 乙ハ重要ナル諸規程、運賃及料金ノ制定並改廃ニ関シ予メ甲ノ承認ヲ受クルモノトス

第十二条 甲ハ乙ニ対シ鉄道港湾河川ノ施設改良ニ関シ軍事上必要ナル指示ヲナスコトヲ得ルモノトス

第五条 乙ハ予算、決算、利益金ノ処分、重要ナル財産ノ処分並予算ノ重要ナル変更ニ関シ予メ甲ノ承認ヲ受クルモノトス

第十三条 甲ハ鉄道港湾河川ノ軍用法ヲ完カラシムル為

第六条 本協定成立ノ趣旨ニ鑑ミ南満州鉄道株式会社総裁ヲ関東軍最高顧問ニ南満州鉄道株式会社ノ鉄道港湾河川業務担当首脳者ヲ関東軍顧問ニ囑託スルモノトス

別ニ定ムル所ニ依リ將校ヲ配置スルモノトス

第十四条 本協定ハ昭和七年 月 日ヨリ其ノ効力ヲ發生スルモノトシ其ノ期間ハ効力發生ノ日ヨリ滿五拾ヶ年トス

第十五条 甲ハ国防上必要アルトキハ本協定ノ内容ヲ変更スルコトヲ得ルモノトス

第十六条 本協定書ハ式通ヲ作成シ甲乙各其ノ専通ヲ保有スルモノトス

昭和七年三月十日

関東軍司令官

乙

南満州鉄道株式会社総裁

打通線

付則

南満州鉄道株式会社総裁

本協定第八条並第十一条ニ依リ建設セラルヘキ鉄道

本協定第七条ニ定ムル監督官並其ノ属員ノ諸給与其ノ他ニ要スル費用ハ委託経営ノ收入中ヨリ之ヲ支弁スルモノトス

二、港湾
葫蘆島
河北（營口）
安東県
三、河川
松花江
嫩江

付表第一

一、鐵道

甲

四 洮 線

遼 河
黒 竜 江
鴨 緑 江

付表第二

第一次建設線

- 一、敦 化—図們江線
- 二、拉法站—哈爾賓線
- 三、克 山—海倫線

第二次建設線

- 一、通遼又ハ錦県ヨリ赤峰ヲ經テ熱河ニ至ル線
 - 二、長 春—大寶線
 - 三、延 吉—海林—依蘭—佳木斯線
- 次ノ諸線ノ建設着手順序及時期ハ別途協議ノ上之ヲ決定スルモノトス
- 大 寶—洮安線
- 齊克線ノ一駅ヨリ大黒河ニ至ル線
- 洮 南—索倫—滿州里（又ハ海拉爾）線
- 開 原—西安線
- 撫順駅ヨリ瀋海撫順站ニ至ル線

ノ通リトス

左 記

（単位千円）

第一年度（昭和七年度）

ナシ

第二年度（昭和八年度）

七、〇〇〇

覚 書

本協定案ハ三月十日下午名等ニ於テ熟議ノ上異議無ク決定シタルモノニシテ下名等ハ本協定ノ実現ニ最善ノ努力ヲ期ス

昭和七年三月十二日

関 東 軍 司 令 官 本 庄 繁 花 押
南満州鉄道株式会社総裁 内 田 康 哉 花 押

付

満鉄総裁宛拓務省通牒及指令

昭和七年五月九日付満鉄総裁宛拓務次官通牒

四月二十日付満鉄総文第三二二号ノ二ヲ以テ申請ニ係ル鉄道
港湾河川ノ委託経営並新設等ニ関スル協定ニ関シテハ本日
別途許可相成候処該協定ヲ実施スルニ当リテハ帝国及滿州
国ノ対外関係殊ニ門戸開放機会均等ノ原則並ニ対支借款団
規約トノ関係ヲ考慮シテ適宜其ノ形式ノ調整相成様致度依

新邱ヨリ義州站及巨流河站ニ至ル線

公主嶺—伊通線

鉄 嶺—法庫門線

瓦房店—復州線

第一次線ハ成ルヘク速ニ工事ニ着手スルモノトシ第二次
線ハ事情ノ許ス限リ速ニ着手スルモノトス

尚別ニ対東支政策ノ遂行ニ資スル為速ニ伯都納—哈爾賓
線ノ測量ヲ行フモノトス

第十条ニ関スル協定

第一条 乙カ日本政府ニ納入スル金額ハ鉄道港湾河川ノ經
営ニ依ル利益金（総収入ヨリ營業費及借款利子ヲ控除シ
タル残額）並乙カ鉄道港湾河川ノ委託経営ヲ受ケタルコ
トニ依リ利得シタリト認ムヘキ利益金ヲ以テ支弁スルモ
ノトス

前項前段ノ利益金ヨリ納入金ヲ支出シタル残余ハ之ヲ借
款未払利子及借款元金ノ償還ニ充當シ尚残余アルトキハ
之カ処分ニ関シ甲乙間ニ於テ協議決定スルモノトス

第二条 第一条ノ納入金額ハ當該年度毎ニ甲乙間ニ於テ協
議ノ上決定スルモノトシ第一年度第二年度協定額ヲ左記

命此段及通牒候

指令殖秘第一号

南満州鉄道株式会社

總裁伯爵 内 田 康 哉

昭和七年四月二十日付満鉄総文第三二二第一三三二号ノ二申請鉄道
港湾河川ノ委託経営並新設等ニ関スル協定ノ件許可ス但シ
左ノ通心得ヘシ

昭和七年五月九日

拓務大臣 秦 豊 助

左 記

- 一、其ノ社ハ委託経営ニ関スル特別勘定ヲ設クルコト
- 二、河川ノ委託経営トハ河川ノ航運事業ヲ意味シ治水事業
ヲ包含セサルコト

三、付表第二鐵道計画中第二次建設線以下ハ関係省間ニ更

ニ協議ヲ遂ケテ実行スルモノナルコト

四、協定本文第十五条ニ依ル協定内容ノ變更ハ国防上緊急
必要アル場合ヲ想定スルモノトス

五、委託経営ノ利益金（総収入ヨリ營業費、新借款利子及
旧借款利子ノ約半額ヲ控除シタル残額）ノ約百分ノ五ヲ

其ノ社ニ於テ取得スルコト

六、委託経営ニ依ル総収入ヨリ(1)營業費(2)新借款利子(3)旧借款利子ノ約半額(4)其ノ社ノ委託経営取得金及(5)納入金ノ順序ニ依リ控除スルコト

七、第十条ニ関スル協定第一条括弧内ノ借款利子中四兆、兆昂及吉敦線ニ関スルモノハ其ノ社ノ納入金額カ守備ノ為満州国ニ駐節スル国軍費用中經常費ノ全額ヲ支持シ得ルニ至ル迄其ノ支払ヲ為ササルモノトス但シ其ノ約半額ハ第三年度(昭和九年度)ヨリ之ヲ支払フコト
其ノ社ノ委託経営取得金及旧借款利子ノ支払ハ前年度納入金額ヲ低下セサルコトヲ条件トスルコト
八、過剩利益(委託経営利益金ヨリ納入金、其ノ社ノ委託経営取得金借款元利金ヲ控除シタル残額)ハ其ノ社及満州国政府ニ於テ取得スルコト

181

昭和7年4月18日 在北平矢野参事官より
芳沢外務大臣宛(電報)

溥儀の動向に関する中国側情報について

北平 4月18日前発
本省 4月18日後着

182

昭和7年4月19日 ※在ハルビン長岡総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

満州里市民の満州国に対する批判的態度について

ハルビン 4月19日前発
本省 4月19日後着

第四二八号(暗)
満州里発本官宛電報合第三三三号
本官発大臣宛電報第五一号

新国家ニ関スル民意発揚ニ関シテハ予テヨリ当地特務機関側ニ於テ当館ト連絡ヲトリ専ラ特別区警察署及市会側ト内密折衝ヲ重ネ居タルモ商會側ノ反対ニ依リ進捗セサリシ処十五日警察署側ハ新国家反対ノ急先鋒タル商會副會長孫子善ヲ反動分子トシテ逮捕拘禁シタル為商會側ハ俄ニ軟化シタルヲ以テ警察及市会側中心トナリ愈十八日午後零時半ヨリ市民公園ニ於テ建国祝賀会行ハレタルカ会集約参百名ニ過キス(支那軍部ニテハ兵隊ノ外出ヲ禁シ不慮ノ妨害ヲ取締リタル程ニシテ交渉署側ト同シク代表ハ来集セス)白警察署長及謝市政府局長ノ簡單ナル演説アリタルノミニテ気

第一九四号(暗)

本官発奉天宛電報
第三一号(大至急、極秘)
伊藤ヨリ

確カナル筋ヨリノ情報ニ依レハ支那側ハ

(一)溥儀執政ハ日本軍ノ為ニ其位ニ就クヘク余儀ナクセラレタルモノニテ軍ノ圧迫タニナクハ直ニ其地位ヲ捨ツルノ意志ナリ

(二)日本軍ハ支那平服六百ヲ購入シ右服装ヲナセルモノヲシテ錦州付近ニ於テ汽車ヲ攻撃セシメ日本軍之ヲ撃退スルト云フコトニ用意シ居ルノミナラス他ノ線路旅行中モ同様ノ準備ヲナシツアリトノ陳述ヲ為シタリト云フ

又満州ニ於ケル支那人ハ何等忌憚ナキ意見ヲ吐クモノナカルヘキヲ以テ右ヲ確保スル為陳述ヲナス満州人ノ身体財産保障方ニ関シ日本側ニ要求スルコトヲ支那側ヨリ委員会ニ申出タル由ナリ

右ハ斎藤博士ニ御伝ヘアリタシ
大臣、支ニ転電セリ
長春へ転電アリタシ

勢拳ラス前後約十分間ニテ散会セリ

尚市内ニハ各所ニ宣伝物貼布セラレ各戸ハ新国旗ヲ掲揚セルモ右ハ警察及市会側ノ命令ニ依ルモノニシテ一般ニハ未タ新国家ニ対スル認識ノ程度極メテ薄シ

哈爾賓ヨリ在支公使、北平、奉天、長春へ転電アリ度シ
哈爾賓、齊々哈爾へ転電セリ

183

昭和7年4月23日 芳沢外務大臣より
在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛(電報)

満州国の日本人主要官吏について

第一七七号(暗、極秘)

貴電第三四九号後段ニ関シ

新国家ノ組織ハ執政ノ下ニ最高諮問機関タル参議府ノ外国務院、立法院、監査院、最高法院アリ國務院ノ下ニ民政、外交、軍政、財政、実業、交通、司法ノ七部アリ各部ハ更ニ三乃至七ノ司ニ分タルル処本邦人ハ各部ノ司長格ノ地位ニ大体一名宛採用セラレ居ルモ大部分ハ未タ辞令発セラレヌ事実上執務シ居ル趣ナリ要職者概ネ左ノ通
國務院総務長官 駒井徳三

法制局長 松木 俠
 興安局次長 菊竹実蔵
 参議府秘書局長 荒井静雄
 外交部総務司司長 大橋忠一
 財政部総務司司長 阪谷希一
 同 税務司司長 源田松三
 交通部総務司司長 大迫幸男
 同 鉄道司司長 森田成之
 司法部総務司司長 栗山茂二
 実業部総務司司長 牧野克巳
 民政部総務司司長 中野琥逸
 同 警務司司長 甘粕正彦
 奉天省警務庁長 三谷 清

右ノ中駒井、大橋、阪谷及三谷ノ四名ハ二十二日満州国政府ヨリ正式任命ノ発表アリタルカ其ノ他ハ未発表ナルニ付差当り前記四名以外ノモノニ付テハ貴官限り御含ミニ止メラレ度

米、支、奉天、長春、北平ニ転電シ支ヲシテ南京ニ転報セシム

第一三四号

貴電第二号ニ関シ

当地税関長ヨリ四月十六日付公文ヲ以テ三村大尉ハ同月五日兵三十五名ヲ率ヒ穩城ヨリ越境シ冷水泉水子税関分署ノ民国家旗ヲ下シタル上満州国々旗掲揚方見張人ニ「インフォウム」シタル旨ノ報告ニ接シタルガ右ハ上官ノ指示セル処ニ非ザルベキヲ以テ派遣軍隊司令官ヨリ将来此ノ種干涉ヲ避クル様命令方取計アリタキ旨照会アリ、当地特務機関ニ協議シタル処右事実アリタルヤモ計ラレザルモ海関ノ民国家旗掲揚ハ新国家ニ面当ガマシク感ゼラレ軍隊側ノミナラズ一般地方人モ鮮カラズ反感ヲ有シ居リ或ハ誤解ヲ惹起スル懼アルニ付当方面目下ノ状況ニテハ右掲揚ヲ取止メル方可ナルベシトノ意見ニテ良キ弁法モ無キニ付安藤帮弁トモ話合ヒノ上本件ハ握リ潰シ置キ税関接收問題等其ノ他事態(ノ)推移ヲ見ルコトトセリ

外務大臣、奉天へ転電セリ

186

昭和7年5月5日

在本邦サンシム英商商務参事官より
 武富(敏彦)通商局長宛

三井・三菱銀行の満州国への借款に關し問合

土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アレ

184

昭和7年4月30日

在長春田代領事より
 芳沢外務大臣宛(電報)

立法院成立式挙行について

長春 4月30日後発
 本省 4月30日後着

第一八八号(暗)

本三十日執政國務總理以下要人多数臨席シ型ノ通り立法院成立ノ儀式ヲ挙行セリ尚本官モ招待ヲ受ケ右典禮ニ列席セリ御参考迄

支、北平、南京、奉天、吉林へ転電セリ

185

昭和7年5月3日

在間島岡田総領事より
 芳沢外務大臣宛(電報)

海関の民国国旗掲揚問題について

間島 5月3日後発
 本省 5月3日後着

第二八一号(暗)

本官発在支公使宛電報

サントウ

BRITISH EMBASSY,

TOKYO.

May 5th, 1932.

Dear Mr. Taketomi,

With reference to our recent conversation, may I ask whether you can give me some particulars of the loan which, according to press reports, is being made by the Mitsui and Mitsubishi Banks through the Chosen Bank to the new Manchurian State? Is it correct that the loan is not a public issue, the money being loaned privately by the above two firms; and that it will be secured upon the surplus salt revenues of the Manchurian State?

Yours sincerely,

Sansom.

T. Taketomi, Esquire,

The Gaimusho,

Tokyo.

(貼紙)

過日英大使館商務参事官「サンソム」他用ニテ来訪ノ節例ノ満州借款ト「コンソルシウム」トノ関係ニ付疑義アリト話シオリタルコトアリ別紙来信ハ貴局ニテ可然御処分被下度、小生ヨリハ右来信ニ対シ谷局長ヨリ何レ返事アルベシト答ヘオキタシ

五月六日スミ 武 富

谷亜細亜局長殿

187 昭和7年5月7日 武富通商局長より
在本邦サンソム英国商務参事官宛 (電報)

三井・岩崎両家の満州国への資金供与について

に

May 7th, 1932.

Dear Mr. Sansom,

In reply to your letter of the fifth instant regarding the credit which is being given by the Mitsui and Iwasaki families through the Chosen Bank to the new Manchurian Government, I have much pleasure in supplying you with the following information:

1. The credit is not in any manner connected with the Mitsui and Mitsubishi Banks. It has been offered privately and personally by the heads of the Mitsui and Iwasaki families, and consequently it is needless to say that the credit is wholly divested of the nature of an investment and is not a public issue.

2. The credit is given through the Chosen Bank, but the latter is acting simply as an intermediary and without commission.

3. Nothing has yet been decided upon the security of the credit.

Yours sincerely,

武 富 (署名)

G. B. Sansom, Esquire,
The British Embassy,
Tokio.

188 昭和7年5月(13)日 在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛 (電報)

外国よりの投資に関する駒井総務長官の談話
について

長春

本省 5月13日後着

第二三八号 (暗)

過日「フレーザー」商会主「E・W・フレーザー」本官ヲ来訪シ満州国側ノ交通方面各種工事請負及自動車売込等致度キニ付紹介アリタキ旨申出タルニ依リ不取敢駒井ニ紹介シ置キタル処其後同人ハ駒井ヲ訪問シテ右ノ希望ヲ申入ルト共ニ駒井ヨリ(一)満州国側ハ機会均等ニ外国ノ投資ヲ歡迎ス(二)外国投資ノ条件トシテハ財政窮乏ノ現状ニ鑑ミ期限三十年利息年六分位ノ長期投資ヲ希望ス(三)目下道路計画トシテ鉄道ヲ基調トスル營養的放射線状ノ道路網修築ヲ研究中ナルコト(四)家屋建築ノ如キハ優秀ナル外国技術者ニ依リ地方ニ適合シ且格安ニ工事シ得ル外国有力会社ノ請負投資ノ如キハ最モ歡迎スル次第ナリトノ意見ヲ聴取シ満足ノ意ヲ表シテ引取りタル由ナルカ其後同商会ハ國務院ニ「ダッチ」型自動車二台ヲ売込ミ尚他ニモ商談ヲ進メ居ル由又最近「フォード」会社社員ハ当地泰利洋行(邦人経営)ニ同居

シ既ニ数十台ノ自動車ヲ売込ミ居レリトノコトナリ何等御参考迄

道路計画案ノ詳細郵報ス

支、北平、奉天、哈爾濱へ転電セリ

189 昭和7年5月16日 在新民府土屋(波平)分館主任より
芳沢外務大臣宛 (電報)

新民県県長未決定の事情などについて

新民府 5月16日後発
本省 5月17日前着

第四二号 (暗、部外秘)

本官発奉天宛電報

第四二号

往電第二〇号ニ関シ

一、当地県長問題ハ未タニ解決セス此間省政府対自治指導委員長(現在ノ参事)間ノ確執ハ益々深マリツツアル模様ナリシ一方自治執行委員長ハ(脱)ノ為行政上ノ手腕ニ乏シク治績挙ラス地方税ノ納入スラ不成績ナル結果県財政ハ極度ニ窮乏シ居ル状況ナルヲ以テ指導員ハ百万金策ニ腐心シツツアルモ市政府側ニ於テハ毫モ援助ノ形跡

ナキノミナラス客月三十日付大臣宛公第六四号報告中ノ
四万元借款ニ対シテモ当初ハ無利子ナリトノ趣ナリシカ
最近利子ノ督促ヲ為スニ至リタル由ニテ右ハ指導員側カ
省政府任命ノ県長ニ反対シタル腹癒セニアラスヤト観測
セラル

二、聞知スルニ奉天省中未タニ県長ノ決定セサルハ当県及
鉄嶺ノ二ヶ所ノミトナリタル由ナル処当地ノ如キハ県政
振ハサル実情ニ鑑ミ内外人共ニ速ニ正式県長ノ決定ヲ希
望シ居ル次第ニシテ過般来本月初旬ニハ満州国最高機関
ノ協議ヲ以テ最後の解決ヲ見ル筈ナリトノ風説アリタル
カ兎ニ角本件ハ双方共ニ面目問題ニ転化シ意気張りノ気
味アリ成行気遣ハレ居タル処一昨十四日突如満州国政府
ヨリ当地指導委員長ニ対シ安東転勤ノ命令アリタル趣ナ
ルニ対シ右指導委員長ハ昨十五日急遽赴奉シタルカ当地
県政府筋ハ之ヲ秘密ニ為シツツアリ其間何事カ画策シツ
ツアルニ非サヤト察セラル

大臣、支、北平、安東、鉄嶺へ転電セリ

190 昭和7年5月(18)日 在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

現物出資セシムル予定ナリ

四飛行機ニハ勿論旅客機ヲ用フヘキモ内密ニ爆弾投下偵察
等ノ設備ヲ設クル計画ナリ

ト述ヘ年額七十五万円ノ政府補助金ヲ対支文化事業費ヨリ
支出ノ途ナキヤ否ヤニ関シ非公式ニ本官ノ所見ヲ求メタリ
右ニ対シ本官ハ対支文化事業費ハ法律ニ依リ規定セラレ居
ル関係上是ヲ航空事業費ニ振向クルハ至難ト思考セラルル
モ本件航空事業ニ関シテハ昨年来ノ経緯モ有リ且当館並ニ
関東庁側ニ於テハ警備上ニモ飛行機ノ必要ヲ痛感シ居ル次
第二モ鑑ミ本官ニ於テハ中央ニ対シ本件補助金ノ支出方ニ
関シ充分ノ努力ヲ辞セサル可ク文化事業費ヨリハ寧ロ警備
費トシテ外務、関東庁、陸軍等ニ於テ分担スル方実現ノ可
能性アル様思考セラルル旨述ヘ置キタル処同大佐ハ何レ近
ク軍ノ内議ヲ取纏メタル上正式ニ御相談ニ出ツ可ク又関東
長官ニ対シテモ直ニ軍ノ内意ヲ伝達スルコトトスヘキ旨語
レリ

関東庁側ヨリ予算ニ計上方要求ノ飛行機ハ削除セラレタル
趣ノ処本官トシテハ通化事件等ニ鑑ミ飛行機ノ必要ヲ痛感
シ居リ関東長官トモ同庁並領事館ニ於テ一致協力シ警備用

満州国航空権獲得に関する関東軍児玉大佐の
内話について

奉天
本省 5月18日後着

第八一六号(暗)

⁽¹⁾十八日関東軍児玉航空大佐来訪満州国ニ於ケル航空権ハ此
際出来得ル限り速ニ我方ニ獲得シ置クコト肝要ナルニ依リ
先般来考究ノ結果

(一)満鉄ニ於テ百五十万円ヲ又内地某財団ニ於テ百万円ヲ出
スコトトナリタル外今後十ヶ年間満鉄ヨリ五十万円満州
国ヨリ七十五万円ヲ出スコトニ内定シタルカ満鉄ニテハ
十ヶ年ニ亘ル補助金ノ支出ハ航空事業ノ恒久性アルコト
換言セハ日本政府ヨリ相当額ノ補助金支出アルコトヲ前
提トシ居レリ

(二)航空所トシテハ現在ノ処奉天ト錦州新義州大連哈爾濱間
ノ四線ヲ予定シ居ルモ将来収入増加ヲ俟チ齊齊哈爾大黒
河間長春吉林間吉林羅南間哈爾濱滿州里間等ノ各線ヲ開
キ度キ意向ナリ

(三)事業主体ハ満州国ノ会社トシ満州国側ヨリ飛行場其他ヲ

飛行機ノ備付実現方努力スヘキ旨打合居ル実情ナルカ前記

航空計画実現セハ其必要モ自然消滅スル次第ニ付本件補助
金ノ支出方予メ充分御考慮置相成度シ

支、北平へ転電セリ

191 昭和7年5月(21)日 在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

朝鮮人民会の間島特別行政地域化請願につい
て

長春
本省 5月21日後着

第二四九号(暗)

過般間島地方朝鮮人民会ハ満州国政府ニ対シ間島ニ特別行
政ヲ施行スヘク間島政庁新設方請願ノ結果満州国政府ハ考
慮ノ上右認許ノ色アルヤニ伝ヘラレ居ルニ付満州国側ニ付
確カメタル処請願書ハ國務院ニ於テ受付け之ヲ民政部ニ交
付シ同部ハ本月十四日吉林省公署ニ対シ新国ハ成立日尚浅
ク既ニ定メタル省区行政区域ニ変更ヲ加フル事ヲ欲セス請
願ノ趣旨ハ旧軍閥ノ為苛酷ナル取扱ヲ受ケタルニ対シ救助
ヲ求メ居ルモノト認メラルルニ付テハ一視同仁ノ建国精神

ニ基キ然ル可ク案ヲ立テ關係鮮人カ安心スル様配慮アレトノ意ヲ付シ右請願書ヲ転送シタル趣ニテ目下ノ処間島ニ政庁ヲ新設セントスル迄ニ進ミ居ラストノ事ナリ支、間島、奉天、吉林、朝鮮総督へ転電セリ

192 昭和7年5月24日 大連商工会議所篠崎嘉郎より
松田（道一）条約局長宛

大連海關設置に關する日中協約の満州国独立

後の取扱いについて

拝啓時下益御清榮奉賀候陳者満州国關稅問題モ御承知ノ成行ト相成總收入ノ五割ヲ占ムル大連海關ノ余剰金ガ未ダ接収ノ運ビニ至ラザルハ満州国ノ為メニ甚ダ遺憾ニ存候同國政府当局ハ國際連盟調査員ノ離滿スルヲ待チ何トカ方法ヲ講ジ度考慮中ナルヤニ仄聞致居候何分現下満州国ノ財政ヲ鞏固ナラシムルニハ一面密輸入ノ取締リヲ嚴ニスルト同時ニ他面大連海關剩余金ノ押収ガ当面ノ急務ト認メラレ候塩稅モ今日デハ相当ノ額ニ上リ統稅亦一千万円ニ達スル見込ニシテ大連海關ノ押収出来レバ財政ハ左程心配スルニ足ラズ日本ヨリ増兵シテ治安ノ維持ヲナスモ之ヲ支ヘ得ルモノト存居候却說御多用中洵ニ恐縮ニ存候得共今後關稅方針研

ノ關稅ヲ円滑ナラシムルト同時ニ支那トノ關稅モ亦大連ヲ通ジ前記ノ如キ取扱ヲナシ得バ滿支間ノ貿易ガ現状ヲ以テ進ミ得兩國ノ為メ頗ル有利ナルノミナラズ關東州ノ發展ニ格段ノ実効ヲ招徠スルモノト思考為致候

日支間ノ條約タル大連海關設置ニ關スル一協約ガ満州国獨立ノ為メニ満州国ニ關スルモノハ満州国トノ協約トナリ支那ニ關スルモノハ支那トノ協約トシテ各獨立シテ存続セシメ得ルヤ否ヤ而シテ之ヲ存続セシメタル曉大連海關ハ抑モ満州国ノ海關タルヤ或ハ支那ノ海關タラシムルヤ疑問アルモ其点ハ外債分担ノ關係モアルコト故關稅徵收上ノ件ト共ニ何トカ方法モ案出シ得ラルルニアラズ要ハ斯ル原則ガ認メ得ラル、モノナルヤ無遠慮ニ御垂教ヲ仰ギ度勿論機密ノ漏レル惧レモ全ク無之候間御私見ヲ以テ何分ノ御高教ニ接シ度奉願上候

昭和七年五月廿四日

大連商工会議所内

篠崎 嘉郎（印）

松田 道一様

侍史

究ノ為メ大連海關設置ニ關スル協約ニ關シ實ハ詭弁ノ感有之候得共当地ニ於テ說議ヲナスモノ有之敢テ御尋ネスル次第ニ有之候

（欄外注記）

現行大連稅關設置ニ關スル協約ハ日本ノ權益ニシテ關稅上満州ハ勿論支那開港場ニ對シテモ沿岸貿易トシテ低率ノ課稅ヲ以テ貿易ヲ營ミ得ルコト御承知ノ通りニ有之候就テハ満州国ヲ我國ガ承認シタル曉其満州ニ關スル部分ニ關シテハ支那ガ日本ト締結セル既存條約トシテ満州国聲明通り之ヲ尊重セシメ此ノ点ノミヲ切り離シテ新満州国ト新ニ協約ヲ締結シ現在支那トノ間ニ行ハレ居ル沿岸貿易其他ノ取極（特權）ニ關シテハ現在通り繼續セシメ得ルモノナルヤ斯クスル時ハ關東州租借條約ハ依然支那ト約束セルコトトナリ其改訂ハ支那ト交渉スルノ外ナキモ七十年後ノ關東州ハ更ニ考ヘ方モアルベク之ハ暫ク別問題トシテ右ノ主張ガ不当ナラズ可能ナリトセバ日本ハ今日満州国農産物ヤ銃鉄ニ對シ關稅ヲ引上ゲツツアリ今後モ日本ノ満州国品ニ對スル關稅ハ理想ニ反シ上ル傾向アリ而シテ支那ガ更ニ満州国ヲ外敵国トシテ其製產品ニ對シ重稅ヲ課スルニ於テハ満州国開發ノ為メ甚ダ遺憾ニ不堪依テ出来ルコトナレバ日滿間

（欄外注記）

租借地境界ニアルヘキ稅關ヲ大連ニ置キタル訳ニシテ沿岸貿易等ノ稅關ハ満州カ支那ノ一部タルコトヲ前提トスルモノナリ
從テ日本カ満州ノ獨立ヲ承認セバ日本ハ支那ニ向ツテ沿岸貿易ノ權利ヲ主張シ得サルヘシ

193 昭和7年5月26日 在長春田代領事より
齋藤（実）外務大臣宛（電報）

ブラゴエシチェンスクなどに満州国領事の駐在承認に關するソ連側の意向について

長春

本省 5月26日後着

第二五三号（暗）

二十五日大橋ノ内話ニ依レハ在哈爾濱蘇連總領事代理ハ施履本ニ對シ本國政府ノ回訓トシテ「ブラゴエ」ニ満州国任命ニ係ル満州国人ノ領事及日本人副領事ノ駐在ヲ承認スルト同時ニ「チタ」「ハバロフスク」浦潮斯德ニモ同様満州国領事ノ駐在ヲ承認スル意向ナル旨回答シ来リタル旨二十四日施ヨリ報告アリタルニ依リ満州国ニ於テハ目下領事派遣規則ヲ規定シ至急派遣方準備中ナル趣ナリ

支、南京、北平、吉林、奉天、哈爾濱、間島、露へ転電セ
リ

194 昭和7年5月26日 在長春田代領事より
齋藤外務大臣宛（電報）

公民権法案の概要について

長春 5月26日後発
本省 5月26日後着

第二五四号（暗）

二十五日大橋ノ内話ニ依レハ満州国政府ハ既ニ公民権法案
ノ起草ヲ了シ近ク國務會議ノ決議ヲ經テ公布施行スルコト
トナリ居レルカ右ハ在満日鮮人カ治外法權ノ特權ヲ有シツ
ツ満州国人ト同等ノ權利ヲ得ントシ現ニ多数ノ日本人カ満
州国官吏トナリ居ルモ法律及課税ニ服スル義務ナキ為満州
国人及他ノ外国人トノ間ニ不權衡ノ状態ニ置カレ居リ甚タ
好マシカラサルコトナルニ依リ此ノ不權衡ヲ除去セントノ
趣旨ニ出テタルモノニシテ該法案ノ骨子大要左ノ通ナリト
ノコトナリ

(一)外国人ニシテ満州国ニ五年以上居住シ満州国ノ法律及課
税ニ服スルコトヲ宣誓シ且左ノ条件ヲ具備スルモノニ対

本省 5月26日後着

第二五八号（暗）

貴電第五六号ニ関シ

御電訓ノ趣旨ハ曩ニ大橋ヲ通シテ満州国側へ伝ヘ置キタル
処満州国トシテハ日満間ノ特殊關係ト国内治安ノ現状ニ鑑
ミ日本側ニ於テ居留民保護上已ムヲ得サル臨機措置トシテ
警察機關ヲ増設セントスルニ強テ反対スルモノニ非サルモ
設置ノ場所ト理由ヲ事前ニ満州国政府ニ通告シテ其了解ヲ
取付クルコトハ独立国トシテ面目ヲ立テ形ヲ整フル上ニ相
互ニ好マシキコトナリ殊ニ南滿ノ如ク条約ニ依リ邦人ニ開
放セラレタル地域ハ格別トスルモ北滿ノ未開放地ニ警察機
関ヲ設置スルカ如キ場合ハ他国ニモ口実ヲ与フ惧アルニ依
リ何等カノ形式ヲ以テ「リーガライズ」スル必要モ生シ来
ル次第ニ付予メ満州国ノ承認又ハ同意ヲ要スル建前ニテ進
ミ度シトノコトナリ

尚大橋ノ私見ニ依レハ満州国ノ堅実ナル發達ト内容ノ改善
ヲ熱望シ之カ指導的立場ニアル日本トシテハ近キ将来進ン
テ治外法權ノ撤廃等モ考慮ニ置カサルヘカラサル処財政窮
乏ノ時徒ニ厯大ナル警察費ヲ満州ニ投シテ在留民ノ現地保

シ公民権ヲ付与シ満州国内一切ノ公權及私權ヲ享有セシ
ム

(イ)満州国ニ敵意ヲ有セサルモノ

(ロ)公序俗ヲ乱ス虞ナキモノ

(ハ)破廉恥罪ヲ犯シタルコトナキモノ

(ニ)満州国ニ対シ功績アルモノ及特殊技能ヲ有シ満州国ニ於
テ必要ト認メタル外国人ニ対シテハ前項ノ条件ヲ具備セ
サルモノト雖公民権ヲ付与ス

(三)無国籍人及大同元年三月一日以後ニ入国ノ民国人並ニ三
月一日以前二ケ年間に入国シタル民国人ニシテ一定ノ住
所ヲ定メサルモノハ外国人ト看做ス

中華民國人法律ニ依リ帰化シ現ニ満州国内ニ居住スルモ
ノハ之ヲ満州国人ト看做ス

支、南京、北平、奉天、吉林、哈爾濱、間島へ転電セリ

195 昭和7年5月(26)日 在長春田代領事より
齋藤外務大臣宛（電報）

日本側の警察機關増設等は事前に満州国の承
認取付が適当との大橋談話について

長春

護ヲ行フカ如キハ奥地ノ現状ニ鑑ミ慎重ナル考量ヲ要スヘ
キノミナラス法權撤廃ノ場合右警察官ヲ満州国側ニ引継
グトスルモ給与等ノ点ニ於テ全部ヲ引受ケ兼ヌル次第ナルヲ
以テ多数ノ失業若シ生スルコトヲモ考ヘ置カサルヘカラス
從テ此ノ際端的ニ警察機關ノ拡張ヲ為スコトハ考ヘモノナ
リトノコトナリ御参考迄

196 昭和7年5月27日 在間島岡田総領事より
在中国重光公使宛

石建坪海關分所における青天白日旗引卸し事
件について

付屬書一 五月十一日付ウオーレンス延吉海關長代理より
在間島岡田総領事宛
右に関する照会
ニ 五月二十七日付在間島岡田総領事より華延吉
海關稅務司宛公文第五六号
同回答

公機密第七号

昭和七年五月二十七日

在間島

總領事 岡田兼一

在中華民國

特命全權公使 重 光 葵 殿

海關分所国旗引下ニ関スル件

本件ニ関シテハ五月下旬電報ヲ以テ報告申進置キタル処
当地税関長ヨリノ照会並ニ右ニ対スル本官ノ回答別添ノ通リ
送付シタルニ付委細右ニテ御承悉相成度シ

本信写送付先 外務大臣 北平 奉天 管下四分館

(付屬書一)

CUSTOMHOUSE,

Lungchingtsun, 11th May, 1932.

Dear Sir,

I beg to refer to my letter to you, dated the 16th April last, concerning the action of a Captain Minura, in command of a detachment of 35 Japanese soldiers, who crossed the frontier from Onjo, and hauled down the Customs flag at the Liangshuich'uantzu Patrol Station and informed the Watcher in charge of that Patrol Station that he must fly the flag of the Manchukuo. This matter was referred to the Inspector General of

Customs seniofficially, and the Inspector General has now replied to me enquiring what action has been taken. Is it possible that you are now in a position to reply to my letter?

I have the honour to inform you that another similar case has recently occurred at Shihchiemp'ing, but it would appear that the military were not concerned in it on this occasion. The facts of it, as reported to me, are as follows:

On the 3rd May, 1932, at 11 a.m., a Japanese Police Sergeant with 10 policemen and 20 gendarmes arrived from Yenchi at Shihchiemp'ing. The Sergeant despatched a policeman to summon Mr. Kim Shih-yeh, District Local Watcher in charge of the Shihchiemp'ing Customs Barrier, to his presence. Mr. Kim duly appeared and was then forced to kneel down in the street surrounded by a ring of police and gendarmes, who kicked him, and beat him with swords and rifle butts. Mr. Kim is a Korean. Two Chinese Watchers attached to this

Barrier were similarly made to kneel in the street and were struck with rifle butts. Orders were issued by the Police Sergeant that the Customs Staff were all to leave Shihchiemp'ing on the same day, the 3rd May last. However, later in the morning, 3 gendarmes went to the Customs Barrier and told Mr. Kim that the order for the staff to leave had been revoked, but that the Customs flag flying at the Barrier was to be removed. This order was complied with, though the flag has since been restored by my orders. The gist of this was telephoned to you by Mr. Ando of this Office, on the 6th.

Once again I must be permitted to express my astonishment at such outrageous action by the police, and to enquire in what manner they are concerned with the flying of any particular flag at the Customs Barriers and Stations? The flags we fly are flown by orders of the Inspector General and without his authority the flags cannot be changed. Moreover, I would once

more ask you in what way interference with Customs Staff and administration is concerned with the protection of Japanese nationals, which is the ostensible reason for the despatch of forces of soldiers and police to these districts?

I have the honour to request that you will be so kind as to cause enquiries to be made into this occurrence at Shihchiemp'ing and favour me with a reply at your early convenience.

I am, Sir,

Your obedient Servant,

A.G. Wallas.

Acting Commissioner.

(付屬書二)

公文第五六号

拜啓陳者本月十一日付貴信第三一九号ヲ以テ御申越ノ趣聞
悉然ル処右ハ当館ニ於テ取調ノ結果五月三日局子街分館警
察署員八名、憲兵十名、南陽坪分署員九名合計二十七名ハ
良民ヨリ金品ヲ強奪シ或ハ無辜ノ住民ヲ殺傷セル共產系朝

鮮人逮捕ノ為石建坪ニ出動シタル処同地海關分所長鮮人金時臣ハ予テ過激ナル排日思想ヲ抱持シ居ル人物ニテ今回我カ憲兵及警察官ノ同地出動ヲ極度ニ恐怖シ海關分所々在地ヲ距ル約百五十米突ノ地点迄自ラ出テ来リ過去ノ排日行動ヲ陳謝セルカ其際同人ハ路上ニ跪坐シテ哀願シ又同分所掲揚ノ民国旗モ自ラ進ミテ之ヲ引下シタルモノニ有之御来示ノ如ク我憲兵及警察官ハ同分所ヲ訪レタルコトナキノミナラス金及他ノ支那人海關員ヲ路上ニ跪坐セシメ或ハ蹴リ又ハ劍及銃尻ニテ殴打セル等ノ事実ナク更ニ海關掲揚ノ民国旗ノ引下ヲ命シタルカ如キコトハ全然事実ヲ虚構セルモノニテ右ハ金カ自己ノ非ヲ掩ハムカ為不都合ニモ斯ル捏造報告ヲナシタルモノナルコト判明致候

然ルニ貴税関長ハ右金ノ報告ヲ過信セラルルカ如キハ本官ノ甚タ諒解ニ苦シム所ニ有之候此段回答得貴意候 敬具

昭和七年五月二十七日

間島駐在日本総領事 岡田 兼一

延吉海關稅務司 華 榮 士 殿

197

昭和7年5月30日 在奉天森島總領事代理より
齋藤外務大臣宛(電報)

大連海關收入滿州國歸屬說に対し反対の意向表明について

奉天 5月30日後発
本省 5月30日後着

第八六五号(暗、部外秘)

二十九日関東長官来訪ノ際大連海關收入問題ニ関シ新国家側財政窮乏ノ実情ニ鑑ミ大連海關收入ヲモ滿州國ニ取ラシムル事然ル可キヤニ思考セラルル処右ニ付テハ関東庁並ニ領事館共ニ関知セサル立前ヲ執リ福本税関長ヲシテ自発的ニ送金セシメハ差支ヘ無キニ非サヤト本官ノ所見ヲ求メタルニ依リ本官ハ右案ハ對外關係上絶対ニ不賛成ナリ且實際問題トシテ考慮スルニ大連ノ收入ヲモ滿州國ニテ取立ツルトセハ大連海關收入中ノ外債担保分ノミナラス滿州國內ニ於ケル他ノ總テノ海關收入中ノ外債担保分ヲ南京ニ送ルノ必要ヲ生スル処大連海關收入ハ大概滿州ニ於ケル總海關收入ノ約半ヲ占ムルニ鑑ミ結果ニ於テハ大連以外ノ税関收入ヲ差押ヘントスル現在ノ案ト大差無カル可ク之カ為ニ強イテ對外關係上紛糾ヲ惹起スルカ如キ手段ニ訴フルハ不得策ナリトテ從來ノ経緯ヲ委細説明シ置キタリ尚関東長官ハ右

用件ノ為帰庁直前ニ特ニ本官ニ面会ヲ求メタル次第ニシテ前後ノ事情ヨリ察シ真面目ニ考慮シ居ルカ如ク思考セラル右河相課長ヘ内報済

198

昭和7年6月1日 在吉林石射總領事より
齋藤外務大臣宛

吉林總領事館管内治安情勢について

付屬書 在吉林總領事館「昭和七年五月中の治安概況」

機密公第四六八号

昭和七年六月一日

在吉林

總領事 石射猪太郎

外務大臣子爵 齋藤 実殿

管内一般治安情勢報告ノ件

本件ニ関シ当館ニ於テ調査シ得タル五月分ノ概況別紙ノ通り報告申進ス

本信写送付先 在華公使及北平

奉天 哈爾濱 間島各總領事

長春領事 海竜 通化各分館主任

朝鮮總督 関東長官

(付屬書)

昭和七年

五月中ノ治安概況

在吉林

日本帝國總領事館

一般狀況

兵匪王德林軍ハ其後主力ヲ敦化県城南方官地付近ニ集結シ大刀会匪ト合シ其数二千余ニ達シ愈々勢力ヲ得テ敦化襲撃ト敦図線敷設妨害ヲ画策シツツアリタルモ皇軍ノ増派ニ伴ヒ一時断念スルニ至リタルカ該匪ハ皇軍手薄ニ乗シ目的ヲ敢行セムト常ニ便衣隊ヲ派シ機ヲ待テ居レルカ如シ吉敦沿線地方ニ跳梁セル匪賊ハ其ノ都度皇軍ノ討伐ニ遭ヒ下旬ニ至リ漸ク小康ヲ得ルニ至リシカ小數ノ匪賊ハ出没常ナク皇軍ニ於テハ各駅ニ分駐シ警護ニ任シ居レリ

一方磐石県下ニ於テハ四月下旬ヨリ五月中旬ニ至リ共產党分子ハ親日鮮人八名ヲ殺害シ其ノ跳梁熾烈ヲ極メタルヲ以テ滿州國軍警ヲシテ之カ檢挙ヲ図ラントスル中五月十四日磐石県城駐屯第二連兵全部ハ朱旅長ノ銃器検査ニ不満ヲ抱キ黒石鎮方面ニ逃走シ五月十六日ニハ双陽県營城子駐屯第

事項2 満州国の成立と日本の承認

同父	七〇	磐石県 富泰河	磐石県 東北岔	殺害	五月八―十 二日	磐石県委共 産党鮮人
同舎弟ノ妻	〃	〃	〃	〃	〃	〃
同舎弟ノ小兒	〃	〃	〃	〃	〃	〃
崔沢成	三三	〃	〃	〃	〃	〃
李炳	四一	〃	〃	〃	〃	〃
同ノ妻	三八	〃	〃	〃	〃	〃
朱鐘興	四〇	磐石県 呼蘭集廠子	磐石県 郭家店	〃	四月廿五日	〃
申在	五〇	〃	〃	〃	四月下旬	〃
同ノ妻	〃	〃	〃	〃	〃	〃
申均	四五	〃	〃	〃	〃	〃
金万斗	一七	〃	〃	〃	〃	〃
同ノ母	四七	〃	〃	〃	〃	〃
同ノ舎弟	三八	〃	〃	〃	〃	〃
河根昌	〃	〃	〃	〃	〃	〃
同ノ舎弟	〃	〃	〃	〃	〃	〃
孫宇植	〃	〃	〃	〃	五月下旬	〃
同ノ家族	〃	〃	〃	〃	〃	〃
李相浩	〃	〃	〃	〃	〃	〃

同ノ家族	六名	磐石県 呼蘭集廠子	磐石県 郭家店	殺害	五月下旬	磐石県委共 産党鮮人
金成允	〃	〃	〃	〃	〃	〃
同ノ家族	三名	〃	〃	〃	〃	〃
柳永佑	四七	〃	〃	〃	〃	〃
同ノ妻	四三	〃	〃	〃	〃	〃
同ノ子女	四名	〃	〃	〃	〃	〃
人名未詳	五名	〃	〃	〃	〃	〃
車明彦	四〇	磐石県 呼蘭集廠子	〃	〃	〃	〃
車竜	三五	〃	〃	〃	〃	〃
車竜	三二	〃	〃	〃	〃	〃
車相	二七	〃	〃	〃	〃	〃
同ノ娘	〃	〃	〃	〃	〃	〃
車信吾	〃	〃	〃	〃	〃	〃
同ノ家族	一名	〃	〃	〃	〃	〃
車正男	二〇	〃	〃	〃	〃	〃
李根	〃	〃	〃	〃	〃	〃
李根	〃	〃	〃	〃	〃	〃
李根	〃	〃	〃	〃	〃	〃

七連兵反乱シ磐石県内ニ侵入シ県下玻璃河套ニ駐屯セル保衛隊ヲ襲ヒ放火掠奪シタル事件アリテ第二ノ王徳林軍ヲ釀成スルカ如キ状勢ニ至リタルヲ以テ討伐不能ニ陥リタリ依テ県内居住鮮人ハ一大動揺スル所トナリ県城ニ避難スルモノ続出スルニ至レリ

不逞鮮人ノ状況

本年二月中五常県ニ於テ吉林剿匪軍ノ討伐ニ遭ヒ左脚部ニ銃創ヲ受ケ舒蘭県小山子ニ逃レ治療中ナリシ不逞鮮人権守貞ハ銃創全癒シタルヲ以テ五月八日該地ヲ出発シ兵匪王徳林軍ノ下ニ赴キ最近該軍ノ副官兼軍医長ニ被任セラレタリト尚同志咸哭虚コト金一山ハ該軍連長ニ其他六名ハ排長伍長ニ被任セラレ活動中ナリトノ報アリ

共産党ノ状況

磐石県内共産党分子ハ五月一日メーデー当日ヲ期シ磐石県城ヲ襲撃スベシトノ情報アリタルヲ以テ我磐石警察分署ニ於テハ満州国軍警ト協力シ鋭意警戒査察ニ務メタル結果何等不祥事変ヲ見ス經過シタリシガ県下ニ於ケル共産黨員ノ跳梁ハ依然熾烈ヲ極メ四月下旬ヨリ五月中旬ニ至リ県内東北岔郭家店地方ニ於テ日本ノ走狗トシテ殺害シタル鮮人ハ

被害者氏名	年齢	同上住所	被害場所	被害程度	被害日時	加害者
李成	七一	磐石県 富泰河	磐石県 東北岔	殺害	五月二日	磐石県委共 産党鮮人
李鳳	四三	〃	〃	〃	〃	〃
崔沢	三七	〃	〃	〃	〃	〃
李振	五〇	〃	〃	〃	〃	〃
李允	三六	〃	〃	〃	五月八―十 二日	〃
同舎弟	〃	〃	〃	〃	〃	〃
同舎弟	〃	〃	〃	〃	〃	〃

五月中兵匪及共匪ニ依ル被害者調

在浦潮高麗共産党ニ於テハ兵匪王徳林軍ノ請ヲ容レ四月下旬琿春県東溝地方へ五十名申東線敦化地方へ二百五十名ヲ派シ王徳林軍ニ加担シ反日行動ヲ援助シツツアリトノ報アリ

李光淳	額義氣溝	額義氣溝	五月十五日	兵匪六名ノ為メ銃殺セラレ
前田甚衛門	大阪村建設視察員	銃殺五月下旬		
宇土正司	敦化組員	重傷		
広津藤一	敦化隊員	輕傷		兵匪王德林一隊六十餘名ノ為メ射撃セラレ
広瀬専次	敦化組員	拉致五月廿三日		大刀会匪ノ為メ拉致セラレ
同人ノ家族	三名			
朴福	四名			
同人ノ家族	四名			
金謙道	四名			
金泰山				
金昌海				
同人ノ妻				
鄭華善				
同人ノ子女	五名			
呼蘭鎮溝	磐石県郭家店	殺害五月下旬		磐石県委共産党鮮人

計 殺害 邦人 一名
鮮人 八一名

便宜供与方依頼に關する大橋次長の駐ハルビン
ソ連總領事への書翰

ハルビン
本省 6月2日後着

第五九六号(暗)

大橋次長一日朝来哈、同日蘇連總領事「スラウツキー」ト
会见

一、大橋ヨリ「ブラゴエ」駐在支那領事更迭問題ニ関シテ
ハ公文ヲ以テ満州国ハ近ク自国ノ領事ヲ派遣スヘキニ付
便宜供与方並其着任迄同領事館ノ財産ヲ蘇連官憲ニ於テ
保管セラレ度キ旨申入ルヘキニ付之カ「アクノレッヂ」
ヲ与ヘラレタシト申出テタルニ対シ「ス」ハ本件ハ当初
当方ヨリ持チ出シタル問題ニモアリ書面交換ノ必要ナク
単ニ領事ノ任命派遣並其入国手續ニ関シ申越サルル丈ニ
テ充分ナルヘシト答ヘタルモ結局大橋ヨリ右公文ヲ送付
シ「ス」ニ於テ考慮ヲ加フルコトナリタル由(公文要
旨ハ別電第五九七号ノ通ナリ)

二、正式承認問題ニ関シテモ大橋ヨリ申入ルル処アリタル
カ「ス」ハ前項領事派遣問題ノ次第モアリ蘇滿(満州

傷害 邦人 二名
拉致 邦人 一名
付記 此外氏名不詳ニシテ傷害受ケタルモノ多数算スルモ本表
ニハ計上セス
五月中不穩文書押収表

題 号	発行地	部 数	摘 要
磐東中韓反日会為除日本 走狗告民衆	磐石県	一	
磐東反日会為除日本走狗 機關農務会告中韓民衆書		一	
反 帝 群 衆		一	
紅色五月労働婦女の口号		一	

199 昭和7年6月2日 在ハルビン長岡總領事代理より
齋藤外務大臣宛(電報)

満州国領事派遣および同国承認問題に關する

大橋・スラウツキー会談について

別 電 六月三日着在ハルビン長岡總領事代理より齋藤
外務大臣宛第五九七号
ブラゴエシチェンスクに満州国領事派遣に關シ

政権」ト称シタル由(兩者間ノ現在關係ヨリ言ヘハ表面
的ナル措置ハ此際左程迄取急クニ及ハサルヘシトナシ大
橋ヨリ日本政府モ民間大衆ノ輿論ニ從ヒ早晚満州国ヲ承
認スルニ至ルヘキ処蘇連側カ日本ニ先シテ承認ヲ与フ
ルニ於テハ日本民衆ノ對蘇感情好転スヘキコト疑ナシト
説キタルニ「ス」ハ蘇連ノ恐ルルハ満州国問題ニ依リ
テ日蘇兩國間ノ關係悪化スルコトナキヤノ点ナリ前回会
談ノ際申出ラレタル蘇滿修好条約締結方ニ関シテハ未ダ
回訓ニ接シ居ラス從テ本国政府ノ真意如何ハ承知セサル
モ今日御申出ノ次第ハ概要早速電報シ詳細郵報スヘキヲ
以テ約二週間後ニハ政府ノ意向モ判明スヘシト答ヘタル
由(右ニ関シ大橋ハ蘇連側ヨリ東京又ハ莫斯科ニ於テ承
認問題ニ対スル我方ノ方針ニ付何等問合アルヤモ知レシ
ト言ヒ居タルニ付御含置ヲ仰キタシ)

三、「ス」ハ其ノ際本会談ニ依リ吾等ハ歴史ノ一頁ヲ書キ
ツツアルモノナルヤモ知レストテ乘氣ニナリ居ルカ如キ
様子ヲ見セ尚蘇連ノ中立態度ノ説明ニ当リテハ例ヘハ李
杜、丁超等ノ支那軍隊カ国境ニ入り込ムカ如キ場合其ノ
武装ハ直ニ解除セラルヘシト語リタル趣ナリ

本省ヨリ米へ転電アリタシ
露ヨリ連盟、英、仏、独、伊ニ転電アリタシ
露、支、北平、奉天、長春へ転電セリ

(別電)

ハルビン

本省 6月3日前着

第五九七号

別電

(五月三十一日付駐哈蘇連總領事宛外交部大橋次長発公文要領)
貴国政府ハ四月十六日貴總領事ヲシテ吉林交渉署長ニ対シ「ブラゴエ」駐在中国領事ノ至急更迭方要求セシメラレタル処本政府ハ從來中国ノ派遣セル他ノ貴国各地駐在ノ領事ヲモ一律更迭シテ正当ニ本政府ヨリ派遣接收シ以テ邦交ヲ敦厚ナラシメムト銳意考究中ナルカ「ブ」市ニ対シテハ国内治安維持ノ為至急領事派遣ノ必要ヲ認メ居レリ就テハ右領事ノ入国並ニ職務ノ執行ニ対シ便宜ヲ供与セラレ且領事館ノ接收並ニ領事着任前ニ於ケル領事館財産ノ保全等ニ付管轄地方官ヲシテ保護セシメラレ度ク領事及隨員ハ人選確

トトシ差当リノ対策トシテ鮮人ノ直接行動ニ依リ税関長等
其他ノ英国人ニ危害ノ及フカ如キ不始末ヲ来ササル様此上
トモ取締及保護ノ途ヲ講セラレ度ク尚前記英国大使覚書ニ
記載セラレ居ル事実中郵便局長住宅ニ投石シタルコト及日
本新聞カ税関長攻撃記事ヲ掲ケ民心ヲ激成シタルコトノ有
無当方参考迄ニ電報アリ度シ
別電ト共ニ支、奉天、北平へ転電セリ

(別電)
第三三二号(暗)
朝鮮人ノ竜井村税関襲撃ニ関スル件
別電

本省 6月2日後7時20分発

第三三二号(暗)

朝鮮人ノ竜井村税関襲撃ニ関スル件

別電

覚書訳文(六月一日付)

客月三十一日夕在奉天英国總領事ノ接受セル報告ニ依レハ
同月廿六日朝間島竜井村ニ於テ朝鮮人多数遽ニ税関及税関
長ニ対シ反対示威運動ヲ行ヒ且同地郵便局長住宅ニ投石セ
ル趣ナル処右税関長及郵便局長ハ何レモ英国臣民ニシテ本
事件ハ同地日本新聞紙ノ激越ナル税関長攻撃論説ニヨリ激
成セラレタルヤニ伝ヘラル

定次第通知スヘシ
本省ヨリ米国へ転電アリ度シ
露ヨリ連盟、英、仏、独、伊ニ転電アリ度シ
露、支、北平、奉天、長春へ転電セリ

200 昭和7年6月2日 齋藤外務大臣より
在間島岡田總領事宛(電報)

朝鮮人の竜井村税関襲撃に關し英国人保護方
同国大使より申出について

別電

同日齋藤外務大臣より在間島岡田總領事宛第一
三三二号

右事件に關する英国大使覚書

本省 6月2日後7時10分発

第三三二号(暗)

朝鮮人ノ竜井村税関襲撃ニ関スル件

貴電第三三二五号ニ関シ

一日在京英国大使有田次官来訪別電ノ如キ覚書ヲ寄セ鮮人
不穩運動ノ取締並英國人ノ保護方申出テタル趣ナルカ鮮人
側要望ニ付テハ税関側ニ於テモ種々考慮中ノ模様ニモアリ
此点ニ関スル措置ハ税関側ノ出方ヲ見送リタル上ニ譲ルコ

在奉天英国總領事ハ同地日本同僚ニ対シ日本軍及警察当局
ヲシテ在竜井村英国臣民全部(婦女子ヲ含メ計約十八名)
ニ対シ充分ナル保護ヲ与ヘシムル様取計方要請スル所アリ
タリ

201 昭和7年6月3日 在長春田中(正一)領事代理より
齋藤外務大臣宛(電報)

満州国承認問題および対ソ外交事務取扱に關
する大橋・スラウツキイ間会谈について

長春

本省 6月3日前着

第二七一号(暗)

二日哈爾濱ヨリ帰来シタル大橋ノ内話ニ依レハ同人ハ前日
蘇連總領事ト長時間会见シテ満州国正式承認ノ問題ヲ論議
シ又満州国ハ在哈爾濱吉林交渉署ヲ撤廃シテ外交部北滿特
派員弁事処ヲ設置シ(前交渉員施履本ヲ処長トシ邦人杉原
ヲ付ケ置クコトニ内定シ居ル由)蘇連側ハ同總領事ヲ外交
代表トシテ彼我ノ外交事務ヲ処理スル外出来得レハ最近ノ
機会ニ大橋ト右代表トノ間ニ外交公文ノ往復ヲ為シ度キ旨
懇談シタル処同總領事ハ本国政府ニ請訓スヘシト答ヘタル

趣ナリ
公使、奉天、哈爾濱、北平へ転電セリ

202 昭和7年6月4日 橋本(虎之助) 関東軍参謀長より
真崎参謀次長宛(電報)

大連海関をふくむ各海関の満州国への接收の
必要性について

6月4日後2時30分発
6月4日後6時50分着

関参第五二〇号(其一一七)(極秘)

満州国ノ現況ニ鑑ミ此ノ際大連関ヲモ含ム各海関ノ接收ヲ
行フコトハ当然ニシテ、而モ緊急ヲ要スル事項ナルカ満州
国ヲ支持スル大方針ニ徹底シ、左記満州国ノ意見ヲ採用シ
テ其実施ヲ默認シ一貫シテ鞏固ナル支持ヲ与フルコト緊要
ナリト認ム
尚本件ハ満州国側ノ実施迄ハ絶対極秘ヲ要スヘク、又関東
長官森島總領事代理福本大連関長ニ於テモ十分諒解シアル
ニ付含ミ置カレ度

左記

一、満州国財政ハ治安維持困難ノ為建国当初ノ歳入見積六

ニ大連関ヲ含ム全滿海関ノ関員ヲ任命シ對抗セントス

三、其場合日本政府側ニテ友誼的態度ヲ持サレ大連ニテ満
州国カ関稅事務ヲ処理スルコトヲ默認セラレ、先方ノ抗
議等ノ結果満州国ノ(二字不明)ヲ妨碍セラレサランコト
ヲ希望ス、默認ノ場合ニ於テモ國際關係上日本及滿州国
ヲ不利ノ地位ニ陥ルルモノニアラスト思考ス、其理由左
ノ如シ

(イ)満州ノ難キヲ忍ンテ受ケ入レントスル第一案ハ「メエ
ズ」ノ所謂「カストム、インテグリティ」ヲ保ツ所以
ニシテ同人ニ於テ異存無キニ拘ハラズ、南京カ殊更反
對シ妥協ヲ妨ケ居ルヤニ伝ヘラレ、満州国ノ今回ノ決
意ハ止ムヲ得サル最後ノ手段ニシテ非ハ全ク先方ニ在
リ

(ロ)日本カ支援セスハ満州トシテ大連ニ對スル打撃ヲ顧慮
スル暇ナク瓦房店ニテ徵稅ヲ開始セサルヲ得サルヲ以
テ日本トシテ大連關暫行協定ニ拘ハラズ、自衛上ヨリ
満州国ノ大連ニ於ケル行為ヲ默認セサルヲ得サル筋合
トナル、又日本カ實質的ニ滿州国ヲ承認援助シアル今
日、日本トシテ大連關ヲ實質的ニ滿州国税關ト見做シ

千四百萬元ヲ實現スルニ重大ナル難関ニ逢着セリ、而モ
右金額中ニハ千九百萬元ノ関稅收入及一千萬元ノ阿片專
賣收入ヲ計上シアルヲ以テ、右兩者ヲ急速ニ処理シテ歲
入ヲ拳クルニ非サレハ歳出見積九千三百萬元ヲ控ヘテ如
何トモスヘカラサル窮地ニ在リ、依ツテ此ノ際斷乎トシ
テ大連關ヲ含ム全滿海関ノ関員ノ身分ヲ保証シ外債担保
ノ部分ヲ除キ稅收ヲ收ムル方針ニテ入手セントス、就中
大連關稅收ハ全滿關稅收中二千四百萬海關兩ノ半額ヲ占
メ滿州ノ負擔スヘキ外債担保部分約五百萬兩ヲ超過スル
コト七百萬兩ニ達スル見込ニ付同關ヲ放置シテ他關全部
ノ收入ヲ取得スルモ滿州国トシテ年額七百萬兩損害ヲ受
ケ忍ビ難キニ付、万難ヲ排シテ同關ヲ入手セントス、尤
モ其過程中南京カ先ニ五省連合会ニテ協定セラレタル第
一案ニ折レ来ル場合ニハ之ニ同意スル用意アリ

二、大連關接收ノ方法ハ関員ヲ滿州国ニ寢返ラシメ其際若
シ支那側カ新関員ヲ派シテ別ニ徵稅ヲ行ハントシ更ニ全
滿海關閉鎖ヲ以テ臨マントスルカ如キ場合ニハ已ムナク
瓦房店等ニ於テ徵稅スル振ヲ以テ威嚇シ大連ニ於ケル支
那ノ努力ヲ水泡ニ帰セシムルト同時ニ予メ手配ノ上一挙

得ヘク、更ニ其関員カ滿州ニ忠誠ヲ誓フ場合ニハ尚更
ニシテ日本カ滿州ノ行為ヲ默認スルモ稅關協定ニ違反
スルモノト言ヒ得ルヤ疑問ナリ

(イ)世論ハ滿州ヲ實質的ニ承認援助シアル日本カ滿州財政
上絶対必要ナル大連關稅收差押ニ援助ヲ与フルハ自然
ト解スヘシ

(ニ)連盟ノ極東出發ヲ待ツカ如キハ財政ノ許ササル所ナル
ノミナラス、滿州国カ斯クノ如キ自然的ナル財政上ノ
緊急措置ニ出ツル上ニ於テ毫モ連盟等ニ氣兼ね要ナ
ク、寧ろ連盟ノ滞在中之ヲ敢行シ、滿州ノ独立性ヲ發
揮シ且滿州問題ニ関スル日本及滿州国ノ斷乎タル決意
ヲ表スコト有利ナリ

四、要スルニ滿州国ハ大連關モ他国ノ如ク滿州ニ帰屬スル
モノナルニ拘ラス、偶々同關カ關東州ニ在ルタメ支那カ
不法ニ徵稅ヲ繼續シツツアルモノト思ヒ居リ、依テ日本
カ今直チニ滿州国ヲ正式ニ承認シ以テ同關ヲ同国ニ引渡
スニ於テハ問題無カルヘキモ若シ何等カノ事情ニテ承認
遅ルル場合ニハ滿州国ニ對シ甚大ノ支援ヲ与ヘラルル
コト必要ナリ

203

昭和7年6月4日

齋藤外務大臣より
在奉天森島總領事代理、在北平中山
(詳一)書記官他宛(電報)

満州国早期承認の意向について

合第一二七八号

本省 6月4日後0時50分発

満州国承認ニ関スル議會答弁ノ件

三日衆議院ニ於テ本大臣外交演説ニ対スル松岡代議士ノ質疑演説中満州国承認促進論ヲ唱ヘ本大臣所見ヲ訊シタルニ
對シ左記ノ趣旨ヲ答ヘ置キタリ

満州国ハ出来得ル限り速ニ承認シタキ考ヲ有ス併シ乍ラ右ハ政治的ニモ實際的ニモ根本且大局ヨリ見テ決定スルヲ要スル問題ニテ万遺憾ナキヲ期スル意向ナリ

(奉天宛ニハ「在滿各領事館ニ転電アリタシ」

支宛ニハ「南京ニ転報アリタシ」

米宛ニハ「紐育、シカゴ、桑港、加奈陀、墨、伯ニ転電

シ伯ヲシテ在南米各公使ニ転電セシメラレタシ」

寿府宛ニハ「在欧各大公使ニ転電アリタシ」ト各付記ノ
コト)

204

昭和7年6月6日

有田(八郎)外務次官より
在本邦リンドレー英國大使宛(手交)

竜井村中国海関に対する朝鮮人の示威運動に
ついて

在竜井村日本總領事報告ニ拠レハ五月二十六日同地朝鮮人ノ税関ニ対スル示威運動事件ノ經過及右ニ対シ同總領事館ノ執リタル措置次ノ如シ

由來同地支那税関ハ日鮮人ノ輸出入貨物ニ対シ高率ノ鑑定価格ヲ付シ之ニ抗弁セムカ面罵ヲ加ヘ故無クシテ通関手續ヲ遅延セシムル等横暴ノ振舞アリ且税関吏ノ取扱一般ニ不親切ニシテ殊ニ支那人税関吏ハ排日的言動ヲ敢テシ朝鮮人ニ対スル態度極メテ不遜ナリトテ平素ヨリ日鮮人ノ間ニ不平ノ声高カリシカ曩ニ満州国独立宣言アリタル後同税関ニ於テハ殊更ニ大型ノ青天白日旗ヲ新調掲揚シ一般ノ反感ヲ買ヒ居リタル事実アリ

其後朝鮮人ノ同税関ニ対スル反感益々高マレルモノノ如ク

最近税関長ニ宛テ鮮文ヲ以テ威嚇的投書ヲ為セル者アリト

ノコトニテ日本總領事館ニ於テモ注意中ノ処五月二十六日朝竜井村市民大会開催ノ「ビラ」市内ニ撒布セラレ午前十一時頃迄ニ会場市民「グラウンド」ニ集合シタル朝鮮人約八百名ニ達シタルヲ以テ同總領事館ヨリ直チニ警察官ヲ派シテ嚴重警戒セシムルト共ニ朝鮮人ニ対シテハ合法的行動ヲ為スヘキコトヲ命シ違反者ハ法ニ依リ処分スヘキ旨厳ニ戒告ヲ加ヘタリ

偶々税関長ハ日本人帮弁ヲ日本總領事館ニ派シ朝鮮人ノ民衆運動鎮圧方申出テタルニ付同總領事ハ館員ヲシテ既ニ会場ニハ警察官ヲ派シ充分警戒中ナルヲ告ケタル上運動者側ノ言分ヲ指摘シテ税関長ニ於テモ民衆運動ノ因テ起レル原因ニ付考慮シ民心緩和ノ方法ヲ講スルコト税関側ノ為メニモ得策ナルヘキ旨私的意見トシテ希望ヲ述ヘシメタリ

他方市民大会ニ集合セル民衆ハ漸次増加シテ不穩ノ形勢ヲ示シ來レルニ付總領事ハ更ニ同館監視ヲ現場ニ派シ既ニ開始セル行進ヲ中止セシメ群衆ノ解散ヲ命シタル結果代表者二十名ヲ選ヒ税関長ト交渉セシムルコトナリ漸次解散シ税関ニ於テモ代表者到着前自発的ニ青天白日旗ヲ引卸シタ

(編注) 本電報は、在上海重光公使、在米國出淵大使、在ジ
ネーヴ沢田連盟事務局長にも發電された。

ル為メ相当民心ヲ緩和スルコトヲ得タリ

右代表者ハ直チニ税関長ヲ其ノ事務所ニ訪問シ平素税関ノ取扱ニ対シ不満トスル点ノ改善方ニ付種々要望シタル処税関長ニ於テモ相当誠意アル態度ヲ以テ之ヲ聴取シ夫々応答スル所アリタルモノノ如シ日本總領事館ニ於テハ更ニ右代表者ヲ招致シテ不合法行動ニ出テサル様篤ト諭示スルト共ニ日本人輸入組合長ニ旨ヲ含メテ大局ヲ誤ラサル様之ヲ指導セシムルコトヲセリ

五月二十七日夜税関事務所宿直室ニ投石セル者アリタルニ付爾來毎夜税関付近ニハ夜警ヲ巡回セシメ又同二十九日税関長官舎ニ押掛ケ面会ヲ強要セル鮮人二名ニ対シテハ之ヲ拘束シテ拘留処分ニ付スル等日本總領事館ニ於テハ出来得ル限りノ手配ヲ加ヘ居レリ

要スルニ今回ノ事件ハ税関側ノ態度ニ対スル鮮人多年ノ鬱憤ノ発現ト見ルヘキモノナルカ如ク從テ税関以外ノ外国人ニハ不穩行動ニ出ツル懸念全然無キ状況ニシテ本件運動ニ関与セル主要鮮人モ同三十日夜会合ノ上此種運動ハ今後中止スルコトヲ申合ハセ今日ニ於テハ事態全ク平常ニ帰セリ

昭和七年六月六日

(欄外注記)

六月六日次官ヨリ英大使ニ手交ノ答

205

昭和7年6月7日 ※在長春田中領事代理より
齋藤外務大臣宛(電報)

日本の満州国即時承認の必要性について

長春 6月7日後発
本省 6月7日後着

第二八六号(暗、極秘)

貴電第九四号ニ関シ

大橋ヨリ

(一)赤化宣伝ハ從來無警察ニモ近キ学良時代ニ於テ然モ龐大ナル総領事館ノ外有力ナル共產黨員多キ北滿ニ於テスラ左シタルコトナカリシ過去ニ鑑ミ国交開始後ニ於ケル赤化ハ当国警察機関ノ改善ト共ニ現状ヨリ更ニ悪化スルモノトハ考ヘラレス尚滿蘇間ノ関係ヲ疑心暗鬼ノ儘放任スルハ無用ニ蘇側ヲ刺戟シ日本軍ノ北滿経略ヲ困難ナラシムモノト思考ス

(二)満州国ハ日本カ承認セサル為地位不安定ナルノミナラス日本ニ於テ最近顯著ナル満州ヲ占領シタル如キ氣持ノ議論

第三五三号(暗)

十日求ニ依リ國務長官ヲ往訪シタル処最近國務省ニ達シタル情報ニ依レハ満州新政府ニ於テハ近日中各地ノ税関ヲ接收日本人ヲ総稅務司ニ任命スル計畫ヲ有スル趣ノ処右ハ米國政府ニ於テ無関心タル能ハサルニ付本使ノ注意ヲ喚起シ度シト述ヘ別電第三五四号ノ書付ヲ手交セリ

右会談ノ際本使ノ得タル印象ニ依レハ本件ハ米國政府カ英國政府ノ提議(長官ハ英國政府ヨリ兩三日前日本政府ニ同様ノ申出ヲ為シタル管ナル旨語セリ)ニ從ヒ措置シタル次第ニテ東京ニ於テ表向ニ帝國政府ニ申出ツル代リニ単ニ本使ノ注意ヲ喚起スルニ止メタルモノノ如シ

本件ニ付テハ英、米ノミナラス仏、伊等ヨリモ略同様ノ申出アリタルヘシト思考セラルルニ付テハ米國政府ニ対スル挨拶振御電示ヲ請フ

別電ト共ニ英ニ転電シ、英國ヨリ仏、伊ニ転電セシム

(別電)

Washington, June 10th, p.m.

Received, June 11th, a.m. 1932.

Gaimudajin Tokio.

ヤ第二ノ朝鮮トナリ若ハ国連等第三者ノ干渉ニ依リ再ヒ学良ノ治下ニ歸スルナキヤノ懸念ヲ持ツ支那人多ク更ニ学良カ国連ノ活動及日本ノ承認躊躇ニ現ハルル弱腰ヲ見越シ満州奪回ヲ夢見テ治安攪乱ヲ継続スル懼アリ旁々此ノ際右懸念ヲ一掃シ国礎ノ安定ヲ期スル意味ニ於テ日本ノ速カナル承認ヲ希望シ居ル次第ナルモ別ニ蘇連トノ交渉ニ依リ右機運ヲ促進セントスルカ如キ意図ヲ有シ居ルモノニアラス此ノ点御了察アリ度シ

支、北平、奉天、哈爾賓、露ヘ転電セリ

206

昭和7年6月10日

在米国出淵大使より
齋藤外務大臣宛(電報)

満州新政権の海関接收は中国海関行政の統一を破壊し九カ国条約違反との注意喚起について

テ

別電

同日在米国出淵大使より齋藤外務大臣宛第三五四号

右に關する米國務長官の覚書

ワシントン 6月10日後発
本省 6月11日前着

No. 354

⁽¹⁾ The Department has received recently reports indicating that the present régime in Manchuria is contemplating taking over the Chinese Customs Administration in that area. The Chief Secretary of the present régime in Manchuria has issued a press statement to the effect that that régime expects within a few days to take over the Customs, after which collections will be included in the receipts of the new régime. The Department is also informed from other reliable sources that this is the intention of the authorities of the new régime and further that the new régime intends shortly to appoint an inspector general of Customs for Manchuria who will be a Japanese customs expert from Japan.

⁽²⁾ The American Government would view with great concern a violation of the integrity of the Chinese Maritime Customs by the disorganization of that service in Manchuria and it is believed that other governments

would be similarly concerned. As is well known, the maintenance of the integrity of this Chinese administrative service involves the rights and interests of various foreign governments, including the American Government, in relation to certain fiscal obligations of the Chinese Government. Moreover, maintenance of the integrity of the Chinese Maritime Customs as a Chinese administrative service is of concern to the Powers signatory to the Nine-Power Treaty in view of their commitments under that Treaty.

In view of the fact that, according to the information available to the Department, Japanese subjects, over whom the Japanese Government alone can exercise control, are the principal advisers to the authorities of the new régime in Manchuria, it has been felt necessary to bring this matter to the attention of the Japanese Ambassador.

Debuchi.

トテ藤本、伊藤ノ名刺ヲ示シタルカ右ハ如何ナル趣意ニ基クモノナリヤト尋ネタルニ付本官ハ同人等ヲ知ルモ本件成行ハ全然初耳ナレハ何レ取調ノ上回答スヘク約シタリ

右兩名ハ何レモ先般新国家ヨリ先発隊トシテ当地ニ派遣セラレタル国境監視警察隊ニシテ藤本副隊長及伊藤隊員ナリ同人等ハ今般哈爾賓税関ニ於テモ青天白日旗ノ掲揚ヲ中止セシメタル旨哈爾賓当局ヨリ通知ニ接シタル趣ヲ以テ当地税関ニ対シテモ同様ノ措置ヲ取ラントセル次第ナル由聞知シタルニ付本官ハ直チニ福岡書記生ヲ同税関長ノ許ニ派シ彼等ハ当地国境監視警察隊員ニシテ哈爾賓税関ノ例ニ倣ヒ当地税関掲揚ノ青天白日旗撤回方ヲ勧告セル以外他意ナシトノコトナルカ彼等ハ日本人ナルモ已ニ満州国官吏ナレハ事苟モ満州国自体ノ政治外交問題ニ関スル以上日本側トシテ関知シ得サルトコロナリトテ諒解ヲ求メシメタル処同税関長ハ仮ニ満州国官吏トスルモ斯ル外交問題ヲ地方的官憲タル一警察官单独ニテ交渉ヲ試ミルハ筋違ニシテ合法的の交渉機関タル当地市政籌備処駐滿弁公処ノ手ヲ経ルコト妥当ナルヤニ存セラレ旁々当税関ハ哈爾賓ノ分関ナルヲ以テ今後重要問題ハ哈爾賓税関ト直接交渉セラレ当税関ト直接交

207 昭和7年6月10日

在満州里山崎(誠一郎)領事より
齋藤外務大臣宛

満州里税関の青天白日旗撤去について

機密公第二六五号

昭和七年六月十日

在満州里

領事 山崎誠一郎(印)

外務大臣子爵 齋藤 実殿

当地税関ノ青天白日旗掲揚撤回ニ関スル件

当地税関長「スジョス」及外班主任「ブルンベルグ」ハ昨九日午前突如本官ヲ来訪シ異常ニ昂奮ノ面持ニテ本官ニ対シ先刻日本人二名及支那人一名当税関ニ来リ甚タ剛慢ナル態度ヲ以テ自分等(日本人)ハ満州国官吏ナルカ当税関カ独リ青天白日旗ヲ掲揚セルハ新国家ニ対シ反対ノ意志ヲ有スルモノト認メラレ甚タ面白カラサルニ付至急同国旗ヲ引卸スヘシト強要シタルニ付余(スジョス)ハ新国家ニ対シ何等反意ヲ有セサルモ上司ヨリ何等指令ナキ以上掲揚国旗撤回ノ自由ヲ有セスト答ヘタルニ彼等ハ飽ク迄自己ノ主張ヲ固執シ剩ヘ脅迫の態度ニ出テ握手モセスシテ引取りタリ

渉ヲ必要トスル際ハ前記駐滿弁公処趙交渉員ヲ經由スル様致度ニ付右様取計アリタシト申出タルニ付福岡ハ前記ノ理由ニ基キ右ハ貴方ヨリ直接趙交渉員ト談合セラルル方可然若シ貴方ヨリ特ニ懇請セラルルニ於テハ当方ヨリ非公式ニ同人等ニ貴意ヲ伝達スルコトハ差支ナシト答ヘタル趣ナリ其後当地特務機関側ヨリノ通報ニ依レハ同日午後前記藤本、伊藤ノ兩名ハ趙交渉員ト共ニ再ヒ同税関長ヲ往訪シ先以テ再度強硬ナル態度ヲ以テ青天白日旗ノ撤回方ヲ強要シ税関長ニ於テ依然之ニ応セサルヲ看取シ其直後初メテ彼等ハ当日哈爾賓ヨリ帰滿セル当地特務機関長小原大尉ノ携行シ来レル哈爾賓税関ヨリ当税関ニ宛タル青天白日旗掲揚撤回方ノ指令書ヲ提示シ直チニ青天白日旗ヲ引卸サシメテ海関旗ニ替ヘシメタル趣ナリ

他面警察隊伊藤隊員ノ語ル所ニ依レハ同人等カ税関長ヲ訪問セシ際「スジョス」及「ブルンベルグ」ハ面会ヲ回避セシニ依リ支那人税関員ニ肩書付ノ名刺ヲ示シ関長ニ面会ヲ申入レ「スジョス」ヲ招致シ面接ノ上警察隊ノ先発員ナルコト及本日ヨリ事務開始等任務ニ関スル一応ノ挨拶ヲ為シタル処「ス」ハ名刺ヲ一瞥シタル態度頗ル横柄ニテ名刺ハ

在華公使 北平首席 奉天 哈爾濱 長春 齊々哈爾
問島 牛莊 安東 閔東厅长官

208 昭和7年6月11日

在奉天森島總領事代理より
齋藤外務大臣宛(電報)

大連海關一括接收の必要性について

奉天 6月11日後發
本省 6月11日後着

第九四〇号(暗、極秘)

滿州国ノ財政ノ現状ハ往電第九三七号ノ通ノ処滿州国首腦者ニ於テハ右ノ窮狀ヲ打破シ滿州国ノ基礎ヲ確立スルカ為ニハ国事ノ刷新ト併セテ此際大連ヲ含ム在滿海關全部ノ接收ヲ断行スル外無シトノ見解ヲ持シ居ルモノノ如シ曩ニ税關接收案樹立ニ際シ大連關ヲ除キタルハ一ニハ支那トノ條約關係ヲ考慮シタルニ出テタリトハ雖モ他方南京ニ於ケル關稅關係外債支払ノ内狀ニ関シ充分ノ資料無カリシ等ノ關係上大連海關收入ハ全滿海關收入ノ約半ハヲ占メ且在滿海關收入中外債負担分ハ全海關收入ノ凡ソ半ハヲ占ムトノ税關關係者ノ談ニ基キ大連以外ノ全海關收入ヲ回收セハ大連ヲ接收セストモ其ノ結果ニ於テ大体差異無カルヘシトノ前

就而当地唯一ノ税關掲揚ノ青天白日旗モ遂ニ海關旗ニ替ヘラレ当地ニ於テハ昨九日午後ヨリ青天白日旗ノ姿ヲ見サルニ至レリ
尚小原大尉ノ談ニ依レハ当地税關ノ青天白日旗掲揚撤回方ノ訓令書ハ哈爾濱當局ヨリ蘇炳文ニ對シテモ交付済ナルニ付茲一兩日中更ニ当地滿州国側當局ヨリモ正式ニ何等交渉アル筈ナリト云フ
右御參考迄報告ス
本信写送付先

提ニ立テルモノナル処滿州国側最近ノ調査ニ依レハ昨年度ニ於ケル支那ノ關稅關係外債支払額ハ六千三百五十四万海關兩余リニシテ支那全体並ニ滿州ノ海關收入ハ夫々二億六千万並ニ二十四万海關兩(ナル)關係上滿州ノ外債負担分ハ僅ニ五百万海關兩余ニシテ全滿海關收入ノ半ハヲ占ムル大連關收入トノ間ニ七百万兩ノ開キヲ生スル由ニテ右ニシテ事實トセハ極度ノ財政難ニ直面セル滿州国側ニ於テ大連關收入ヲ重要視スルハ實ニ故無キニ非ス帝國政府トシテモ元來本件ニ關スル借款小委員会並ニ閣議御決定ノ趣旨ニシテ大連關以外ノ海關收入ニ關シテハ外債担保分丈ケハ南京ニ送付スヘシト謂フニ在ラハ理論上一貫スル所アリト雖モ之ヲ滿州国側ニ保留使用セシメ南京側ニ對シテハ単ニ大連關收入ト差引キセシメントノ建前ヲ持スル点ニ關シ理論上ノ矛盾無キニアラス且之ヲ實際ノ結果ニ付テ考慮スルニ南京側ニ於テハ外債担保部分ハ大連一港ノ收入ヲ以テ支弁スヘキモノニ非ス在滿各關收入中ヨリ箇々ニ差引スヘキモノナリトノ主張ニ基キ大連收入トノ差引計算ヲ拒絶スヘク他方滿州国側ニ於テハ精々外債担保分ヲ積立テ置クヘキ旨外部ニ声明スルニ止マルヘキニ依リ實際問題トシテハ關稅

209

昭和7年6月11日 在長春田中領事代理より
齋藤外務大臣宛（電報）

連盟調査団報告書提出前に日本の満州国承認
を謝総長希望について

長春 6月11日後発
本省 6月11日後着

第三〇四号（暗）

謝介石十日夜帰任本官ニ内話セル処ニ依レハ軍司令官、満鉄總裁等ヲ往訪シテ敬意ヲ表スルト同時に満州国ノ承認ハ連盟委員カ東洋ニ滞在中即チ最終報告書提出前ニ実現アリ度キ旨力説シ置キタル趣ナリ
支、北平、南京、奉天へ転電セリ

210

昭和7年6月12日 在吉林石射総領事より
齋藤外務大臣宛（電報）

日本の満州国承認促進に関する熙省長の希望
について

吉林 6月12日後発
本省 6月12日後着

第三〇〇号（暗）

ル様下準備ヲ進ムル必要アリ又斯クスレハ満州国側モ承認ノ遅延ヲ納得スヘシト存ス御参考迄
支、北平、奉天、長春、哈爾濱、間島、齊々哈爾へ転電セリ

211

昭和7年6月12日 ※在長春田中領事代理より
齋藤外務大臣宛（電報）

日本の対満政策に関し意見具申について

長春 6月12日後発
本省 6月12日後着

第三〇五号（暗）

大橋ヨリ

満州四頭政治統一ニ関シ日本カ若シ新国家ヲ守立テテ進ム方針ナラハ四頭政治ハ新国家ヲシテ統一セシムル事得策ナルヘシ依テ日本トシテハ人的物的ニ新国家ヲ引続キ援助シテ機能ヲ發揮セシムルト同時に一、急速ニ治外法権ヲ撤廃スル事二、満鉄付属地ノ行政権ヲ新国家ニ帰属セシムル事三、関東庁及外務省ノ警察官ヲ其儘新国家ニ引継キ其経（費）ハ新国家ノ財政確立スル迄過渡の便法トシテ居留民保護ヲ新国家ニ委嘱スル（脱？）ニ於テ之ヲ新国家ニ支給

十一日本官熙省長ト会谈ノ際満州国ノ承認問題ニ言及シタル処同省長ハ国内一般人民ハ日本カ真ニ領土的野心ナクハ何故自分カ盛リ立テタル新国家ヲ速ニ承認シ之ニ國際上ノ地位ヲ与ヘサルヤトノ疑問ヲ抱キ満州内及支那本部内ニア

ル反対派ニ於テモ之ヲ以テ満州国攪乱ニ利用シ居ル現状ニシテ又承認ヲ得テ新国家ノ身分カ決マレハ支那本部ヨリモ人材移リ来リ人材難ノ新国家維持上効果アリ即チ国内民心ノ安定、地方治安ノ維持及各般ノ建設の企画遂行上其ノ実現ノ一日モ速カナランコトヲ希望スル次第ナリト述ヘタルニ付本官ハ本件ハ國務會議ニ於テ論議セラレタリヤト問ヘ

ルニ熙ハ右ハ未タ其ノコトナキモ鄭總理ト謝外交部長トノ間ニハ既に論議セラレ居ルモノト思考スト答ヘタリ
承認ノ効果ハ全ク熙省長ノ意見ノ通りナルハ明カニシテ南滿各地及日本ニ於テモ既に承認促進ノ運動擡頭シツツアル次第モアリ宣伝ニ引摺ラレテ承認ヲ余儀ナクセラルルニ至ルヨリモ寧ロ適當ノ機会ヲ作テ之ヲ断行シ公然且合法的ニ新国家ヲ援助スルコト得策ナルヘク夫レカ為ニハ承認後ノ兩國關係ヲ律スヘキ条約及取極等ノ大綱ニ付兩國間ニ早日ニ商議ヲ了シ置キ機会サヘアラハ何時ト雖モ承認ヲ与ヘ得

212

昭和7年6月12日 ※在長春田中領事代理より
齋藤外務大臣宛（電報）

大連関税引渡問題に関する福本のメーズ総税
務司あて通報について

長春 6月12日後発
本省 6月12日後着

第三〇七号（暗）

河相ヨリ

大連関税引渡問題ニ関シ十日福本ハ「メーズ」宛左記要旨ノ電報ヲ発シタル旨同人ヨリ極秘内報越セリ、不取敢

六月九日付満州国政府財政部長発本官宛公信接到内容概ネ左ノ通

「満州国政府ハ総稅務司カ曩ニ当方ヨリ送付シ置ケル覺書ヲ無視シ非妥協的態度ヲ取レルニ対シ不満ノ意ヲ表セサルヲ得ス尙当国政府ハ稅收ノ脱漏ヲ防止スル為今日迄大連ヲ除ク外他ノ總テノ満州国稅関ノ收入ヲ抑留シ来レリ大連關稅收ハ全然満州国人民ノ負担トナリ当然ニ満州国政府ニ帰屬スヘキモノニシテ右事實ニ付テハ既ニ注意ヲ喚起シ置ケルニ拘ラス總稅務司ハ大連稅関長ニ命シ右稅收全額ヲ南京政府ニ送金セシメ満州国ノ負担ニ於テ南京政府ニ財的援助ヲ与ヘ満州国ニ対シ敵對政策ニ出テシメタリ満州国ハ自己保存ノ為斯ノ如キ自殺的狀態ノ存続ヲ忍從スルヲ得ス茲ニ大連稅関長ニ対シ右事實ヲ明記セラレン事ヲ嚴肅ニ要求スルト同時ニ速ニ總稅務司ニ対シ満州国ハ大連稅関長ノ行動ニ信賴シ今後自衛ノ為必要ナル措置ヲ取ルノ已ム無キニ至ルヘク從テ關稅行政ノ國際的現状維持ハ不可能トナルヘキ旨報告サレンコトヲ希望ス」

本官ハ閣下ヨリ支那政府ニ対シ其現ニ取レル態度ニ対シ再考ヲ促サレン事ヲ強ク稟請ス

警視庁、大阪、京都、愛知、

神奈川、兵庫、山口、長崎、

各庁府県長官殿

内田滿鉄總裁ノ談片ニ関スル件

六月十日門司入港ノうすりい丸ニ乗船上京中ノ内田滿鉄總裁ハ船中ニ於テ満州国及時局ニ対スル私見トシテ左ノ如キ意向ヲ洩シ同船ニテ即日神戸ニ向ヘルガ当港停船中何等異状ナシ御參考迄

右及申（通）報候也

記

一、現下ノ満州国ハ新國家建設ノ為準備ニ忙殺サレ其ノ進捗モ大イニ見ルベキモノガアルガ動モスレバ満州國建設ヲ疑視スルノ感ガアリ之ガ大ナル誤リデアツテ世界各国ハ拳ツテ新國家ノ建設ノ為メ援助スベキデアル故ニ我政府ニ於テモ速カニ満州國ヲ承認シ對滿政策ノ開発ニ努力セネバナラナイ

先般満州國外交總長謝介石ト会见シ種々ノ私見ヲ交換シタルガ謝介石ニ於テモ日本政府ニ対シ速ニ國家承認方懸望ノ懇談ガアツタガ余モ之レニ対シ大イニ賛意ヲ表スル次第デ

惟フニ満州政府（脱？）稅関ヲ強力ヲ以テ接收シ瓦房店ニ一稅関ヲ設クルニ至ルヘシ右事實ニシテ發生センカ關東州ニ於ケル日本ノ重大ナル利害關係ヲ必然ニ捲起スヘシ其ノ際日本カ全然中立的態度ヲ取ルヘキヤ甚タ疑ハシク事態ハ甚タ緊急且危殆ニ陥ルヘシ最悪ノ場合ヲ避ケントセハ一刻モ猶予ヲ許ササルヘク至急何分ノ儀御回訓ヲ請フ

本電在京關東長官ヘ転報ヲ請フ

支、北平、奉天ヘ転電シ哈爾濱、間島、牛莊、安東ヘ暗送セリ

213 昭和7年6月13日

中山福岡県知事より
山本（達雄）内務大臣、齋藤外務大臣他宛

満州國承認促進に関する内田滿鉄總裁の談話について

特外鮮秘第一一二五号

昭和七年六月十三日

福岡県知事 中山佐之助

内務大臣 山本達雄殿

外務大臣 齋藤 実殿

アル尚満州國ノ将来ハ鐵道ヲ布設シ交通ノ利便ヲ計ル事ニ依テ満州國發展ノ結果ヲ来スコトデ余ハ上京ト同時ニ我政府ニ対シ速ニ國家承認ヲ進言スル考デアル

一、外務大臣就任問題ニ関シテハ他言スベキ性質ノモノニアラズ要ハ先般辭表ヲ提出セシヲ以テ之レガ先決問題デア
ルガ余ノ意志ハ辭表提出當時ト何等變化ハナイ然シ今回ノ株主總會ニハ政府ノ命令ニ依リ出席スル考デアル

214 昭和7年6月15日

在上海重光公使より
齋藤外務大臣宛（電報）

大連海關の接收回避について

第九六〇号（暗）

（二二三書）
長春發閣下宛電報第三〇七号ニ関シ

上海 6月15日後發
本省 6月16日前着

一、満州側カ第一案ニ依リ大連海關ノ關稅剩余ヲ取得スルニ当リ支那側トノ合意ニ依ル場合ハ問題ナキモ之カ為何等強制手段ニ出ツルカ如キ場合ハ支那側ニ於テ大連海關ヲ楯トシテ我方ニ対シ右強制手段ノ排除方ヲ要求シ来ルニ於テハ我方ハ之ヲ応諾スルノ外ナキヤニ認メラルルニ

付満州側トシテハ第一案ノ実行ニ依ル税収ノ取得ハ結局第二案ノ如ク大連ヲ除ク在滿各海関ノ税収全部ヲ以テ満足スルヨリ外ナカルヘシ果シテ然ラハ満州側トシテハ此ノ際実行不可能ナル大連関ノ関余ノ取得ニ付税関長又ハ (Unauthorised) I Gヲ強制スルコトハ不得策ナリト認メラル

二、本件福本ヨリノ請訓ニ付テハ岸本ヨリモ内話アリタルカ其ノ節ニ於ケル岸本ノ意見 (此ノ点ハ外部ニ出テサル様致度シ) 其他ノ情報ヲ総合スルニ此ノ際満州側ニ於テ第一案ヲ強行スルモ税収ニ付テハ大連以外ノ各関ノ税収全部ノミヲ接收シ大連関ノ税収ニ手ヲ付ケス之ヲ以テ担保外債ノ満州負担部分ニ充当セシムルニ於テハ支那側トシテハ宣言書等ニ依リ満州側及我方ヲ攻撃スルハ勿論ナルカ税関閉鎖等ノ極端手段ニ出テサルモノト観測セラル三、尚税収接收ノ方法ニ付テハ I G トシテハ税関長ニ対シ満州側ニ税収ノ交付ヲ禁止シ且銀行力勝手ニ交付スル場合ハ銀行ニ責任ヲ負ハスヘキ旨ヲ命令シ居ルコト既ニ電報済ノ通りナルカ内面ニ於テハ銀行力強制ニ依リ已ムヲ得ス満州側ニ交付シタル場合ニハ實際ニ於テ銀行ノ責任ヲ問ハサル様諒解ヲ与ヘ居ル模様ナレハ例ヘハ満州側ヨ

貴電第一〇五号ニ関シ

全滿海関税収取得ノ為第一案ノ手続ヲ実行スル意味ニ於テ十三日既ニ大連ヲ除ク各海関長ニ対シ中国銀行ニ抑留シアル税収ノ引渡方ヲ命令シ大連関福本ニ対シテハ九日付ヲ以テ三月二十日当方ヨリ非公式ニ申入レタル第一案ノ趣旨ヲ受諾セサルニ於テハ重大ナル結果ニ達スヘキ旨ヲ通告シ十三日ニハ同関税収ヲ当方ニ引渡スヘキ旨福本及正金銀行ニ命令済ナルノミナラス十四日奉天ニ於テ福本源田税務司長河相等会合シテ最後ノ打合ヲ了シ十五日夕福本大連ニ歸リテ直ニ今一応総税務司ニ対シ反省ヲ促ス意味ノ電報ヲ發シ其ノ上海着ノ頃合ヲ見計ヒ多分十七日頃財政総長ヨリ別電ノ如ク声明書ヲ發スル事ニ万事決定シ居ル次第ニテ今更按差ナラヌ事態トナリ居ルニ付右惡シカラス御了承相成度シ

(別電)

第三一九号 (暗、至急極秘)

別電

関税問題ニ関スル財政部総長ノ声明書

長春 6月16日前發
本省 6月16日後着

リ銀行ニ対シ營業停止ヲ以テ税収ノ交付ヲ迫リ銀行ハ已ムヲ得ス税収ヲ交付シタルコトトシ其ノ計算書ヲ税関長ニ提出スルカ如キ方法ニ依ルモ可ナルヘシ (廣東ニ於テハ右ノ方法ニ依リ提出シタル計算書ニ税関長署名シテ I Gニ送り居ル由ナルモ満州ニ於テハ税関長ノ署名ハ困難ナルヘシ)

北平、奉天、長春、南京、関東庁ヘ転電シ、上海ヘ転報セリ

215 昭和7年6月15日 ※在長春田中領事代理より
齋藤外務大臣宛 (電報)

大連を除く各海関に關シ税収引渡しノ要求実施について

別電

六月十六日在長春田中領事代理より齋藤外務大臣宛第三一九号
関税問題に關する財政部総長の声明書

第三一八号 (暗、至急極秘)

大橋ヨリ

長春 6月15日後發
本省 6月16日前着

満州国政府ハ建国後直ニ大連ヲ含ム満州全海関ヲ完全ニ接收シ関税自主權ヲ確立スヘキ処独立宣言及對外通告ノ趣旨ニ依リ成ル可ク穩便ニ本問題ヲ処理セントスル見地ニ基キ三月中旬以降支那海関制度ノ保全ヲ乱サス又外債担保部分ニ手ヲ触ルル事無ク所期ノ目的ヲ達スル為三月二十日付ヲ以テ非公式ニ

一、大連ヲ含ム全滿海関及其分局ハ一切之ヲ満州国ノ統轄ニ歸セシム

二、輸入税率及其徵集方法ハ当分現在通りトス

三、從來関税ヲ担保トセル外債ノ償還ニ対シテハ満州国モ海関收入中ヨリ合理的方法ニ依リ之ヲ分担スル用意ヲ有ス但シ残余ハ之ヲ満州国政府ニ於テ抑留使用スル事

四、各海関ニ於ケル中外関員ハ当分從來ノ者ヲ使用ス但税務司及幹部ノ任免ニ付テハ予メ満州国政府ノ諒解ヲ得ヘキ事

ノ趣旨ニ依リ妥結ニ達セント努力シ来レル処南京政府ハ却テ当国ノ穩便ナル態度ヲ以テ与シ易シトナシ当国海関收入ノ大半ヲ占ムル大連関ノ税収全部ノ外他海関税収ノ三分ノ一ヲモ要求スル等其態度極メテ不遜ニシテ誠意ノ認ム可キ

モノナン

斯⁽²⁾ノ如ク先方ニ毫モ反省ノ色無ク且当国内外ノ情勢ハ本問題ノ解決ヲ在苒遷延スルヲ許ササルニ至リタルヲ以テ茲ニ断乎タル決意ヲ固メ大連関稅収並ニ曩ニ南京政府ヘノ送金ヲ差止メ居ル他関ノ稅収ノ取得ニ着手スルニ至レリ

然レ共尚先方ニ対シテ反省ノ機会ヲ与フル為六月九日付ヲ以テ福本大連海關長ニ対シ次ノ如キ通告ヲ發シ其ノ合理的ナル我原案受諾ヲ促シタリ「満州国ハ三月二十日付当国ヨリノ提議ニ基ク協定ノ成立スル迄海關收入ノ漏逸ヲ防止スル為爾來大連関ヲ除ク他ノ一切ノ満州海關ノ收入ニ付其ノ保管銀行ヲシテ送金ヲ差止メ居レリ總稅務司ハ大連関ノ收入カ満州国ニ所屬スル旨ノ満州国ノ通告並ニ右收入カ全部満州国人民ノ負担ニ於テ徵收サレツツアル否定シ難キ事実ニ鑑ミ満州国ハ右收入ヲ取得スヘキ完全ナル權利ヲ有スル動カスヘカラサル事実ヲモ無視シ大連海關長ヲシテ其ノ全收入ヲ南京政府ニ送金セシメ以テ同政府ノ満州国ニ対スル敵意アル政策ノ遂行ヲ援助スルノ結果ヲ招来シツツアリ満州国⁽³⁾ハ其ノ存立ノ必要上最早斯ノ如キ自殺的事態ノ繼續ヲ寛容スル能ハス依テ茲ニ貴海關長ニ対シ右事実ヲ充分

ニ考慮サレン事ヲ要求スルト同時に至急總稅務司ニ対シ本通告受領後ニ於ケル貴海關長ノ行動如何ニ依リテハ満州国ハ予テ表明シタル誠意アル要望ニモ拘ラス海關行政ノ保全及其ノ國際的現状維持ヲ不可能ナラシムルカ如キ措置ヲトラサルヲ得サルニ至ルヘキ旨ヲ通知サレン事ヲ要求ス」然レトモ若シ南京政府及總稅務司ニ於テ此ノ穩当ナル処置ニ対シ之レヲ無視シ若ハ反抗的態度ニ出ツルニ於テハ満州国ハ已ムヲ得ス満州全海關ニ対シ断乎タル措置ヲトラサルヲ得サルヘシ此ノ場合ニ於テモ満州国ハ海關收入ヲ担保トスル外債ニ付テハ飽ク迄モ之レヲ尊重シ満州国トシテ負担スヘキ部分ハ合理的方法ニ依リ確實ニ此レヲ負担シ且現ニ各海關ニ勤務中ノ内外人モ其ノ希望ニ依リテハ其ノ儘任用スルノ用意アリ

216 昭和7年6月16日

齋藤外務大臣より
在奉天森島總領事代理、在北平矢野
参事官他宛(電報)

満州国承認決議案衆議院本會議にて可決について

本省 6月16日後8時30分發

合第一三四六号

満州国承認ニ関スル議會議事ノ件

往電合第一二七八号ニ関シ

十三日貴族院予算委員会ニ於テモ質問アリ本大臣ヨリ満州国承認ハ成ル可ク出来得ル限り速カニ行ヒタキモ之ニハ相当準備ヲ要シ其ノ整フヲ待タサルヘカラストノ趣旨ヲ答ヘ置キタルカ十四日衆議院本會議ニ於テ「政府ハ速ニ満州国ヲ承認スヘシ」トノ決議案全会一致可決ヲ見タリ

(北平以外ニハ往電合第一二七八号同様転電アリタシト付記ノコト)

(編注) 本電報は、在上海重光公使、在米國出淵大使、在ジユネーヴ沢田連盟事務局長にも發電された。

217 昭和7年6月17日

山岡(万之助)関東長官より
齋藤外務大臣宛(電報)

福本大連海關長の困難なる立場について

旅順 6月17日前發
本省 6月17日後着

第三二二号(暗)

本官発在支公使宛電報第二〇号

福本ヨリ岸本ヘ左ノ通り轉達方依頼アリタリ
這般ノ大連関稅収接收問題ニ関スル本官ノ立場ニ付種々ノ情報ノ手許ニ集リ居ルコトト存スルカ本官ノ真意ヲ率直ニ申セハ自分ハ日本臣民トシテ同時に支那政府ノ忠実ナル官吏トシテ満州国ノ道理アル要求カ容認サルルト共ニ税関制度ノ「インテグリティ」カヨク維持サレ又出来得レハ日本カ渦中ニ捲キ込マルルコトナク円満解決ニ達スル様畢生ノ努力ヲナシツツアリ故ニIGカ此ノ際取リ急キ送金ヲ迫ル等自分ノ努力ヲ水泡ニ帰セシムルカ如キ訓令ヲ与ヘサランコトヲ望ム右ハ目下ノ情勢ニテハ啻ニ実行不可能ナルノミナラス輿論ノ攻撃ニ依リ大連ニ於ケル自分ノ社会的存在スラ困難ナラシムル結果トナルヘシ就テハ事情御洞察ノ上貴官ヨリIGノ深甚ナル考慮ヲ促サレ本件ヲ良好ナル解決ニ導ク様此ノ上トモ御尽力ノ程切望ニ堪ヘス
大臣、長春ヘ転電セリ

218 昭和7年6月18日

在上海守屋(和郎)書記官より
齋藤外務大臣宛(電報)

在滿海關接收に関する中国側および總稅務司の意向について

第九七二号（暗、極秘）
貴電第三九五号ニ関シ

上海 6月18日後発
本省 6月19日前着

一、南京政府カ満州問題ニ対スル主義上大連関問題ニ対シ如何ナル案ニテモ絶対ニ之ト妥協（合意）セストノ確定方針ヲ有スル事ハ果次電報ノ如ク（現ニ丁貴堂福本ハ満州側トノ意見交換ヲ為シタリトテ言責セラレ福本ノ如キハ命令無シニ任所ヲ離ル可ラストノ厳命ヲ受ケ居ル次第ナリ）唯満州側ノ措置カ大連以外ノ関余（往電第九六〇号ノ如ク最近ニ於テハ税収全部）ヲ接收スル場合ニハ南京側ニ於テ之ニ對抗スル為税関閉鎖其ノ他ノ報復手段ヲ採ラサル事ニ付テハ各方面ト接触ノ結果大体見当ヲ付ケ得ル次第ニシテ從テ満州側トシテハ一方的ニ右ノ程度ノ措置ヲ採リ差当リ問題ノ紛糾ヲ避クル事得策ト考ヘラルル次第ナリ

二、貴電接到ト共ニ岸本ヲ通シ更ニIGノ意向確メタル処IGトシテハ南京側ヨリ前記確定方針ヲ厳守スヘキ命令ヲ受ケ居リ大連関ノ関余接收ヲ認ムル事ハ絶対ニ不可能

ナル次第ナリヤ

(ハ) 関税転嫁ノ原則ニ依レハ貴電(ハ)ノ理由ハ根拠薄弱ト思ハルル処之ヲ主張スル何等特別ノ必要アリヤ

(ニ) 本件満州側ノ要望ヲ実現スルト往電第九六〇号大連以外ノ全収入ヲ接收スルトハ単ニ歳入七百万兩ノ差違ノ問題ト認メラルル処本件ハ単ニ満州国ノ財政上ノ必要ニ基クモノト説明シテ差支無キヤ

(ホ) 本件妥結不能ノ場合満州側カ大連関余ノ接收ヲ強制スル為関東州内ニ於テ大連税関ニ対シ圧迫ヲ加フルカ如キ場合我方ハ支那側ノ要求アレハ之ヲ阻止セラルル御意向ナリヤ尚当方面ニハ英米仏ノ責任者無キヲ以テ之等関係国側ニ対スル申入ハ当分差控フヘキニ付右ニ御含置ヲ請フ

貴電ト共ニ南京ニ転報セリ

北平、奉天、長春、関東長官ヘ転電セリ

219 昭和7年6月19日

在上海守屋書記官より
齋藤外務大臣宛（電報）

在満海關接收問題に関する岸本副総税務司の意向について

ニシテ満州側ニ於テ之ヲ接收スル場合IGトシテ如何ナル対策ヲ練ル可キヤハ其ノ場合ニ至リ初メテ決定スヘク何等予定方針ナキ由ナリ

三、從テ此ノ際我方ニ於テ貴電ノ如キ斡旋ヲ為スモIGヲ説得シ得ル望少シト考ヘラルルノミナラス支那側及列国側ニ於テ我方ノ申出ヲ機会トシ本問題ニ対スル我方ノ意向探查ニ努ムヘク從テ貴電ノ如ク本件斡旋ニ依リ満州側カ第二案ノ実行ニ進ム場合ニ於ケル我方ノ立場ヲ有利ナラシムル為ニハ充分慎重ノ態度ヲ以テ接触スルコト必要ナリ之カ為當方ニ於テ右接触ヲ為スニ當リテハ貴電ノ御趣旨ニ付少ク共左ノ諸点ヲ明カニ承知シ置クコト必要ナリト存セラルルニ付右ニ付何分ノ儀御回示ヲ請フ

(イ) 仮ニ支那側ニ於テ我方ノ斡旋ヲ容レ本件妥結ヲ見ル時ハ我方トシテハ満州側ヲシテ海關制度維持及外債保全ヲ害スルカ如キ之以上ノ措置ヲ執ラシメサルコトニ努力シ得ルヤ

(ロ) 貴電(ロ)ノ如キ我方ニ於テ満州側ノ海關問題ニ対スル要望ヲ支持スルコトヲ表明スルハ本問題ニ関シ我方カ支那及列国ニ対シ從來表明セル態度ヲ變更スルコトト

上海 6月19日後発
本省 6月19日後着

第九七三号（暗、極秘）

本官発関東長官宛電報

第九号

貴電第二〇号ニ関シ

岸本ノ依頼ニ依リ極秘トシテ福本ニ左ノ通御伝達ヲ請フ
総税務司ヨリハ貴電接到前既ニ即刻送金方電命セリ貴官ノ立場同情ス本官外当署員一同円満解決ヲ切望シ居ルモ南京政府ハ満州国ト交渉シ得サル立場ニアル為進テ大連関税ノ一部ヲ満州国ニ送ル提案ハ実行ノ方法無ク総税務司ニ於テ出来得ル所ハ不可抗力の行為ニ服従スルニアリIGハ事毎ニ財政部ニ請訓シ居リ送金ノ問題モ小生ノ意見モIGノ考慮モ加フ可キ余地無キ事情ニアリ若シ満州国ニ於テ強テ大連海關收入ニ手ヲ付ケントセハ勢ヒ日本ニ累ヲ及ホス惧アル故大連ニハ手ヲ触レス大連以外ノ満州各海關ノ税収全部ヲ実力ニ依リ銀行ニ於テ押収シ海關行政ニハ干渉セサル案ヲ実行スル様勧告サレテハ如何此ノ案ニ依ルモ満州国ノ失フ所年額数百万ニ過キス瓦房店ニ海關ヲ設置スル案ヨリモ

得ル所或ハ多カル可シ（此ノ案ノ勧告ニ当リテハ本官又ハ貴官ノ提案トシテ発表サレサル様注意セラレ度シ）
大臣、長春へ転電セリ

220 昭和7年6月20日

在北平矢野参事官より
齋藤外務大臣宛（電報）

在満海関接收問題に関する米・英公使との折衝ぶりについて

北平 6月20日後発
本省 6月20日後着

第三〇八号（暗、至急、極秘）

貴電第一一五号ニ関シ

二十日仏、米公使及英国代理公使ヲ往訪シ閣下発公使宛電報第三五九号ノ趣旨ニ依リ篤ト申入レタル処夫々左ノ通答ヘタリ

一、「ウイルデン」、御趣旨ハ善ク了解セルカ本件ハ相当困難ノ問題ニ付熟考ノ上場合ニ依リテハ目下在平中ノ宋子文ニ話スコトスルヤモ知レサルモ何レニセヨ関係国代表者ト篤ト打合スヘシ

二、「ジョンソン」、御話ノ次第ハ直ニ本国政府ニ照会シ何

分ノ回答ヲ得次第通報スヘシ

三、「イングラム」、海関問題ハ英国ノ最モ重視スル処ナルヲ以テ直ニ本国政府ノ訓令ヲ仰クコトトスヘシ本日ノ新聞ニ依レハ長春政府ハ宣言ヲ発シ非常手段ニ訴ヘ兼ね聞敷キヤニ見ユル処私見ニ依レハ一旦共同利害関係アル我ニ本件ヲ申出テラレタル以上考慮ノ為少シク時日ヲ与ヘラレサル可ラス万一其ノ間長春政府カ既成事実ヲ作ルカ如キコトアラハ今後我々ノ本件措置上甚タ厄介ナル故之カ阻止方異々モ御尽力アリタシ（尚⁽¹⁾大連関ノ稅収ヲ押フルカ如キ措置ハ日支間ノ大連海関協定ニ違反セス（ヤ？）且⁽²⁾長春、南京間ニ何等「アレنجイメント」ヲ為ス場合其ノ結果支那ハ満州国ヲ承認スルコトナリ南京ノ能ク為シ得サル処ナルヘシト述ヘシニ付本官ハ⁽¹⁾ニ付テハ法律論ニ入ルヲ避ケ海関制度維持ノ為ト困難ナル国際問題ノ惹起ヲ避クル為實際的見地ヨリ本官申出ノ趣旨ニ依リ問題解決方ニ付協力アリタキ旨ヲ述ヘ⁽²⁾ニ付テハ御説尤モナルモ南京カ単ニ黙認スルノ形トセハ斯カル結果ハ生セサルヘシト応酬シ置ケリ）

支、奉天、長春へ転電セリ

221 昭和7年6月20日

在ハルビン長岡総領事代理より
齋藤外務大臣宛（電報）

満州国承認問題などに関する在ハルビンソ連総領事との談話について

ハルビン 6月20日後発
本省 6月20日後着

第六二五号（暗）

往電第五九六号ニ関シ

杉原ノ内報ニ依レハ本二十日午前蘇連総領事「スロウツキ」同人ヲ来訪シ中央ヨリ目下満州国承認問題並之ニ関連シテ日本側ノ不承認事情等ニ付研究中ナルモ委員等ハ夏季休暇中ノ為渺々シク決定セサル次第ナルカ蘇連側ニ於テ未タ曾テ承認問題ノ態度ヲ採リタルコトナキハ公使交換問題、東支鉄道ノ從來ヨリノ態度並例ヘハ連盟調査委員ノ馬トノ会見希望ニ対スル蘇連側ノ措置振等中立的態度等ニ徴スルモ明カナルヘシトノ趣旨ノ回訓アリタル旨述ヘタルニ対シ杉原ハ然ラハ何時中央ニ於テ本件審議ヲ進ムルヤト問ヘル処「ス」ハ次回ノ委員会ハ多分九月カ十月頃ナルヘキモ必要アルニ於テハ臨時委員会モ開キ得ル次第ナリト答ヘ

タル趣ナリ

本省ヨリ米へ転電アリタシ

露ヨリ連盟、英、仏、独、伊へ転電アリタシ

冒頭往電ノ通転電セリ

222

昭和7年6月20日

在長春田中領事代理より
齋藤外務大臣宛（電報）

日本の承認問題に関する満州国側の意見について

長春 6月20日後発
本省 6月21日前着

第三三二号（暗）

⁽¹⁾承認問題ニ関スル新国家側ノ意見ヲ綜合スルニ左ノ如シ何等御参考迄

一、日本ハ承認ニハ準備ヲ要スト称シ居ルモ何ノ準備ナルヤ了解ニ苦シム技術的ニハ唯承認ヲ声明スルノミニテ足リ其他ノ問題ハ漸ヲ逐ヒテ協議決定セハ可ナルヘク從テ何等手数ヲ要スル道理ナシ国際関係ヲ調整スル意味ノ準備ナリトスルモ如何ナル手段ヲ以テ為スヘキヤ又為シタリトテ効果アルモノナリヤ連盟總會ノ接近ト共ニ国際関

係ハ寧ロ悪化ヲ免レス殊ニ日本カ曖昧ナル態度ヲ以テ隙ヲ示セハ尚更悪化スヘキコト明瞭ナリ故ニ準備云々ハ単ニ承認遷延ノ口実ナルニアラスヤ

二、満州国ノ現状ニテハ承認尚早ナルカ如キ口吻ナルカ今日ノ如ク承認ヲ躊躇シテ弱腰ヲ示シ列国ノ干涉ニ依リテ再ヒ支那政権カ満州ニ延ヒルカ如キ場合ニハ新國家支那人幹部ノ運命ハ果卵ノ危キニ至ルヘク本来ナラハ新國家成立ノ為ニ在滿日本機關ハ縮小シテ然ルヘキニ却テ伝ヘラルルカ如キ大ナル統制機關設置カ事実ナリトスレハ之満州ヲ第二ノ朝鮮タラシムル前提ナリトノ疑起リ現ニ溥儀執政ノ如キハ右報道ニ痛ク神經ヲ悩マシ中央銀行紙幣ニ同人ノ肖像ヲ入レントシタルニ暫定的ニ執政タル者ノ肖像ヲ永久ノ紙幣ニ入ルルハ不可解ナリトテ嫌味ヲ述ヘタルニ依リテモ知り得ヘク旁支那人ハ此ノ種報道ニ対シ痛ク神經ヲ尖ラシ居レリ依テ日本カ承認セサル間ハ如何ニスルモ支那人ノ新國家ニ対スル熱意ヲ喚起スルコト不可能ニシテ新國家ハ精神的ニ崩壊スル虞有リ

三、日本ノ不徹底ナル態度ニ依リ支那ニ於テ対滿策動激化シ列国モ弱味ヲ見通シ盲動ヲ逞ウシ時局ヲ益々紛糾セシ

上海 6月21日午後発
本省 6月21日午後着

第九八七号（暗、極秘）
貴電第三五九号ニ関シ

（干城・臨時代理公使）

二十一日堀内総稅務司ヲ往訪貴電ノ趣旨ヲ詳細説明（満州側ハ閩錫山及広東ノ例ニ依リ其ノ要望ヲ極メテ正当ト信シ居ル旨ヲモ付加ス）ノ上IGノ好意的考慮ヲ求メタル処IGハ自分ハ關稅制度ノ維持及外債保全ニ付テハ充分ノ関心ヲ有シ居リ現ニ安東、牛莊、哈爾濱海關收入カ満州側ニ抑留サレタルニ対シ南京政府ニ於テハ稅關閉鎖ヲ以テ對抗スヘシト為シ居タルモ自分ニ於テ銀行家等ノ勢力ヲ利用シ漸ク之ニ抗議スルノミニテ目ヲ瞞ルコトシタルハ右保全ヲ計ルカ為ニ外ナラス然ルニ南京政府ニ於テハ大連關余ハ海關協定ニ依リ何人ヨリモ冒サレサルモノナレハ之カ引渡ハ絶對ニ禁止スル旨自分ニ対シ特ニ命令シ居ルヲ以テ自分ハ之カ引渡ハ如何ナル方法ニ依ルモ認メ得サル地位ニアリ從テ之ノ点ニ付テハ貴意ニ副ヒ難シト述ヘタルヲ以テ堀内ヨリ南京政府ノ命令ハ別トシ満州側ニ於テハ日本ノ「コントロール」シ得サル方法ニ依リ大連ノ關余ヲ取得スルコトニ努

ムヘク日系官吏ニ於テモ不安ニ感シ居レリ
四、日本人ハ目下付屬地外及北滿ニ於テ種々活動セントシ居ルモ其法律的根拠曖昧ナル為腰ヲ入レテ活動スル能ハス此ノ点ヨリ見ルモ速ニ満州国ヲ承認シ日滿両国ノ条約關係ヲ明カニスルニ非サレハ将来收拾スヘカラサル法律

的混乱状態ヲ惹起スヘシ
五、未承認ノ為新國家ノ海關及郵政接收上幾多ノ誤解發生シ対外的ニ困難ナル事態ヲ惹起スル惧アルノミナラス哈爾濱ノ「スチール」及「リント」問題ニ対シテモ各国ハ新國家ヨリモ寧ロ日本ニ当リ来リ日本トシテハ甚タ迷惑ナル事態ニ逢著スル惧アリ旁日本カ真ニ満州国ノ為ニ此ノ種問題ノ解決ヲ欲セハ此ノ際断乎トシテ承認ノ拳ニ出ツル事絶対必要ナルヘシ云々

支、北平、南京、奉天ヘ転電シ哈爾濱、間島、吉林ヘ暗送セリ

223 昭和7年6月21日 在上海守屋書記官より
齋藤外務大臣宛（電報）

在滿海關接收問題に關する堀内とメーズ總稅務司との會談について

カスルヤモ知レサル処（瓦房店稅關設置等ノ例ヲ挙ケ）斯ノ如クシテ種々ノ紛糾ヲ釀シ結局關稅制度ノ破壊ヲ来ス惧アルニ於テハIGハ單ナル南京政府ノ役人タルニ止マラス一種ノ國際的機關ニシテ列国ヨリ關稅制度ノ維持外債保全ノ責任ヲ負ハサレ居ルニ鑑ミ此ノ地位ヨリ何等独自ノ考慮ヲ廻ラサルル余地無キヤ現ニ広東ニ於テ關余ノ抑留ヲ認メ居ラルルハ此ノ考慮ヨリ出テタルニ非サヤト尋ネタル処IGハ其点ハ自分モ充分考ヘ居リ南京政府ニ対シ前述安東等ノ稅收ノ抑留ヲ放任スルコトヲ説得セルハ之カ為ナリ然ルニ大連ノ關余ニ付テ斯ノ如キ処置ヲ取ルコトハ南京政府ノ確定セル重要ナル外交方針ニ反スル次第ナレハ自分ノ現在ノ地位トシテハ絶対ニ不可能ナリト答ヘ更ニ堀内ヨリ本件今一応考慮方財政部長ニ建言セラレ間數ヤト尋ネタルニIGハ南京側ノ方針ハ政府各機關協議ノ上決定シタルモノナレハ宋子文モ一存ニテ變更シ難カル可ク建言ノ余地無シト述ヘタリ
尚堀内ヨリ本件會談ハ外部ニ洩ルル時ハ兩國ノ關係ヲ紛糾セシムル危険アルニ付御互ニ極秘トシ度キ旨ヲ述ヘIG之ヲ了承セリ

北平、奉天、長春、関東庁、南京ニ転電セリ

224 昭和7年6月21日 在長春田中領事代理より
齋藤外務大臣宛(電報)

満州国承認問題などに関するソ連側の態度について

長春 6月21日後発
本省 6月21日後着

第三四〇号(暗)

大橋ノ内話ニ依レハ二十日「スラブツキー」総領事哈爾濱特派員ヲ往訪シ莫斯科ノ訓令トシテ蘇連ハ予テヨリ満州国ノ正式承認問題及日本ノ不承認問題ヲ研究中ナリシカ最近中央執行員避暑ノ為莫斯科ヲ離レ居ル為研究停滞シ居レリ但シ莫斯科ハ未タ曾テ満州国承認ヲ拒ミタルコトナキハ東支鉄道問題(易幟及満州国職員任命等)領事交換問題、連盟調査団ノ馬占山会见要望問題等ニ対スル態度ニ依リ明白ナリト述ヘタル趣ナルカ最近支那カ北平発合第一八三〇号ノ如ク方針ヲ決定シタルヤノ情報アリ而シテ仮令支那側カ右「ライン」ニ依リ申入ルルトスルモ支那ノ不信行為ニ呆レ居ル蘇連トシテ之ヲ受ケ容ルヘシトハ思ハレサルモ万一

226 昭和7年6月22日 齋藤外務大臣より
在英松平大使宛(電報)

満州海関接收の穩和なる解決希望について

本省 6月22日後9時30分発

第七五号(暗、至急)

満州海関問題英國大使来談ノ件

二十二日英國大使有田次官来訪ノ際支那関税問題ニ就テハ北平ニ於テ矢野参事官ヨリ英國代表者ニ対シテ日本政府ノ態度ヲ説明セラレタル趣ナルカ(北平来電第三〇八号参照)自分一個ノ私見(ロンドンヨリハ何等ノ訓令ニ接シ居ラス)ニ依レハ南京政府ヲシテ満州国トノ間ニ正式ノ協定ト云フ如キモノヲ作ラシムルコトハ南京政府ヲシテ満州国ヲ認メシムルト同様ノコトナルヲ以テ殆ト不可能ノコトト思料セラルルモ満州国側ニ於テ事実上関税剩余ヲ差押ヘ使用スル場合ニハ南京政府トシテモ致方無カルヘク殊ニ他ノ地方ニ於テモ先例ノアルコトナリト思考ス支那ニ於ケル事件ノ解決力時ヲ要スルコトハ御承知ノ通ナルヲ以テ満州国側ニ於テモ此際焦セツテ無理ナルコトヲセサル様希望ス自分ハ英國政府ニ対シテ「カストムス、インテグリティ」

ノ場合ニ於テ有効ナル対策トシテハ蘇連ヲシテ急速ニ満州国ヲ認メシムルニアリ然ルニ在哈蘇連要人ハ日本タニ承認セハ直ニ承認スヘシト声明シ居ル趣ニ付此意味ヨリシテモ日本ノ満州国承認ハ急速ニ運フ要アリト思料セラルトノコトナリ

支、北平、奉天へ転電セリ

225 昭和7年6月22日 在ハルビン長岡総領事代理より
齋藤外務大臣宛(電報)

吉林交渉署を外交部北滿特派員公署と改組について

ハルビン 6月22日後発
本省 6月22日後着

第六三八号(暗)

今般満州国外交部ハ当地吉林交渉署ヲ外交部北滿特派員公署ト改メ十八日施履本同特派員ニ任命セラル杉原同署総務処長トシテ實際上同署ノ事務ヲ總轄スルコトナレリ

支、北平、奉天、長春、南京へ転電シ吉林、齊齊哈爾、満州里へ暗送セリ

ヲ維持スルコトハ必要ニシテ日本政府モ亦之ヲ認メ居レルカ満州国ノ言分ニモ一理アルヲ以テ便宜ノ方法ニ依テ解決スル要アリトノ意見ヲ上申シ置ケルモ右ニ対シ今日未タ回答ニ接セサルニ付政府ノ意見トシテ申述フルコトハ出来サル次第ナルモ自分ノ私見ハ右ノ通ナリト述ヘタルニ付次官ハ自分モ全然同感ニシテ日本政府トシテハ出来得ル限り満州国政府ニ対シテ自制ヲナサシムル様努力シツツアル旨答ヘタル趣ナリ

支、北平、奉天、長春、関東庁、米ニ転電シ支ヲシテ南京ニ転報セシメタリ

仏、伊、寿府連盟ニ転電アリタシ

227 昭和7年6月23日 ※在ハルビン長岡総領事代理より
齋藤外務大臣宛(電報)

国境監視警察隊の満州里着について

ハルビン 6月23日前発
本省 6月23日後着

第六四三号(暗)

満州里発本官宛電報合第三六号
本官発大臣宛電報第五四号

当地国境監視警察隊百三十七名(内日本人九七、支那人三二、朝鮮人八)ハ途中何等ノ故障ナク昨廿一日午後十時半日支官民ノ盛大ナル歓迎裡ニ当地着何等事故無ク直ニ同隊宿舍ニ落チ着キタリ

哈爾濱ヨリ大臣、在支公使、北平、奉天、長春へ転電アリ
タシ

哈爾濱、齊々哈爾へ転電セリ

228 昭和7年6月23日 在長春田中領事代理より
齋藤外務大臣宛(電報)

國務會議にて駐日本代表公署官制など諸案通過について

長春 6月23日後発
本省 6月23日後着

第三四七号(暗)

二十日ノ國務會議ニ於テ駐日本代表公署官制並ニ中央銀行開業ニ依ル各官銀号旧貨幣整理弁法、中央銀行管理官章程、中央銀行発行貨幣様式製造発行及貨幣兌換方法等ノ諸案通過シ近ク公布セラルル筈ナリ代表公署官制ハ本日郵送其他ハ入手次第速報スヘシ

229 昭和7年6月23日 在米出淵大使より
齋藤外務大臣宛(電報)

米國務長官満州の現状不變更を希望について

ワシントン 6月23日後発
本省 6月24日後着

第三六三号(暗、極秘)

二十三日國務長官ニ会見ノ際貴電第一三二号御訓令ノ次第ヲ口頭ヲ以テ申述ヘタル処長官ハ帝國政府ニ於テ國務省ノ申出ニ對シ考慮ヲ加ヘラレタル事ニ對シ謝意ヲ述ヘタル上腹藏無ク申上クレハ米國政府トシテハ連盟調査委員ノ報告書完成ヲ見ル迄ノ間満州國當局ニ於テ海關制度ノミナラス凡テノ事柄ニ付現状ヲ變改セラレサラン事ヲ熱心ニ希望スルモノナリ日本ノ友人タル「マッコウイ」少將ハ公平ナル人物ナルヲ以テ實際ニ即セサルカ如キ意見ヲ提出スル筈無ク「リットン」其ノ他ノ委員モ恐ラクハ同様公平ナル人物ナル可シト察セラルルニ付此ノ点日本政府ノ考慮ヲ切望スト語リタル上最後ニ戲談ニ紛ラシ満州ニ生レタル「ベビー」ハ當分ノ間其ノ儘ニナシ置ク方賢明ナル可シト笑ヒ乍ラ付言シタルニ付本使ヨリ日本國民ハ此ノ「ベビー」ノ満

230 昭和7年6月23日 齋藤外務大臣より
在英國齋藤(博)臨時代理大使、在米出淵大使宛(電報)

満州海關問題に関する満州國財政部總長の声明書について

合第一三八一号

満州海關問題ニ関シ満州國財政部總長ハ六月十八日大体左記趣旨ノ声明書ヲ發表セリ

満州國政府ハ建國後直ニ大連海關ヲ含ム満州國全海關ヲ完全ニ接收シ關稅自主權ヲ確立スヘキ処獨立宣言及對外通告ノ趣旨ニ依リ成ル可ク穩便ニ本問題ヲ處理セントスル見地ニ基キ三月中旬以降支那海關制度ノ保全ヲ乱サス又外債担保部分ニ手ヲ触ルル事無ク所期ノ目的ヲ達スル為三月二十一日付ヲ以テ非公式ニ

一、大連ヲ含ム全滿海關及其ノ分局ハ一切之ヲ満州國ノ統轄ニ歸セシム

二、輸入稅率及徵收方法ハ當分現在通りトス

三、從來關稅ヲ担保セル外債ノ償還ニ對シテハ満州國モ海關收入中ヨリ合法的方法ニ依リ之ヲ分担スル用意ヲ有ス但シ殘余ハ之ヲ満州國政府ニ於テ抑留使用スル事

本件ハ事機微ニ属スルヲ以テ絶対ニ外部ニ洩レサル様特ニ御配慮願ヒ度シ
英ニ転電シ英ヲシテ貴電第一三二号末段ノ通り転電又ハ転報セシム

四、各海関ニ於ケル中外勤務員ハ当分従来ノ者ヲ使用ス但
税務司及幹部ノ任免ニ付テハ予メ滿州国政府ノ諒解ヲ得
ヘキコト

ノ趣旨ニ依リ妥結ニ達セント努力シ来レル処南京政府ハ却
テ当国ノ穩便ナル態度ヲ以テ与シ易シトナシ当国海関収入
ノ大半ヲ占ムル大連関ノ税收全部ノ外他海関税收ノ三分ノ
一ヲモ要求スル等其態度極メテ不遜ニシテ誠意ノ認ムヘキ
モノナシ

斯ノ如ク先方ニ毫モ反省ノ色無ク且当国内外ノ情勢ハ本問
題ノ解決ヲ荏苒遷延スルヲ許ササルニ至リタルヲ以テ茲ニ
断乎タル決意ヲ固メ大連関税收並ニ曩ニ南京政府ヘノ送金
ヲ差止メ居ル他関ノ税收ノ取得ニ着手スルニ至レリ

然レ共尚先方ニ対シテ反省ノ機会ヲ与フル為六月九日付ヲ
以テ福本大連海関長ニ対シ次ノ如キ通告ヲ發シ其ノ合法的
ナル我原案受諾ヲ促シタリ

「滿州国ハ三月二十一日付当国ヨリノ提議ニ基ク協定ノ成
立スル迄海関収入ノ漏逸ヲ防止スル為メ爾来大連関ヲ除ク
他ノ一切ノ滿州海関ノ収入ニ付其ノ保管銀行ヲシテ送金ヲ
差止メ居レリ総税務司ハ大連関ノ収入カ滿州国ニ所屬スル

旨ノ滿州国ノ通告並ニ右収入カ全部滿州国人民ノ負担ニ於
テ徴収サレツツアル否定シ難キ事実ニ鑑ミ滿州国ハ右収入
ヲ取得スヘキ完全ナル權利ヲ有スル動カスヘカラサル事實
ヲモ無視シ大連海関長ヲシテ其ノ全収入ヲ南京政府ニ送金
セシメ以テ同政府ノ滿州国ニ対スル敵意アル政策ノ遂行ヲ
援助スルノ結果ヲ招来シツツアリ滿州国ハ其ノ存立ノ必要
上最早斯ノ如キ自殺的事態ノ繼續ヲ寛容スル能ハス依テ茲
ニ貴海関長ニ対シ右事実ヲ充分ニ考慮サレン事ヲ要求スル
ト同時ニ至急總税務司ニ対シ本通告受領後ニ於ケル貴海関
長ノ行動如何ニ依リテハ滿州国ハ予テ表明シタル誠意アル
要望ニモ拘ラス海関行政ノ保全及其ノ國際的現狀維持ヲ不
可能ナラシムルカ如キ措置ヲ取ラサルヲ得サルニ至ルヘキ
旨ヲ通告サレン事ヲ要求ス」

然レトモ若シ南京政府及總税務司ニ於テ此ノ穩当ナル処置
ニ対シ之レヲ無視シ若ハ反抗的態度ニ出ツルニ於テハ滿州
国ハ已ムヲ得ス滿州全海関ニ対シ断乎タル措置ヲ取ラサル
ヲ得サルヘシ此ノ場合ニ於テモ滿州国ハ海関収入ヲ担保ト
スル外債ニ付テハ飽ク迄モ之レヲ尊重シ滿州国トシテ負担
スヘキ部分ハ合理的方法ニ依リ確實ニ此レヲ負担シ且現ニ

各海関ニ勤務中ノ内外人モ其ノ希望ニ依リテハ其ノ儘任用
スルノ用意アリ

以上ヲ以テ明カナル如ク税関制度ノ維持ニ関シテハ充分ノ
努力ト極度ノ忍耐ヲ以テ之ニ臨メリ然ルニ南京政府ニ於テ
ハ翻然態度ヲ改ムルコト無ク事態決裂ニ至ラハ南京政府ニ
於テ全部其ノ責ニ任スヘキモノナリ
英ヨリ連盟ニ転電シ在欧各大使ニ転報アリタシ

231 昭和7年6月23日 齋藤外務大臣より
在英國齋藤臨時代理大使、在米國出
淵大使他宛(電報)

日本の滿州国承認は九国条約違反との英國政
府申出について

別電 同日齋藤外務大臣より在英國齋藤臨時代理大
使、在米國出淵大使他宛合第一三九〇号
日本の滿州国承認問題に関する英國政府より在
本邦リンドレー大使宛訓電
付記 リンドレー英國大使と有田外務次官との会談要
領

合第一三八九号(暗、極秘)

本省 6月23日後7時発

滿州国承認問題

二十三日在本邦英國大使有田次官ヲ来訪シ滿州国承認問題
ニ関シ本國政府ヨリ訓電ニ接セリトテ別電合第一三九〇号
ヲ朗読シ我方ノ態度ヲ訊シタルニ付次官ハ大臣ニ報告ノ上
何分ノ挨拶ニ及フヘキ旨不取敢応酬シ置キタル趣ナリ
本電及別電宛先 英、米、寿府、支、北平、奉天、長春、
寿府ヨリ別電ト共ニ英土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリタシ
支ヨリ別電ト共ニ南京ニ転報アリタシ

(別電)

合第一三九〇号(暗、極秘)

滿州国承認問題

本省 6月23日後10時20分発

I agree that recognition by Japan would prove a
most unfortunate and undesirable complication and
should be glad if you would ascertain what are real
intentions in this matter of Government to which you
are accredited. Please report fully with regard to
resolution said to have been adopted by Diet on June
14th.

You should impress on Minister for Foreign Affairs that while Nine Power Pact may not forbid Manchuria to declare her independence it does impose an obligation on the signatory powers to do nothing to encourage such action and particular care is necessary if Japanese Government wish to avoid giving the impression that they are acting contrary to their Treaty obligations.

(仮訳文)

合第一三九〇号電報(英文) 仮訳文

日本ノ承認ハ極メテ不幸ナル且望マシカラサル紛糾ヲ生スヘキニ付貴官ニ於テ貴任国政府ノ本件ニ関スル真意ヲ確メラルルヲ得ハ好都合ナリ又六月十四日帝國議會ニ於テ可決セラレタル趣ノ決議ニ関シ詳細報告アリタシ

貴官ハ外務大臣ニ対シテ九国条約ハ滿州ニ対シ其ノ独立宣言ヲ禁スルモノニ非ストスルモ同条約ハ其ノ調印国ニ対シスル行為ヲ奨励スル如キコトヲ何等為スヘカラサル義務ヲ課セルモノニシテ日本政府ニシテ其ノ条約上ノ義務ニ違反シテ行動シツアルカ如キ印象ヲ与フルコトヲ避ケント欲スルニ於テハ特ニ注意ヲ必要トスル次第ヲ力説セラレタシ

(付記)

六月二十三日(正午) 英国大使サー、リンドレー来訪会談要領

英国大使ハ

本国政府ノ訓令ニ接シタル趣ヲ以テ別紙^(合第一三九〇号)英国政府訓令ノ一部ヲ讀上ケタル上本国政府ヘ回答ノ為意見ヲ求メタルニ付

次官ハ

本件ニ就テハ外務大臣ニ報告ノ上御返事スルヲ適當ト認ムル旨一応答ヘタル上日本政府トシテハ兎ニ角議會ニ於ケル即時承認決議ニハ考慮ヲ払ハサルヘカラサル次第ト思考スト述ヘタリ

大使ハ右ニ対シ

成ルヘク速ニ回答ヲ得度旨ヲ述フルト共ニ極秘トシテ在北平英国公使館ヨリノ報告ニ依レハ「リットン」卿ハ日本力同一行東京着前ニ承認ヲナスカ如キコトナキヤヲ非常ニ懸念シ居ル模様ナリトテ此ノ点ニ関スル日本側ノ意向ヲ承知シ度キ模様ナリシニ依リ

次官ハ

自分ノ個人ノ觀察ニ依レハ調査団来京前ニ承認ヲナスカ如キコトハ万之レ無カルヘシト述ヘ置キタリ

尚

同大使ハ

承認ハ出来得ル限り遅レシムルコト國際關係上得策ナル旨種々申述ヘタル上尠トモ承認ノ時期カ調査団ノ仕事ニ累ヲ及ホスカ如キコト無キ様希望スル趣旨ヲ述ヘ居リタリ

232

昭和7年6月23日 齋藤外務大臣より
在米出淵大使宛(電報)

滿州國の海關接收問題に関する穩和なる解決

策について

本省 6月23日後5時30分発

第一三二号(暗)

滿州海關問題対米回答ノ件

貴電第三五三三号ニ関シ

(二〇六文書)

本件ニ付テハ最近迄右貴電米國側以外ヨリハ何等申出ナカリシカ(尤モ数日前英國大使他用ニテ有田次官ヲ来訪セル序デニ滿州國ノ海關接收ハ「カストムス、インテグリティ

イ」ヲ破壊スル虞アリトノ趣旨ヲ立話シ居リシコトハアル趣ナリ) 二十二日英國大使有田次官ヲ来訪会談ノ次第ハ英

宛往電第七五号ノ通りナリ又同日仏國大使同次官ヲ来訪セル

(二二六文書)

將又二十一日米國「ネヴィル」参事官ヨリ谷局長ニ対シ新聞報ニ依ルニ本問題ニ関連シ米國政府ヨリ日本ニ抗議セルヤノ趣ナルモ本國政府ヨリハ何等情報ニ接シ居ラサル旨述

ヘタルニ付貴電第三五四号ヲ内示シ我方ニテモ別段之ヲ抗議ト解シ居ル次第ニ非サル旨応酬シ置キタル趣ナルカ往電

(二〇六文書)

合第一三五七号ノ後段ノ通り在支公使宛訓令ノ次第モアリ此際米國覚書ニ対シ一応挨拶スルコト時宜ニ適スト認メラ

(二一〇文書)

ルルニ付往電合第一三五七号及合第一三八一号ヲモ参照ノ上左記趣旨ヲ口頭ニテ可然申入レ置カレタシ尚ホ右申入ニ

当リテハ本問題ニ関シ我方ハ第三者ノ立場ニ居ルモノナルヲ以テ之ニ付弁明ヲ為ス如キ立場ニ在ラサル趣旨ヲ可然徹

(二一〇文書)

底セシメ置カレ度(米國覚書ハ滿州當局ノ主ナル顧問ハ日本人ニシテ之ニ対シテハ日本政府ノミカ「コントロール」ヲ加ヘ得ト述ヘ居ルモ是等顧問ハ滿州國トノ私的契約ニ依リ採用セラレ居ルモノニシテ日本政府ニ於テ「コントロール

ル」シ得ヘキ立場ニアラス御含迄)

一、我方ノ承認スル所ニ依レハ満州国政府ハ在滿諸海關ノ
関余ヲ入手セムコトヲ希望シ居ル次第ニテ(満州国側ハ
満州ノ関税ハ満州国民ノ負担スル所ナルコトヲ主張シ居
ル次第ナル処右満州国側ノ言分ハ一概ニ無視シ得サルモ
ノト思考ス)「カストム、インテグリティ」ヲ破ラス又
外債担保部分ニ手ヲ触ルルコトナク右目的ヲ達成セムカ
為メ三月以来南京側ニ交渉中ナリシモ容易ニ纏ラサル模
様ナリシ処同国財政ノ窮乏ニモ顧ミ南京側トノ円満妥結
ノ見込立タサルニ於テハ海關接収断行ノ外ナシトナスニ
至レルモノノ如シ(右接収後ニ於テモ外債担保部分ニ手
ヲ触レサルヘキハ前記往電合第一三三八一号満州国財政部
長声明ニ依ルモ明ナリ)我方ニ於テハ成ル可ク穩便ナル
解決ヲ見ムコトヲ希望シ最近在支公使ニ訓令シテ前記往
電合第一三五七号後段ノ如キ「ライン」ニテ総稅務司ニ
對シ満州国側トノ間ニ話合ヲ付クル様慫慂セシムルト同
時ニ右ニ付在支英米仏等諸國代表ノ非公式斡旋ヲ求メツ
ツアル次第ナルカ我方トシテハ客年広東海關及昭和五年
天津海關等ノ例ニモ顧ミ「カストム、インテグリティ」

對シ「自分カIGノ命令ニ從ヒ送金セハ大連ニ於ケル日本
ノ貿易ヲ阻害スルカ如キ事態ヲ發生スヘキカ故ニ自分ハ日
本臣民トシテ斯ノ如キ命令ニ服シ難シ」トノ旨電報セルヲ
以テ廿三日IGハ岸本ノ建言ニ基キ張福運トモ相談ノ上福
本ニ對シ「不取敢事情説明ノ為上海ニ來ルヘシ」トノ旨電
報シ廿四日朝右ノ趣宋子文ニ報告セル処宋子文ハ即時免職
方命令セルニ付同日福本ノ免職(退職ノ特典ヲ伴ハス)ヲ
電報セル趣ナリ
南京ヘ転報セリ
北平、長春、奉天、関東長官ニ転電セリ

234 昭和7年6月24日 齋藤外務大臣より
在間島岡田総領事宛(電報)

朝鮮人の竜井村税関襲撃事件とイギリス居留
民引揚について

第一五三号(暗)

朝鮮人ノ竜井村税関襲撃ニ関スル件

貴電第三七四号ニ関シ

本月廿二日在本邦英国大使有田次官ヲ来訪シ在奉天同国総

本省 6月24日後7時50分発

及外債担保保全ノ為ニハ前記往電ノ如キ「ライン」ニテ
本件ノ事實的解決ヲ計ルコト最モ時宜ニ適スト認ムル次
第二テ米國政府ニ於テモ右日本政府ノ立場ヲ賛同支持シ
以テ本件ノ円満解決ニ寄与セラレンコトヲ切望ス
二、満州国ノ日本人總稅務司任命ニ関シテハ日本政府ノ承
知スル限り右様ノコトナシ

支、北平、奉天、長春ニ転電シ支ラシテ南京ニ転報セシメ
タリ

英ニ転電シ英ヲシテ仏伊ニ転電シ貴電第三五三三号及第三五
四号並英宛往電第七五号ト共ニ寿府連盟ニ転電独白露土ニ
暗送セシメラレタシ

233 昭和7年6月24日 在上海守屋書記官より
齋藤外務大臣宛(電報)

總稅務司福本大連海關長を解職について

上海 6月24日後発
本省 6月25日前着

第九九九号(暗、極秘)
閣下宛関東長官發電報第三九号ニ関シ
廿四日岸本ノ極秘ノ内話ニ依レハ其後福本ヨリ總稅務司ニ

領事カ竜井村地方ノ排外熱ニ顧ミ同地英国在留民十八名ニ
對シ引揚命令ヲ發シタル旨電報ニ接シタルカ独逸人宣教師
殺害事件モアリタル此際事態ハ甚タ重大ナリト思料スル旨
述ヘタルニ付次官ヨリ先般ノ税関長ニ對スル朝鮮人ノ運動
騒キハ日本側出先官憲ノ報告ニ依レハ支那税関ニ對スル鮮
人ノ反感ニ基クモノニシテ何等排外的風潮ノ存在ヲ認メサ
ル趣ナルヲ以テ在奉天英国總領事ノ所謂排外熱云々ノ如キ
ハ恐ラク誤解ナルヘク鮮人ノ不穩行動取締方ニ付テハ先ニ
出先官憲ニ對シ訓令済ミナルモ其点更ニ遺憾ナキヲ期セシ
ムル様申送ルヘシトノ趣旨ヲ答ヘ置キタル趣ナルカ英國人
方面ニ口実ヲ与ヘサル様鮮人ノ取締ニ付テハ此上トモ万全
ヲ期セラレ度尚税関長申出ノ見当違ヒナルコトハ理屈トシ
テ貴電末段ノ通りナルモ貴方ニ於テ銳意鮮人ノ取締ニ努メ
間接ニ英國人ノ保護ニ任シ居ルコトヲ税関長其他ニ知ラシ
メ安神ヲ与フル様出来得ル限り好意的ニ応對セラルルコト
得策ナルヘシ為念
支、北平、奉天、吉林ヘ転電セリ

235 昭和7年6月24日 齋藤外務大臣より
山岡関東長官宛(電報)

付属地内における満州国税吏の関税徴収と付
属地行政権の關係について

本省 6月24日後8時30分発

第二五号（暗）

満州海関問題ニ関スル件

貴電第四〇号ニ関シ

滿鉄付属地ニ対スル輸出入貨物ニ対シ満州国カ関税ヲ賦課
シ得ルヤ否ヤハ兎モ角トシ満州国自ラ付属地内ニ税吏ヲ派
遣シテ関税徴収等ノ行政的行爲ヲ為スハ安東ノ例ノ如ク特
ニ協定等（明治四十四年国境列車直通運転ニ関スル協約）
ニ依リ認メラレタル場合以外ハ我カ付属地行政権ニ抵触ス
ルモノナリ而モ從來我方ニ於テハ支那側ノ条約違反ヲ責メ
連盟側ニ対シテモ特ニ之ヲ指摘シ来リタルノミナラス外国
側ニハ付属地ニ対スル我カ行政権ノ性質自体ニ疑問ヲ有シ
居ルモノアル等ノ次第二顧ルニ本件ニ関スル満州国側ノ解
釈ハ我方ノ同意シ得サル所ナルニ付右ニ付内密ニ大橋次長
ノ注意ヲ喚起シ置カレ度爲念

支、北平、奉天、長春ニ転電セリ

236

昭和7年6月25日

在上海守屋書記官より
齋藤外務大臣宛（電報）

メーズ総稅務司の福本罷免に關する聲明につ
いて

上海 6月25日後発
本省 6月25日後着

第一〇〇八号

二十日「メイズ」ハ福本罷免ニ関連シ大要左ノ通聲明セリ
満州国ノ関税押収ハ賠償金及外債ノ決済ニ使用スル資金ヲ
甚タシク減殺シタルカ財政状態ハ福本税関長ノ非常手段ニ
依リ一層悪化シタリ福本ハ河相関東庁外事課長ヨリ稅收ヲ
送金スレハ満州国ハ之カ對抗手段ニ出ツヘク其結果租借地
ニ於ケル日本人ノ利害ニ重大ナル影響ヲ与フヘキニ付問題
ノ解決迄送金ヲ差控フヘキ旨ヲ頻ニ勸告セラレタルヲ理由
トシ總稅務司ヨリノ送金命令ノ実行ヲ拒絕シタリ總稅務司
ハ同人ニ対シ其受動的態度ヲ非トシ即時送金ヲ命令シ若シ
命令ニ服セサルトキハ服務規律違反ト見ルヘキ旨戒告シタ
ル処同人ハ受動的態度ハ目下自分ニ於テ可能ナル唯一ノモ
ノニシテ大連海關ト満州国トノ不和断絶ハ日本人ノ利益ヲ
破壊スヘシト日本当局ヨリ忠告セラレ居リ斯ノ如キ不和不

調ヲ招来スル道具タルコトハ日本人タル自分ノ忍ヒサル処
ナリト回答シ来レリ依テ總稅務司ハ宋財政部長ノ承認ヲ得
テ福本ヲ服務規律違反ノ廉ニ依リ罷免セリ尚總稅務司ハ福
本ノ命令違反カ関稅行政ノ歴史ニ於テ前例ナキ事件ナルコ
トヲ付言ス

北平、奉天、長春、関東庁ニ転電シ南京ニ転報セリ

237

昭和7年6月25日

在ハルビン長岡總領事代理より
齋藤外務大臣宛（電報）

満州国承認問題と中国人側の動向について

ハルビン 6月25日後発
本省 6月25日後着

第六四八号（暗）

吉林発閣下宛電報第三〇〇号並ニ長春発同シク第三三二号

ニ関シ急速承認ノ日滿両国ニ及ホス利益如何ハ暫ク別問題
トシ本件ニ関連セル在滿支那人ノ心理の考察並ニ之ニ対ス
ル我方態度ニ関シ卑見左ノ通御参考迄

一、満州事変發生以来新国家成立ノ経緯（其後支那人ノ心
境ニ変化アリタリトノ見方ヲ建ツル向アリ得ルモ）並ニ

在滿支那人ノ反日的思想ハ今尚相当根強キモノアリト解
セラルル事実（過般当地ニ於テ上海事件活動写真上映セ
ラレタル際支那人觀衆ハ我飛行機ノ爆彈投下ニ対シテハ
悲痛ノ声ヲ挙ケ我軍ノ損害ヲ受クル情景ハ歡呼シテ之ヲ
迎ヘタル事例アリ）ニ顧ミ一般満州国人等ニテ真ニ真面
目ニ日本ノ満州国承認ヲ要望シ居レルヤ否ヤ疑ヒ無キ能
ハス

二、然ルニモ拘ラス急速承認セサルヲ問題トシテ日本人ノ
弱腰ヲ非難シ進ンテ之ヲ日本ノ満州併呑ノ野心ト結ヒツ
ケ云々スルカ如キハ偶々心中ノ反日的鬱憤ヲ遣ラントス
ル有意識的若ハ無意識的言動ニ非サルヘキカ

三、此点ハ彼等カ事件以来朝鮮人ノ傲慢（事実幾分其傾向
アリトスルモ）ニ対シテ非難ヲ試ミントスル態度ト同様
（彼等ノ實際責メ度キハ日本人自身ノ横暴ナルヘキ筈ナ
リ）畢竟承認問題ヲ日本非難ノ口実トスル一方承認取付
ニ依リテ一新国家タルノ名ヲ得更ニ之ニ依リテ日本ノ干
渉ヲ幾分ニテモ「チェック」シ以テ満州国内ニ於ケル彼
等ノ勢力ヲ張ル効果ヲ収メントスル次第ナリトモ解セラ
ルヘシ

四、斯ク観シ来レハ早晚承認問題ノ片付キタル上ハ更ニ何等カノ問題ヲ見付ケテ日本非難ノ声ヲ絶タサル可ク例ヘハ日本ハ満州国ヲ承認シタル以上之ニ伴フ充分ナル援助ヲ為スコキナリ等注文ヲ受ケ若ハ日本人ヲ全然外国人扱ニスル等日本ノ難シトシ又ハ尚早トスル事柄ニ付不平ヲ申立テ続ケ日本ニ対シ嫌カラセヲ言フ惧有リト為ササル可ラス

五、然レ共満州問題ノ処理ニ付在満支那人側ノ思惑ヲ顧慮スルコトハ此ノ際並ニ将来共万々無用ナル可ク特ニ承認ノ時期如何ノ如キ重大事ハ飽ク迄モ日本側独自ノ見解ニ基キ決セラル可キモノナル事ヲ支那人ニ充分識ラシムル事肝要ニシテ彼等ノ意向ヤ不平ヤニ引摺ラルル形トナルカ如キ事ハ細心ノ注意ヲ以テ之ヲ避クルノ要有ル可シ
六、尚又、日本当路カ承認問題ニ付夫々準備ヲ進メツツアル此ノ際満州国関係邦人側ニ於テモ同国家ニ対シ兎角ノ言動ヲ慎シム静観的態度ヲ持スルコト前項ノ意味合ヨリシテ極メテ必要ナル可シト存ス
支、北平、奉天、南京、吉林、長春へ転電シ間島、齊々哈爾ニ暗送セリ

税ヲ拒否シ得ヘキ根拠ナシ幸大連海関ニ於ケル告示ノ布告ニ対シテハ貴庁ノ認可ヲ要スル関係上貴庁トシテハ満州国側ニ於ケル本件新税否認ノ結果大連関ト他関トノ間ニ輸入ノ取扱ニ差違ヲ生スヘキコトヲ理由トシテ新輸入税ノ実施ニ同意ヲ差控ヘラルルコト可能ニシテ当地トシテハ之ヲ援用スルノ外途ナキ次第ナリ
外務大臣、支、間島、牛莊ニ転電セリ

239 昭和7年6月25日 山岡閣東長官より
齋藤外務大臣宛(電報)

満州国税関吏瓦房店派駐の阻止困難について

大連 6月25日前発
本省 6月25日前着

第四三号(暗)
貴電第二四号ニ関シ

御訓令ノ次第ハ篤ト大橋次長ニ伝フルト共ニ大連乃至瓦房店ニ満州国税吏派遣見合方懇談的ニ申入レタルカ既ニ満州国々境監視隊続々瓦房店ニ集中シツツアル趣ニモアリ当庁警察力ヲ以テ阻止スルカ如キハ却テ面白カラサル結果ヲ来スト思ハルルノミナラス往電第四二号ノ通り理由ヲ示ス事

238 昭和7年6月25日 在安東米沢領事より
齋藤外務大臣宛(電報)
新輸入税率の取扱について

安東 6月25日後発
本省 6月25日後着

第一三七号(暗)
本官発閣東長官宛電報第三号
貴電第五号ニ関シ

御来示ノ前提ニ従ヘハ大連以外ノ在満海関ニ対スル満州国ノ権力ハ日本人及付属地等ニ関係ナク絶対的ノモノナリトノ解釈ヲ採ルノ外ナキ処国民政府ニ於テハ未タ満州国ヲ承認セサル関係上海関ニ於テモ満州国ノ命令ヲ否認シ現ニ今日迄新税ヲ徴収シ居レルハ累報ノ通ニシテ満州国側ニ於テ之ヲ阻止セントセハ結局実力ヲ行使スルノ外ナク満州国ノ海関ニ対スル権力トハ目下ノ所此ノ方法ニ於テノミ存在スル庄迫ニ過キス從テ此ノ実力ノ行使ハ日本人ニ依リ付属地内ニ陸揚又ハ鐵路輸入セラルル場合ニ及ヒ得サルヘキハ最モ明白ナルト共ニ日本トシテハ未タ国民政府ノ在満海関ニ対スル命令權ヲ否認シ居ラサル今日関税自主ニ基ク新輸入

ナク簡單ナル電報ヲ以テ福本ヲ罷免セル為大連税関員ノ間ニモ多少ノ動揺ヲ免レサルヘク当方面ニ於ケル輿論亦激化スルモノト思ハルルニ付余リ重立チタル阻止ハ此ノ際避クル事ト致度ク尚又往電第四〇号満州国ノ当庁ニ対スル照会ノ次第ハ何レ南京政府ニ於テ発表スルモノト予期セサルヘカラサルニ付今後形勢ノ如何ニ依リテハ満州国ノ瓦房店ニ於ケル税吏派駐ノ要求ヲ阻止スル事甚タ困難トナラサルヤヲ惧ル尚貴電中ノ閣議決定事項詳カナラサルニ付要点電報請フ

在京閣東長官ニ御伝ヘヲ請フ
支、北平へ転電シ奉天、長春へ暗送セリ

240 昭和7年6月25日 ※山岡閣東長官より
齋藤外務大臣宛(電報)

福本罷免後の大連海関接收問題について

大連 6月25日前発
本省 6月25日前着

第四四号(暗)
貴電第二六号ニ関シ
大橋ヨリ

福本ノ来談ニ依レハ大連ニ於ケル満州国税関併置並瓦房店徵税設備ニ関スル満州国ノ関東庁ニ対スル申入ノ件ヲ上海ニ電報スルト行違ニ理由ヲ明示セサル免職ノ通知ニ接シタル趣ナルカ右ハ今日迄海關制度支持ノ為ニ肝胆ヲ砕キ来リシモノニ対スル措置トシテ乱暴ノ極ミニシテ彼等自ラ海關制度保全ニ対シ挑戦シ来リシモノトシ福本モ極度ニ憤激シ事茲ニ至リシ以上多数ノ同志ト共ニ当地ニ踏ミ止マリ満州国ノ為ニ働ラキタキ旨申出テ居リ満州国トシテハ從來ノ経緯ニ顧ミ情誼ノ上ヨリスルモ同人等ヲ見殺ニスル能ハス万難ヲ排シ当地ニ於テ徵税事務ヲ行フカ夫レカ不可能ナラハ瓦房店ニ退キ徵税スルノ已ムナキニ至レルニ付事情御諒察ノ上右ニ対シ便宜御供与アリタシ但シ支那側カ列国ノ勸告ニ従ヒ合理的ナル我方提案ヲ受諾シ福本ニ対スル措置ヲ取消スニ於テハ尚妥協ノ用意アリト思考ス

長春、支、北平、奉天ニ転電セリ

241

昭和7年6月26日 在奉天森島總領事代理より
齋藤外務大臣宛(電報)

大連海關日本人吏員一斉辞任について

奉天 6月26日前発

ノ派駐又ハ新税関設置ヲ回避スル事得策ナルヘシ唯此ノ際我方トシテ考慮スヘキハ福本ノ後任者任命ノ場合ニ対スル措置ニシテ此レカ任命ヲ認ムルトセハ大連ニ滿支兩國税関ノ併立ヲ認ムル事トナリ又此レカ任命ヲ拒絶スルニ於テハ總稅務司ノ任命ニ係ル新税関長ハ元ヨリ延イテ支那本部ニ於ケル日本人税関吏員ノ身上ニ累ヲ及ホスノ惧無キニ非スト思考セラルルモ既ニ支那側ヨリ進ンテ大連海關設置ニ関スル協定違反ヲ敢行セル以上我方ニ於テハ之ヲ口実トシテ新税関長ノ任命ニ付協議ニ応スルヲ避クルト共ニ(支那側ニ於テハ我方ノ協議ニ応セサルヲ非議シ来ルヘキハ明カナル処我方トシテハ右機會ニ於テ第一案ニ依ル解決斡旋ニ対スル我方ノ終始一貫セル態度ヲ闡明シ場合ニ依リ今一応事態ヲ第一案解決ニ引戻スノ努力ヲ試ムルモ一案ナルヘク例ヘハ右實現ノ可能性無シトスルモ我方從來ノ公正ナル立場ヲ対外的ニ説明スルノ機會トシテ)他方満州国側ヲシテ海關行政ノ實質的保全及外債担保ノ尊重ヲ厳密ニ実行セシメ以テ債権國ノ實質的利益ヲ毀損セサル様務ムル事肝要ニシテ新税関長任命ニ対スル措置ニ付テハ関東庁並在支公使館等我方諸機關ニ於テ歩調ヲ一ニシ手落無キヲ期スルノ要ア

本省 6月26日後着

第一〇〇七号(暗、至急、極秘)
大連税関問題其ノ後ノ經過ニ関シ廿五日夜電話ニテ河相ニ問合セタル処廿六日日本人税関吏員ハ全部辞表ヲ取纏メ提出満州国側ニ寝返リヲ打ツ事トナリ又満州国側トシテハ対外關係ヲ考慮シ同日更ニ声明ヲ発シテ外債担保ノ保障及海關行政ノ保全ノ二点ヲ闡明スル手筈トナリ居レル趣ニシテ大連海關カ満州国ニ寝返リ同国ノ為ニ「ファンクシヨ」ヲ続クル以上大連ニ対スル新税関吏員ノ派駐又ハ瓦房店ニ於ケル税関ノ設置等ハ自然其ノ必要ナキニ至ルヘキモ満州国側トシテハ今後事態ノ推移ニ備フルカ為税関新設等ノ準備ハ依然此レヲ整ヘ置クヘキ趣ナリ元来本件ニ付テハ累次御電訓ノ次第アルモ現地ニ於ケル諸般ノ事情上右ノ如キ結果ニ立至ルヘキ可能性多分ニ存シタル処ナルカ總稅務司ニ於テ我方ノ好意的斡旋ヲ全然無視シ無断ニ福本ヲ罷免シタル以上大連税関ノ寝返リハ寧ロ支那側自ラ此レヲ誘致セルモノト認メ得ヘク他方帝國政府トシテハ支那ノ官吏カ自発的ニ去就ヲ決スル以上此レニ干渉シ得ヘキ立場ニ非サルヘク我方トシテハ此レヲ默認スル事ニ依リ満州国側税関吏員

リト存ス尚我方諸銀行カ今般紛糾ノ渦中ニ卷込マルルハ諸般ノ關係上不得策ナルヘキニ付当分満州国ノ海關收入取扱ヲ引受ケサル事トスル方適當ト思考ス

支、北平、哈爾賓、間島、長春、安東、鉄嶺、関東長官ヘ転電セリ

242

昭和7年6月26日 在間島岡田總領事より
齋藤外務大臣宛(電報)

竜井村海關接收に強硬措置採択について

間島 6月26日後発
本省 6月26日後着

第三九一号(暗)
往電第三八八号ニ関シ
宮本顧問ハ二十五日夜財政部ヨリ海關問題逐ニ決裂セルニ付、速ニ接收ニ着手シ若シ実力ヲ以テナス場合外人海關員ニ危害ヲ生スル虞アラハ税関併置スヘキ旨電命ヲ受ケ愈二十七日海關監督ニ満州国軍隊二十余名ヲ付シ当地海關長ニ最後ノ交渉ヲ為サシメ若シ之ニ応セサル時ハ直ニ開山屯(上三峯ノ対岸)ニ海關ヲ併置シ實際收入ニ着手スヘキ段取ヲ進メツツアリ御参考迄

冒頭往電ノ通り転電セリ

243 昭和7年6月27日

在上海守屋書記官より
齋藤外務大臣宛(電報)

福本以下大連海關邦人残留者の満州国海關移行について

上海 6月27日後発
本省 6月27日後着

第一〇一九号(暗)

関東長官発閣下宛電報第四九号ニ関シ

廿七日岸本ノ内話ニ依レハ福本以下大連海關邦人残留者ハ
総稅務司ニ対シ廿六日限り民国海關トノ關係ヲ断チ満州国
海關ニ赴ク旨ヲ電報セル処總稅務司ニ於テハ之ニ対シ直ニ
免職等ノ手續ヲ取ル模様ナキモ不取敢吉田ヲ稅關長代理ニ
任シ且必要ニ応シ欠員補充ノ為本部在勤ノ邦人海關員ノ転
勤ヲ準備シ居ル趣ナリ

北平、奉天、長春、哈爾濱、牛莊、間島、安東、天津、青
島、漢口、南京、福州、広東へ転電シ、上海へ転報セリ

244 昭和7年6月27日

在北平矢野参事官より
齋藤外務大臣宛(電報)

新聞報道ニ依レハ日本政府ハ關稅折半案ニ付テモ考慮中
ナリヤノ趣ナルカ果シテ然ルヤ(本官ヨリ日本政府ヨリ
ハ右様ノコトニ付何等公ノ報道ニ接シ居ラス政府ノ意見
ハ前回ニ申上ケタル通りナリト述フ)

三、我方(英側)カ關稅報告ニ付取調ヘタル所ニ依レハ一
九三一年ニ於ケル支那側海關收入二億四千六百万兩ニ対
シ大連、安東、營口、哈爾濱ノ收入ハ約二千五百万兩ニ
テ即チ其收入ノ一割ナリ昨年ノ大連海關收入ハ一千二百
五十万兩又昨年ノ外債担保支払額ハ全部ニテ一億五百万
兩ニテ満州国ノ負担部分ハ其ノ一割ノ一千五十万兩ナリ
之ニ依リテ觀レハ大連ノ收入ト満州国ノ負担スヘキ外債
担保部分ハ其差僅少ナリ從テ満州国カ大連以外ノ海關收
入ヲ抑留スル代リニ大連ノ收入ヲ上海ニ送ルコトニスレ
ハ満州国ハ大連ヲ含ム満州国全体ノ關稅ヲ取ルコトニ大
体同シコトト成ルヘク其辺ニテ妥協スレハ如何此点ニ付
テハ曩ニ「メイズ」ノ意見ヲ聴取シタルコトモアリ英国
政府ニ於テモ数字カ前掲ノ如クナルニ於テハ此案ハ満州
国ノ目的モ達シ稅關ノ制度モ維持セラレ又外債モ支障ナ
ク支払ハルルノミナラス大連協定ニモ何等接触セスシテ

大連海關收入の帰属問題に関する英公使館イ
ングラムの見解について

北平 6月27日後発
本省 6月27日後着

第三三七号(暗、大至急、極秘)
(三〇文書)
往電第三〇八号ニ関シ

二十六日夜半「イングラム」ハ本国政府ヨリ回訓接到セリ
トテ大要左ノ通述ヘタリ

一、支那カ事實上權力ヲ行使シ得サル地域ニ於テ關稅ヲ徵
收スルコトハ無理ナルヘキニ付本件少クトモ満州国トノ
間ニ適當ノ妥結ヲ計ルコト關係国及支那ノ為有利ニシテ
此点ハ主義上我方モ貴方ト全然同意ナリ実ヲ云ヘハ既ニ
去ル三月頃ヨリ支那側ニ之ヲ懲慝シ来レル次第ニシテ今
後亦努力ヲ繼續スヘキハ勿論ナリ尤モ右ニ當リテハ各国
カ合同シテ支那側ニ圧迫ヲ加フルハ却テ支那側ノ反感ヲ
買ヒ事ヲ成就セシムル所以ニ非ス故ニ個々別々ニ非公式
ニ同一目的ノ為努力スルヲ要ス

二、右ノ如ク主義上ハ海關制度ノ保全ニ付日本ト同感ナル
カ只其方法ニ於テハ問題カ複雑ナル為種々考慮ノ要アリ

双方好都合ナリト思考ス(本官ハ自分ノ得居ル報告ニ依
レハ大連海關ノ收入ト大連ヲ含ム満州国ノ外債担保部分
ノ開キハ前記ノ数字ヨリモ余程大ナルノミナラス近時ノ
狀況ニ照シ大連以外ノ海關ノ收入ハ非常ニ減少シ大連ハ
之ニ反シ大ニ増加シ居ル關係モアリ從テ本年ハ其ノ開キ
益々大トナル傾アリ何レニスルモ満州国ハ今回他ノ稅關
ト同様大連關ノ關稅モ是非入手スルコトヲ企画シ居リ右
カ謂ハハ今次ノ困難ナル問題ヲ惹起セル所以ニシテ若シ
貴案ノ如クナラハ或ハ今日ノ如キ面倒發生セサリシナル
ヘシ自分個人ノ考ニテハ本案ニハ満州国ハ到底承服セサ
ルヘシト述フ)

四、貴見ノ如ク大連海關ノ收入ト外債担保部分ノ開キカ非
常ニ大ナラハ右ニ付テハ全然自分個人差当リノ意見ニシ
テ「メイズ」等カ之ニ賛成スルヤ不明ナルカ其ノ開キノ
部分ニ付テ何等カ適當ノ弁法ヲ講シテハ如何、例ヘハ其
ノ開キヲ滿支双方ニ折半スルトカ若シ満州国カ之ニ同意
セサルナラハ其ノ開キノ部分ヲ「サスペンス、アッカウ
ント」トシテ滿支銀行以外ノ外国銀行ニ積立テ之ヲ担保
トシテ必要ニ応シ日本側ヨリ満州国ニ融通スルトカ更ニ

進シテ其ノ開キノ部分ハ若シ大連海関収入カ満州ノ外債負担部分ニ不足ノ時ハ不足額ヲ満州国ヨリ支那側ニ支払ヒ若シ多キ時ハ満州国カ取ルト云フカ如キコトニシテ何等カ妥協ヲ講スルコトニ対シ考慮ノ余地アルヤニモ思ハル苟クモ満支其ノ他関係諸国ニ於テ大局ニ顧ミ海関制度維持ニ付誠意ヲ以テ努力スルニ於テハ何等カ妥協ノ方法ヲ見付ケ得ヘク之ニ依リ満州国モ外国側ヨリノ非難カ少クナリ日本側モ大連協定ニ支障ヲ及ホサス又付属地内ニ満州側ノ税関ヲ作ルカ如キ面倒ナル問題モ起ラス結構ナルコトト思考セラル

五、要スルニ本件ニ付テハ満州側モ支那側モ自分ノ見ル所ニ依レハ間違ヲ為シ居レルカ是等ノ間違ノ為税関制度維持ノ大本ヲ破壊セサルコト絶対ニ必要ナリ從テ此ノ際滿州政府ニ於テモ特ニ自制シ早急極端ナル措置ニ出テラレサルコトヲ切望ス本件ニ付我々カ支那ニ対シテ為スト同様ニ日本モ満州側ニ対シ自制方極力勸説ヲ試ミラルル様致度シ

支、奉天、長春、関東長官へ転電セリ

満州国^三外交部ハ本二十七日大連関接收ニ付左記訳文ノ通書明書ヲ發表セリ

記

満州国ハ建国ト共ニ其領域内ニ在ル各海関ヲ接收シ大連関ニ付テモ少ク共其税収ハ満州国人民ノ負担スルモノナルニ鑑ミ之ヲ取得スル權利アルニ拘ラス其独立宣言及対外通牒ノ趣旨ヲ尊重シテ支那海関制度ノ保全並ニ外債担保部分ノ負担ヲ原則トシタル提案ヲ為シ隱忍自重数ヶ月凡ニ爾手段ヲ以テ支那政府ノ受諾ヲ慫慂シタルニ拘ラス南京政府ハ全滿海関収入ノ大半ヲ占ムル大連関ノ外其他海関収入ノ三分ノ一ヲ要求シテ満州国ヨリ事実上海関収入ノ利益ヲ奪ヒ我財政ノ基礎ヲ薄弱ナラシメントスルト同時ニ右余剩所得ヲ我國ノ治安紊亂ノ為悪用シ来リ当国力最近遂ニ大連ニ於ケル⁽²⁾税収ノ⁽⁴⁾覇握ニ手ヲ着ケントシタルハ右ノ如キ言語道斷ナル事態ノ継続ヲ防キ彼等ヲシテ我方当初ノ提議ニ応諾セシメ海関制度保全ノ目的ヲ達成セントシタルニ外ナラス然ルニ彼等ハ事件以来支那ト満州国トノ間ニ挾レ困難ナル地位ニ立チツツ海関制度保全ノ為全力ヲ尽シ来レル福本税関長ヲ懲戒免職シ南京政府自ラ海関制度保全ニ対シ挑戦ス

245 昭和7年6月27日 在長春田中領事代理より 齋藤外務大臣宛(電報)

満州国承認促進に関する阪谷の意見について

長春 6月27日後発
本省 6月27日後着

第三六四号(暗)

二十七日阪谷^(一)ハ本官ニ対シ速ニ満州国ヲ承認シ独立国トシテノ待遇ヲ与ヘラルレハ外交ノ如キハ当地ノ日本側外交機関ヲ通シ正式ノ「チャンネル」ヲ經テ日滿外交ノ整調ヲ計リ得ヘク斯クナレハ軍部モ外交方面ニハ手ヲ引クト称シ居レリ然ルニ今ニ承認ヲ躊躇シ一方満州国ノ外交ヲ「チエツク」スルカ如キハ甚タ面白カラスト内話セリ御参考迄
支、北平、奉天へ転電セリ

246 昭和7年6月27日 在長春田中領事代理より 齋藤外務大臣宛(電報)

大連海関接收に関する満州国外交部声明についで

長春 6月27日後発
本省 6月27日後着

第三六六号

ルノ暴逆ヲ致セリ併モ南京政府ハ当然我方ニ帰属スヘキ税収ヲ取得セントスル我方努力ヲ以テ海関制度ノ破壊ナリト云ヒ居ル処南京政府ハ一九二八年北伐当時恣ニ「メーヅ」ヲ総稅務司ニ任命シ北京政府ノ正当ニ任命セル「エドワード」ノ辞任ヲ余儀ナクセシメ海関制度ノ統一ヲ破壊シ爾来完全ニ總稅務司始メ外国人海関官吏ヲ自由ニ驅使スルニ至リ海関制度ハ早晚崩壊スルノ運命ヲ免レストノ觀測ヲ抱カシムルニ至レリ然ルニ南京政府カ当然我方ニ帰属スヘキ税収ヲ取得セントスル我方ノ努力ヲ以テ海関制度ノ破壊ナリトシ海関制度保全ニ努メツツアリシ福本稅務司ヲ突然罷免スル如キハ全ク狂氣ノ沙汰ト云フ外ナシ依ツテ已ムナク茲ニ奥地各海関ノ接收ヲ断行スルト共ニ大連ニ於テ徵稅事務ヲ開始シ若シ右不可能ナル時ハ瓦房店ニ於テ我國ノ当然ノ權利タル關稅徵收ノ權利ヲ行使スルノ外ナク而シテ右ハ全ク南京政府ノ責任ナル事ヲ声明セント欲ス尚今後我方ノ實際的措置如何ニ拘ラス外債担保部分ヲ負担スヘキ事並ニ外国ノ海関ニ対シ有スル權益ハ飽ク迄擁護スヘキ当初ノ方針ニハ何等變更ナキ事ヲ併セテ声明ス
北平、奉天ニ転電シ哈爾賓、間島、營口ニ転報ス

247

昭和7年6月27日

山岡閣東長官より
齋藤外務大臣宛（電報）

安東税関長の去就について

第五〇号（暗）

星ヶ浦 6月27日前発
本省 6月27日後着

本官発安東宛電報

第六号

貴電第九四号ニ関シ

大橋ヨリ

付属地段々ノ御配慮ヲ深謝ス

貴地税関長カ飽ク迄満州国ノ接收ニ服セサレハ断乎トシテ
驅逐ス可キモ然ラスシテ南京政府ト絶縁シ満州国官吏トナ
ル決意ヲ抱クニ至レハ満州国ハ喜ンテ之レヲ迎ヘ現在ノ地
位ニ就カシム可シ同人ハ邦人海関関係者ノ間ニ不評判ナル
模様ナルモ此際ハ公平ナル態度ヲ以テ此レニ対スル心組ナ
ルニ付右御含ノ上関係者ヲ誘導致度シ

支、長春、哈爾賓、營口、安東、間島、北平ニ転電セリ

248

昭和7年6月27日

齋藤外務大臣より
在仏国長岡大使、在上海重光公使他
宛（電報）

満州国承認の延期を仏国大使勧告について

合第一四二〇号（暗）

往電合第一四一〇号ニ関シ

二十七日仏国大使有田次官来訪ノ際満州国承認問題ニ就テ
出来得ル限り延引スルコトノ得策ナルヲ述ヘ居リタルニ付
次官ハ日本政府モ其辺ノ事態ヲ了解シ速ナル承認ト云フモ
必シモ世間ノ想像スルカ如ク今直クト云フカ如キコトヲ考
ヘ居ル次第ニ非スト答ヘ置キタル趣ナリ

本電宛先、仏、米、支、北平、奉天、長春

仏ヨリ土ヲ除ク在欧各大使及寿府ヘ転電アリタシ

支ヨリ南京ニ転報アリタシ

249

昭和7年6月27日

齋藤外務大臣より
在英國齋藤臨時代理大使、在米国出
淵大使宛（電報）

満州海関問題解決策に関する有田次官と英国

大使との会談について

合第一四二八号 暗、至急

事項2 満州国の成立と日本の承認

二十七日在本邦英国大使有田次官ヲ来訪シ満州海関問題ニ
就テハ英国側ニ於テモ過般来「セミ、オフィシヤリ」ニ
南京側ニ対シ満州国側ト円満妥協方ニ就キ「プレシユア
ー」ヲ加ヘ来リ宋子文ハ大連以外ノ満州海関ノ関税収入ヲ
全部満州国側ニ与フル事トシテ妥協スルニ異存ナシトノ意
向ナリシ処今次南京政府カ突如福本海関長ヲ罷免シタルハ
不幸ナル出来事ナリト述ヘ此際何等カ対策ナキヤト質問シ
タリ依テ次官ヨリ福本カ上海ヘノ送金ヲ拒絶シタルハ海関
制度ノ保全ノ為之ヲ以テ最良ノ方法ト信シタルニ依ルモノ
ニシテ先年「アグレン」カ支那政府ノ命令ニ服セサリシト
同一ノ理由ニ基クモノナル事ヲ説明ノ後本件解決ノ為ニハ
差当リ事ノ成否ハ別トシ「ステイタス、クウォー、アン
テ」ヲ回復スル趣旨ニテ南京側カ福本ノ罷免ヲ取消スニ於
テハ同人ニ同情シテ辞表ヲ提出セル他ノ邦人職員モ自然辞
表ヲ撤回スルコトナルヘクカクシテ現状ヲ回復シタル後
満支双方間ノ話合ヲ進行セシムル事然ルヘシ尤モ宋子文ノ
意向ノ如ク大連以外ノ満州海関ノ税収ヲ満州国ニ与フルノ
ミニテハ同国トシテ満足セサルヘント述ヘタルニ同大使ハ
御話ノ次第ハ尤モナリ此儘在再時ヲ移スニ於テハ満州ニ於

250

昭和7年6月28日

在上海守屋書記官より
齋藤外務大臣宛（電報）福本大連海関長罷免問題に関する堀内臨時代
理公使とメーズ総税務司の会談について

第一〇二二号（暗、至急極秘）

貴電第三八〇号ニ関シ

上海 6月28日後発
本省 6月28日後着

一、廿八日堀内「メーズ」ヲ訪ヒ海関問題妥結方ニ関スル
「メ」ノ先日ノ意見ハ詳細政府ニ報告シ居リ政府ニ於テ
ハ折角引続キ妥結方斡旋シ来リ其ノ間関係国ニ於テモ我
方ノ申出ニ応シ本件成功ノ為斡旋シ居リ又政府トシテハ

満州国側ニ対シ自制ヲ懲慚シ居タル矢先突然福本ノ罷免問題發生シ之カ為問題紛糾シテ妥結ノ成立頗ル困難ナル事態ニ立至レリ政府トシテハ本件福本ノ罷免問題ハ支那政府ノ明カナル条約違反ニシテ（貴電第三八二号ノ点ヲ説明ス）日本国民満州側ヲ激昂セシメ居ル現状ニ鑑ミ妥結ヲ成立セシムルカ為ニハ福本ノ罷免命令ヲ取消シ又ハ訂正（cancel or modify）スル事必要ナリトノ見地ニ基キ当方ニ対シ貴下ニ於テ右ニ必要ナル処置ヲ執ラレ且妥結促進ニ此ノ上共努力セラレン事ヲ申入ルヘシト訓令シ来レリ尚只今政府ヨリ接到セル電報ニ依レハ廿七日英国大使外務次官ニ対シ民国側ト接觸ノ結果本件妥結ノ可能性有ル事ヲ内話セラレタル趣ナルカ右電報ニ依リテ得タル自分ノ印象ニ依レハ同大使ニ於テモ此際福本問題ノ發生セル事ハ妥協成立上不幸ナル出来事ナリト思考シ居ラルルヤニ認メラルル旨ヲ付言シテ「メ」ノ尽力ヲ請ヒタリ

二、右ニ関シ「メ」ハ妥協ノ促進ニ対シテハ充分努力スヘキ意向ナルモ福本ノ罷免カ何等条約違反ニ非サルコトハ自分ノ「ステートメント」（往電第一〇一三号）ノ通ニ

ニ付福本ヨリ報告アリタリト仮定スルモ日本政府トシテハ国民政府カ真面目ニ福本ノ罷免ヲ猛省セルヤ否ヤハ条約ニ基キ事前ノ正式ナル通告ナクシテ之ヲ確認スル途ナク從テ此ノ通告無キ以前ニ於テ事態緩和ノ処置ヲ執リ得サル立場ニ在リタル矢先福本突然罷免セラレ茲ニ日本政府ノ予期セサル困難發生シ之カ為政府ハ前記ノ如キ窮地ニ置カレタル次第ナレハ日本側ヲシテ右窮地ヨリ脱シ妥協ヲ促進セシムル為ニハ本件調整カ前提条件ナリト説明シタル処「メ」ハ右説明ハ良ク了解シ得タル（that's intelligent）ヲ以テ御申出ニ付考慮シ見ルヘシト述ヘタリ

三、次テ「メ」ヨリ本件ニ付テハ国民政府ノ条約解釈ハ前述ノ通りニシテ福本ノ命令違反ハ極メテ明瞭ナレハ国民政府トシテハ罷免命令ノ取消絶対ニ不可能ナリト思ハルルカ貴方ノ標榜セラルル命令ノ訂正トハ如何ナル事ナルヤト尋ネタルニ付堀内ヨリ右ニ付テハ訓令ニ明示セラレサルモ自分個人ノ差当リノ思付キトシテハ例ヘハ福本ニ釈明セシメ譴責其ノ他ノ方法ヲ取リタル上之ヲ原地位ニ復スル事又ハ福本ヲ他ノ港ノ税関長ニ任命スルカ如ク又

シテ国民政府ハ此解釈ヲ変更スルコトヲ得ス從ツテ自分ハ福本ノ罷免ヲ取消シ又ハ訂正方ヲ建議スルコト頗ル困難ナレハ何等カ右以外ノ方法ヲ考慮シ得サルヤト述ヘ堀内ヨリ我方ノ条約論ヲ繰返シ先方ノ考慮ヲ求メタルモ納得セシムルコト能ハス又堀内ヨリ是ハ全然自分ノ考ナルカト前提シ日本政府ハ前述ノ如キ条約ノ解釈上福本ノ罷免ハ事前ニ通告セラル可キモノト了解シ居タルモノナルカ若シ今回ノ罷免カ日本ノ了解スルカ如ク事前ニ日本側ニ通知サレタリトセハ日本政府ニ於テハ現在ノ如キ大連税関ノ紛糾ヲ防止スルニ必要ナル処置ヲ採リ得タルモノト思ハル、即チ日本政府ハ民国側ノ故意又ハ過失ニ依リ本件紛糾ヲ防止スル処置ヲ執ル機会ヲ与ヘラレス之カ為ニ其熱心ニ努力スル妥協促進カ困難トナレルモノナリ即政府トシテハ輿論ノ手前先ツ罷免問題ニ付適當ノ調整ヲ講セサル限り事態匡正ノ途無キ困難ナル立場ニ置カレ居ル事情ニ付貴下ノ深甚ナル考慮ヲ求ムル次第ナリト述ヘタルニ「メ」ハ福本ノ罷免ハ三日前同人ニ予告シ居リ日本側ハ同人ヨリ之ヲ承知シ居タルヘク之ニ基キ必要ナル処置ヲ執リ得タル筈ナリト言ヘルニ付堀内ヨリ本件予告

「アグレン」ノ場合モ考ヘ得ヘシト述ヘタル処「メ」ハ自分ハ例ヘハ「アグレン」ノ罷免ノ場合ニ準シ（一年間「フルペー」ニテ賜暇ヲ与ヘ一年ノ終リニ海關吏員ノ名簿ヨリ除名スル事）罷免命令ノ訂正方ヲ国民政府ニ「リポート」スル用意アリ尤モ右ハ（イ）日本側ノ条約論ヲ容認シ得サル事及（ロ）本件訂正カ妥協促進ノ為ニ必要ナル事ヲ条件トスルモノナリト付言セルニ付堀内ヨリ貴見ニ対シテハ本国政府ニ請訓ノ上何分ノ回答ヲ為スヘキカ妥協促進方ニ付テハ此ノ上共尽力ヲ御願スル次第ナリト述ヘタルニ「メ」ハ本日貴官ノ訪問セラレタル事及貴国政府ニ於テ本件妥協カ尚可能ト思考セラルルトノ御話ハ自分ニ於テ至極満足トスル処ナリト述ヘ尚本件申入レハ宋子文張福運ニ報告シ差支ナキヤ及本日ノ会見ハ全然個人ノ資格ニ於テ為シタルモノニシテ会見ノ事実及内容ハ一切外部ニ発表セサル事ト致シ度シト念ヲ押シ居リ堀内ハ右何レモ同感ナリト答ヘリ

連盟ヨリ英土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリ度シ北平、奉天、長春、間島、南京、安東、哈爾賓、牛莊、関東長官、英米連盟ヘ転電セリ

上海へ転報セリ

251 昭和7年6月28日

在間島岡田総領事より
齋藤外務大臣宛(電報)

竜井村海関接収に関する交渉状況について

間島 6月28日後発
本省 6月29日前着

第三九六号(暗、至急)

往電第三九二号ニ関シ

廿七日夜財政部ヨリ宮本顧問宛右往電ハ当地以外ノ各地ニ電報セシモノヲ転電シタル次第ニ付当地ニハ直接関係ナキモノナル旨並当地ニ関スル限り予テ打合セ置キタル通り措置スヘキ旨電報アリ右ニ対シ宮本ヨリ此ノ際当地ニ於テモ実力接収可然旨電報シタル趣ナルカ廿八日財政部ヨリ已ムヲ得サル場合実力接収勿論可ナル旨回訓アリタリト一方廿八日啓彬等本官ヲ来訪シ税関トノ交渉ノ際多数ノ武装巡警ヲ帯同スルコトノ可否其他ニ付協議アリ本官ハ成ルヘク帯同セス穩便ニ事ヲ運フ事然ルヘキ旨回答シ啓ハ之ヲ了承シ海関長ト交渉後再ヒ本官ヲ来訪海関長ハIGヨリ脅迫的行為ニ対スル抗議ハ別ニ之ヲナスコトトシ已ムヲ得サ

三、鮮銀ノ預金中経費以外ハ全部廿九日官銀号ニ振替ヘ右

経費ハ税関長名義ヲ以テ鮮銀ニ預入スルコト

ニ一応協定シ啓ハ宮本ヲシテ財政部ニ請訓セシメタルカ多分本月三十日頃ヨリ実行ノコトトナルヘント

冒頭往電ノ通転電セリ

252 昭和7年6月28日

※在ハルビン長岡総領事代理より
齋藤外務大臣宛(電報)

満州里税関接収に関連する紛擾について

ハルビン 6月28日後発
本省 6月29日後着

第六五六号(暗)

満州里発本官宛電報

第三一号

本官発大臣宛電報

第五六号

往電第五五号ニ関シ

本二十八日朝当地税関長「スジョス」及外班主任「ブルンベルグ」ハ異常ニ興奮ノ面持ニテ本官ヲ来訪シ本朝九時前

ル場合ハ可然善処スヘキ旨回訓ニ接シタリトテ税収ヲ引渡スヘキ態度ヲ示シタルモ引渡ノ方法トシテ永衡官銀号ヨリ税関及分所所在地ニ対シ合計四三名ヲ派遣シ税金ヲ徴収セシムルコトヲ主張シ(当地官銀号ハ從來天図鉄道ノ金ヲ取扱フノミニテ行員数名ナルコトヲ海関長ハ承知シ居レリ)財政部ノ任命セル会計監督ヲ税関ニ置クコトニ反对シ一ニ解決ヲ遷延セントスルモノノ如ク此ノ上ハ実力ヲ以テ接収スルヨリ外致方ナカルヘント申出タルニ付本官ハ

メルコト

二、会計監督ノ派遣ハIGニ請訓セシメ其回答ニ接スル迄之ヲ猶予スルコト

三、鮮銀預金ハ直ニ官銀号ニ振替ヘルコト

位ノ条件ニテ再ヒ税関ニ交渉シ今後ノ措置振ニ付テハ財政部ニ請訓スルコトトサレテハ如何ト語リ本官ノ(意見)ハ外部ニハ極秘トセラレタシト念ヲ押シ置キタルニ啓ハ之ヲ了承シ再ヒ交渉ノ結果

一、官銀号ヨリ海関ニ二名ヲ派遣シ税収ヲ受領スルコト

二、会計監督ヲ税関ニ置クコトハIGノ回訓ヲ俟ツコト

小原大尉ハ突如同税関ヲ訪問シテ自分等(「ス」及「ブ」)ニ対シ極メテ憤慨ノ態度ヲ示シ乍ラ税関吏僉ヲ連レ出シ且本夜九時改メテ来訪スヘント云ヒ残シ退去セルカ右ハ税関吏一般ヲ動揺セシムルノミナラス自分等モ生命ノ危険ヲ感スル次第ナリトテ之カ保護ヲ求ムルト共ニ其ノ真意如何ヲ質シタルニ付本官ハ右ハ初耳ナリトテ取調ノ上回答ヲ約シテ別レタリ其ノ後本官ハ直ニ小原大尉ヲ往訪シテ本件成行ヲ質シタルニ僉ハ今次哈爾賓税関長ニ任命セラレタルヲ以テ至急僉ヲ出哈セシムル必要上同人ヲ督促シテ本朝当地ヲ出発セシメタル次第ナリトノ事ニ付同大尉トモ打合ヲ遂ケ「ス」等ニ回答スヘキ手筈ナル処午後一時半「ス」等ハ再ヒ本官ヲ来訪シ小原大尉ノ脅迫的行為ニ対スル質問ヲ繰返シタルヲ以テ本官ハ小原ノ怒リタルハ僉トノ私談ヲ妨ケントシタルモノナル趣ニテ他意ナク又本夜九時云々ハ誤聞ニシテ同人ハ決シテ貴方ニ脅威ヲ加フルモノニアラス若シ實際其ノ様ナ場合起ラハ何トカ保護ノ方法ヲ採ル可キモ右様ノ事ハ万無キ筈ナルニ付安心アリ度シト述ヘタルニ彼等ハ引揚荷物ノ準備中ナリトカ又ハ大連經由ノ場合ニ於ケル旅券ノ査証等ニ付問ヒ質ス等既ニ全ク逃ケ腰トナリ居タリ

然ルニ本日午後三時頃小原大尉ハ哈爾濱海關監督ヨリ一昨二十六日満州国ハ各地海關ヲ接收シタルニ付貴地警察署長ハ直ニ貴地分關及財産書類其ノ他ヲ引継キ分關長以下館員ノ任免其他ニ付テモ小原大尉ト協議ノ上機宜ノ措置ヲ採ル可シトノ当地特別区警察署長宛委囑電報ヲ接到シタル趣ニテ同署長ト打合ノ上本日中午ニ当税関ノ接收ヲ断行スル予定ナリト云フ

哈爾濱ヨリ大臣、在支公使、北平、奉天、長春へ転電アリ度シ

253 昭和7年6月28日 在安東米沢領事より
齋藤外務大臣宛（電報）

安東海關の實力接收について

安東 6月28日後発
本省 6月29日前着

第一四〇号（暗）

往電第一三九号ニ関シ

海關監督及崎川顧問ハ二十七日午後海關本館ニ赴キ海關長ニ対シ去就ノ決意ヲ促シタルニ海關長ハ満州国ニ服務スルコト能ハサル旨答ヘタル為結局海關長ヲ排除スルコトナ

ハ全部新国家側ニ属スルコトニ決セルモ外人及支人職員ニアリテハI.Gヨリ引揚命令到来スルニ於テハ止マル者殆ト無カラントノ見込ナリト

支、北平、奉天、長春、安東、哈爾濱、間島、関東長官へ転電セリ

255 昭和7年6月28日 在長春田中領事代理より
齋藤外務大臣宛（電報）

中央銀行七月一日開業の予定について

長春 6月28日後発
本省 6月29日前着

第三六七号（暗）

往電第三〇九号ニ関シ

中央銀行ハ七月一日正式開業ノ予定ニシテ同時ニ奉天官銀号總号ハ奉天分行ニ辺業銀行ハ奉天業字總支行（奉天分行ニ所屬ス）ニ永衡官銀号ハ吉林分行ニ興信公司ハ黑竜分行ニ又各県分号ハ某県支行ニ改称セラルル管尚中央銀行紙幣ハ既ニ印刷セルモ流通ハ暫ク見合セ差当リ奉天ニ保管中ノ米國鈔票公司印刷ニ係ル紙幣ニ満州国ノ文字ヲ捺印シ之ヲ以テ各地ニ流通スル各種紙幣ヲ一定率ニ依リ換算回収シ以

リ鍵及重要書類ノ引渡ヲ要求シタルカ種々議論ヲ生シテ同日中ニ埒明カス本二十八日ニ持テ越シ午前十時ヨリ實力ヲ用ヒタル形ニ於テ書類ノ引継ヲ始メタルカ十一時ヲ以テ事實上ノ接收完了シタルモノトシテ海關ニ満州国旗ヲ掲揚セリ

前電通転電セリ

254 昭和7年6月28日 在牛莊荒川領事より
齋藤外務大臣宛（電報）

營口海關接收の状況について

營口 6月28日後発
本省 6月28日後着

第七五号（暗）

海關監督ハ財政總長ノ命ニ依リ昨廿七日午後三時税務司ニ対シ海關引渡ヲ要求シ事無ク接收ヲ了シ得ハ羅幫弁ヲ海關長代理ニ任命スル趣ナリ尚職員ニ対シテハ満州国ニ忠誠ヲ誓フ者ニハ現在ノ身分待遇ヲ保障スル旨告ケ至急其ノ去就ヲ決スル様申渡スト同時ニ関務ハ一日モ停止スル能ハサルヲ以テ去就如何ニ拘ラス何等カ指示スル迄従来通り執務スヘキヲ命シ本日ハ平常ノ如ク執務シ居ル趣ナリ日本人職員

テ幣制ノ統一ヲ計ル方針ナリトノコトナリ

支、北平、奉天、吉林、哈爾濱、齊々哈爾へ転電セリ

256 昭和7年6月28日 在長春田中領事代理より
齋藤外務大臣宛（電報）

大連海關接收に関する満州国首脳部の見解について

長春 6月28日後発
本省 6月29日前着

第三六八号（暗）

関東長官宛電第二八号ニ関シ

御電訓ノ主旨ヲ謝介石及駒井ニ伝ヘタル処（大橋、源田ハ今ニ帰任セス阪谷ハ奉天ニ出張中）本件ニ付テハ過般内田總裁トモ隔意無キ意見ヲ交換シ同總裁ニ於テモ今ト為リテハ積極的ニ進ムコト万已ムヲ得サル次第ヲ諒承シ一方問題ハ支那側ノ挑戦ニ依リ斯ク迄発展シ大連市民モ激昂シテ騒立テ居ル事情モアリ又各地ノ海關ハ強制接收ノ手筈ヲ着々進メ居リ海關吏員モ従来ノ待遇ヲ継承スル条件ニテ身分ヲ保障スレハ大部分居残ヲ希望スル実情ナルニ付今更氣勢ヲ挫ク訳ニハ行カス尤モ自分等トシテハ日本政府ノ立場ハ了

解シ居ルニ付慎重措置ヲ講シテ善処スル考ナリ尚外国側ノ誤解ヲ防ク為大連正金ニ保管シアル大連関収入ハ其儘動かサス外償還ニ引当ツル方針ナル旨ヲ声明スルコト致スヘシト答ヘタリ

支、北平、奉天、南京、牛莊、安東、間島、哈爾濱、関東長官へ転電セリ

257 昭和7年6月28日 在本邦リンドレー 英国大使 会議要領 有田外務次官

中国海関の統一維持に関する英大使の注意喚起について

六月二十八日（午前十一時）英国大使サー、リンドレー来訪会談要領

英国大使

本朝英国政府ヨリ電報ニ接シタリトテ別紙電報ヲ読上ケタル上右電報中ニ所謂大連ニ於ケル状況ノ報告ナルモノハ上海英国総領事ヨリ二十六日付ヲ以テ英国政府ニ報告シタル電報ヲ意味シ右報告ハ大連ノ関税収入ヲ上海ニ送付スルコトハ関東庁外事課ノインスチゲーションニ依テ阻止セラレタルモノナリ云々ト云フモノナリト説明シタ

Washington, Paris, Rome.

Shanghai telegram No. 169 to Peking.

Pleass express to Japanese Government surprise and concern with which I have heard this report of position at Dairen and enquire as to its truth and explain action taken if report is correct.

You should express earnest hope of H.M.G. that Japanese Government will not countenance any action at variance with their Treaty obligations; such action cannot fail to complicate serious situation already very difficult.

You might point out that step reported (is) threats to integrity of Customs service which Japanese Ministry for Foreign Affairs has declared to you that he favoured (see your telegram No. 187) and which is admittedly an important British interest; it is also threat to security of loans and apart from the Treaty obligations an added complication in problem we are all trying to solve.
Tokyo repeat to Peking.

リ
依テ次官ハ当時ノ事情ヲ一応説明シ置タルカ
同大使ハ更ニ

此際ハ大連以外ノ関税剰余ハ全部満州国ニ使用シ大連ノ分ハ全部之ヲ上海ニ送ルト云フ案ニテ解決スルヨリ外ナシト唱ヘ又此次満州国政府ノ執リツツアル処置ハ未タ曾テ先例無キ所ニシテ結局関税組織ノ妨碍ヲ来スモノナリトテ閣錫山ノ場合ニ於テモ今回ノ如キ程度ニハ達シ居ラサリキ云々ト述ヘタルニ付

次官

閣錫山ノ場合ハ地方政權ニ過サリシカ満州国ノ場合ハ各国ハ之ヲ承認シ居ラサルモ兎ニ角独立ヲ声明シ居ル關係上閣錫山ノ場合ト同一ナラサル次第ナリ

ト応酬シタルニ英国大使モ此ノ点ハ同意シ居リタリ

(別紙)

London 27 June 7. 25 p.m.

No. 102 28 June 9. 00 a.m.

R.

Addressed to Tokyo Telegram No. 102. Repeated to

258 昭和7年6月28日 齋藤外務大臣より
在英日大使宛(電報) 在米日大使宛

福本大連海関長罷免に関する日国大使の有田

次官への内話について

合第一四二六号、暗、至急

二十七日日国大使有田次官ヲ来訪シ

満州海関問題ニ関シテハ英国代表者ノ非公式仲介ニ依リ南京政府側ニ於テモ満州国側トノ妥協方ニ異存無ク妥協案モ略々出来上リ居タル実状ナルニモ拘ラス今回政府ニ於テ突如福本大連海関長ノ罷免ヲ断行セルハ甚タ諒解ニ苦シム処ナルカ南京政府側ノ真意ハ此際故意ニ事態ヲ紛糾セシメ之ヲ口実トシテ寿府九国条約関係国政府ニ対シ同条約ニ基ク會議開催方ヲ申出テントスル魂胆カトモ想像セラルト内話シタリ右ハ満州事変以来屢次ノ支那側ノ遣口ニ鑑ミ有リ得ヘキコトトモ存セラルルニ付テハ右ノ次第御舍ノ上屢次ノ往電ヲ基礎トシ本件海関問題経緯責任国政府ヘ充分説明方御配慮アリ度シ
英ヨリ土ヲ除ク在欧各大使及連盟ニ転電アリタシ

支、南京、北平、奉天、長春、安東、牛莊、間島、哈爾濱、関東庁ニ転電セリ

259

昭和7年6月28日

齋藤外務大臣より
在英國齋藤臨時代理大使、在米国出
淵大使宛(電報)

大連海関問題に関する有田次官と英國大使との会談について

合第一四四一号(暗)

二十八日在本邦英國大使有田次官ヲ来訪シ英國政府ハ今次大連海関問題ニ関スル報告ニ接シ驚愕ト関心トヲ有スルモノニシテ同政府ハ日本政府カ条約上ノ義務ニ違反スルカ如キ如何ナル行動ヲモ許容セサラムコトヲ熱望スルモノナルニ付右ノ次第ヲ日本政府ニ表明スルト共ニ前記報告ニ記載シアル日本側ノ措置ハ海関制度及外債担保ノ保全ニ対スル脅威ナル事及条約上ノ義務違反ノ問題ハ暫ク措クモ現ニ英國側ニ於テ解決方努力シツツアル問題ヲ更ニ紛糾セシムルモノナルコトヲ指摘スヘシトノ同大使宛本國政府ノ訓令ヲ読ミ上ケタル上右訓令ニ所謂大連海関問題ニ関スル報告トハ大連ノ関稅收入ヲ上海ニ送付スルコトハ関東庁外事課長

英ヨリ土ヲ除ク在歐各大使ニ転電アリ度シ

支、南京、北平、奉天、長春、安東、牛莊、哈爾濱、間島、関東庁ニ転電セリ

(編注) 本電報はジュネーヴにも發電された。

260

昭和7年6月29日

在間島岡田総領事より
齋藤外務大臣宛(電報)

竜井村海関の接收完了について

間島 6月29日後発
本省 6月29日後着

第四〇〇号(暗)

往電第三九六号ニ関シ

二十九日早朝財政部ヨリ実力接收即時断行方ノ電訓ニ接シ啓海関監督ハ午前九時半公安隊五名ヲ帶同シ海関長ヲ往訪シ接收ノ旨ヲ申入レタル処無条件ニテ之ニ応スヘシトテ重要書類其他一切ヲ引渡スヘキニ付此ノ上ノ手段ニ出テサル様懇請スル所アリ啓ハ直ニ宮本ヲ招致シ海関長ニ紹介シタル後滿州国旗ヲ「マスト」ニ掲揚シ茲ニ接收ヲ完了セリ「ワラス」稅務司ハ殘務整理完了次第速ニ当地ヲ引揚クヘキ旨ヲ答ヘタル趣ナルカ宮本ハ直ニ午後二時一切ノ事務ヲ

ノ「インスチゲイション」ニ依リ阻止セラレタリトノ英國政府宛上海英國総領事電報ヲ意味スルモノナリト説明シタリ仍テ次官ハ関東庁河相外事課長ハ福本ノ質問ニ応シ同人一個ノ意見ヲ表明シタルモノナルカ河相ハ福本ト同様海関制度保全ノ實際的見地ヨリ意見ヲ述ヘタルモノニシテ右河相ノ意見ハ此際直チニ大連関ノ收入ヲ上海ニ送金スル事ハ滿州国ヲ刺戟シテ大連經由貨物ニ対シ更ニ滿州内地ニ於テ二重課稅ヲ行フヘキノミナラス大連以外ノ滿州各地ノ海関ノ接收ヲ断行スル等ノ非常手段ニ出テシメ其ノ結果関東州ニ於ケル日本ノ權益ニ重大ナル打撃ヲ与フルト共ニ海関制度ノ保全ヲ害スル虞アリ等ノ考慮ニ基クモノト思考スル旨答ヘタルニ同大使ハ今次滿州国ノ執リツツアル措置ハ未タ嘗テ先例ナキ所ニシテ結局海関制度ノ破壊ヲ招来スルモノナリトテ閻錫山ノ天津海関接收ノ際ニモ今回ノ如キ程度ニハ達シ居ラサリキ云々ト述ヘタルニ付次官ヨリ閻錫山ノ場合ハ地方政權ニ過キサリシカ滿州国ノ場合ハ各國ニ於テ之ヲ承認シ居ラサルモ兎ニ角獨立ヲ声明シ居ル關係上閻ノ場合ト同一視スルコトヲ得スト応酬シタルニ此ノ点ニ就テハ同大使モ同意シ居リタル趣ナリ

引繼キ海関員ノ去就ヲ確ムルコトナレルカ海関事務ハ夫迄從來通り続行スヘシト

冒頭往電ノ通転電セリ

261

昭和7年6月29日

齋藤外務大臣より
在英國齋藤臨時代理大使、在米国出
淵大使宛(電報)

大連以外の滿州海関接收状況について

合第一四四八号(暗)

大連以外ノ滿州主要海関ハ安東、牛莊、竜井村、哈爾濱及愛琿ナルカ今日迄ニ接受セル是等海関接收状況ニ関スル報道左ノ通

(一)安東

海関監督ハ二十七日海関長ニ対シ去就ノ決意ヲ促シタルニ海関長ハ滿州国ニ服務スルコト能ハサル旨答ヘタル為二十八日実力ヲ用ヒタル形ニ於テ書類引繼ヲ始メ事実上ノ接收完了シ同日海関ニ滿州国旗ヲ掲揚セリ

(二)牛莊

海関監督ハ二十七日稅務司ニ対シ海関引渡シヲ要求シ尚職員ニ対シテハ滿州国ニ忠誠ヲ誓フ者ニハ現在ノ身分待

遇ヲ保障スル旨告ケ至急其ノ去就ヲ決スル様申渡シタル
カ二十八日ハ平常ノ如ク執務シ居ル趣ナリ日本人職員ハ
全部新国家側ニ属スルコトニ決セルモ外人及支人職員ニ
アリテハIGヨリ引揚命令到来スルニ於テハ止マル者殆
ト無カラントノ見込ナリト

(三) 竜井村

二十八日海関監督ヨリ接收方海関長ト交渉セル処海関長
ハIGヨリ脅迫的行爲ニ対スル抗議ハ別ニ之ヲナスコト
トシ已ムヲ得サル場合ハ可然善処スヘキ旨回訓ニ接シタ
リトテ税収ヲ引渡スヘキ態度ヲ示シタルモ引渡ノ方法ニ
付意見ノ相違アリシカ結局弁法ヲ協定シ海関監督ヨリ長
春財政部ニ請訓セリ多分本月三十日頃ヨリ右弁法実行ノ
コトトナルヘント

英ヨリ土ヲ除ク在欧各大使及連盟ヘ転電アリタシ

262

昭和7年6月29日

齋藤外務大臣より
在英國齋藤臨時代理大使、在米國出
淵大使他宛(電報)

中国海関の統一維持に関し米國大使注意喚起
について

the Chinese Maritime Customs at Dairen, and I am
instructed to inquire as to the truth of this report.

It is felt that such action would materially complicate
already existing problems of a most difficult nature
which my Government most earnestly desires to see
solved. The reported step would appear to be a violation
of the integrity of the Chinese Maritime Custom Service,
in which the American Government is admittedly in-
terested, as well as a threat to the security for certain
fiscal obligations of the Chinese Government.

I am therefore instructed to express the earnest hope
that the Japanese Government will not tolerate any
action which may interfere with the integrity of that
Service or which my run counter to treaty obligations.

263

昭和7年6月30日

※在ハルビン長岡総領事代理より
齋藤外務大臣宛(電報)

満州里海関接收に至る経緯について

ハルビン 6月30日後発
本省 6月30日後着

別電

同日齋藤外務大臣より在英國齋藤臨時代理大
使、在米國出淵大使他宛合第一四五〇号
米國大使申出の要領

合第一四四九号(暗)

二十九日在本邦米國大使有田次官ヲ来訪シ満州海関問題ニ
付別電合第一四五〇号ノ如キ「メモ」ヲ手交シタルヲ以テ
次官ヨリ往電合第一四二八号英國大使ニ対スルト同様ノ趣
旨ニテ応酬シタル処同大使ハ別段ノ論議ニ及ハスシテ引取
リタル趣ナリ

本電及別電宛先 英、米、支、北平、奉天、長春、哈爾
賓、安東、牛莊、間島

別電ト共ニ英ヨリ土ヲ除ク在欧各大使及寿府連盟ニ転電ア
リタシ

別電ト共ニ支ヨリ南京ニ転報アリタシ

別電ト共ニ奉天ヨリ旅順関東長官ニ転報アリタシ

(別電)

合第一四五〇号(暗)

My Government has heard with concern a report
that the present regime in Manchuria has taken over

第六五六号(暗)

満州里発本官宛電報

第三二二号

本官発大臣宛電報

第五七号

往電第五六号末段ニ関シ
(二五二文書)

当地特別区警察署長ハ昨二十八日午後四時半頃「ス」税関
長ヲ訪問シ小原大尉經由接到シタリトテ哈爾濱海関監督ノ
依囑電報ヲ提示シテ海関ノ接收ヲ申渡シタル処「ス」ハ右
ハ正式ノ命令書ニ非ストテ之カ真相質問ノ為同警察署長ト
共ニ小原大尉ヲ訪問シ之ヲ質シタル処同大尉ハ右電報ハ単
ニ取次キタル迄ナルカ成ルヘク無条件ニテ速急接收ニ応ス
ル方賢明ナルヘント付言セル趣ナリ其後「ス」ハ本官ヲ来
訪シ満州國ノ接收ニハ応スルモ税関吏全部留任セス支那本
部引揚ヲ希望セルニ付自分等(「ス」及「プ」)ノミ正式接
収委員ノ到着迄居残り関務ヲ処理シ度シトテ了解ヲ求メ来
レルニ付其旨小原ニ通知セリ然ルニ本朝八時「ス」ハ再ヒ
本官ヲ来訪シ昨夜九時半警察署長再ヒ当税関ニ来リ当税関
員全部ニ対シ当関ニ留任希望有無ヲ質シタル処一同ハ上海

海関ヲ希望スル旨ヲ署名シ次テ二十八日付ニテ金庫其他ニ封印ヲ施シ強制的ニ接收セラレタリトテ一応ノ関内検分方懇請セルニ依リ本官ハ今朝九時半「ス」ヲ往訪シ其事実ヲ確メタルカ其際モ「ス」ハ本官ニ対シ昨日小原大尉訪問ノ際一時甚タ粗暴ナル態度ヲ示サレタルハ了解ニ苦シム処ナルカ右ハ反動分子ノ嫌疑ニ非ラスヤト懸念シ居ル次第ナリトテ小原大尉ノ了解並ニ穩当ナル取計ヒ方再三懇請スルト共ニ既ニ金庫等ノ封印ヲ見タル以上関務ヲ執ル能ハスト述ヘ居タリ

斯クシテ当地海関ハ接收セラレ本朝ヨリ海関旗ノ掲揚モ見ス関務ハ一時停止ノ形トナリタリ

哈爾濱ヨリ大臣、公使、北平、奉天、長春へ転電アリタシ

264 昭和7年6月30日 齋藤外務大臣より
在米出淵大使、在長春田中領事代理他宛(電報)

満州海関問題に関する米國大使の会談内容について

合第一四四九号(暗)
往電合第一四四九号海関問題ニ付米國大使ト会談ノ際有田

第二四〇号 暗、至急
長岡代表へ

新聞電報ニ依レハ支那側ハ満州海関接收問題ヲ連盟ニ提起セムトスルヤノ趣ナル処本件ハ満州政權ノ成立ニ伴フ一ノ派生的問題ナルノミナラス(本件ハ一九三〇年閏錫山ノ天津海関接收及一九三一年広東政府ノ広東海関接收等ト等シク支那海関内部ノ問題ト云フヘク我方ハ純然タル第三者ノ立場ニアルモノナリ)累次ノ電報ニ依リ御承知ノ通り目下我方及英國側ニ於テ南京長春兩政府間ノ円満妥決方幹旋中ナルニモ顧ミ此ノ際連盟側カ前記支那側申出ヲ取上クルカ如キハ當ニ無意味ナルニ止ラス却テ事態ヲ荒ラケ期間延期ニ関スル連盟首脳部ノ折角ノ苦心ヲ水泡ニ帰セシムル虞アルニ付テハ万々一ニモ連盟側ヲシテ本件支那側申出ヲ取上ケシメサル様必要ニ応シ可然御措置アリ度右ハ御如才ナキコトト存スルモ念ノ為

米、支、北平、奉天ニ転電シ支ラシテ南京ニ奉天ヲシテ長春ニ転報セシム

土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アレ

次官ヨリ租借地外ノ出来事ニ就テハ日本政府ハ何等關係無ク唯租借地内ニ於ケル出来事ニ就テハ日本政府ニ於テ責任アル次第ナルモ夫レモ英國側トモ連絡ヲ執リ円満解決方幹旋シ居ル現状ニテ日本トシテハ未タ干涉シ得ル立場ニ非スト思考シ居ル旨ヲ告ケ又天津閏錫山ノ例ヲ引キ租借地ノ公安ヲ害セサル限リハ税関内ノ異動ノ如キニ対シテハ日本トシテ之ニ干涉シ得サルコトト信シ居ル旨述ヘ更ニ支那ノ問題ニ就テハ条約ノ文字ノ解釈以上ニ實際的ノ解決ニ重キヲ置カサルヘカラサル旨ヲ告ケ置タル趣ニテ尚冒頭往電「メモ」手交云々ハ誤リニテ米國大使ハ往電合第一四四〇号ノ趣旨ヲ口頭ニテ述ヘタルカ次官ノ希望ニ基キ該書類ヲ残シ行キタルモノニ付右補正旁申進ス

本電宛先 米、英、支、北平、奉天

英ヨリ土ヲ除ク在欧各大使及寿府連盟ニ転電アリタシ

支ヨリ南京ニ転報アリタシ

265 昭和7年6月30日 齋藤外務大臣より
※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長宛(電報)

連盟における満州海関接收問題取扱について

266 昭和7年7月1日 在長春田中領事代理より
齋藤外務大臣宛(電報)

満州中央銀行の開業式挙行について

長春 7月1日後発
本省 7月2日前着

第三七五号(暗)

満州中央銀行開業式ハ本一日同行構内ニ於テ挙行セラレ執政、國務總理以下日滿來賓列席シ執政ノ訓諭、國務總理ノ訓示、立法院長、財政、実業兩總長、國務長官其他來賓ノ祝辞アリ式後盛大ナル祝宴ヲ催シ本官モ招待ヲ受ケ列席セリ

支、奉天、哈爾濱、吉林へ転電シ齊々哈爾濱へ暗送セリ

267 昭和7年7月2日 齋藤外務大臣より
在米出淵大使、在英國沢田臨時代理大使宛(電報)

大連以外の満州海関接收状況について

本省 7月2日前1時発

合第一四七二号(暗)

大連以外ノ満州海関接收状況情報(二)

往電合第一四四八号ニ関シ

其後ノ情報左ノ通

一、哈爾賓

二十六日満州国ハ税関長「プレットジョン」ニ面会海関接収ヲ通告セル処税関長ハ之ヲ拒絶シタルヲ以テ満州国側ニ於テハ即時接収ノ手続ヲ了シ二十七日ハ税関閉鎖ノ状態ニ陥リタルモ支那人税関員約百六十名中約六十名ハ引続キ勤務方ヲ応諾セルニ付二十八日ヨリ満州国税関トシテ事務ヲ開始セリ近ク支那人税関長任命ノ答

一方「ブ」税関長ノ申出アリタル趣ニテ二十八日領事団会議開催セラレ滝川官補出席セルカ事情説明ノ為列席セル「ブ」ヨリ今回税関接収ニ関連シ満州国側警察ハ強迫行動ヲ為シ居ルニ付（事実相当圧迫ヲ加ヘタルモノノ如シ）領事団ニ於テ満州国ニ対シ何等カノ方法ヲ執ラレ度シト陳述シタルカ討論ノ結果便宜滝川ヨリ個人的ニ日本人警察顧問其ノ他満州国側ノ注意ヲ喚起スルコトニ決定セル趣ナリ

二、満州里（哈爾賓分関）

同地特別区警察署長ハ二十八日税関長ヲ訪問シ哈爾賓海関監督ノ依囑電報ヲ提示シテ海関ノ接収ヲ申渡シタル処税関長ハ満州国ノ接収ニハ応スルモ税関吏全部支那本部引揚ヲ

268

昭和7年7月4日

在長春田中領事代理より
齋藤外務大臣宛（電報）

満州国海関接収の現状と問題点について

長春 7月4日後発
本省 7月4日後着

第三八〇号（暗）

往電第三七六号ニ関シ

三日駒井ヨリ軍部ヲ通シ詳細ノ理由左ノ通電報シタル趣ナリ右御参考迄電報ス

一、新国家カ苟クモ独立国トシテ進ム以上早晚一切ノ海関ヲ接収シ支那トノ間ニモ税関障壁ヲ設定セサルヘカラサルハ当然ナリト雖モ満州国ハ本件ノ國際的ニ相当ノ影響アルヲ慮リ慎重ナル態度ヲ以テ円満ナル解決ヲ期シ居タル処今回宋子文カ帝國政府ノ積極的斡旋中何等罪無キ福本ヲ海関協定ニ違反シテ罷免シ満州国カ此理不尽ナル挑戦ニ応シ累次ノ声明通りニ自然ニ海関ヲ接収シ得タルハ一種ノ天佑ニシテ之カ責任ハ全部南京ニ帰シ帝國トシテモ当然斡旋ヨリ手ヲ引キ其儘放置スルコトトシ列国ヨリ喧シク申入レ来タル場合初メテ「アンコンミッタル」ノ態度ニテ調停ニ乗り出サルルカ又ハ断乎トシテ之ヲ拒絶

希望セルニ付自分及外班主任（共ニ外人）ノミ正式接收委員ノ到着迄居残り関務ヲ処理シ度シトノ態度ヲ執リタル趣ナル処二十九日警察署長再ヒ税関ニ来リ税関員全部ニ対シ留任希望有無ヲ質シタル処一同ハ上海海関ヲ希望スル旨ヲ声明シ次テ二十八日付ニテ金庫其他ニ封印ヲ施シ強制的ニ接収ヲ完了セルカ関務ハ一時停止ノ形トナレル由

三、竜井村

二十九日財政部ヨリ実力接收即時断行方ノ電訓ニ接シ海関監督ハ午前九時半公安隊五名帯同「ウォラス」海関長ヲ往訪シ接収ノ旨ヲ申入レタル処無条件ニテ之ニ応スヘシトテ重要書類其他一切ノ引渡ヲ完了セリ

四、琿春（竜井村分関）

琿春県長ハ海関監督ノ命ニ依リ実力接收断行ノ計画ヲ樹テ公安局長以下同局員七名ヲ帶同二十九日午前十一時海関長「マッケンジー」ヲ往訪セル処海関長ハ何等拒否スル事無ク即時引渡ニ応シ重要書類其他一切ノ円満引継ヲ了セリ英ヨリ土ヲ除ク在欧各大使及寿府ニ転電アリタシ

セラルルカ何レカノ方法ノ外無シト思考ス然ルニ若シ此ノ際帝國カ急遽列国ヲ引張り込ミツツ積極的ニ斡旋ヲ開始シタル場合先方カ妥協案ヲ受諾セサレハ宜シキモ若シ之ヲ受諾シ進ミテ満州国ヲ抑ヘテ一旦接収ヲ了シタル海関ヲ再ヒ無理ニ支那側ノ手ニ復帰セシメラルルカ如キ事トモナラハ之問題ヲ他日ニ延ハス所以ニシテ例ヘハ新国家カ日本ノ承認ヲ得タル後ニ於テ再ヒ海関接収ヲ断行スル場合日本トシテ嘗テ新国家ヲ強制シテ既成事実ヲ覆ス迄海関制度保全ニ努力シタル行懸モアリ放置スル訳ニモ行カス恐ラク今日以上ノ難局ニ立ツ事必定ナルヘシ然ラハ此ノ際帝國政府カ妥協案ヲ成立セシムル際満州国カ他國ノ承認ヲ受ケ支那各地ノ独立政權ト性質ヲ異ニスル場合ニ対シ留保ヲ付スル事トスルモ左様ノ事ハ支那及列國ノ承認セサル所ナルヘク果シテ然ラハ帝國政府カ今國際關係ヲ顧慮セラルル余リ切角先方ノ失策ニ依リ自然ニ完成シタル既成事実迄覆サレントスルハ将来ニ向ツテ禍根ヲ残スコトトナリ國際間ニ満州国ヲ形式上支那ノ領土トシ外蒙式ニ解決セントスル主張ニ力ヲ得シムル結果ヲ生セサルヤヲ惧ル依テ帝國政府ハ甚タ困難ナルヘキモ此ノ

際ハ新国家ヲシテ今日ノ自然的發展ノ事実ヲ固守セシメ列国ニ対シテハ支那側ノ不条理並新国家ノ独立性ヲ楯ニ然ル可ク応酬セラレ本件ヲ有耶無耶ニ看過シ時ヲシテ解決セシムルノ策ニ出テラレテハ如何カト思考ス

二、御承知ノ如ク大連以外ノ各関ハ財政総長ノ命ニ依リテ一斉ニ接收ヲ了シ大連ニ於テハ故障ナク事実上ノ徵稅ヲ行ヒ納稅ヲ拒否スル虞アリシ外國人モ躊躇ナク納稅シテ變化セル事態ヲ承認スル態度ヲ示シ居ル処、右ハ独立ト共ニ実行スヘキモノヲ今日迄延引シ且先方ノ不条理ナル行動ヲ氣付キテ關係者ノ必死の努力ニ依リ鮮カラサル費用ヲ費シ相当ノ人数ヲ符集メテ実行セラレタル極メテ自然ナル成果ニシテ此ノ際無理ニ覆水ヲ盆ニ返スカ如キハ海関ヲ再ヒ混乱ニ導キ海関員ノ反滿行為ヲ助長シ新國家ノ面子ヲ失ハシメ新興ノ氣勢ヲ消磨セシメ國礎ヲ動搖セシムルハ勿論新國家カ完全ニ日本ノ傀儡タル事ヲ益益暴露スル所以ニシテ新國家ノ同意シ得ル所ニ非ス現ニ新聞所報ノ妥協案ヲ看テスラ滿州國海関員ハ動搖シ居ル始末ニテ之カ実現セントスルカ如キ場合ニハ全ク混乱ニ陥リ收拾不可能トナリ全滿海関ハ破壊セラルルニ至リ、

シテ瓦房店ニ於テ徵稅スルノ自暴自棄的ニ陥ラシメ自衛上滿州國ノ行動ヲ默認セサルヲ得ストノ口実ヲモ考ヘ得可シ更ニ大正五年ノ租借期限延長ノ条約ヲ否認シツツ夫レト運命ヲ共ニスヘキ海関協定ヲ楯ニスル支那側ノ抗議ノ如キハ一蹴シ得ル次第ナリト思考ス

三、列國ノ力ヲ入レ居ル所謂海関制度保全ノ實質ヲ檢スルニ今日ニ於テハ外債償還ノ確保以外ニハ多クノ意味ヲ有セス而シテ夫レニ付テハ滿州國ハ有能ナル日本人其ノ他ノ外國人ヲ海関ニ止メテ徵稅機能ヲ確保シ以テ屢々声明シタル通り滿州國負担部分送金ヲ確實ニ実行スヘク現ニ既徵收額ヨリ負担部分ヲ控除シテ之ヲ銀行ニ供託シ其ノ旨總稅務司及在支關係國公使館ニ通告スヘク手配中ナリ又接收ニ當リ列國ノ海関ニ於ケル權益タル外國人使用人ニ對シテハ其ノ地位身分及「パーソナル、ロス」迄モ保障シテ引止ニ努力シ聴カサル者ニ對シテノミ立退ヲ求メ今後モ適當ナル外國人アレハ之ヲ雇傭スルニ吝ナラス更ニ南方ニ於テ早晚不遇トナルヘキ岸本其ノ他ノ海関員ニ對シ収容ノ余地ヲ殘ス為海関長等ハ概ネ臨時的ノモノト為シ居レリ其他紛議ヲ最少ニ止ムル為關稅率モ当分据置

元モ子モ無クナル結果トナル可シ、大連関ニ付テモ福本以下各関員ハ從來支那海関ニ在リテ排日政策実行ノ手先タリシ觀アリシ地位ヨリ解放セラレタルモノトシ一種ノ愛國的感激ヲ以テ滿州國ノ懷ニ飛込ミ目下諸方面ヨリノ激勵ニ依リ血眼トナリ働キ居ル折柄金ヅク等ニテ之ヲ押シ鎮メ不愉快ナル元ニ納メシムル事困難ニテ況ヤ上海支那側ニテ伝ヘツツアル福本罷免ノ無条件取消ノ代リニ一ケ年ノ給与退職手当及積立金交付ニ依リ事態ヲ糊塗セントスルカ如キハ絶対ニ不可能ナリト思考ス右ハ三十日福本ヨリ大橋ニ對シ「今朝新聞所報ノ日本ノ妥協案ハ我等六十四名ノ同志冷水ヲ浴ヒセラルル感有リ、茲ニ同志ハ妥協案ノ成、不成ハ念頭ニ置カス唯当初ノ所信ニ向ツテ邁進スル外無シトノ決心ヲ申合セタリ」トノ電報ヲ寄せ來リタルニ依リテモ知リ得可シ而シテ大連関カ支那ノ一獨立政權ニ寢返リ關稅ヲ徵收スルモ他國カ稅關ヲ設置シタルモノニ非ス之ヲ稅關トスルモ一種變態の支那ノ稅關ニ過キス從テ日本トシテ之カ州内ニ於ケル機能ヲ認ムルモ別ニ海関協定違反ト謂フヲ得ス仮ニ協定ニ違反スルトスルモ彼等ヲ追出セハ地元民ヲ奮起セシメ更ニ滿州國ヲ

キトシ又支那トノ間ノ關稅障壁モ先方ヨリ滿州產品ニ對シ二重課稅賦課等ノ暴挙ニ出テサル限り之ヲ当分設定セサル等事毎ニ極メテ慎重ナル態度ヲ以テ臨ミ居ル次第ナリ
就テハ幸ヒ支那側ハ未タ帝國政府ノ提案ヲ其ノ儘受諾ノ模様無キニ付此際支那側トノ折衝ニ付然ルヘク御処置相成度シ

269

昭和7年7月5日
齋藤外務大臣より
在米國出淵大使、在英國沢田臨時代理大使他宛(電報)

滿州國の大連海関接收問題に関する有田次官
と仏、伊大使との会談について

別電 同日齋藤外務大臣より在米國出淵大使、在英國沢田臨時代理大使他宛第一四九二号
中国海関統一に関する仏大使電書

本省 7月5日後10時30分発

合第一四九一号(暗)

滿州國ノ大連海関接收問題ニ関スル次官

ト仏伊大使トノ會談

一、七月一日仏國大使有田次官ヲ來訪シ本國政府ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ別電合第一四九二号ノ趣旨ヲ述ヘタルニ付

次官ヨリ本件ニ付テハ既ニ大体御話セル通ノ事情ナルカ
日本政府ハ租借地外ニ起レル出来事ニ付責任ヲ負ヒ難ク
又関東州内ニ起レル事件ニ付テハ其ノ責ニ任スヘキモ税
関内部ノ変動ニシテ租借地ノ公安ニ関係セサルモノハ日
本トシテ干渉シ得サル立場ニ在リ且満州国側ニ付テハ関
税收入中担保部分ノ上海送金方ヲ言明シ居ル次第ニ付
「カストムス、インテグリティ」ヲ害スル危険アリト
モ思ハレスト述ヘ更ニ過日英国大使ハ treaty obligations
云々ト申サレタル故其ノ節 treaty トハ何ヲ意味スルヤ
ト反問セルニ一九〇七年ノ大連海関設置協定ヲ謂フナル
ヘシト答ヘラレタルニ付自分(次官)ヨリ右協定上「イ
ンテグリティ」問題ニ関スル義務ハ発生シ居ラスト答
ヘタルコトアリト述ヘタルニ仏国大使ハ右ハ一九〇七年
ノ協定ニ依レハ大連ニ設ケラルヘキ税関ハ支那政府ノ税
関ナラサルヘカラストノ解釈ニ出ツルモノト思考スル旨
述ヘタルニ依リ次官ハ自分ハ大連ニ於ケル現在ノ状況ハ
支那税関ノ内部ノ変動ニシテ右内部ノ変動ハ支那税関タ
ルノ性質ヲ變更スルモノニアラスト考ヘ居ル次第ナリト
答ヘ置キタル趣ナリ

尚ホ右会談ノ際次官ヨリ閻錫山ノ天津海関(仏国租界ニ
アリ)接收ノ際ノ事例ニ輕ク言及シタルニ大使ハ當時自
分ハ北京ニ在リ良ク事情ヲ知り居ル処日本ニ於テモ仏国
側カ天津海関ノ接收ハ支那税関内部ノ変動ナリトナシタ
ルト同様ナル解釈ヲトラルル積ナルヤト反問セルニ付次
官ハ日本ハ独自ノ立場ヨリ大連ノ場合ニ於テモ右ノ如ク
解釈スルヲ至当ナリト考ヘ居ル次第ナリト述ヘ置キタル
趣ナリ

二、四日伊国大使有田次官ヲ来訪シ支那海関問題ニ付本国
政府ノ訓令ニ依リ来訪セル次第ナリトテ口頭ニテ極メテ
遠慮勝ノ様子ヲ以テ外国債権者ノ權利利益ヲ尊重セラレ
ンコトヲ希望スル旨並大連ノ問題ニ就テハ法律論ヲ離レ
テ實際上ノ解決ヲ期セラレ度旨述ヘタル趣ナリ

本電宛先 在英大使、在米大使、在支公使、北平、奉天、
長春、関東長官(別電ハ奉天ヨリ転報セシム)
別電ト共ニ支ヨリ南京ヘ転報アリ度
別電ト共ニ英ヨリ在歐各大使(土ヲ除ク)及連盟ニ転電ア
リ度

(別電)

合第一四九二号(暗) 本省 7月5日後9時30分發

満州国ノ大連海関接收問題ニ関スル次官
ト仏国大使トノ会談(別電)

Veillez à l'exemple de vos collègues d'Angleterre
et des Etats-Unis faire auprès du Gaimusho une démar-
che pour insister vivement sur l'intérêt qu'il y a pour
le Japon à respecter l'intégrité des douanes chinoises
et à reprendre le versement des recettes de la douane
à Shanghai.

(奉天宛) 関東長官ニ転報アリタシ

270 昭和7年7月(6)日 在仏国長岡大使ヨリ
※斎藤外務大臣宛(電報)

満州国承認決行の際の対外策確立方要望につ

いて

パリ 本省 7月6日前着

谷重細亜局長ヘ

一、「リットン」委員会本日入京ノ筈ト承知シ居ル処当方
ニテハ同委員会ノ満州問題ニ対スル解決策並ニ帝国政府

ニ於テ同委員会ヲシテ如何ナル趣旨ノ報告ヲ提出セシメ
ラレ度キ希望ナリヤ皆目判明シ居ラス從テ当方ニテ当方
面ノ空氣ヲ斟酌シテ立案セル各種ノ腹案ヲ上申スルヲ躊
躇セサルヲ得サル状態ニ在リ就テハ同委員会ノ意向及政
府ノ対策等ニ付隨時情報ヲ供給セラレ以テ卑見上申ノ機
会ヲ与ヘラルル様御配慮ヲ得タシ

二、先般寿府ニ於テ実見セル空氣ヨリ察スルニ若シ日本カ
「リットン」報告ノ提出前ニ満州国ヲ承認スルカ如キコ
トアランカ連盟方面ハ蜂ノ巣ヲツキタルカ如ク騒ギ立
ツルコト予想セラル就テハ承認決行ノ場合ニハ其ノ以前
ニ次テ起リ得ヘキ紛糾ニ処スル対策ヲ慎重考慮ノ上確立
相成リ万遺漏ナキヲ期スル様致度シ

本使四日夜寿府ニ出發スルニ付同地ニテ同僚ト意見交換ノ
機アラシムル為一ノ点同地宛御来示ヲ得ハ幸甚ナリ

271

昭和7年7月6日 在本邦リンドレー英國大使 会談要領
有田外務次官

日本の國際的孤立化への憂慮について

七月六日(前十一時) 英國大使サー、リ
ンドレー来訪会談要領

大使

本国政府ノ訓令ニハ非スシテ自分ノ全ク個人的ノ考ニテ御話スル次第ナルカト前提シタル上日本カ満州国ヲ承認シ又海関ノインテグリティヲ害スルカ如キ行動ヲ執レハ日本ハ各国ヨリ全然除外セラレ孤立ニ陥リ敵意ヲ受ケ非常ナル結果——勿論戦争トカ経済的制裁トカ云フ次第ニハ非サルモ——ヲ持チ来スコトナルヘシ即支那ハ絶対ニ反対スヘクソヴィエトハ機会ヲ窺ヒ居リ米國亦断シテ事態ヲ承認セサルヘキカ故ニ日本ハ世界ヲ挙ケテ之ヲ敵トセサルヘカラサルニ立チ至ルヘシ英國ハ日本ニ対シテ伝統的友好關係ヲ有シ居リ日本トノ關係力悪化スルコトヲ非常ニ恐レ居ル次第故日本カ上記ノ如キ状態ニ陷入ラサランコトヲ祈ルモノナリ日本ニシテ若シ現在ノ熱狂ヨリ醒メ冷静ナル態度ニ出ツルトセハ日本ノ欲スル所ハ総テ之ヲ獲得シ得テ世界何國ト雖之ニ異議ヲ云フモノ無カルヘシ此ノ事ハ曩ニ芳沢前外務大臣ニモ御話致シ置タル所ナルカ最近ノ形勢ニ鑑ミ更ニ貴官ニ御話スル次第ナリトノ趣旨ヲ述ヘタルニ依リ

次官ハ

リットン報告提出まで満州国承認を差控えるについて

ジュネーヴ 7月10日後発
本 省 7月11日後着

第五三七号（暗、極秘）

長岡代表ヨリ

満州国承認問題ニ関スル当方面ノ空氣ハ往電第五一三号議長書翰並往電第五三〇号議長声明及各代表ノ演述等ニ徴シ御想像相成ルヘキ通り頗ル神經過敏トナリ居リ若シ此際承認ヲ決行セラレンカ之ヲ以テ客年以來ノ連盟決議ノ精神ヲ蹂躪セル行為ナリト解シ我行動ニ対シ盛ニ批難攻撃スルコトト予測セラル、此ノ場合我方トシテ之ニ対抗スヘキ議論ヲ立テ得ヘキモ形勢ノ推移ニ依リテハ或ハ連盟脱退ヲモ覚悟セサルヘカラス然ルニ「リットン」委員会ハ我方ノ提議ニ依リ設ケラレ而シテ今ヤ將ニ問題ノ核心ニ触レントスル時期ニ到達シタルニ拘ラス其ノ報告提出前早キニ及ンテ承認スルニ於テハ実質的ニ其ノ進言ノ自由ノ一部ヲ奪フ結果トナリ、世界ニ対シ日本ノ行動カ公正ニ非ストノ誤解ヲ抱カシムルコト当然ノコトト思ハルルニ付テハ右ノ前提トス

只今ノ御話ハ貴大使ノ個人的友誼的ノ忠言トシテ承リ置キ貴意ノ在ル所ハ何レ新任外務大臣ニ御取次スヘシ貴説ニ就テハ種々議論ノ存スル所ナルモ本日ハ之ヲ論議スルコトヲ避ケヘシト答ヘ置タリ

尚同大使ハ

間島ニ於ケル独逸宣教師ノ殺害事件ニ言及シ自分ノ得タル情報ニ依レハ独逸人ヲ殺害シタルハ正シク日本兵士ニシテ右兵士等ハ何等カノ催ニテ飲酒シ居リタル為同宣教師ヲ引留メ毆打シ其結果殺害ニ及ヒタルモノナルコト疑ナシトノ事ニシテ独逸人ナルカ故ニ余リ問題ニモセスニ居ル様ナレトモ若シ之カ米國人ナラハ新聞紙等ニモ書キ立テ非常ナル問題ヲ起スニ至ルヘク余程注意ヲ要スル所ナリト述ヘタルニ付

次官

当方取調ノ結果ハ右ノ事実ト反シ居リ尚為念取調ヲ命シ居ル次第ナリト答ヘ置タリ

272

昭和7年7月10日

※在ジュネーヴ沢田連盟事務局局長より
内田（康哉）外務大臣宛（電報）

ル紛糾ノ結果（連盟側モ經濟封鎖ト言フカ如キ積極的行動ニハ出テサルヘキモ満州国不承認申合ヲナスカ如キ事態ニ立至リ日本カ止ムナク）連盟脱退ヲ敢行スルカ如キ帰結ヲ生セムカ日本ニ対スル世界ノ同情ハ全然消散スルニ至ルヘキヲ恐ル依テ此ノ際兎モ角モ「リットン」報告提出後迄承認ヲ差シ控ヘ同委員会ノ顔ヲ立ツルト共ニ我態度ノ公正ナルコトヲ示シ置クニ於テハ将来「リットン」報告乃至連盟カ到底我方ノ受諾シ得サル解決案ヲ提議シ来リタル場合堂々我方立場ヲ主張シ得万一之カ為連盟脱退迄進ムトスルモ列國ノ我ニ対スル誤解及反感ハ前記ノ場合ニ比シ余程緩和スヘシト思考セラルルノミナラス「リットン」報告ノ内容或ハ連盟ニ於ケル國際輿論ノ推移ニ依リ我方ノ承認モ亦已ムヲ得ストノ結果ヲ得ラレサルニモ非スト思考ス

承認問題ニ対スル我國輿論ノ趨向ニ就テハ当方ニ於テモ充分了解シ居リ承認遷延ノ困難ナル事情モ篤ト御推察申上ケ居ル次第ナルモ本問題ノ重大性ニ鑑ミ本使当地出張中ヲ幸松平、佐藤、吉田三大使其ノ他外務諸官ト熟議ノ結果卑見申進ムル次第ナリ
米、土ヲ除ク在歐各大使ニ転電セリ

273

昭和7年7月10日

※在ジュネーブ沢田連盟事務局長より
※内田外務大臣宛(電報)

満州国承認問題をめぐる連盟および英・米対策について

ジュネーブ 7月10日後発
本 省 7月11日前着

第五三八号(暗、極秘)

長岡大使ヨリ谷局長へ

一、貴電拝承同電中(三)承認問題ニ関シテハ当方ニテ其ノ緊急重大性ヲ認メ各員篤ト合議ノ末大臣宛電報ヲ発シタルニ付右ニテ御承知相成度満州問題ニ関シテハ連盟方面ニテモ何トカシテ適當ノ口実ヲ設ケ手ヲ引キ度キ気分モアルヤニ観取セラルルニ付此ノ際好シテ事ヲ荒立テス何等カ連盟ニ辞柄ヲ与ヘツツ實際上満州ニ於ケル我方ノ立場ヲ確保スル方針ヲ定メ適宜之ヲ「リットン」委員会ニ提示シ同委員会ヲシテ之ヲ連盟ニ「リコメント」セシムル事ヲ最良ノ方策ト思考スル処「リットン」報告ハ連盟側カ之ヲ金科玉条トシテ日支事件解決ノ基礎ニ供スヘキニ

置ヲ講スルコト肝要ト存ス

274

昭和7年7月10日

内田外務大臣より
在英米駐日臨時代理大使、在米出国
淵大使宛(電報)

満州海關接収状況について

合第一五二二号(暗)

往電合第一四八四号ニ関シ

一、安東

(イ)満州国海關側ハ安東駅構内海關派出所ニ於ケル中国側海關吏ノ執務ヲ廃セシメントセル処中国側海關吏之ニ応セザリシ結果満州国側ハ中国側海關吏ヲ付属地外ニ於テ逮捕スル事ニ決意シ四日之カ手始ニ付属地外ニ於テ五名ヲ逮捕抑留スル(内四名ハ以後付属地内ニ於テ執務セサル事ヲ誓ヘル書面ニ署名シタル後釈放ス)ニ至レリ税関長ハ米沢領事ニ対シ中国海關吏ノ執務ニ就キ援助アリ度旨申出テタルヲ以テ同領事ハ付属地外ニ於ケル満州国警察官ノ行動ニ干渉スルノ権限無キ事ヲ告ケタル趣ナルカ更ニ五日海關長ヨリ領事ニ対シ公文ヲ以テ身辺ノ危険等ノ為メ差当リ付属地内ニ於ケル海關事務ヲ中止スルノ外ナ

付其ノ結論ニ於テ具体的解決案ヲ掲クル場合若シ帝國カ之ニ同意シ能ハサル種類ノ考察タルニ於テハ有害無益ニ付同報告ハ支那乃至滿蒙ノ事態報告ニ止ムル事トシ滿州ノ「ステータス」ニ付何等ノ解決策ヲモ記入セシメス右ハ利害關係国間ニ協定決議スヘキモノナリトノ趣旨ヲ「サゼスト」セシメ一面連盟ヲシテ滿州問題ヨリ手ヲ引ク機会ヲ与フルト同時ニ他方我方ノ立場ヲ自由ニ置ク様措置スルヲ得ハ最得策ト存ス尚該報告中ニ日本側ニ於テ理事會決議ニ依リ安ンシテ撤兵シ得ルカ為ニハ我權益保護ノ任ヲ尽シ得ル政權ノ確立ヲ要スル旨ヲ掲ケシメ得ルニ於テハ連盟ヲシテ滿州国ノ發達カ滿州事件解決上必要ノ条件ナルヲ認メ或程度迄我方承認ヲ支持又ハ黙認セシムルノ便宜アリト認メラル

一、満州問題ノ解決ニハ結局英、米トノ了解ヲ要スヘキコト申ス迄モナキ次第ナルニ付テハ貴電合第一三九〇号英國大使ヨリノ照會ニ關連シ早キニ臨ンテ英、米等直接利害關係アル国ニ対シ我國カ承認ヲ為サルヲ得サル事態ニアルコトヲ明カニシ之等諸國カ将来滿州国ニ對シ如何ナル態度ニ出スヘキヤヲ確カメ其意向ヲモ參酌シ善後処

キニ至レル次第ニ對シ嚴重抗議スル旨申越セリ(領事ヨリハ差当リ回答セサル方針ナリ)

(ロ)満州国側ニ於テハ中国側海關員ノ引揚ニ依リ五日以來海關本関及付属地内海關事務所監視所等ヲ平穩ニ其手ニ収ムルニ至リ満州国側ニ寢返レル日本人及支那人(支那人ハ主トシテ下級ノモノ)ニ於テ事務ヲ執リツツアリ一方中国側残留海關員ハI Gニ請訓ノ上海關長外数名ヲ除キ六日中ニ全部安東ヲ引揚クルコトナリタル模様ナリト

二、哈爾濱

(二六七文書)

満州国側ハ往電合第一四七二号一ノ本件不法行為ヲ否認セルヲ以テ客月三十日瀋川立會ノ上滿州国特警察顧問(邦人)「プ」税関長ト會見セル処「プ」ハ不法行為ノ事実ヲ抽象的ニノミ述フルニ止リ尚ホ會談中「プ」ノ領事団ニ對スル報告ノ一部ニ誇張セラレ居ル点アリシヲ「アドミット」シタル由尚右會見内容並ニ「プ」ノ主張ハ中国側支那人海關吏員ノ殊更誇張セル報告ニ「ミスリード」サレ居ルカ如シトノ瀋川ノ觀察ヲ同人ヨリ領事団ニ本月二日付書面ヲ以テ通報シ置キタル趣ナリ

三、満州里

六月三十日上海新聞ハ南京電報トシテ満州里税関吏ヨリ南京ニ対シ日本警察官カ同税関ヲ包囲セリ云々トノ電報アリシ趣ノ記事ヲ掲載セルカ「ス」税関長ハ山崎領事ニ対シ自分ハ前記新聞記事ノ如キ事実ヲ打電シタルコト無シトテ同領事ノ諒解ヲ求メタルヲ以テ同領事ハ日本警察官云々ハ領事館警察官ト誤解サルル虞アルヲ以テ甚タ迷惑ヲ感シ居ル次第ナリト告ケ置キタル趣ナリ尚ホ満州里海関接收ハ当初ヨリ全部特別区警察署（日本人居ラス）ニテ行ハレ七月一日税関事務開始ニ当リ初メテ国境警察隊ノ応援ヲ求メタル次第ナルカ其ノ中ニ日本人十五名（満州国警察官タルコト勿論ナリ）アリタル由ナリ将又「ス」ハ国境警察隊ニ一時抑留セラレタルモ直ニ釈放セラレタル趣ナリ尚冒頭往電ニ、外人税関吏ハ未タ釈放セラレス「ブ」ハ下獄ノ後「ハンガーストライキ」ノ行動ニ出テ支那警察側ノ手ヲ焼カセ居ル由

最近満州里方面ニ旅行中ナリシ在哈爾賓米國總領事「ハenson」ヨリ満州里税関問題実情報告ノ為七日哈爾賓領事団會議開催セラレ討議ノ結果「ス」税関長ノ逮捕ニ付

満州国の領域について

本省 7月14日午後6時30分発

第一四九号 暗、極秘、至急

満州国ノ領域ニ関スル件

今般連盟調査委員側ヨリ満州国領土ノ境界ヲ承知シ度キ旨申出アリタルニ付元來本件ハ我方ヨリ回答スヘキ筋合ニ非サルモ我方トシテハ本年三月一日ノ満州国建国宣言及三月十二日ノ同国対外通告ニ依レハ満州国ノ領域ハ奉天省、吉林省、黑龍江省、熱河省、東省特別区及蒙古各旗盟ヲ包含スルモノト了解スル旨並滿州ト蒙古トノ境界並蒙古各旗盟ノ範圍ナルモノハ元來明確ニ定メ得ヘキモノニ非サルモ前記宣言及通告ニ所謂蒙古各旗盟トハ遠ク外蒙古ノ各旗盟迄ヲ包含スルニ非スシテ滿州ニ接近セル内蒙古ノ各旗盟數個ヲ意味スルモノト解シ居レル旨ヲ答ヘタル処右蒙古旗盟ノ問題ノミナラス山海関附近ノ境界ニ付テモ長城ヲ以テ境トスヘキヤ否ヤニ付疑アリ旁々正確ナル境界ヲ滿州国側ニ問合セ與レ問敷ヤト申出テタルニ付（委員側ニハ滿州国ハ独立國タルコトヲ標榜シナカラ其ノ境界モ明ナラサルハ不可解ナリトノ口吻ヲ洩スモノアリタルニ付一応之ヲ反駁シ置キ

治外法権擁護ノ見地ヨリ領事団ヨリ哈爾賓交渉署ニ抗議シ且情報トシテ右抗議文ヲ首席公使ニ送付スルコトニ決定セル趣ナリ

英ヨリ土ヲ除ク在欧各大使及連盟ニ転電アリ度

275 昭和7年7月12日 閣議決定

満州国承認の方針および時期について

満州国承認問題ニ関スル件

國際連盟支那調査委員ヨリ満州国承認問題ヲ提起シ來ル場合ニハ帝國ハ出來得ル限り速カニ承認ノ意向ナルモ其ノ時期ハ之ヲ明言シ難シトノ趣旨ヲ以テ応酬シ尚ホ先方ヨリ更ニ進ンテ調査委員ノ最終報告提出前又ハ調査委員カ東洋ヲ去ル以前ニハ承認セサルコトトスル様ノコト出來マシキヤ等ノ質問出ツル場合ニハ承認ハ帝國政府自身ノ認定ノ問題ニシテ右ノ如キ事柄ト之ヲ相牽連セシムルコトヲ約スルヲ得ストノ趣旨ヲ以テ答フルコトト致度

（編注）本文書には、齋藤首相以下閣僚の花押がある。

276 昭和7年7月14日 内田外務大臣より
在長春田中領事代理宛（電報）

タリ）之ヲ応諾シ置キタリ

就テハ敍上ノ次第ヲ滿州国側ニ伝達ノ上同国ノ境界御確メ相成リ結果至急回電アリ度尚ホ滿州国当局ニ於テ本件ニ付未タ確定ノ意見ナキ場合ニハ我方トシテハ大正四年日支条約ニ所謂東部内蒙古ノ範圍ハ元來確定シ居ラサルモ要スルニ内蒙古ノ東半分（大体ニ於テ万里ノ長城以北ニシテ滿州ニ接壤セル地域ヲ指シ清朝時代ニ所謂内属蒙古六盟二部ノ中少クトモ内蒙東部四盟即チ現在ノ熱河省ノミナラス察哈爾省ノ一部ヲモ含ムコトトナル）ノ意味ナリトノ解釈ヲ取ルモノナルヲ以テ滿州国側ノ境界モ大体之ト一致セシムルコトヲ得ハ好都合ト認ムル次第ナル旨及若シ判然境界ヲ決定スルコト困難ナラハ滿州国ノ建国ニ参加シタル各旗盟ヲ標準トシ大体ノ主張ヲ決定シ置クコトモ（一旗盟ノ範圍ハ元來明確ナラサル次第ナリ）一案ト認メラルル旨我方ノ「サゼッション」トシテ滿州国側ニ伝ヘラレタシ

奉天へ転電アリタシ

277 昭和7年7月14日

内田外務大臣より
在英國沢田臨時代理大使、在米國出淵大使宛（電報）

満州海關接收状況について

合第一五二三号(暗)

(二七四文書)

往電合第一五二二号ニ関シ

一、哈爾賓

満州国側警察ハ七日海關職員タル一蘇連邦人(共產黨員)ヲ逮捕取調ノ結果海關カ共產党ノ策動地タルノ嫌疑濃厚ナリシヲ以テ同日英國副領事立会ノ上「プ」税関長並海關職員宿舍ノ家宅搜索ヲ為シ引続キ単独ニ税関事務所ノ搜索ヲ為シタル処柯前経理課長家宅並税関事務所ヨリ多数共產党宣伝印刷物其他ノ証拠書類ヲ発見セル趣ニテ其後引続キ治外法権ヲ有セサル副税関長「オレンベルガー」秘書「ロゾフ」等蘇連人四名及支那人三名ヲ逮捕セリ(「ロゾフ」ハ取調ヘノ結果共產党ニ関係ナキコト判明シタルヲ以テ十日釈放セラル)尚満州国側警察ハ「プ」税関長ヨリ海關金庫ノ鍵ノ提供ヲ受ケ十日英國副領事立会ノ上開扉シタル処共產党関係書類発見セラレサリシカ警察側ハ鍵ヲ使用後満州国側海關ニ引渡シタル趣ナリ

一方冒頭往電ノ三、末段領事団決定ハ其後哈爾賓ニ於ケ

第八四七号

安東税関ヲ引揚ケタル支那人税関吏中三十八名ハ十四日来瀋当地支那新聞記者ニ対シ満州国側ノ海關接收振ヲ述ヘ六月二十八日ノ如キ満州国警察誘導隊十五名ハ税関長室ニ闖入シ「トルボット」税関長ノ胸ニ銃ヲ擬シテ引渡ヲ脅迫シ又満州国側ニ驅使サルルヲ潔シトセサルモノハ何レモ「言語奇怪或ハ職權濫行」等ノ理由ニ依リ逮捕拘禁セラレタルカ満州国境内ノ他ノ海關モ等シク武力ニ依リ接收セラレタリト言フヘク又付属地内ニ於テハ種々ノ不正手段ニ依リ支那税関吏ヲシテ居住不能ニ陥ラシムル等惡辣ヲ極メ居レリ云々ト語リタル趣ナリ

北平、奉天、安東、南京ヘ転電セリ

支ヘ転報セリ

279 昭和7年7月16日 閣議承認

地方長官會議における満州国承認方針などに

関する内田外相訓示案

七月十八日地方長官會議ニ於ケル外務大臣訓示案

ル事件ノミヲ取扱フコトニ變更シ領事団ヨリ交渉署長宛共同抗議ヲナス話合アリシモ我方ヨリ領事団カ事件ノ真相ヲ窮メスシテ早急ニ干涉的態度ニ出ツルコトハ却テ事態ヲ惡化スルノ虞アルコトヲ主張シタル結果前記共同抗議ハ取止メトナリシ趣ナリ一方満州国中央側ヨリモ哈爾賓出先ヘ行過キタル行動ナキ様注意ヲ与ヘタル趣ニシテ其後「オ」副税関長モ釈放セラレ同方面ニ於ケル満州国側ノ態度緩和セル模様ナリ

二、満州里

冒頭往電ノ三、外班主任「ブルンベルグ」ハ八日釈放セラレタルカ「プ」ノ釈放方ニ関シテハ長春中央部ヨリ命令アリタル結果ナル趣ナリ

英ヨリ在欧各大使(土ヲ除ク)及連盟ヘ転電アリ度

~~~~~

278 昭和7年7月15日 在上海村井総領事より  
内田外務大臣宛(電報)

満州国の海關接收振りに関する中国人税関員の新聞記者への談話について

上海 7月15日後発  
本省 7月15日後着

一、客年九月満州事變ノ勃発以来帝國ハ外交上極メテ重大ナル局面ニ遭遇シ来ツタノテアリマシテ十個月ヲ經過シマシタ今日ニ於テモ時局ノ重大性ハ愈々加ハル所アルモ何等減スル所ナキ実状テアリマス忠勇ナル皇軍ハ引続キ満州治安回復ノ為メ匪賊討伐ニ寧日ナキ有様テアリマス又本年三月ヲ以テ建設セラレマシタ満州国ハ漸次健全ナル發達ヲ遂ケツツアルノテアリマス力モ其ノ前途ハ決シテ平易ナルモノテナイト認メラルルノテアリマス一方曩ニ國際連盟ノ派遣シマシタ支那調査委員ハ最近略々支那及満州ノ実状調査ヲ終ヘテ其ノ使命ノ核心タル報告書ノ起草ニ入ラントシテ居ルノテアリマシテ此ノ間列國ハ引続キ異常ノ関心ヲ以テ満州ヲ中心トスル事態ノ推移ヲ見守リツツアルノテアリマス

二、満州ニ於ケル治安ノ回復ハ同地方内外人ノ総テノ平和的活動、建設の事業ノ前提トナリ基幹トナルヘキモノテアリマシテ各方面共一日モ速カニ右治安ノ回復ヲ見ルニ至ラムコトヲ翹望シテ居ルノテアリマス然シ乍ラ満州ニ於ケル治安ノ回復カ実ニ容易ナラサル大事業テアリマスコトハ申ス迄モアリマセヌ幸ヒニシテ皇軍ノ絶大ナル努



力ニ依リ匪賊ノ掃蕩カ着々功ヲ収メツアルノハ御同慶ノ至リテアルト共ニ將兵ノ労苦ニ対シテハ誠ニ感謝ニ堪エナイノテアリマス我々ハ此上共皇軍ニ信頼シ之ヲ後援スルト共ニ政府及国民トシテモ右目的達成ノ為メ充分ノ努力ヲナスノ要アル次第デアリマス

三、次ニ満州国ノ独立タルヲ以テ支那本部ニ於ケル内乱紛争ノ渦中ニ投スルコトニ反対シ且張家ノ悪政ヲ憎悪スルノ余リ密ニ新政ノ樹立ヲ翹望シテ居リマシタ同地方ノ要人等カ我方ノ自衛行動ノ自然ノ結果トシテ張學良政權ノ事實的解消ヲ見マシタ機会ニ乘シ満州カ支那本部ニ対シ有スル歴史的、地理的及心理的特異性ヲ背景トシテ新国家ヲ建設シタモノデアリマシテ其ノ本質上支那内部ノ政治的分解作用ノ結果ト見ルヘキモノデアリマスカ満州ニ対シ重大且緊密ナル特殊ノ關係ヲ有スル帝國トシマシテハ排日觀念ノ浸透セル支那本部政權ノ満州復歸ニ対シ断乎トシテ反対スルト共ニ満州国カ速カニ健全ナル発達ヲ遂ケ強固ナル基礎ノ下ニ我國トノ親善ヲ維持セムコトヲ希望スルモノデアリマス政府ハ各般ノ事情ヲ熟慮シマシタ結果東洋永遠ノ平和保全ノ為メ帝國ニ於テ

満州国ニ承認ヲ与フルコトヲ必要ト認メ既ニ其ノ方針ヲ決定シタ次第デアリマシテ最善適當ト確信スル時期ヲ択シテ之ヲ決行セントスルモノデアリマス

四、連盟調査委員一行ハ過去約四個月ニ亘ル支那及満州ニ於ケル視察旅行ヲ終ヘ愈々報告書起草ノ段取ニ入ルニ際シ今回再度来朝シテ満州問題ニ関スル帝國ノ所見ヲ問フ所カアツタノデアリマスカ政府ハ之ニ対シ忌憚ナク前述ノ如キ決意ノ程ヲ述ヘテ置イタ次第デアリマス

五、要之現下帝國ノ外交ハ日清、日露兩戰役當時ニ勝ルトモ劣ラサル重大ナル事態ニ遭遇シテ居ルノデアリマシテ今後幾多ノ難関ヲ藏シテ居ルコトハ想像ニ余リアルノデアリマス固ヨリ吾人ハ時局ノ前途ヲ毫モ悲觀スルモノテハアリマセヌ帝國ノ立場ハ正義ニ立脚セル極メテ堂々タルモノデアリマス本大臣ハ我國民ニ於テ妄リニ輕躁焦慮スルコトナク又徒ラニ危懼逡巡スルコトナク挙國一致ノ覚悟ト大國民タル襟度ヲ以テ善処シテ行キマスルナラハ必スヤ世界ノ誤解ヲ去リ列國ノ諒解ヲ得テ帝國ノ有スル至高ノ使命ヲ果シ得ヘキコトヲ信シテ疑ハヌノデアリマス

六、就テハ各位ニ於テモ何卒右ノ趣旨ヲ体シテ國民ノ指導

並諸般ノ措置ニ当ラレンコトヲ切望致シマス

(欄外注記) 昭和七年七月十六日臨時閣議ニテ承認 内田外相花

押

280

昭和7年7月16日 内田外務大臣より  
在英國沢田臨時代理大使、在米國出  
淵大使他宛(電報)

満州国承認および海關問題に関する有田次官

とリンドレー英大使との会談について

別電

同日内田外務大臣より 在英國沢田臨時代理大  
使、在米國出淵大使他宛合第一五四六号

中国海關行政の統一維持に関する英外相訓令

本省 7月16日後9時30分発

合第一五四五号(暗、極秘)

満州承認問題及海關問題ニ関スル英大使

来談ノ件

十四日在本邦英國大使本大臣ヲ来訪別電合第一五四六号本  
國政府訓電(後刻寫ヲ送付越セリ)ニ付開談シタルヲ以テ  
本大臣ヨリ右ニ付テハ来週意見ノ交換ヲ行フヘキ旨述ヘ置  
キタル処十五日同大使、次官ヲ来訪シ予備的會談ノ意味合

ニテ左記要領ノ會談ヲナシタル趣ナリ

一、次官ヨリ英國政府訓電中海關行政ノ崩壞ハ満州ニ於テ  
責任ノ地位ヲ占メ居ル日本人ノ行為ニ因ルト為シ居ル点  
ニ付先ツ日本政府トシテハ是等満州國雇傭日本人ノ行為  
ニ付何等責任ヲ執ルコト能ハサルモノナルヲ明カニセサ  
ルヲ得スト述ヘタルニ大使ハ是等日本人ハ日本政府カ満  
州國ヲシテ雇傭セシメ居ルモノト了解セラレ居レリト述  
ヘタルニ付次官ハ右ハ全ク事實ニ反ス満州國ハ現在自國  
人ノミニテハ國政ヲ處理シ得サル為メ日本人其他外國人  
ヲ雇傭セルモノニシテ此ノ中ニハ日本官吏タリシモノア  
ルモ何レモ退官ノ上応募シ居レリト述ヘ更ニ大使ヨリ是  
等日本人ハ日本軍隊ノ存在ニ依リ元氣付ケラレ居ルモノ  
ト思考スト述ヘタルニ付次官ハ日本軍ハ治安維持ト日本  
人ノ生命財産ノ保護ノ為メ駐屯シ居ルモノニシテ偶々右  
日本軍存在ノ事實ヲ満州國政府又ハ官吏カ自己ノ目的ニ  
利用スルモ日本政府又ハ日本軍トシテ責任ヲ負フ能ハス  
ト述ヘタリ

二、次ニ大使ハ大連海關設置協定ト同海關現状トノ關係ニ  
付説明ヲ求メタルニ付次官ハ右ノ点ハ曩ニモ御話シタル

所ナルカ一体千九百三十年閏錫山カ天津仏租界ノ支那海  
関ヲ庄迫シ稅務司ニ英人「シンブソン」ヲ任命セルコト  
アル処貴大使ハ右事件ヲ如何ニ説明セラルルヤト反問セ  
ルニ大使ハ稍々当惑ノ色ヲ現シタルカ右ハ深ク研究シ居  
ラサルモ日本ハ大連ノ場合ヲ右ト同一視セラルル次第ナ  
リヤト述ヘタルニ付大体同様ト考ヘル旨応酬シ

三、次イテ大使ハ最重要ノ点ナリト前提シタル上日本ハ  
支那ノ分離運動ヲ奨励セサル義務ヲ有ストノ点ニ関スル  
意見ヲ求メ次官カ日本ハ何等之ヲ奨励セルコトナシト述  
ヘタルニ対シ大使ハ世間ニテハ皆日本カ之ニ関与セルコ  
トヲ信シ居レリト謂ヘルニ付次官ヨリ右ハ全然誤解ニテ  
日本ハ滿州ノ治安維持ノ為メ援助ヲ与ヘタルコトアリ又  
与ヘツツアリ滿州人カ之ヲ建国ニ利用セルコトアルヤモ  
知レサルモ右ハ日本ノ関知スル所ニ非スト述ヘタルニ大  
使ハ承認ノ如キモ奨励ノ一例ニシテ又將來承認スヘキコ  
トヲ事前ニ声明スル如キモ同様ナリトノ趣旨ヲ述ヘタル  
ニ付次官ヨリ既ニ新國家カ存在シ居ル次第ニ付之ヲ承認  
シ又ハ將來承認スヘキコトヲ声明スルモ分離運動ノ奨励  
ト言ヒ得スト説明シタリ

(別電)

合第一五四六号

Telegram from Foreign Office, London

to

British Ambassador, Tokyo,

dated July 13th 1932.

You should express to the Government to which you  
are accredited our great disappointment that more  
effective action was not taken—as it was surely within  
the power of the Japanese Government to do—to maintain  
the integrity of the Chinese Maritime Customs Admin-  
istration. We are greatly concerned at recent develop-  
ments which seem likely to result in conditions detri-  
mental to trade for some nations including Japan.

It seems to us that for these developments a very special  
responsibility rests on Japan; first because it is mainly  
owing to action by Japanese nationals occupying positions  
of responsibility in Manchuria that disruption of the Cus-  
toms Administration was brought about; and secondly

四、大使ハ以上ニテ本國政府ニ対シ一応回答ノ材料ヲ得タ  
リト述ヘ更ニ海關問題ニ付其後ノ情報ヲ求メタルニ付次  
官ヨリ目下「イングラム」案ニテ妥協ヲ斡旋シ居ルモ未  
タ滿州國ノ同意ヲ得ス同國側ニテハ当初大連以外ノ海關  
ニ付收入ノ保留ヲ以テ満足シ居リタルカ福本罷免事件ヨ  
リ引イテ事實上是等海關ヲ全部接收セル為メ今更元ノ状  
態ニ復セシムルコト甚タ困難ニテ福本事件ハ返ヘス返ヘ  
スモ遺憾ナリト述ヘタルカ更ニ大使ヨリ大連ノ税金ハ全  
部上海ニ送ラレサルヤト質問セルニ付未タ送ラレ居ラサ  
ルモノト思考スルモ近日中送ラシムル様努力中ナル旨ヲ  
答ヘタルニ大使ハ右送金アラハ世間ノ憂慮ヲ余程緩和ス  
ルモノト思ハルト述ヘタリ

本電及別電宛先 英、米、支、北平、奉天、長春

別電ト共ニ奉天ヨリ関東長官ニ転報アリタシ

別電ト共ニ支ヨリ南京ニ又長春ヨリ大橋次長ニ転報アリタ  
シ

別電ト共ニ英ヨリ土ヲ除ク在欧各大使及寿府連盟ヘ転電ア  
リタシ

because Japan is bound by the terms of her agreement with  
China of 1907 relating to the Customs at Dairen. You sho-  
uld remind the Japanese Government that a special obliga-  
tion rests upon all signatories of the Nine Power Pact to  
abstain from encouraging a separatist movement in China.

You should also impress on the Japanese Government  
that in addition to our interest in foreign obligations  
secured on the Chinese Maritime Customs revenues the  
magnitude of our trading interests in the Far East  
compels us also to attach the greatest importance to  
preventing the dividing up of China into separate tariff  
areas. The Japanese representative at Peking is pressing  
for British assistance in his negotiations with China,  
but you should explain that until we know more clearly  
the intention of the Japanese Government as to their  
obligations both under the Nine Power Treaty and  
under the agreement of 1907 and what arrangement  
they envisage as a remedy for the present situation it  
is difficult for us to understand the position properly.

281

昭和7年7月20日 郷(誠之助) 日本商工会議所会頭より  
内田外務大臣宛

満州国の早期承認実施について

日商発第九五号

満州国ノ承認ニ関スル建議

満州国ノ産業ヲ開発シ経済ノ振興ヲ図ルト共ニ日滿兩國間  
通商貿易ヲ促進シ其ノ他各般経済関係ノ緊密ナル發展ヲ企  
図スルコトハ刻下最モ緊要トスル所ナリ而シテ之ヲ実現セ  
ントスルニハ満州国ヲ承認シ其ノ政治的基礎ヲ鞏固ナラシ  
メ併セテ人心ノ安定ヲ図ルヲ以テ前提トスルガ故ニ政府当  
局ニ於テハ速ニ右承認ノ措置ヲ採ラレンコトヲ望ム

昭和七年七月二十日

日本商工会議所

会頭男爵 郷 誠之助

外務大臣

伯爵 内田康哉殿

282

昭和7年7月23日 在上海堀内(干城) 臨時代理公使より  
内田外務大臣宛(電報)

岸本の大連海関長任命に同意方メーヅ総稅務  
司の申出について

上海 7月23日後発  
本省 7月24日前着

第一〇八九号(暗)

往電第一〇六八号ニ関シ

廿三日山本本官ヲ来訪シ「メーヅ」ノ伝言ナリトテ右往  
電十四日付書翰ニ対スル政府ノ回答ヲ求メタル上「メ」ニ  
於テ本官トノ会谈ヲ希望シ居ル旨述ヘタルニ付同日午後本  
官「メ」ヲ往訪シタル処「メ」ハ昨日宋子文ヨリ岸本任命  
ニ対スル日本側ノ同意取付ケ方嚴重ニ督促セラレ従来ノ經  
緯ヲ報告シタルモ満足セシムルニ至ラス困リ居ル処本件日  
本政府ノ意向如何ト尋ネタルニ付本官ハ其後政府ヨリハ何  
等訓令ナキモ先般ノ訓令ニ依リ自分ノ承知スル処ハ政府ニ  
於テハ満州海関問題ノ實際的解決ノ為尽力シ居リ右妥協ヲ  
見ルニ於テハ本件ノ如キハ自然解決サルヘキモノナリト考  
ヘ居ルカ為特ニ之カ回答ヲ急カサルモノト考ヘラルト述ヘ

283

昭和7年7月25日 内田外務大臣より  
在英國沢田臨時代理大使、在米國出  
淵大使他宛(電報)

英大使に満州国問題に対する日本の態度表明  
について

合第一五八九号(暗)

往電合第一五四五号ニ関シ  
(二八〇文書)

一、二十一日英國大使来訪、往電合第一五四六号英國政府  
来電ニ対スル御意見ヲ承リ度シト述ヘタルニ付本大臣ヨ  
リ英國政府ハ満州事件ニ関シ適確ナル情報ニ接シ居ラレ  
サルニヤ日本政府ノ責任ニ付著シキ誤解ヲ有シ居ラルル  
モノノ如キ処自分ノ満州ニ於ケル經驗談ハ或ハ右誤解ノ  
点ヲ明ニスル為メ参考トモナルヘシト思ハルニ付腹藏ナ  
ク御話スヘシトテ自分ハ昨年六月滿鉄總裁ニ就任シ七月  
渡滿後同地方ニ於ケル日支関係ノ意想外ニ悪化セルニ驚  
キタリ支那側ノ日本及日本人ニ対スル傍若無人ノ態度ハ  
同地在留日本人ヲ極度ニ憤慨セシメ青年連盟等ノ団体組  
織セラレ滿鉄社員タル有為ノ青年モ多数之ニ加ハリタル  
有様ナリ而シテ九月十八日ノ事件勃発スルヤ右青年団員  
ハ勿論在滿日本人ハ他人ノ勧誘ヲ待タス一切ニ奮起シ我

軍事行動ヲ後援セリ関東軍力僅少ノ兵力ヲ以テ大兵ニ当  
リ敏速ニ成功ヲ収メタルハ之等私的援助ニ負フ所少カラ  
ス又各地ニ地方政權樹立セラルルヤ此等日本人ハ進テ該  
政權ニ近ツキ満鉄社員ノ如キモ社命ヲモ顧ミス其ノ傭聘  
ニ応シタルモノ少カラサル次第ナルカ此ノ間帝國政府ト  
シテハ何等関与スル所無カリシハ勿論ナリト告ケ

更ニ関東軍ハ如何トノ大使ノ質問ニ対シ軍人中個人的ニ  
傭聘者等ノ斡旋ヲナシタルモノアルヤモ知レサルモ軍自  
体トシテハ何等関与シタルコト無シ要スルニ此等傭聘者  
ハ自ラ進テ傭聘セラレタルモノニシテ其ノ中ニハ熱心ノ  
余リ常軌ヲ逸シタルモノモアリシカ今日ハ漸次淘汰セラ  
レテ老練者之ニ代リツツアル状況ナリト説明セリ

二、次ニ本大臣ヨリ英國政府ハ日本政府力支那ニ於ケル分  
離運動ヲ奨励シ居ルカ如ク考ヘラレ居ル様子ナル処右ハ  
誤解モ甚タシト述ヘタルニ大使ハ前以テ満州国ヲ承認ス  
ヘキ旨声明スルカ如キハ同国ノ独立ヲ奨励スルト同様ナ  
リト云ヘルニ付本大臣ハ満州国ハ既ニ独立ヲ宣言シ獨立  
国トシテ存在シ居レリ從テ他國力之ヲ承認スヘキコトヲ  
声明スルモ右ハ何等獨立ノ奨励トハナラスト思考ス日本

カ今日迄満州国ノ承認ヲ実行セサル事実ハ為メニスルモ  
ノノ為メ種々悪用セラレ居ルモノノ如ク或者ハ日本ハ國  
際連盟又ハ欧米列國ヲ恐レテ承認ヲ行ヒ得サルモノナリ  
トナシ

又或者ハ日本ハ満州合併ノ野心ヲ抱キ承認ヲ為ササルモ  
ノナリト宣伝シ満州ノ人心ヲ煽動シ居レル由ナルカ日本  
ハ満州地方ニ対スル特殊ノ關係上何時迄モ満州国ニ対ス  
ル態度ヲ保留スルコト能ハサルノミナラス本件ニ関スル  
我國論ハ一定シ居リ又政府ノ態度ハ過般議會ニ於ケル首  
相言明ノ通りニシテ本大臣ハ右言明ヲ裏書キスルノ外無  
ク適當ノ時期来ラハ之ヲ決行スル心算ナリ而シテ右承認  
ノ実行ハ何等九國條約ニ違反スルモノニ非スト告ケタル  
ニ大使ハ九國條約ニ違反スルモノニ非ストノ御議論ハ重  
ニ角トシテ日本ハ同條約ニ依リ前以テ關係國ニ通告スル  
義務アルモノト思考スト述ヘタルニ付本大臣ハ前以テ関  
係國ニ相談スルノ必要ヲ認メサル旨答ヘ置キタリ

三、大使ハ本問題ニ付此ノ上突込ミテ問答スルコトヲ好マ  
サルカ如キ模様ニテ話題ヲ満州税関問題ニ転シ同問題其  
後ノ經過如何諸税関ヲ支那側ニ回収セシムルコトハ到底

望無キコトナルヤト述ヘタルニ付本大臣ハ貴説ノ通支那

側ノ回収ハ至難ナルヘク思ハル自分ハ在滿中満州国側カ

当然彼等ノ取得スヘキ諸國税力南京政府ヲ經由シテ張學

良ニ渡リ結局満州擾乱ノ財源トナルコトニ憤慨シ居リタ

ルコトヲ知り居ルモノナルカ満州国側ノ提出セル最初ノ

妥協案カ總稅務司ニ容レラレサリシノミナラス既ニ福本

ノ罷免ヲ見ルニ至リ彼等ノ憤慨ハ其極ニ達シタルモノト

思ハル我方トシテハ出来得ル限り「イングラム」ノ案ニ

依リ妥協セシメ度キ考ナリシモ前記ノ如キ状況ナルニ付

満州国ヲシテ接收ヲ了シタル税関ヲ支那側ニ返還セシム

ルコトハ望ミ難キヤニ存ス尤モ大連ニ於ケル銀行保管金

ヲ上海ニ送ルコトハナルヘク速ニ取連ハシメ度既ニ自分

ヨリモ關係ノ向キヘ尽力方ヲ申遣ハシ置キタルカ今日迄

何等回報ニ接セスト告ケタルニ大使ハ福本罷免ハ返ヘス

返ヘスモ失策ナリ尚ホ送金ノコトハ此ノ上トモ配慮アリ

度シトテ引取りタリ（尚ホ本件会谈中英國大使ハ余リ熱

ナキ様認メラレタリ御参考迄）

（本電宛先）英、米、支、北平、奉天

支ヨリ南京へ奉天ヨリ長春へ転報アリ度

英ヨリ土ヲ除ク在歐各大使及連盟ニ転電アリ度

284

昭和7年7月25日

内田外務大臣より  
在イタリア國吉田大使、在上海堀内  
臨時代理大使他宛（電報）

満州問題に關し駐日イタリヤ大使斡旋申出に

ついて

本省 7月25日後9時30分発

合第一五九〇号（暗）

満州問題ニ関シ内田大臣伊國大使会谈ノ

件（七月二十一日）

（二三文書）

二十一日往電合第一五八九号英國大使トノ会谈後伊太利大  
使來訪シ満州国承認問題ニ言及シタルカ其ノ際同大使ヨリ  
全然自分一個ノ考ナルカ日支關係改善ノ為メ何等カ妥協的  
名案無キモノニヤ自分ハ曾テ「カイロ」ニ在勤シ居リタル  
カ當時土耳其ハ埃及ニ対シ宗主權ヲ保有シ居リタルモ實際  
上ニハ兩國ハ殆ント獨立國間ノ關係ニ在リタリスル例ハ利  
用セラレサルモノナルニヤ伊國ハ日支關係ニ何等重要ナル  
交渉無キモ他日國際連盟ニテ議論沸騰スル場合ニハ公平ナ  
ル第三者トシテ兩國ノ為メ調停ノ勞ヲ執リ得ル便宜モアラ

ンカト思考ス自分モ今秋賜暇ヲ得テ帰国シ寿府ヲモ巡遊シ  
度キ考ナリト述ヘタルニ付本大臣ハ御厚意ハ深謝スルモ満  
支ノ関係ハ貴説ノ如ク簡單ニ行ハレサル事情アリ若シ兩國  
ノ間ニ何等カノ関係ヲ残サムカ支那ハ必ス之ヲ利用シ更ニ  
紛擾ヲ繰返ヘスニ至ルヘシ是多年日本カ支那トノ関係ニ於  
テ学ヒ得タル苦キ経験ニ基ク信念ナリト告ケ尚ホ大使ヨリ  
承認ノ時期ニ関シ大凡ノ見当ヲ示サルコト出来マシキヤ  
ト云ヘルニ付本大臣ハ乍遺憾何トモ申シ難ク適当ノ時期来  
ラハ何時ニテモ承認ノ心算ナリト答ヘ置キタリ

(本電宛先) 米、伊、支、北平、奉天

伊ヨリ土ヲ除ク在欧各大使及連盟ニ転電アリ度

支ヨリ南京へ、奉天ヨリ長春へ転報アリ度

285 昭和7年7月26日  
内田外務大臣より  
在米出淵大使宛(電報)

満州国の郵政接收についで

合第一五九二号(暗)  
往電合第一四三九号ニ関シ  
其後満州国側ニ於テハ奉天郵政管理局長「ボレッティ」ト

付記 七月二十八日内田外務大臣と蔣中国公使の会谈

要領

合第一六〇四号(暗)

一、二十八日支那公使来訪シ東省問題ハ日支兩國ニトリ重  
大事件ニシテ今日ノ儘ニ過キ行クコトハ誠ニ憂慮ニ堪ヘ  
ス就テハ此ノ問題ニ対スル日本政府ノ抱懷セラルル窮極  
ノ方針ヲ承ルコトヲ得ハ幸ナリト述ヘタルニ付本大臣ハ  
御説ノ通り兩國ニ取り重大事件ニ相違無キモ之ニ対スル  
帝國政府ノ方針ハ既ニ確定シ居リ何等變更ヲ許ササルノ  
ミナラス右方針ハ過日議會ニ於テ齋藤子爵ヨリ明白ニ言  
明セル次第アリ本大臣ハ之ヲ裏書キスルノ外無シト告ケ  
タリ

二、次ニ同公使ハ近頃新聞紙ノ報スル所ニ依レハ日本政府  
ハ臨時特命全權大使ヲ満州ニ派遣セラルル由ナルカ右ハ  
果シテ事実ナルヤ又事実トスレハ右全權大使ノ派遣ハ國  
際慣例ニ依リ満州国ノ承認ト見做サルヘキ次第ナリヤト  
尋ネタルニ付本大臣ハ御話ノ全權大使ノ派遣ハ不日実行  
ノコトトナルヘキモ之ハ先年オムスクニ露國政權樹立セ  
ラレタル際同地ニ臨時全權大使ヲ派遣セルト同一ノ官制

モ折衝シ穩便ニ郵政接收ノ実ヲ挙クルニ努ムルト共ニ八月  
一日ヨリ新切手使用ノ手配ヲ進メツツアリタル模様ナリシ  
カ其ノ間「ボ」ハ南京側ニ対シ前後三回ニ亘リ妥協案ヲ提  
示シ郵便業務ノ円滑ナル運用ヲ計ルヘキ旨ヲ勸告セルモ南  
京側ハ之ヲ容レス二十三日全国ノ郵便局ニ対シ満州向郵便  
物、小包郵便、為替類一切ノ受付ヲ暫時停止スヘキ旨ノ命  
令ヲ發シ又「ボ」ニ対シテハ一切ノ郵便業務ヲ停止シ局員  
全部引揚方命令シタリ右ノ結果「ボ」ハ二十四日付ヲ以テ  
同日ヨリ奉天郵政管理局管轄下各局ノ一切ノ業務ヲ暫時停  
止スル旨布告シ又上海其他支那本部各地ノ郵局ニ於テハ滿  
州向郵便物等ノ受付ヲ停止スルニ至レリ

(尚今後支那本部ヨリ欧州向ノ郵便物ハ当分海路ニ由ル事  
トナルヘシトノコトナリ)

連盟ヨリ土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリタシ

286 昭和7年7月28日  
内田外務大臣より  
在米出淵大使、在英國沢田臨時代  
理大使他宛(電報)

満州国承認問題に関する蔣中国公使との会谈  
について

ニ依ルモノニシテ右全權大使ハオムスク政府ニ対スル信  
任状ヲ持参セルニ非スシテ帝國限リニテ任命シ外交問題  
ノ交渉ニ当ラシメタルモノナリ今回満州ヘノ派遣モ右ノ  
例ニ倣フ次第ナリト答ヘ置キタリ

本電宛先 英、米、支、北平、奉天、広東

英ヨリ土ヲ除ク在欧各大使ニ転電シ仏ヲシテ連盟ニ転  
電セシメラレタシ

支ヨリ南京へ、奉天ヨリ長春へ転報アリ度

(付記)

公使

東三省問題ハ日支兩國ニトリ重大事件ニシテ今日ノ儘ニ  
過キ行クコトハ誠ニ憂慮ニ堪ヘサルモノナリ就テハ此問  
題ニ対スル日本政府ノ抱懷セラルル窮極ノ方針ヲ承ルコ  
トヲ得ハ幸ナリ

大臣

御説ノ通誠ニ兩國ニトリ重大事件ニ相違無キモ之ニ対ス  
ル帝國政府ノ方針ハ既ニ確定シ何等變更ヲ容ササルノミ  
ナラス之ノ方針ハ過日議會ノ決議ニ対シ總理大臣兼外務  
大臣タル齋藤子爵カ明確ニ言明セラレ既ニ公知ノ事実タ

リ本大臣ハ之ヲ裏書キスルノ外無ク全然同意見ナリ  
公使

近頃新聞ノ報スル所ニ依レハ日本政府ハ臨時特命全權大使ヲ滿州ニ派遣セラルル由ナルカ右ハ果シテ事實ナルヤ又事実トスレハ右ハ全權大使ヲ派遣スル國際慣例ニ依リ滿州國ヲ承認セラルルモノト見做スヘキモノナルヤ

大臣

不日右全權大使ヲ派遣スル事トナルヘキモ之ハ先年オムスクニ露國政權樹立セラレタル時同地ニ臨時全權大使ヲ派遣スル必要アリテ制定セラレタル官制ニ依ルモノナリ右全權大使ハオムスク政府ニ対スル信任状ヲ持參セルニ非スシテ帝國限りニテ任命シ外交問題ノ交渉ニ当ラシメタルモノナリ今回滿州ヘ派遣モ右ノ例ニ倣ヒ派遣スルモノナリ

公使

御説明ニ対シ謝意ヲ表ス右ハ南京政府ニ電報スル考ナリ

大臣

何等異議ナシ

ル所ナリト信ス臨時特命全權大使滿州派遣ノ件ハ過般貴公使御來訪御質問ノ際本大臣ヨリ非公式ニ説明シ置キタル通り大正六年勅令第六十四号ニ基ク施設ニ有之前記全權大使ハ信任状ヲ持參スルコトナク單ニ帝國限りニテ任命スルモノニテ既ニ先例モアリ何等國際條約ニ違反スルモノニハ無之旁々貴翰御抗議ノ次第ハ毫モ根拠ナキモノト認メ候右回答旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

(付屬書)

申字第二〇五号 (訳文)

拜啓 陳者日本カ駐滿特命全權大使ヲ派遣スルノ件ニ関シテハ七月二十八日本公使貴大臣ト面談ノ節貴大臣ハ承認ノ意ヲ含マサル旨御声明セラルル処アリタルカ只今本國政府ヨリ中國政府ハ終始東省ノ偽組織ハ日本軍隊ノ不法占領下ニ造成セラレタルモノト認メ居ル処現在日本政府ハ竟ニ中國領土内ノ偽組織区域ニ全權大使ヲ派遣シ職務ヲ行使セシムルハ承認ヲ行フニ近キノミナラス且國際條約ノ絶対ニ許ササル処ニシテ中國政府ハ日本政府ニ対シ抗議ヲ提出セサルヲ得サル旨電報アリタルニ付右様御了知相成度此段照会ス

287

昭和7年8月3日

内田外務大臣より  
在本邦蔣(作賓) 中国公使宛

臨時特命全權大使の滿州派遣について

付屬書

七月三十日付在本邦蔣中国公使より内田外務大臣宛申字第二〇五号訳文

駐滿特命全權大使派遣に対する抗議について

亜一普通第一三七号

昭和七年八月三日

内田外務大臣

在本邦 中華民國公使

駐滿特命全權大使派遣ニ関スル件

以書翰致啓上候陳者客月三十日付申字第二〇五号貴信ヲ以テ貴國政府ハ現下滿州ニ於ケル政治組織ヲ以テ帝國軍隊ノ不法占領ノ下ニ造成セラレタルモノト認メ居レリトカ又帝國政府カ滿州ニ臨時特命全權大使ヲ派遣スルハ國際條約ノ許ササル所ナリトカ等ノ趣旨御申越ノ次第有之候処滿州ニ於ケル帝國軍隊ノ行動カ米國側ノ挑発侵害ニ対スル自衛權ニ基クモノナルコト及滿州國ノ成立ハ同地住民ノ自發的行爲ニ出テ我方ノ何等關係ナキコトハ累次宣明シ置キタル通りニシテ右貴信御申越ノ次第ハ帝國政府ノ断シテ容認セサ

中華民國二十一年七月三十日

中国特命全權公使 蔣 作 賓

外務大臣伯爵 内田康哉閣下

288

昭和7年8月4日

在奉天森島總領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

旧張學良政權の外国人債務整理について

奉天

本省 8月4日後着

第一一五〇号 (暗)

往電第一〇六四号ニ関シ

旧政府ニ対スル債權ニ付外国人債權者モ最近著シク苛立チ來レル為英米總領事館ヨリモ累次商工処ニ対シ債務ノ現実支払ハ兎ニ角債務整理ニ関シ至急声明ヲ発スル等一応債權者ヲ安心セシムル方法ヲ講スル様申入レタル趣ナルカ三日金井總務厅长ノ館員ニ語ル処ニ依レハ右声明ニ付長春ト協議中ニテ近ク何等具体的結果ヲ見ル可キ由ナリ尚機微ノ關係モアリ声明ノ点極秘ニ願ヒ度シ

支、北平、長春へ転電セリ

289 昭和7年8月4日

在長春田代総領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

海関接收に関する満州国側最終対案について

長春 8月4日後発  
本省 8月4日後着

第四六四号(暗、至急)

貴電第一七七号ニ関シ

満州国ノ対案左ノ通電報ス右ハ満州国ノ最後案ナリトノコトナリ

一、大連関以外ノ満州各関ノ原状恢復ハ絶対ニ之ヲ認容セサルコト

二、大連ニ付テモ唯単ニ日本ノ満州国承認迄ノ暫定的ノ処置トシテ原状恢復ヲ認ムルモ承認後ニ於テハ満州国ハ之ヲ満州国ノ海関トシテノ完全且排他的ナル統轄ニ帰セシムルコト

三、此ノ期間内大連関ニ関スル限リニ於テモ満州国ニ取リテ不利益ト認メラルル徴税規則ノ変更其他一切ノ行為ハ絶対ニ認めサルコト

四、福本海関長ノ罷免ヲ取消シ従前通りノ待遇ヲ以テ原職

ニ復活セシムルト共ニ福本ニ殉シ辞表ヲ提出シタル者モ凡テ同様復職セシムルコト尚福本ニ於テ事件後新タニ採用セル者モ其儘引続キ使用スルコト

五、<sup>(2)</sup>此ノ期間内大連関ノ人事ニ関スル一切ノ事項ハ満州国ト協議シテ之ヲ行フコト尚満州国ハ大連関ノ現在関員(財政部関税徴収所ニ勤務スル者ニシテ事件後新タニ雇傭セル者ヲモ含ム)ヲ満州国官吏トシテ任命シ適当ノ指揮命令ヲ為スノ権利ヲ留保ス

六、大連関ノ收入中ヨリ其経費及全満各関ノ外債担保部分ヲ控除シタル残額ハ全部満州国ノ收入トスルコト

七、海関収入ヲ担保トスル外債ノ償還事務ニハ満州国官吏又ハ満州国ノ推薦スル者ヲ之ニ関与セシムルコト

支、北平、奉天、関東長官へ転電セリ

290 昭和7年8月6日

在長春田中総領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

ソ連人の暫行入国手続案制定について

長春 8月6日後発  
本省 8月6日後着

第四七一号(暗)

大橋ノ内話ニ依レハ満州国領事館ヲ蘇領内ニ設置ノ問題ハ

今尚行悩ノ状態ニアルヲ以テ蘇連国人入国査証ノ途無ク為

ニ從來蘇連人ノ入国ニ付屢紛争ヲ惹起シタルニ鑑ミ今般外交部ハ別電第四七二号要旨ノ通り蘇連人入国手続案ヲ暫行

的ニ制定シ近ク閣議ノ通過ヲ俟テ実施セラルル筈ナリトノコトナリ

支、北平、奉天、哈爾賓、満州里へ転電セリ

291 昭和7年8月8日

内田外務大臣より  
在岡田岡田総領事、在安東米沢領事  
他宛(電報)

武藤陸軍大将の関東軍司令官・特命全権大使

および関東長官任命について

合第一六四九号

「普通情報」

往電合第一六〇九号ニ関シ

八月八日武藤陸軍大将ヲ関東軍司令官ニ補シ兼ネテ特命全権大使及関東長官ニ任セラレタリ尚ホ武藤全権大使ニ対シ満州出張ヲ仰付ケラレタリ(右満州出張仰付ケラルハ本件特命全権大使カ臨時的ノモノナルコトヲ表ス次第ナリ)

(編注)

本電報は「牛莊、遼陽、鉄嶺、長春、鄭家屯、奉天、吉林、哈爾賓、北平、天津、青島、濟南、支、漢口、仏、露、浦塩、米、伯、マニラ、新嘉坡、亜港、哈府」にも発電された。

292

昭和7年8月9日

在長春田中総領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

各部総長の権限拡張案閣議提出の報道について

第四八二号(暗)

長春 8月9日後発  
本省 8月9日後着

新聞所報ニ依レハ臧式毅、謝介石、馮涵清三総長ハ総務長官ノ権限縮小、各総長権限拡張ヲ内容トスル改革案ヲ八日閣議ニ提議セリトノ事ナルカ調査ノ結果ニ依レハ支那人間ニハ右様ノ空気多少有ルモ右ハ事実ニ非スシテ從來国務總理ノ副署ニ依リ処理セラレタルモノヲ今後所轄総長ノ副署ヲモ要スル事ニ改メタシトノ意見ヲ表示シタルニ過キスシテ右トテ未タ決定ヲ見サリシモノナリトノ趣ナリ御参考迄支、北平、奉天へ転電セリ

昭和7年8月9日 外務省

在満日本諸機関の統一について

在満帝国諸機関統一ニ関スル件（七、八、九）

(一) 満州ニ於ケル所謂四頭政治統一問題ハ從來ヨリ屢々企画セラレタルモ今日迄其ノ実現ヲ見ルニ至ラサリシ次第ナリ然ルニ満州事変以後ニ於ケル事態ノ発展ニ鑑ミ政府ハ右統一実現ノ緊要ナルヲ認め種々審議ヲ遂ケタルカ其ノ際勅令ノ改正ニ依リ現在諸機関ノ機能ヲ包括スル単一機関ヲ新設スヘシトノ考案モアリタルモ此ノ際斯種機関ヲ新設スルコトハ満州国ニ与フル感触等種々機微ナル考慮ヲ要スルモノアリ旁々将来在満帝国諸機関ノ完全ナル統一ヲ促進セムコトヲ期スルモ差当リ左記要綱ニ基キ現行制度ヲ運用シ以テ暫行的ニ事務ノ統一ヲ図ルコトニ決シ八月八日武藤陸軍大将ハ関東軍司令官ニ補セラレ兼テ特命全權大使及関東長官ニ任セラレタリ尚ホ武藤大使ハ同日付ヲ以テ満州出張ヲ仰付ケラレタルカ右ハ本件大使カ臨時的ニ派遣セラルルモノナルコトヲ示スモノナリ

一、関東軍司令官、関東長官及満州派遣臨時特命全權

大使ハ事実上同一人ヲ以テ之ニ充ツ

二、関東庁官制ハ特ニ変更ヲ加フルコトナク現行ノ儘トス

三、特命全權大使ハ外務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ外交事項ヲ管掌シ且在満帝国領事官ヲ指揮監督ス

四、特命全權大使ニ随員ヲ付ス

在職ノ官吏ニシテ大使ノ随員ヲ命セラレタルモノハ其ノ官ノ定員外トスルコトヲ得

大使及必要ナル随員ノ給与ニ関シテハ別ニ勅令ニ依リ之ヲ定ム

五、関東軍特務部ハ従来通り之ヲ存置シ其ノ部員ヲシテ特命全權大使ノ随員ヲ兼ネシムルコトヲ得

六、南満州鉄道株式会社ノ教育、衛生、土木ニ関スル事務ハ当分ノ内従来通り南満州鉄道株式会社ヲシテ之ヲ行ハシム

(二) 本件特命全權大使ノ満州派遣ハ「特ニ重要ナル任務ヲ処理スル為メ外交官ヲ外国ニ派遣スル必要アルトキハ其ノ任務ノ終了ニ至ル迄ノ間臨時ニ特命全權大使又ハ特命全權公使ヲ置クコトヲ得ル」旨ヲ定メタル大正六年勅令第

六四号ニ依レルモノナリ帝国政府ハ大正八年「オムスク」政府承認問題ノ喧シカリシトキ同政府トノ接触ヲ保タンカ為メ前記勅令ニ依リ加藤大使ヲ「オムスク」ニ派遣セルコトアリ而シテ同大使ハ「オムスク」政府ニ対スル信任状ヲ持参セス単ニ帝国限りニテ任命セラレタル訳ナルカ今回モ右前例ニ倣ヘル次第ニシテ本件大使ノ満州派遣ハ満州国ノ正式承認トハナラサルモ少クモ正式承認ニ至ル準備ノ一ト認めラルヘキモノナリ

〔編注〕「在満機関統一要綱」七月二十六日閣議決定

昭和7年8月17日

在長春田中総領事代理より  
内田外務大臣宛（電報）

中央銀行の営業状況について

長春 8月17日後発  
本省 8月17日後着

第五〇八号（暗）

中央銀行五十嵐理事カ大島ノ質問ニ対シ内話左ノ通

一、中央銀行ノ前身タル旧東三省官銀号ノ米因「ナシヨナルシチー」ニ対スル預金ハ当然中央銀行ノ継承ス可キモノナルカ不法ニモ米因側ハ言フ左右ニシテ之カ支払ヲ肯

ンセサル為其儘トナリ居リ目下成行ヲ見通中ナルモ何等カ有効ナル対策ノ必要ヲ痛感シ居レリ

二、中央銀行ノ営業状態ハ大体「スムース」ニ進ミ居ルカ一部ニハ目前ノ拙イ材料ノミヲ捉ヘ其ノ将来ニ付極メテ悲觀的ナル向無キニ非ス右觀測ノ失当ナル事最近紙幣相場ノ優勢ナル昂騰ニ徴シ明カナル可ク自分モ素ヨリ此ノ程度ヲ以テ満足ス可キモノト思惟シ居ル次第ニハ非サルモ大局上ヨリ樂觀シ居レリ

三、目下日本造幣局ニ委嘱シ準備中ナル中央銀行新紙幣中本年ハ五角及十円兩券ヲ市面ニ出ス積リナルカ前者ハ九月一日ヨリ後者ハ特産出廻期迄ニ使用開始ノ予定ナリ其他ハ時々必要ニ応シ流通セシムル考ヘニテ全部ノ新紙幣ノ出揃フハ明年トナル可シ尚中央銀行ニ於テ回収セル旧政權発行ノ紙幣ノ処分ハ目下吉林支店ニ於テ吉林勘定ノ償却ヲ実施シ居ルヲ初メトシテ近ク奉天、哈爾賓、齊々哈爾各支店ニ於テモ同様方法ニ依リ夫々回収紙幣ノ処分ヲ開始スル筈ナリ

四、旧東三省官銀号ノ上海及天津等ノ支店ハ全然中央銀行ノ「コントロール」外ニアリ從テ同方面ニ対スル満州国



側ノ送金ハ現在正金ヲ通シ行フノ外途無キ次第ナルモ目下中央銀行自体ノ機関タル支店ノ開設ニ対シ何等考慮シ居ラス云々

支、北平、天津、奉天、吉林、哈爾濱、間島、齊々哈爾へ  
転電セリ

295 昭和7年8月18日 ※在パリ沢田連盟事務局長より  
内田外務大臣宛(電報)

満州国承認は慎重を要する旨意見具申についで

パリ 8月18日後発  
本省 8月19日前着

第七四号(暗、至急極秘)  
長岡理事ヨリ

吉田大使帰朝ノ途次当地立寄ノ機会ニ佐藤大使其他関係官ト満州問題ニ関シ篤ト協議ヲ重ネシニ付其梗概ヲ左ニ具申シ御考量ニ供ス

一、帝国カ他国ト没交渉ニ单独ニテ満州国ヲ承認スルノ利害得失ハ慎重ナル考究ヲ要スル問題ナリ帝国ノ承認ニ依リ満州国ノ事態ヲ或程度迄安定セシムルノ効果ハ有之へ

(一) 満州国カ国際連盟ノ一員トシテ之ニ加入ヲ許サルル迄支那ハ満州国ノ領域ニ対シ從來通り其主権ヲ保有スルコト但シ該領域ニ於ケル主権ノ行使ハ満州国ニ專屬スルコト支那ハ直接ノ方法タルト間接ノ手段タルト問ハス又其官憲ニ依ルト然ラサルトヲ論セス満州国及其国民ニ対シ其權利利益ヲ害シ若クハ害セムトスル一切ノ行為ヲ為サス又之ヲ取締ルヘキコト支那カ前項義務ニ違反シタル場合ニハ第一項ノ規定ニ拘ラス満州国領域ニ対スル其主権ヲ喪失スルコト

(二) 満州国カ其発達ニ鑑ミ日本ノ仲介ヲ經テ連盟ニ加入ヲ要求セルトキハ連盟国ハ其加入ヲ容易ニスル為之ニ充分ナル好意的考量ヲ加フヘキコト

(三) 満州国ニ有益ニシテ且其発達ヲ助長スル為日本ハ同国ト援助条約ヲ結ビ行政財政軍事其他各般ノ助言及援助ヲ滿州国ノ自主権ヲ犯ス事ナク与フヘキコト

三、前記(一)第一項ハ「セーブル」条約第六九条ヲ基礎トセルモノナレハ英仏伊等ハ之カ不合理ヲ主張シ得サルヘク(三)ハ英國カ「イラク」ト結ヘル一九二二年ノ条約第一条ニ則リタルモノナリ尚右以外ニ同条約第五条ノ趣旨乃至

キモ支那ハ必スヤ直接間接ニ同国ノ治安靜謐ヲ攪乱スルノ策謀ヲ廻ラスヘク加フルニ今ヨリ凡ソ予想シ得ル通り列強ハ我承認ニ追隨セサルニ付滿州国民心ノ不安ハ依然繼續スヘク单独承認ヲ為シ拔キ差シナラヌ破目ニ帝國ヲ置クノ代償ハ極メテ輕微ナルモノト予期セサルヲ得ス幸ヒニ同国發展シ其ノ国民力支那ニ往來シ其貨物カ支那ニ多量輸入セラルル氣運ニ向フモ支那ノ策動容易ニ止マス「ボイコット」其他ノ障礙絶エサルニ於テハ滿州国ノ將來ハ甚タ寒心スヘキ事態ニ置カルヘシ故ニ同国ヲ盛り立テ飽ク迄其ノ独立ヲ援助セントスル帝國トシテ第一ニ考慮セサルヘカラサル要点ハ如何ニシテ支那ノ反滿政策ヲ除去シ進テ如何ニシテ連盟ヲ通シ列強ノ諒解ヲ取付クヘキヤニ在リ若シ之カ為例ヘハ或期間滿州国ノ領土上ニ支那主権ノ存続ヲ認ムルモ其ノ実体カ無害タルニ反シ前記ノ利益ヲ取得スル見込アルニ於テハ大局の見地ヨリ名ヲ棄テ実ヲ取ルノ方策ニ出ツル方遙ニ利益ナリト思考セラ

ル  
二、以上ノ見地ヲ基点トシテ具体案ヲ試ミニ列挙スレハ概ネ左ノ通り

支那ト諸外国トノ既存条約ノ尊重(滿州国ノ發展ニ從ヒ之等条約ノ改訂要求權ヲ留保セハ更ニ可ナラム)門戸開放及機會均等ノ主義ヲ確認スルモ不可ナカルヘシ

四、右ノ考案ハ専ラ一、ニ述ヘタル大局觀ニ基ケルモノナルカ其ノ結果ハ略々「クロードル」將軍カ殊ニ十二日貴大臣ニ対シ開陳シタル意見(貴電合第一五四八号ノ四)ト合致シ偶々連盟ニ対スル讓歩トモ見ラレ得ヘキニ付「リットン」委員會ノ共鳴ヲ期待シ得ヘキカト思ハル

五、殘ル問題ハ之迄单独承認ヲ高調シ來リシ帝國カ如何ニシテ其ノ面目ヲ立テ又輿論ヲ收拾シ得ルヤニアル処委員會ノ報告提出後殊ニ論難ノ末妥協案トシテ本案ヲ提議スルニ於テハ支那ハ勿論小国側ノ容喙多ク其基礎ニ於テ本件ヲ纏メ得ル望甚タ少ナルヘク仮ニ本案其ノ儘ヲ成立セシメ得タル場合ニモ帝國外交ノ失敗タルノ觀ヲ呈シ我輿論ノ支持ヲ期待シ得サルヘキヲ惧ル就テハ今ヨリ進シテ委員會ト折衝シ要スレハ其ノ本國政府ノ諒解ヲ取付ケ我方ノ提案ナリトシテ之ヲ報告書中ニ記入セシメ之カ採用ヲ連盟ニ推奨セシメ得ルニ於テハ帝國ノ輿論モ之ヲ諒トシ又委員會モ其面子ヲ救ハルルノ結果トナルヘシ

六、仏宛電報第三七三号御来示ノ通啓發運動ノ実行ハ焦眉ノ必要ニ迫リ居リ満州問題ノ善後処置ニ関スル輪廓ヲ承知スルコト極メテ必要ナルニ付テハ一日モ速ニ右御決定御示達ニ接スル様致度此ノ儀併セテ稟申ス  
英米へ転電シ伊へ暗送シ独、白、露へ転報セリ

296 昭和7年8月19日 内田外務大臣より  
在英米諸国駐在臨時代理大使、在米出  
淵大使宛(電報)

満州国承認手続について

合第一七〇一号 暗、極秘  
往電合第一六四九号ニ関シ  
武藤全権ハ二十日東京発満州ニ赴キ同地到着ノ上ハ満州国政府ト日滿議定書締結ニ関スル交渉ヲ開始スル筈ニテ帝国ハ右議定書ノ締結ニ依リ(正式調印ハ多分九月中旬ノ見込)満州国ヲ承認スル次第ナル処同議定書案ハ十九日閣議ニテ別電合第一七〇二号ノ通決定シタリ右貴官限リ極秘ノ御含迄  
別電ト共ニ英ヨリ土ヲ除ク在欧各大使及連盟ニ転電アリタシ

出ツルカ如キコトアラムカ當ニ我方ノ対外的主張一貫セサルコトナリ我方ノ足許ヲ見透サルル虞アルノミナラス内政上等ニモ意外ノ紛糾ヲ招来スヘキニ付出先ニ於テモ右趣旨ヲ体シ此上共帝国ノ立場擁護方ニ付啓發其他万遺憾ナキ様善処セラレ度  
訓令トシテ土ヲ除ク在欧各大使ニ転電シ露ヨリ吉田大使ニ伝達セシメラレ度  
桑港ニ転電シ訓令トシテ出淵大使ニ伝達スルト共ニ米ニ転電セシメタリ

298 昭和7年8月23日 ※在長春田中総領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

在満領事制度の根本的改革について

長春 8月23日後発  
本省 8月24日前着

第五三〇号 (暗、部外極秘)  
大橋及神吉ヨリ

満州各地ニ新ニ領事館ヲ設置サレ又現ニ欠員中ノ哈爾賓、長春等ニ正式総領事ヲ任命方御考慮ノ模様ナル処新国家内部カ事実上日本人ニ依リ「コントロウル」セラレ居ル現状

別電ト共ニ支、北平、奉天、長春ニ転電セリ

297 昭和7年8月22日 内田外務大臣より  
在パリ田中連盟事務局長宛(電報)

満州国承認問題に関する政府方針について

本省 8月22日後8時発

第六七号 (暗、極秘)

満州国承認ノ件

貴電第七四号ニ関シ

満州国承認問題ニ関シテハ政府ハ前回ノ議會ニ於テ其ノ方針ヲ宣明シ爾來右方針ノ下ニ諸般ノ關係ヲ処理シ来リタル次第ナルカ武藤大使着任ノ上ハ満州国側トノ間ニ条約締結ノ交渉ニ着手シ右締結ノ上之ヲ以テ満州国ニ対スル我方ノ正式承認トナスコトニ決定セルコト往電合第一七〇一号ノ通ナリ尚本大臣ハ二十五日議會(二十二日開會)ニ於ケル施政演説ニ於テ帝国ノ立場殊ニ其ノ満州国承認力正当且適法ナルコトヲ詳述スル筈ニテ(演説「テキスト」近ク電報ス)今後モ該演説ノ「ライン」ニ依リ飽迄強硬ニ我方ノ立場ヲ主張シ行ク考ナリ  
右ノ次第ニテ今更政府ニ於テ敍上ノ趣旨ニ矛盾スル措置ニ

ニ於テ領事ニ依リ權益擁護ノ必要漸次少ク居留民モ領事館ヨリモ寧ろ新国家ノ日本人ニ頼ル結果トナリ依テ領事ト新国家地方機關トノ間ニ氣マツキ關係ヲ生シ領事ハ概ネ最モ不愉快ナル立場ニ在ルノ已ム無キニ至ルヘク旁此ノ際本省ニ於テ在満領事制度ノ根本的建直シヲ御考慮セラルル必要アルヘク尚又將來治外法權撤廃ノ咄ニハ警察官モ不要ニ帰スヘク去リトテ之ヲ全部新国家ニ收容スル事モ軍部ノ憲兵出身者採用ノ方針並ニ新国家ノ財政上ヨリ觀テ極メテ困難ナリト思考スルニ付領事館並ニ警察官ノ処分問題ニ関シ御熟考相成度尚新聞所報ニ依レハ全權隨員モ相当多數ニ上ル模様ナルカ之モ当地ノ実情ニ鑑ミ極メテ少数ニテ事足ルノミナラス其地位モ相当困難ナルモノアルヘシト推察セラル

299 昭和7年8月25日 内田外務大臣議會演説

第六十三帝國議會における内田外相の満州国承認方針に関する演説

第六十三回帝國議會ニ於ケル内田外務大臣演説

(昭和七年八月二十五日)  
帝國ノ重要外交案件ニ付マシテハ、去ル六月ノ帝國議會ニ

於テ前任者ヨリ報告ヲ兼ネ所見ヲ開陳シタル次第ガアリマスガ、其ノ後滿蒙問題ノ重要ナル發展ニ顧ミ滿蒙及支那本部ニ関スル帝國政府ノ所見並ニ方針ニ付詳細申述ベマシテ諸君ノ御清聴ヲ煩シタイト思ヒマス。

滿州国ガ益々健全ナル発達ノ道程ヲ辿ッテ居リマスノハ御同慶ノ至リデアリマス。帝國政府ハ新國家ニ対スル承認ヲ以テ滿蒙ノ事態ヲ安定シ延テ極東ニ於ケル恒久的ノ平和ヲ招来スベキ唯一ノ解決方法ト認ムルモノデアリマス。仍テ政府ハ速ニ滿州国ヲ正式ニ承認スル決意ノ下ニ目下着々準備ヲ整ヘテ居ルノデアリマシテ、右準備整ヒ次第不日承認實行ノ筈デアリマス。

然ルニ外國ニ於ケル一部人士中ニハ今尚支那ニ対スル帝國ノ態度、殊ニ九月十八日事件ノ發生以來帝國ノ執リ来リシ措置ヲ充分ニ諒解セズ、又ハ滿州国ノ成立ニ付正当ナル認識ヲ欠キ、剩サヘ帝國ノ滿州国ニ対スル承認ヲ以テ不法視スルガ如キ所說ヲナス者ガアリマスルニ顧ミ、私ハ此ノ機會ニ於テ從來政府ノ累次宣明シ来ツタ所ト重複スルヲ厭ハズ、是等諸點ニ関スル我方ノ立場ヲ明カニスルト共ニ、前述ノ如ク帝國政府ガ滿州国ノ承認ヲ以テ滿蒙問題解決ノ唯

極度ノ自制ト忍耐トヲ示シ来ツタノデアリマス。而モ支那側ハ我が寛大ナル態度ニ応ゼムトスル誠意ナク、我方ニ対スル輕侮ト排斥トハ却テ益々甚シキヲ致シタノデアリマス。帝國政府ハ支那側ニ対シ日本國民ノ忍耐ヲ試サムトスルガ如キ態度ノ極メテ危険ナルコトヲ、幾度トナク警告シタノデアリマスガ、寸毫モ改善セラルル所ナキノミナラズ、却テ愈々悪化シマスル一面、忍耐ニ忍耐ヲ重ネ来ツタ日本國民ノ感情ガ遂ニ極度ニ尖鋭化スルニ至リマシタ折柄、帝國ノ生命線タル滿蒙ニ於テ彼ノ九月十八日事件ノ發生ヲ見ルニ至リ、我方ニ於テハ敢然トシテ正当防衛ノ行動ニ出ヅルノ外ナカツタノデアリマス。

然ルニ右帝國ノ行動ヲ以テ不戰條約ニ違反スルモノナルヤノ所說ヲナス者ガアリマスガ、斯ノ如キハ全ク事實ニ即セザル主張デアリマス。帝國ノ存立ト重大ナル關係ヲ有スル權益ニ対スル支那側ノ暴戾ナル侵害ニ対シ、我方ニ於テ真ニ已ムヲ得ズシテ起チ、之カ防止ニ必要ナル行動ニ出デタモノナルコトハ前述ノ通デアリマス。不戰條約ハ此ノ種ノ場合ニ於ケル自衛權ノ行使ヲ制限スルモノデハアリマセヌ。即チ同條約ハ締約国ガ其ノ判斷ニ基キ自國ノ領土及一

一ノ方法ト認メマスル所以ノ梗概ヲ述ベテ諸君ノ御諒解ヲ得テ置キタイト思ヒマス。

抑モ近年極東ニ於ケル國際關係惡化ノ主要ナル原因ガ、支那ノ混亂セル狀態ニ加フルニ過激思想ノ顯著ナル影響ヲ受ケタル排外的革命外交ノ遂行ニ存スルコトハ何人モ争ヒ難イ所デアリマス。而シテ右支那ノ異常ナル狀況ニ依ル最大ノ被害者ガ日本デアルコトハ申ス迄モアリマセンガ、其ノ他ノ列國モ亦忍ブ可カラザル侮辱ト堪ヘ難キ災害ヲ蒙リ来ツタ次第デアリマス。然ルニ斯ノ如キ事態ノ匡正ヲ、連盟規約其ノ他所謂平和維持機關ニ求ムルノ至難ナルコトハ苟モ支那ノ実情ニ通ズル者ノ直ニ首肯シ得ベキ所ト信ジマス。現ニ列國ハ其ノ在支權益ニ対スル侵害ヲ受ケ又ハ受クル虞アル場合ニハ、是等ノ機關ニ依頼スルコトナク直接其ノ自力ヲ以テ之ガ匡救又ハ予防ヲ計ルコトヲ常トシテ居ルノデアリマシテ、最近ノ事例ノミヲ數フルモ枚挙ニ遑ナキ有様デアリマス。

我國ハ支那ガ穩健着実ナル方法ニ依リ其ノ國運ヲ挽回シ、進ンデ極東ノ平和ニ対スル同國ノ使命ヲ果シ得ル日ノ速ニ到来セムコトヲ衷心希望シツツ、二十余年ノ久シキニ亘リ

切ノ權益ニ対スル危険ヲ防止スル為、必要ト認ムル措置ヲ執ルコトヲ禁止シテハ居ラナイノデアリマス。又右自衛權ノ行使ハ行使國ノ領土外ニ及ビ得ルモノナルコト明デアリマス。帝國ノ行動ハ他ノ列國ガ同様ノ場合ニ執リマシタ措置ト其ノ本質ヲ同ウスルモノデアリマス。

右ノ如ク我方ニ於テ自衛行動ニ出デマスルヤ、張學良政權ニ屬シテ居リマシタ官吏ノ大部分ガ或ハ逃亡又ハ辭職シ、該政權ノ事實的解消ヲ見ルニ至リマシタコトハ御承知ノ通りデアリマス。

然ルニ滿蒙ニ於キマシテハ、予テ同地方ヲ以テ支那本部ニ於ケル内乱ノ渦中ニ投ズルコトニ反対シ、且累年ニ亘ル張家ノ惡政ヲ憎惡スル有識人士ノ間ニ、政治改革ノ機運ガ醗酵シツツアツタノデアリマスガ、是等人士ハ右張學良政權倒壞ノ機會ヲ利用シ現實ノ運動ニ着手シタノデアリマス。

即チ前述張學良政權ノ事實的解消ノ結果、奉天、哈爾濱等ニ治安維持會ガ成立シマシタガ、我方トシテハ滿蒙ニ於ケル治安維持ノ責任上は等維持會ニ対シ必要ノ援助ヲ客マナカツタノデアリマス。然ルニ是等維持會關係ノ要人等ハ此ノ情勢ニ応ジ蹶然起ツテ遂ニ新國家ヲ創建スルニ至ツタノ

デアリマス。要スルニ滿州国ノ成立ハ同地方ガ支那本部ニ對シテ有スル地理的、歴史的及住民心理上ノ特異性ヲ背景トセル獨立運動ノ結果ニ外ナラナイノデアリマス。

或ハ新國家ノ成立ヲ以テ我軍事行動ノ結果ナリトシ、之ニ對スル責任ヲ帝國ニ歸セムトスル者モアリマスガ、斯ノ如キハ前述ノ事情ヲ認識セザルニ基クモノデアツテ、我方ノ承認シ得ベキ限リデアリマセヌ。又滿州國政府ニ多數本邦人ノ在職シテ居ル事實ヲ以テ、新國家ノ成立ニ帝國ガ何等カノ關係ヲ有シ居ルヤニ邪推スル者モアリマスガ、建國草創ノ際外國人ノ技能ヲ利用スルコトハ幾多ノ先例ガアルノデアリマス。現ニ我國ノ如キモ明治維新後多數ノ外國人ヲ官吏又ハ顧問トシテ僱聘シテ居ツタノデアリマシテ、例ヘバ明治八年頃ニ於ケル是等外國人ノ總數ハ五百名ヲ超過シテ居タノデアリマス。要スルニ個人タル本邦人ガ滿州國政府ニ在職セル事實ヨリシテ、前述ノ如キ邪推ヲ為スハ僻見モ甚シキモノデアリマス。

滿州國ノ成立ガ支那内部ノ分離運動ノ結果ナルコトハ以上詳述ノ通デアリマス。然ルニ斯ノ如クニシテ成立セル既存ノ新國家ニ對スル帝國ノ承認ヲ以テ、九國條約ノ規定ト違

所以ニ言及シタイト思ヒマス。

滿蒙問題ノ解決ニ關シ帝國政府ノ最モ重キヲ置キマスル所ハ、第一ニ其ノ住民ノ正當ナル要望ガ充タサレ且帝國ノ權益ガ確保サルルト共ニ、苟モ旧來ノ排外的施設ノ再現ヲ防止シテ同地方ニ内外人安住ノ樂土ヲ築キ以テ滿蒙自体ノ安定ハ勿論、進ンデ極東ニ於ケル恒久的の平和ノ招來ヲ期スルコト、及第二ニ感情論又ハ抽象論ヲ排シ、滿蒙ニ於ケル現實ノ事實ヲ基礎トシテ問題ノ解決ヲ期スルコトノ二点デアリマス。我々ハ滿州事變ノ勃発ヲ見ルニ至リマシタ過去ノ経緯及從來滿蒙ニ對シ我國ノ弘ヒマシタ絶大ノ犠牲ニ顧ミ、右二点ニ即シテ滿蒙問題ノ根本的解決ヲ計リ、以テ日支間永年ノ禍源ヲ一掃スルノ要アルコトヲ痛感スルモノデアリマス。然ルニ近時支那本部政權ヲシテ何等カノ形式ニ依リ滿蒙ニ關係セシムルコトトシ、以テ一時ヲ糊塗セムトスル解決案ヲ考慮スル向モアル様デアリマスガ、斯ノ如キハ究極スル所九月十八日事件以前ノ狀態ヲ繰返ス結果ニ終ルベキコト、我々永年ノ經驗ニ顧ミ何等疑ヒナイ所デアリマシテ、日本國民ハ右ノ如キ解決案ニ断ジテ賛成スルモノデアリマセヌ。又支那本部政權ノ滿蒙進出ハ如何ナル形

反ストノ主張ヲナス者モアリマスガ、右ハ甚ダ不可解ナル議論デアルト思ヒマス。九國條約ハ前述ノ如キ支那ニ於ケル分離作用、即チ支那ノ一地方ノ住民ガ自己ノ發意ニ依ツテ獨立國ヲ建設スルコトヲ禁止スルモノデアリマセヌ。

從テ九國條約當事國タル帝國ガ滿蒙ニ於ケル住民ノ發意ニ依リ成立シマシタ既存ノ滿州國ヲ承認シマシテモ、同條約ノ規定ニ牴觸スルコトハナイノデアリマス。固ヨリ我方ニ於テ滿蒙ノ併合其ノ他同地方ニ對シ領土慾ヲ満足セシメムトスルガ如キ假定ノ下ニ於テハ問題ハ別デアリマス。然シ乍ラ帝國ガ滿蒙ニ對シ何等ノ領土的異圖ヲ有セザルコトハ今更多言ヲ要シマセヌ。

以上ヲ以テ私ハ支那ニ對スル帝國ノ態度殊ニ九月十八日事件發生以來、我方ノ執リ來リシ措置ガ極メテ正當且適法ノモノナルコト、滿州國ハ其ノ住民ノ自發的意圖ニ依リ成立セルモノニシテ支那ニ於ケル分離運動ノ結果ト見ルベキモノナルコト、及斯ノ如クニシテ成立セル新國家ニ對シ帝國ニ於テ承認ヲ与フルハ九國條約ノ規定ニ何等牴觸セザルコトヲ明ニシタ次第デアリマスガ、更ニ進ンデ帝國政府ガ滿州國ノ承認ヲ以テ滿蒙問題解決ノ唯一ノ方法ト認メマスル

式ヲ以テスルヲ問ハズ、滿州國政府ノ建國宣言及對外声明等ニ表示セラレマシタ政治的信條ト全然相容レザルモノデアリマシテ、滿州國人ニ於テ之ヲ承認セザルベキコト火ヲ賭ルヨリモ炳デアリマス。滿蒙ニ對シ其ノ人民ノ欲セザル所ヲ強制セムトスルカ如キハ正義ノ觀念ノ許サザル所デアリマスノミナラズ、同地方ニ新ナル紛亂ノ種ヲ播クニ外ナラナイノデアリマス。要スルニ支那本部政權ノ滿蒙進出ヲ計ルガ如キ企圖其ノ他類似ノ不徹底ナル考案ハ、前述ノ如キ滿蒙ヲ以テ内外人安住ノ樂土ト為サムトスル目的ニハ副ハズ、又滿蒙ニ於ケル現實ノ事態ヲ基礎トスベシトノ趣旨ニモ合ハナイモノデアリマシテ、滿蒙自体ノ安定乃至極東ニ於ケル恒久的の平和ヲ招來スル所以デアリマセヌ。

之ニ反シ滿州國ニ於キマシテハ、其ノ建國宣言及對外声明等ニ、内外ニ對スル極メテ公正妥當ナル政策ヲ掲ゲテ居リ、殊ニ對外關係ニ付マシテハ正義ト平和ト親善トヲ主旨トスベキコト、國際法及國際慣行ニ照シテ既存條約上ノ義務ヲ繼承履行スベキコト、外國人ノ既得權益ヲ尊重シ其ノ生命財産ヲ保護スベキコト、外國人ノ來住ヲ歡迎シ且各民族ニ對シ平等公正ナル待遇ヲ与フベキコト、外國人ノ經濟

活動ニ関シ門戸開放ノ主義ヲ遵守スベキコト、列国トノ通商貿易ヲ容易ナラシメ世界経済ノ発展ニ貢献スベキコト等ノ方針ヲ宣明致シテ居リマスノミナラズ、同国当局ハ右実行ノ充分ナル誠意ヲ有スルモノト認メラルル次第デアリマス。従テ同国ニ対シ承認ヲ与へ、此ノ上共同国ガ前述ノ如キ健全ナル政策方針ノ実施ニ邁進シテ参リマス様援助シテ行クコトハ、即チ現実ノ事態ニ基イテ満蒙ニ内外人安住ノ策ヲ築ク所以デアリマシテ、之実ニ満蒙問題ノ恒久的解決ヲ齎ス唯一ノ方法デアルコトハ何人ニモ明カナル筈デアリマス。

満州国ノ政策方針ノ公正妥当ナルコト右ノ如ク、又同国当局ニ於テ之ガ実行ニ関シ充分ナル誠意ヲ有スルコト前述ノ通デアリマスルヲ以テ、同国ニシテ建国ノ純真ナル精神ヲ緊持シ、努メテ已マナケレバ其ノ前途ハ実ニ洋々タルモノガアリマス。世間或ハ同国ニ於ケル匪賊ノ跳梁ヲ過大視シ或ハ同国ノ財政難ヲ予断スルガ如キ者モアリマスガ、斯ノ如キ悲観論ニハ容易ニ左袒スルコトガ出来ナイノデアリマス。新興国ニ於テ其ノ建国当初、現下ノ満州国ニ於ケルガ如キ不逞分子ノ跳梁ヲ見ルコトハ世界ニ幾多ノ事例ガアル

ノデアリマシテ、而モ多数ノ場合ニ於テ之ガ鎮定ニハ相当ノ年月ヲ費シテ居ルノデアリマス。之ニ比較スレバ目下満州国ニ於ケル匪賊ノ討伐ハ良好ナル成績ヲ以テ進行シテ居ルモノト見ナケレバナリマセヌ。又満州国ノ財政ハ同国当局ガ其ノ建国当初ニ予想シテ居リマシタ所ヨリモ遙ニ良好デアルト云フコトヲ聞キ及ンデ居リマス。満州国ハ其ノ領域及人口殊ニ広大ナル富源ニ顧ミマシテ、施政宜シキヲ得バ必ズヤ富裕ナル国家トナリ、世界各国ニ取ツテモ有望ナル市場トナリマスルコト疑問ノ余地ガアリマセヌ。私ハ斯シテ満州国ガ健全ナル発達ヲ遂ゲ畜ニ同国三千万民衆ノ福祉ヲ招来スルノミナラズ、支那本部更生ノ好模範トナラムコトヲ期待スルモノデアリマス。

翻テ支那本部ノ状況ヲ見マスルニ、最近内政ノ紛乱ハ一層甚シキヲ致シタル一方共匪ノ跳梁ハ長江及南支一帶ノ広大ナル面積ニ亘ツテ居ルノデアリマシテ、国民政府ノ前途ニ対シ重大ナル暗影ヲ投ジテ居ル状態デアリマス。而モ排外殊ニ排日運動ハ依然トシテ止マナイノデアリマスルガ、斯ノ如クンバ支那本部ト外国トノ関係ハ愈々紛糾ヲ加へ、其ノ結果益々国内ノ混乱ヲ誘致スベキコト想像ニ難カラスノ

デアリマシテ、之ニ伴フ人民ノ窮苦ハ真ニ同情ニ堪ヘナイモノガアリマス。私ハ支那ガ今日ノ状況ヲ続ケテ行キマスルコトハ畜ニ同国自身ノ為寒心ニ堪ヘザルノミナラズ、外国側ニ取ツテモ由々シキ形勢ヲ持チ来スノ危険ヲ包蔵シテ居ルコトヲ痛感スルノデアリマス。之ニ反シ支那側ガ叙上ノ事態ニ深ク思フ致シ、速ニ其ノ誤レル対外政策ヨリ脱却スルト共ニ真面目ニ其ノ内部ノ整頓ニ精進セムトスル建設的ノ態度ニ出デ来リマスルナラバ、右ハ支那並ニ諸外国双方ノ為真ニ喜バシキコトデアリマシテ、我國民ガ東洋ノ大局ニ顧ミテ出来得ル限りノ助力ヲ吝マザルベキコト勿論デアリマス。私ハ同文同種ノ日滿支三国ガ各々独立国トシテ相倚リ相助ケ、極東ノ安寧福祉ノ為、延テ世界平和ト人類文化トノ為努力邁進スル時期ノ一日モ速ニ到来セムコトヲ翹望シテ已マナイノデアリマス。

300

昭和7年8月26日

在奉天武藤(信義)大使より  
内田外務大臣宛(電報)

大使の在満領事指揮監督に関する訓令至急発

令方について

奉天 8月26日後発

本省 8月26日後着

第三号(暗)

着任ニ臨ミ在満領事ニ訓示シ度キ意向ナル処本使ノ指揮監督ニ関シ未タ貴大臣ヨリ在満領事ニ対シ何等御訓令無キ趣ナルニ付右訓令方至急御配慮ヲ請フ

301

昭和7年8月26日

在広東吉田(丹一郎)総領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

内田外相の議会演説に対する唐紹儀の内話について

広東 8月26日後発  
本省 8月27日後着

第五四四号

唐紹儀西南政務委員会出席ノ為中山港ヨリ来広セルヲ以テ二十六日本官唐ヲ往訪驩談セルカ其ノ際閣下ノ議會ニ於ケル演説ノ満州国承認問題ニ関連シ唐ノ内話セル所左ノ通一、古来満州ニハ固有ノ文化無ク謂ハハ一個ノ未開領土ニ過キサル処一九〇七年余ハ時ノ總理桂公及外相小村侯ト会食セル際公等ヨリ朝鮮ハ日本ニ於テ処置スヘシトノ話アリ

越ヘテ一九一〇年朝鮮ノ併合実現セラルルニ及ヒ自分ハ爾  
来満州地方ニ於テモ遠カラス今日ノ事アルヲ予期シ居タリ  
二、中国民トシテハ今ヤ徒ニ恨ミ歎ク秋ニアラス須ク過去  
ヲ顧ミ静ニ将来ヲ考フヘキモノナルカ抑々日支間ノ關係今  
日ノ如キ錯綜ヲ招来セルハ一ニ白人種殊ニ英國ノ策動ニ禍  
サレタル次第（此ノ時浪速丸事件日清、日露ノ戦役等ノ原  
因結果ニ付説明セリ）ニテ自分等ノ夙ニ痛惜ニ堪ヘサリシ  
所ナルカ日本ノ満州国承認後ハ或ハ兩國關係益々複雑化ス  
ル処ナシトセサルモ外国ノ容喙ヲ避ケ自分等ノ持論タル亜  
細亜主義ニ依リ大局ヨリ解決ヲ図ラント欲セハ其ノ方法自  
ラ発見セラルヘキ筈ナリト信ス此ノ点ニ関シ過般孫科カ自  
分ヲ来訪シ如何ナル方法ヲ以テ日本ニ「アブローチ」スヘ  
キヤトノ質問ヲ為セル際ニモ日支間ノ根本問題ヲ解決セン  
トスル勇氣サヘアラハ日本ニ「アブローチ」スル方法ハ多  
タアルヘシト答ヘタル次第ナリ

三、南京政府ニ於テハ本問題ニ関シテモ例ニ依リ連盟ニ訴  
ヘ日本ニ抗議スル以外何等ノ方法ヲモ施ササルヘク民論モ  
或ハ一時轟々タルモノアリトモ之ヲ適當ニ指導シテ誤ナカ  
ラシメ本問題ヲ解決ニ誘フコトモ不可能ト云フニアラス世

ニ帝國ト満州国トノ間ノ外交的接觸及満州国境域内ニ於  
ケル帝國ト第三国トノ間ノ外交的接觸ヲ掌リ且在満帝國  
領事官カ領事官職務規則（其ノ他領事官ノ職務ニ関スル  
法律及命令ヲ含ム、以下同断）ニ依リ執行スル一切ノ措  
置ヲ指揮監督スルニ在リ

(二)右特命全權大使ノ職權ハ之ヲ関東軍司令官ノ職權及関東  
長官ノ職權ト截然區別スヘキコト申ス迄モナキモ前記外  
交的接觸等ヲ行フニ當リ必要ニ応シテ関東軍側又ハ関東  
庁側等ノ協力ヲ求ムルコトハ何等妨ナキ次第ナリ尤モ表  
面的措置ハ満州派遣特命全權大使又ハ其ノ隨員又ハ在満  
帝國領事官ニ於テ之ヲ行フヘキモノトス

(三)尚ホ外務大臣、満州派遣特命全權大使及在満帝國領事官  
ノ間ニ於ケル職務執行ノ手続ハ左記ノ通りトス

(イ)満州派遣特命全權大使ハ其ノ職權ニ属スル事務ノ処理  
ニ関シ自ラノ裁量ニ依リ重要ト認メララルモノニ付テ  
ハ外務大臣ニ請訓スヘク又外務大臣ニ請訓セサルモノ  
ニ付テモ同大臣ニ対シ遲怠ナク成ル可ク詳細ニ報告ス  
ルモノトス

(ロ)在満帝國領事官ハ領事官職務規則ニ基ク事務ノ処理ニ

ノ中ハ往々予期セヌコトガ起ルコトアリ（ト意味アリ氣ノ  
言ヲ發セリ）

四、少クトモ当方面ニ於テハ本件承認問題ハ予期シ居タル  
コトトテ其ノ実現ヲ見ルニ至ルモ左シタル變化ナカルヘシ  
ト存ス云々

支ヨリ上海へ、奉天ヨリ長春へ転報アリタシ  
支、奉天、北平、南京、福州へ転電セリ

302 昭和7年8月27日 内田外務大臣より  
在奉天武藤大使宛（電報）

満州派遣特命全權大使の職權および職務執行  
振りについて

本省 8月27日發

満州派遣特命全權大使ノ職權及職務執行  
振ニ関スル件

第一号（暗）

貴大使満州ニ到着セラレタルニ付テハ左記各項ニ拠リ職務  
ヲ執行セラルル様致度

記

(一)満州派遣特命全權大使ノ職權ハ外務大臣ノ指揮監督ノ下

関シ自ラノ裁量ニ依リ重要ト認メララルモノニ付テハ  
満州派遣特命全權大使ニ請訓スヘク又満州派遣特命全  
權大使ニ請訓セサルモノニ付テモ同大使ニ対シ遲怠ナ  
ク成ル可ク詳細ニ報告スルモノトス右何レノ場合ニモ  
在満帝國領事官ハ右請訓又ハ報告ヲ即時外務大臣ニ転  
報スルモノトス（在満帝國領事官相互間及在満帝國領  
事官ト在支帝國公館長トノ關係ハ從來通りトス）

(イ)外務大臣ハ領事官職務規則ニ基ク事務ノ処理ニ付満州  
派遣特命全權大使ヲ經テ領事ニ対スル指揮監督ヲ行フ  
モノトス

但シ緊急止ムヲ得サル場合外務大臣ハ満州派遣特命全  
權大使ニ指示スルト同時ニ直接領事ニ対シ指示ヲ与フ  
ルコトアリ

303 昭和7年9月1日 在奉天武藤大使より  
内田外務大臣宛（電報）

満州国における治外法権撤廃に関する声明書  
案について

奉天 9月1日後發  
本省 9月1日後着

第一八号（暗、至急）  
（本電見当ラス）  
（別電極秘）

満州国ニ於ケル治外法権撤廃ニ関スル声明書案  
帝国政府ハ満州国ノ司法制度カ着々改善セラレツツアルノ  
事実ニ鑑ミ適當ノ時期ニ於テ現ニ日本国臣民カ満州国ニ於  
テ享有スル領事裁判権ヲ放棄スルノ用意ヲ有ス

304 昭和7年9月1日  
在奉天武藤大使より  
内田外務大臣宛（電報）

吉黒両省内金鉱に関する日本政府声明書案に  
ついて

奉天 9月1日後発  
本省 9月2日前着

第一九号（暗、至急極秘）  
（本電見当ラス）  
（別電）

黒竜江及吉林両省内金鉱ニ関スル帝国政府声明書案  
本日日満両国間ニ交換セラレタル鉱業権ニ関スル公文別表  
ニ関シ帝国政府ハ大正七年黒竜江及吉林両省金鉱並ニ森林  
借款契約ニ依リ其担保トナリ居ル吉黒両省内ニ於ケル金鉱  
開発ニ付優先的権利ヲ留保スルモ満州国ニ於ケル門戸開放

主義ヲ尊重スル趣旨ニ基キ適當ノ条件ヲ以テ之ヲ国際的ニ  
開放スルコトヲ考慮スルノ用意ヲ有ス

305 昭和7年9月3日  
在ハルビン長岡総領事代理より  
内田外務大臣宛（電報）

満州国のブラゴエシチェンスク駐在領事派遣  
をソ連側承認について

ハルビン 9月3日前発  
本省 9月3日後着

第八四三号（暗）  
本官発奉天宛電報

第七〇一号  
武藤大使へ

第四号  
大臣宛往電第七〇三号ニ関シ

其後本問題ニ付当地外交部特派員ニ於テ当地蘇側代表ト数  
次ニ互リ折衝ヲ重ネタル処八月三十一日蘇連総領事「スラ  
ウツキー」ハ杉原ニ対シ満州国側ノ武市駐在領事及館員  
（日本人副領事ノ駐在ニ付テハ別段異存ナカリシモ如何ナ  
ル人物ヲ任命セラレタルヤト「ス」ヨリ問合セアリタルカ

吉津ノ任命ニ付テハ何等異議ヲ申出テサリシ趣ナリ）派遣  
ニ関シ中央ヨリ異存ナキ旨回訓アリタルヲ以テ申越シ次第  
旅券査証ニ応スヘシト述ヘタル趣ニテ満州国側ハ右「ス」  
ノ回答ニ基キ直ニ派遣人員ノ査証取付ノ上至急出発赴任セ  
シムル筈ノ趣ナリ

奉天総領事へ転報アリ度シ  
大臣、露、支、北平、武市、浦塩、哈府、長春、吉林、齊  
齊哈爾、満州里へ転電セリ

306 昭和7年9月10日  
内田外務大臣より  
在奉天武藤大使宛（電報）

現地中国人にたいする新国家の啓発運動につ  
いて

本省 9月10日後9時30分発  
第五四号（暗、極秘至急）

満州国民意発表方ニ関スル件

今後ニ於ケル満州問題ニ関スル宣伝ハ満州国ノ事態好転ヲ  
中心トスヘキコト既ニ申進ノ通ナリ然ルニ新国家ニ対スル  
満州国人ノ態度ニ関シ連盟調査委員報告中ニ智識階級、有  
産階級、商人及農民ノ大部分ノミナラス官吏軍人ノ一部ノ

如キモ亦反対意見ナリトノ記載アルヤノ情報アル処一般農  
民ノ政治ニ無関心ナルハ暫ク措キ智識階級等迄カ右様ノ態  
度ナリト云フカ如キハ連盟其ノ他ニ対スル反響面白カラサ  
ルヘク殊ニ満州国ハ住民ノ創立ニ依リ成立セルモノナリト  
ノ主張ニモ反スル次第ナルニ付満州国承認ノ機会ニ於テ中  
央及地方ノ官吏及実力者、商工業、自由職業、学校団体等  
ヲシテ新国家ニ賛成シ之ヲ礼讃スル旨ノ单独ノ意向又ハ決  
議ヲ通電セシムル等同国人自体ノ声ニ依リ右膠見ヲタタス  
手段ヲ講スルコト然ルヘシト認メラル就テハ時期切迫ノ折  
柄余リ無理ナル方法ヲ講シ却テ内部ノカラクリヲ見透サル  
ル懸念モナキニアラサルモ御裁量ニ依リ此辺ノ見込十分ナ  
ルニ於テハ満州国側幹部トモ御打合ノ上右実現方御取計相  
成様致シタク或ハ既ニ御手配中ノコトカトモ存スルモ為念  
長春へ転電セリ

307 昭和7年9月11日  
在南京楠本（実隆）中佐より  
真崎参謀次長宛（電報）

日本の満州国承認声明に対する中国政府要人  
の反応について

9月11日前11時2分発  
9月11日後7時30分着

第五一〇号(其一二)(秘)

帝国ノ満州国承認ニ関シテハ当地政府要人連ハ其話振リヨ  
リ察スルニ大体ニ於テ最早已ムヲ得スト為シアリト見ユル  
モノ多ク結果カ良カレ悪カレ静ニ連盟總會ヲ待ツ外施シ度  
クモ処置ナシト考ヘアル様ナリ、從テ政府トシテモ民心ノ  
激昂ヲ予想シテ極度ニ之ヲ恐レ内部的混乱ト第二上海事變  
ノ發生ヲ頗ル憂慮シ、其予防策ニ腐心シアル状態ナリ、又  
言論界ニ於ケル通信報道以外故ラニ過激ノ煽動ヲ掲載スル  
風ナク一般民心ニ大ナル反響ナク頗ル平穩ナリ、今ノ処承  
認発表ニ際シテモ大体無事ニ経過スルヤニ想像セラル

関東 北平 天津 濟南 漢口スミ

308 昭和7年9月12日

内田外務大臣より  
在パリ沢田連盟事務局長、在米国出  
淵大使宛(電報)

て 満州国各地商工団体代表者会議の状況につい

合第一八一三号

會議ヲ召集スル計画アル趣ナリ

連盟ヨリ在欧各大使ニ転報アリタシ

米ヨリ加奈陀、紐育、市俄古、桑港ニ転報アリタシ

309 昭和7年9月14日

在中国有吉(明)公使より  
内田外務大臣宛

満州問題に関する吳佩孚の天皇あて意見書に  
ついて

付屬書 八月二十二日付吳佩孚意見書要訳

機密公第二八一号

昭和七年九月十四日

在中華民國

特命全權公使 有 吉 明(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

吳佩孚ノ意見書送付ノ件

八月二十三日吳佩孚ハ參議水鈞韶ヲ在北平公使館ニ派シ別  
紙意見書ヲ本使ニ転送方申出タル趣ヲ以テ中山書記官ヨ  
リ送付シ来リタルニ付為参考要訳作成ノ上一括別添送付ス  
本信写送付先 在満全權 北平

満州国実業部ハ九月一日ヨリ長春ニ全国商工會議ヲ開催シ  
政府委員及全滿各地商工団体代表者七十名出席シ劈頭會議  
ノ構成ニ日政府諮問ニ対スル答申五日ヨリ本會議及委員會  
ニ移リ各地ノ提案ヲ審議シ去八日終了セルカ其議題ハ

- (一)金融復興問題
- (二)治安維持問題
- (三)税制ノ整理統一

ノ三種ニ綜合シ得ヘク各代表予期以上ニ自由ニ所見ヲ述ヘ  
熱心ナル論議ヲ重ネタル趣ニシテ元来今回ノ會議ノ眼目ハ  
事変後ニ於ケル一般金融救済施設ヲ実行スル下準備トシテ  
剴切ナル提案ヲ得ンカ為予メ民意ノ趣向ヲ承知シ置カント  
スルニアル処実業部トシテハ所期ノ目的ヲ充分達成シ新国  
家ノ威信ヲ地方ニ徹底セシメタルノミナラス各種ノ有力ナ  
ル参考資料ヲ蒐集シ得タル次第ナリトテ其成功ヲ喜ヒ且下  
右會議ノ結果ニ基キ今後ノ根本对策確立ニ鋭意努力シ居レ  
リ

尚會議ニ当リ実業部ト協力シ最モ能ク之ヲ利用シタルハ中  
央銀行ニシテ右ハ国幣ノ勢力拡充ニ相当効果アルヘク又実  
業部ハ本年農閑期ニ於テ本件ト同一趣旨ニ出ツル全国農務

(付屬書)

要 訳

大中華民國乎威上將軍吳佩孚謹シテ書ヲ

大日本帝國天皇陛下ニ致ス竊カニ聞ク王者ハ天下ヲ私スル  
ノ心ナシト

貴國ノ満州ヲ覬覦スルヤ久シ近年軍閥抬頭ノ結果内ハ鉄血  
主義ヲ以テ民意ヲ煽動シ外ハ國際ノ弱点ニ乘シテ奉吉ノ兩  
省ヲ占拠シ尚足ラストシ北ハ黑竜江、熱河ヲ窺ヒ南ハ天津  
上海ヲ擾乱ス、而モ軍權ハ天皇ニ属スト為シ

陛下ノ名ヲ挾ンテ世界ノ公論ヲ征服シ天下ノ大險ヲ冒ス、  
今ヤ中国ハ連年天災人禍相踵キ民苦命ニ堪エサルニ際シ貴  
國ハ恤鄰ノ義ヲ顧ミスシテ反ツテ之ヲ利用シ精兵銳器ノ威  
ヲ展フ是固ヨリ中国ノ不幸ナルモ豈亦日本ノ福ナラムヤ、  
吾人我同文同種兄弟ノ邦ニ対シ一度其ノ忠言ヲ尽サンコト  
ヲ思フヤ久シ茲ニ冒昧ヲ顧ミス良心ノ命ニ迫ラレ獨言ヲ獻  
シテ謹ンテ

天聰ニ達セムトス

賢明ナル

陛下或ハ万機ノ暇ヲ以テ垂聽ヲ賜ラハ独リ東亜和平ノ為ノ



ミナラス挙世ノ禍福之ニ倚頼スル所アラム  
査スルニ貴国ノ東北強佔ノ挙ハ其ノ藉口スル所左記數項ニ  
外ナラス

一、日本ハ島国ニシテ物資足ラス故ニ満州大陸ニ倚リ生命  
ノ源泉ヲ得ムトス

二、日本ハ人口激増シ別ニ植民地ヲ求ムルノ要アリ世界中  
満州ノ外適地ナシ

三、日露ノ役日本ハ全力ヲ竭シテ満州ヲ強露ノ手ヨリ救ヘ  
リ故ニ在滿ノ特權ハ露人ノ手ヨリ得タルモノナリ、然ル  
ニ今ヤ中国ハ其ノ他ノ租借地ト同様一律之ヲ回收セムト  
スルヲ以テ之ト争ハサルヲ得ス

四、東亞ノ和平ヲ保全シ蘇俄ノ東侵ヲ免レンカ為ニハ勢大  
陸ニ立脚シ能ク其ノ武力ヲ展ヘ以テ赤露ヲ制セサルヲ得ス  
以上數項ハ日本人持スル所ノ理由ナリ請フ今一々之ヲ弁セ  
ン

一、満州ニシテ果シテ日本ノ生命線ナリトセハ宜シク先ツ  
双方ノ好感ヲ保全シ親善ヲ実行セサル可カラス日本ノ求  
ムル所ハ物資ト營業ノ利益トニ在リ今ヤ得ル所ノ權利少  
カラス又之ヲ侵スモノ無キニ何ソ土地ヲ併吞シ之ニ割拠

使節ニ依リ解決ノ途アリ何ソ武力ニ訴フルノ要アラムヤ  
且ツ日本先ツ連盟及九国ノ公約ヲ破壞ス、安ソソ中国ノ  
守約ヲ責メ得ンヤ、今ノ如クンハ兩國人民ノ交誼永ク絶  
ヘ又自ラ孤立ニ陥ルコト昔者「ウイルヘルム」ノ第二ノ  
轍ヲ踏マンコトヲ恐ル中国人本仇日ノ觀念ナシ日本人自  
ラ之ヲ造成シ好箇ノ大市場ヲ人ニ委セントシツツアリ得  
失自ラ明ナルヘシ語ニ云フ三戸猶秦ヲ亡ホスト、貴国今  
日ノ事勝ツト雖敗ルルカ如シ  
陛下英明ノ資、希クハ速ニ戎機ヲ息メ速ニ和局ヲ開キ双方  
元老重望ノ士ヲ派シテ誠意難ヲ排シ以テ紛糾解決ノ任ニ當  
ラシメラレムコトヲ謹ンテ微忱ヲ布シ併セテ  
御康寧ヲ祝ス

民国二十一年八月二十二日

310 昭和7年9月15日

日本国満州国間議定書

議定書

日本国ハ満州国ガ其ノ住民ノ意思ニ基キテ自由ニ成立シ独  
立ノ一国家ヲ成スニ至リタル事実ヲ確認シタルニ因リ

ノ要アラムヤ、如此ハ人ヲ損ヒ己ヲ利シ他人ノ不幸ヲ引  
起スルノミニシテ兩國相和セス共存共榮ノ途ナカラシ  
二、人口過多ノ理由ハ自ラ言フヘクシテ他人ノ責ニ非ス家  
人多ク經濟足ラサルノ故ヲ以テ隣家ノ財ヲ強奪スルハ法  
律ノ許ササル所況ヤ優生學ト生育節制ノ途アルオヤ日本  
ハ今ヤ有主ノ満州ヲ侵シ陽ニ強佔ノ名ヲ避クルモ陰ニ朝  
鮮ノ前轍ニ倣フ天下ノ人豈欺クヲ得ンヤ

三、満州ノ為犠牲ヲ払ヘリ云云ノ言亦理由ヲ成サス借問ス  
日本ノ戦ヒシハ自衛生存ノ為乎將又義ニ仗リ鄰邦ヲ救ハ  
ントセシモノ乎、若シ後者ナリトセハ固ヨリ満州佔拠ノ  
理ナシ若シ前者ナリトスルモ他人ノ物ヲ以テ勞力ノ代償  
ト為スヲ得ス南滿一隅露人ノ既得權ヲ以テ限度トスヘ  
シ、他人ノ婦女ヲ救助シ代償トシテ他人ノ婦女ヲ求ムノ  
非理ナルカ如シ

四、共同以テ赤化ヲ防止ストノ理由ハ甚是ナリ然レ共中国  
自ラ人アリ之ヲ防止シツツアルニ対シテハ宜シク之ト協  
同スヘキナリ名ヲ之ニ藉リテ其ノ領土ニ割拠スルノ理ナ  
シ黃種相争フハ徒ラニ赤白帝國主義ノ為機會ヲ与フルニ  
過キス況ンヤ九月十八日以前事未タ決裂ニ至ラス一介ノ

満州国ハ中華民國ノ有スル國際約定ハ満州国ニ適用シ得ベ  
キ限り之ヲ尊重スベキコトヲ宣言セルニ因リ

日本国政府及満州国政府ハ日滿兩國間ノ善隣ノ關係ヲ永遠  
ニ鞏固ニシ互ニ其ノ領土權ヲ尊重シ東洋ノ平和ヲ確保セン  
ガ為左ノ如ク協定セリ

一 満州国ハ将来日滿兩國間ニ別段ノ約定ヲ締結セザル限  
リ満州国領域内ニ於テ日本国又ハ日本国臣民ガ從來ノ日  
支間ノ條約、協定其ノ他ノ取極及公私ノ契約ニ依リ有ス  
ル一切ノ權利利益ヲ確認尊重スベシ

二 日本国及満州国ハ締約国ノ一方ノ領土及治安ニ對スル  
一切ノ脅威ハ同時ニ締約国ノ他方ノ安寧及存立ニ對スル  
脅威タルノ事実ヲ確認シ兩國共同シテ国家ノ防衛ニ當ル  
ベキコトヲ約ス之ガ為所要ノ日本国軍ハ満州国内ニ駐屯  
スルモノトス

本議定書ハ署名ノ日ヨリ効力ヲ生ズベシ

本議定書ハ日本文及漢文ヲ以テ各二通ヲ作成ス日本本文  
ト漢文本文トノ間ニ解釈ヲ異ニスルトキハ日本本文ニ拠  
ルモノトス

右証拠トシテ下名ハ各本国政府ヨリ正当ノ委任ヲ受ケ本議

定書ニ署名調印セリ

昭和七年九月十五日即チ大同元年九月十五日新京ニ於テ之ヲ作成ス

日本帝国特命全權大使 武藤 信義 閣

満州国 国務総理 鄭 孝 胥 閣

因日本国確認満州国根拠其住民之意思自由成立而成一独立国家之事実

因満州国宣言中華民國所有之國際約款其応得適用於満州国者為限即応尊重之

満州国政府及日本国政府為永遠鞏固満日両国間善隣之關係互相尊重其領土權且確保東亜之和平起見為協定如左

一 満州国將來満日両国間未另訂約款之前在満州国領域内日本国或日本国臣民依拠既存之日中兩方間之条約協定其他約款及公私契約所有之一切權利利益即応確認尊重之

二 満州国及日本国確認對於締約国一方之領土及治安之一切脅威同時亦為對於締約国他方之安寧及存立之脅威相約兩國協同當防衛国家之任為此所要之日本国軍駐紮於満州国内

本議定書自簽訂之日起即生效力

日本帝国特命全權大使武藤

鄭 孝 胥 閣

大同元年九月十五日

計 開

一 大同元年三月十日満州国執政致本庄関東軍司令官函及昭和七年五月十二日該司令官致該執政覆函

二 大同元年八月七日鄭国務総理与本庄関東軍司令官所訂關於満州国政府之鐵路港湾水路航空路等之管理並鐵路之築造管理協約及本於以上協約之付屬協定

三 大同元年八月七日鄭国務総理与本庄関東軍司令官所訂關於設立航空会社之協定

四 大同元年九月九日鄭国務総理与武藤関東軍司令官所訂關於設定国防上必要之鈷業權之協定

以書翰啓上致候陳者本日付貴翰ヲ以テ今般日本国政府ニ於テハ満州国ガ独立ノ一国家ヲ成スニ至リタル事実ヲ確認セラレ且兩國間ノ善隣ノ關係ヲ永遠ニ鞏固ニシ互ニ其ノ領土權ヲ尊重シ東洋ノ平和ヲ確保スル為必要ナル協定ヲ締結スルコトニ御同意相成候処右以前ニ於テ既ニ日本国関東軍司令官ト満州国執政又ハ国務総理トノ間ニ交換又ハ締結セラ

本議定書繕成漢文日本文各二份漢文原文与日本文原文之間如遇解釈不同之處以日本文原文為準

為此記名兩員各奉本国政府之正当委任將本議定書簽字蓋印以昭信守

大同元年九月十五日

訂於新京

満州国 国務総理 鄭 孝 胥 閣

日本帝国特命全權大使 武藤 信義 閣

往復文書

満州国 国務総理 鄭

為

照会事此次

貴国政府確認敝国成一独立国家之事実且同意為永遠鞏固兩國善隣之關係互相尊重其領土權確保東亜之和平起見訂結必要之協定在案查其以前貴国関東軍司令官与敝国執政或国務総理之間業已所交換或締訂之左開文書及約款均因符合上述宗旨敝国政府茲確認之而為繼續有効相応照請貴大使查照為荷須至照会者

右 照 会

レタル左記文書及取極ハ何レモ前記ノ趣旨ニ合致スルモノナルニ付満州国政府ハ此ノ際之ヲ確認シ引続キ効力ヲ有セシムルコトト致シタル旨御照会ノ趣了承致候

右回答得貴意候 敬具

昭和七年九月十五日

日本帝国特命全權大使 武藤 信義 閣

満州国 国務総理 鄭 孝 胥 閣

記

一 大同元年三月十日満州国執政ヨリ本庄関東軍司令官宛書翰及昭和七年五月十二日同司令官ヨリ同執政宛回答文

二 大同元年八月七日鄭国務総理ト本庄関東軍司令官トノ間ノ満州国政府ノ鉄道、港湾、水路、航空路等ノ管理並ニ線路ノ敷設、管理ニ関スル協約及右協約ニ基ク付屬協定

三 大同元年八月七日鄭国務総理ト本庄関東軍司令官トノ間ノ航空会社ノ設立ニ関スル協定

四 大同元年九月九日鄭国務総理ト武藤関東軍司令官トノ間ノ国防上必要ナル鈷業權ノ設定ニ関スル協定

一 大同元年三月十日付満州国執政ヨリ本庄関東軍司令官宛書翰及昭和七年五月十二日付同軍司令官ヨリ同執政宛回答文

大同元年三月十日満州国執政致本庄関東軍司令官函及昭和七年五月十二日該司令官致該執政覆函

逕啓者此次満州事変以来

貴国竭力維持滿蒙全境之治安以致

貴国軍隊及人民均受重大之損害本執政深懷感謝且確認此後

敵国之安全發展必頼

貴国之援助指導為此對於左開各項特求

貴国之允可

一 敵国關於日後之国防及維持治安委諸

貴国而其所需經費均由敵国負担

二 敵国承認

貴国軍隊凡為国防上所必要將已修鐵路港灣水路航空路等之管理並新路之布設均委諸

貴国或

貴国所指定之機關

三 敵国對於

貴国軍隊認為必要之各種施設竭力援助

四 敵国參議府就

貴国國人選有達識名望者任為參議其他中央及地方各官署

之官吏亦可任用

貴国人而其人物之選定委諸

貴軍司令官之保薦其解職亦應商得

貴軍司令官之同意前項參議之人数及參議總數有更改時若

貴国有所建議則依兩國協議以增減之

五 將來由兩國締結正式條約時即以上開各項之宗旨及規定

為立約之根本 此致

大日本帝國關東軍司令官本庄繁

大同元年三月十日

溥 儀 花押

三月十日付貴翰正ニ受理ス

当方ニ於テ異存無之ニ付右回答ス

昭和七年五月十二日

關東軍司令官 本庄 繁 印

執政 溥 儀殿

二 昭和七年八月七日付本庄関東軍司令官ト鄭國務總理ト

ノ間ノ満州国政府ノ鐵道、港灣、水路、航空路等ノ管理並ニ線路ノ敷設、管理ニ関スル協約及右協約ニ基ク付屬協定

大同元年八月七日鄭國務總理与本庄関東軍司令官所訂關於満州国政府之鐵路港灣水路航空路等之管理並鐵路之築造管理協約及本於以上協約之付屬協定

満州国政府ノ鐵道、港灣、水路、航空路

等ノ管理並線路ノ敷設、管理ニ関スル協

約

満州国政府代表國務總理鄭孝胥（以下甲ト称ス）ト関東軍司令官本庄繁（以下乙ト称ス）ハ満州国政府ノ鐵道、港灣、水路、航空路等ノ管理並線路ノ敷設、管理ニ関シ協定ヲ為スコト左ノ如シ

第一条 甲ハ鐵道、港灣、水路（付表第一ニ掲クルモノニシテ付帶事業ヲ含ム以下同シ）及航空路等ノ管理並付表第二ニ掲クル線路ノ敷設、管理ヲ乙ニ委託スルモノトス前項ノ管理及線路ノ布設ニ関スル細目ハ甲、乙間ニ於テ別ニ協定スルモノトス

第二条 乙ハ法令並本協定ノ定ムル所ニ依リ鐵道、港灣、

水路、航空路等ノ管理ヲ為スモノトス

第三条 甲ハ交通ニ関スル重要ナル法令ノ整理、制定並改

廃ニ関シ予メ乙ノ諒解ヲ受クルモノトス

第四条 乙ハ第一条ニ基キ其ノ管理ヲ委嘱セラレタル鐵道、港灣、水路ノ經營及布設ヲ南満州鐵道株式會社（以下滿鉄會社ト称ス）ニ委託スルモノトス

第五条 左記各項ニ掲クル資金ハ滿鉄會社ヲシテ之ヲ調達

セシムルモノトス

一、民間出資及之ニ準スルモノノ償還ニ要スル資金

二、新設、買収並拡張、改良ニ要スル資金

三、車輛船舶ノ新造改造ニ要スル資金

四、其ノ他之ニ準スル資金

第六条 前条ノ資金及滿鉄會社ノ有スル満州国内鐵道借款

並工事請負契約ニ基ク債權全額ヲ貸金總額トシ鐵道、港

灣、水路ニ属スル一切ノ財産（營業權ヲ含ム）ヲ担保ト

スル借款契約ヲ滿鉄會社ト満州国政府トノ間ニ締結スル

モノトス

第七条 第一条ノ管理（航空路ヲ除ク）ニ依リ生スルコト

アルヘキ利益金ハ借款元利定額ノ支払ニ充テ其ノ剰余ハ日本軍ニ於テ担任スル国防並治安維持ノ費用ノ一部ニ充当シ尚剰余アルトキハ之ヲ満州国政府及満鉄会社ニ於テ取得スルモノトス

第八条 甲ハ乙ノ管理ニ属スル以外ノ鉄道ノ敷設ヲ免許スルニ当リテハ予メ乙ノ諒解ヲ受クルモノトス

第九条 甲ハ乙ノ援助ノ下ニ特設ノ経営機関ヲシテ航空ニ関スル一切ノ事業ヲ経営セシメ其ノ管理ヲ乙ニ委託スルモノトス

其細目ハ別ニ協定スルモノトス

第十条 甲ハ主要道路ノ新設、改良ニ関シテハ乙ノ諒解ヲ得テ施行スルモノトス

第十一条 本協約成立ノ趣旨ニ鑑ミ甲ハ乙ノ指定セル軍事顧問ヲ傭聘シ国防上重要ナル交通施設ニツキ諮詢スルモノトス

第十二条 本協約書ハ日満両文ヲ以テ各二通ヲ作為シ甲乙各一通ヲ保有スルモノトス

本協約ノ解釈ニ関シ疑義ヲ生シタルトキハ日本文ヲ以テ之ヲ決ス

吉 敦 線  
吉 海 線  
瀋 海 線  
奉 山 線 (打通線ヲ含ム)

乙

将来新ニ建設セラルル国防上必要ナル国有鉄道

二、港 湾  
葫 蘆 島  
河 北 (營口)  
安 東 県  
三、河 川  
松 花 江  
嫩 江  
牡 丹 江  
遼 河  
黒 竜 江  
ウ ス リ ー 河  
鴨 緑 江  
豆 満 江

付 則 左記諸契約ハ凡テ本協約及付属協定ノ成立ト共ニ其ノ効力ヲ失フモノトス

一、昭和六年十一月一日付満鉄總裁ト吉林省長間ニ成立セシ鉄道ノ新設経営貸金ニ関スル契約

二、昭和六年十二月一日付満鉄總裁ト四洮局長間ニ成立セシ四洮鐵路貸金及経営契約

昭和七年八月七日

大同元年八月七日

日本国関東軍司令官 本 庄 繁 印  
満州国国務総理 鄭 孝 胥 印

付表第一

一、鉄 道

甲

四 洮 線  
洮 昂 線  
洮 索 線  
齊 克 線  
呼 海 線  
吉 長 線

付表第二

一、新建設線

- (一) 敦 化—図們江線—(朝陽川—上三峯線ヲ含ム)
- (二) 拉法站—哈爾賓線—(呼海線ニ接続ス)
- (三) 克 山—海倫線
- (四) 拉哈站—墨爾根—大黒河線及海克線ノ一駅ヨリ大黒河ニ至ル線
- (五) 通遼又ハ錦県ヨリ赤峰及熱河ニ至ル線
- (六) 敦 化—海林線
- (七) 王爺廟—索 倫—満州里(又ハ海拉爾)線
- (八) 長 春—大 寶—洮安線
- (九) 延 吉—海 林—依 蘭—佳木斯線
- (十) 新 邱—義州站及巨流河站ニ至ル線
- 二、其他ノ国有鉄道及水路

關於満州国政府之鐵路港湾水路航空路  
等之管理並鐵路之築造管理協約

満州国政府代表国務総理鄭孝胥(以下称甲)与関東軍司令官本庄繁(以下称乙)關於満州国政府之鐵路港湾水路航空路等之管理並鐵路之築造管理所協定者如左

第一条 甲關於鐵路港灣水路（如第一付表所載而包含付帶事業以下亦同）及航空路等之管理並第二付表所載之鐵路之築造管理委託於乙

關於前項鐵路之築造管理細目在甲乙間另定之

第二条 乙依法令並本協定之所定管理鐵路港灣水路航空路等事

第三条 甲關於交通之重要法令之整理制定並改廢先与乙心得諒解

第四条 乙依第一条將所委囑其管理之鐵路港灣水路之經營及築造委託於南滿州鐵道株式会社（以下稱滿鐵会社）

第五条 左列各項所開資金使滿鐵会社等弁之

一、民戸之出資及準於此項応用償還之資金

二、為新設買取並構築改良所用之資金

三、為車輛船舶之新造改造所用之資金

四、其他準於此項之資金

第六条 將前条之資金及滿鐵会社所有之關於滿州国内鐵道借款並因包弁工程合同所生之債權為貸款總額屬於鐵路港灣水路之一切財產（包含營業權）作押之借款合同於滿鐵会社与滿州国政府間締結之

昭和七年八月七日

大同元年八月七日

日本国関東軍司令官 本庄 繁 團

満州国 國務總理 鄭 孝 胥 團

第一付表

一、鉄 路

甲

四洮路、洮昂路、洮索路、齊克路、呼海路、吉長路、吉敦路、吉海路、瀋海路、奉山路（包含打通路）

乙

将来從新築造之国防上所必要之鐵道

二、港 灣

葫蘆島、河北（營口）、安東県

三、江 河

松花江、嫩江、牡丹江、遼河、黒竜江、烏蘇利河、鴨緑江、図們江

第二付表

一、新築造路

第七条 因以第一条之管理（除航空路）將生之利益金先充作借款子母定額之開発如其有餘時充作日本軍所担任之国防並維持治安之費用之一部尚有餘時満州国政府及滿鐵会社収之

第八条 甲由乙所管理以外之鐵道築造擬將允許時先与乙得諒解

第九条 甲得乙之援助使特設機關經營關於航空之一切事業其管理委託於乙

至於其細目另協定之

第十条 甲關於主要道路之新築改良應得乙之諒解方能開工

第十一条 鑑於本協約成立之主旨甲乙應備聘由乙所指定之軍事顧問以諮詢關於国防上重要之交通布施

第十二条 本協約書以日滿兩文各作二甲乙各存其一

關於本協約如發生疑義時以日文決定之

付則左列諸合同本協約及付屬協定成立之時為限概歸無効

一、昭和六年十一月一日滿鐵總裁与吉林省長間所訂立之

關於新築鐵道經營貸款之合同

二、昭和六年十二月一日滿鐵總裁与四洮局長間所訂立之

四洮鐵路貸款及經營合同

(一) 敦 化—図們江路（包含朝陽川—上三峯路）

(二) 拉法站—哈爾濱路（接呼海路）

(三) 克 山—海倫路

(四) 拉哈站—墨爾根—大黒河路及自海克路之一站起至

大黒河路

(五) 自通遼或錦県起至赤峰或熱河路

(六) 敦 化—海林路

(七) 王爺廟—索 倫—驢 浜（或海拉爾）路

(八) 長 春—大 賚—洮安路

(九) 延 吉—海 林—依 蘭—佳木斯路

(十) 新 邱—義州站及至巨流河站之路

二、其他国有鐵路及水路

満州国政府ノ鐵道、港灣、水路、航空路等ノ管理、線路ノ敷設、管理ニ関スル協約ニ基ク付屬協定

昭和七年八月七日付（大同元年八月七日付）満州国政府代表國務總理鄭孝胥ト関東軍司令官本庄繁トノ満州国政府ノ鐵道、港灣、水路、航空路等ノ管理並線路ノ敷設、管理ニ関スル協定第一条第二項及第四条ニ基キ協定ヲ為スコト左

ノ如シ  
満州国政府ハ南満州鉄道株式会社トノ間ニ鉄道、港湾、水路等ノ委託經營並線路ノ敷設ニ関シ別ニ契約ヲ締結スルモノトス

昭和七年八月七日  
大同元年八月七日

日本国関東軍司令官 本庄 繁 印  
満州国 国務総理 鄭 孝 胥 印

基於關於満州国政府之鐵路港湾水路航空  
路等之管理並鐵路之築造管理之協約之付  
屬協定

茲基於大同元年八月七日満州国政府代表国務総理鄭孝胥与  
関東軍司令官本庄繁所訂關於満州国政府之鐵路港湾水路航  
空路等之管理並鐵路之築造管理協約第一条第二項及第四条  
為協定如左

満州国政府与南満州鉄道株式会社關於鐵路港湾水路等之  
委託經營並鐵路之築造另訂合同

昭和七年八月七日  
大同元年八月七日

日本国関東軍司令官 本庄 繁 印  
満州国 国務総理 鄭 孝 胥 印

三 昭和七年八月七日付本庄関東軍司令官ト鄭国務総理ト  
ノ間ノ航空会社ノ設立ニ関スル協定

大同元年八月七日鄭国務総理与本庄関東軍司令官所訂  
關於設立航空会社之協定

航空会社ノ設立ニ関スル協定

満州国国務総理鄭孝胥（以下甲ト称ス）ト関東軍司令官本  
庄繁（以下乙ト称ス）トハ航空会社ノ設立ニ関シ協定ヲ為  
スコト左ノ如シ

一、甲及乙ハ双方合意ノ上満州国ニ於ケル旅客貨物、郵便  
物ノ輸送並之ニ付帶スル事業ヲ經營セシムル為航空会社  
ヲ設立ス

二、航空会社ハ満州国法律ニ依ル日滿合弁ノ株式会社トシ  
其ノ資本金ハ金參百五拾万円トス

将来事業ノ拡張ニ伴ヒ之ヲ増額スル必要ヲ生シタルトキ  
ハ甲乙合議ノ上決ス

三、甲ハ別表ノ諸施設ヲ金百万円ニ評価シ之ヲ甲ノ出資額

トシ会社成立後ニ於テ之ニ相当スル株式ヲ会社ヨリ受領  
スルモノトス

右株式ハ譲渡スルヲ得サルモノトス

四、甲ノ出資額以外ノ資本ハ乙ニ於テ左ノ通り日本側ヨリ  
出資セシム

満鉄会社 金百五拾万円

住友合資会社 金 百 万 円

五、甲ハ旧奉天飛行機修理工場及兵工学校ノ土地建物ヲ無  
償ニテ乙ニ貸与シ乙ハ之ヲ乙カ押収セル飛行機修理工場  
及兵工学校所属器械類ト共ニ航空会社ニ貸与ス

六、甲ハ乙ノ同意ヲ得シテ満州国内ニ於ケル航空事業ヲ  
本航空会社以外ノ者ニ許容セサルヘシ

七、甲ハ航空会社ノ補助金トシテ毎年会計年度ノ始ニ於テ  
左記金額ヲ航空会社ニ交付ス但シ大同元年ニ限り十月末  
日之ヲ交付スルモノトス

大同 元年 銀四拾万円  
大同 二年 銀 百 万円  
大同 三年 銀百四拾万円  
大同四年以降 銀百七拾万円

前項補助金ハ会社ノ營業狀態ニ依リ甲乙合議ノ上之ヲ變  
更スルコトアルヘシ

八、甲ハ一切ノ航空機ノ検査及乗員ノ試験ヲ乙ニ委嘱ス

九、会社設立ニ関スル弁法ハ本協定成立後一ヶ月以内ニ日  
滿双方ヨリ委員ヲ挙ケ詳細ナル章程ヲ商議協定セシム

十、甲ハ航空会社ニ対シ航空会社ノ經費ヲ以テ航空ニ必要  
ナル専用通信及無線標識等ノ施設ヲナシ且之カ専用ヲ許  
可スルコトヲ約ス之カ為甲ハ所要ノ波長ヲ会社ニ配当ス  
ルモノトス

十一、郵便物ノ運送ニ関シテハ別ニ協定スルモノトス

十二、甲ハ航空会社ニ属スル諸施設及營業ニ関スル凡テノ  
納稅義務並航空会社ノ使用スル必需品ノ輸入稅ヲ免除ス  
ルモノトス

十三、本契約ノ正文ハ日滿両文各二通ヲ作製シ甲乙各一通  
ヲ保有ス

契約ノ解釈ニ疑義ヲ生シタルトキハ日文ヲ以テ之ヲ決ス

昭和七年八月七日  
大同元年八月七日

日本国関東軍司令官 本庄 繁 印

滿州国國務總理 鄭孝胥  
外交總長 謝介石  
交通總長 丁鑑修

記

一、飛行場

大同元年ニ完了スヘキモノ

奉天、長春、哈爾濱、齊々哈爾、海拉爾、滿州里、吉林、錦州、敦化、竜井村、

大同二年ニ完了スヘキモノ

鄭家屯、洮安、嫩江、大黒河、海林、依蘭、海倫、開魯、赤峰、熱河、前所、

二、中間着陸場

大同元年ニ完了スヘキモノ

瓦房店、大石橋、遼陽、開原、四平街、公主嶺、密門、雙城、溝溝、安達、小蒿子、碾子山、札蘭屯、巴林、興安、免渡河、完工、新民、打虎山、溝帮子、興城、連山、綏中、蛟河、甕声礮子、鳳凰城、本溪湖、

大同二年ニ完了スヘキモノ

法庫、開通、泰來、寧年站、訥河、二十里河、額裕

爾、石頭甸子、東京城、三站、四站頭站、通遼、闊包營市、梧桐好來、房身、公爺府、金家店、平泉、凌源、錦西、綏化、通北、克山、一面坡、帽兒山、

三、航空機製作工場用敷地及之ニ利用シ得ヘキ建物其他甲ノ所有ニ属スルモノニシテ本事業ニ利用シ得ラルル諸施設

關於設立航空会社之協定

滿州国國務總理鄭孝胥（以下称甲）与關東軍司令官本庄繁（以下称乙）關於設立航空会社之協定如左

一、甲及乙經双方之同意為弁成滿州国内旅客貨物郵便物件之運送及与其付帶之事業起見設立航空会社

二、航空会社為依照滿州国法律之日滿合弁株式会社其資本金定為參百五拾万円

将来因由事業之擴大應要増額之時即經甲乙之核議再決定

三、甲將另箋所示之各施設估價定為金壹百万円充當由甲出資額俟会社成立之後由会社領取相當之股份

以上之股份均不得讓与之

四、由甲出資額以外之資本由乙按照左開額使日本方面出資之

滿鉄会社

金壹百五拾万円

住友合資会社

金壹百万円

五、甲將原有奉天飛行機修理工場及兵工學校之土地建築物無償貸与乙將由乙押収之飛行機修理工場及兵工學校所属器械等与其合弁貸与航空会社

六、甲非經乙之同意則滿州国内航空事業一概不得向本航空会社以外者許容之

七、甲為航空会社之補助金每年於會計年度首先應將左開金額交付航空会社但限於大同元年於十月末日交付之

大同元年 銀四拾万円

大同二年 銀壹百万円

大同三年 銀壹百四拾万円

大同四年以後 銀壹百七拾万円

前項補助金按照会社營業狀況得經甲乙之核議更改之

八、甲將一切航空機之檢査及乗員之試驗向乙委託之

九、關於設立会社之弁法應於本協定成立之後一月以内由日滿双方委員商議協定詳細章程

十、甲約定對於航空会社用航空会社之經費施設為航空應要之專用通信及無線標識等事並許可專用之因之由甲向会社

應均分所要之波長

十一、關於運送郵便物件另協定之

十二、甲屬於航空会社之各種施設及關於營業一切之納稅義務及航空会社使用必需品之進口稅一律免除之

十三、本合同之正文用日滿兩文各作製二份由甲乙各保存一份

倘有解契約發生疑義時拋日文決定之

昭和七年八月七日

大同元年八月七日

|           |    |   |   |
|-----------|----|---|---|
| 日本國關東軍司令官 | 本庄 | 繁 | 印 |
| 滿州国國務總理   | 鄭孝 | 胥 | 印 |
| 外交總長      | 謝介 | 石 | 印 |
| 交通總長      | 丁鑑 | 修 | 印 |

計開

一、飛行場

於大同元年間完成之処

奉天、長春、哈爾濱、齊々哈爾、海拉爾、滿州里、吉林、錦州、敦化、竜井村

於大同二年間完成之処

鄭家屯、洮安、嫩江、大黒河、海林、依蘭、海倫、開魯、赤峰、熱河、前所

二、中間降着場

於大同元年間完成之処

瓦房店、大石橋、遼陽、開原、四平街、公主嶺、密門、雙城、溝溝、安達、小嵩子、碾子山、札蘭屯、巴林、興安、免渡河、完工、新民、打虎山、溝帮子、興城、連山、綏中、蛟河、甕声礮子、鳳凰城、本溪湖於大同二年間完成之処

法庫、開通、泰来、寧年站、訥河、二十里河、額爾、石頭甸子、東京城、三站、四站頭站、通遼、開包營子、梧桐好来、房身、公爺府、金家店、平泉、凌源、錦西、綏化、通北、克山、一面坡、帽兒山

三、航空機製作工場使用地基及得利用之建築物其他屬於甲之所有且對於本事業得利用之各種施設

四 昭和七年九月九日付武藤閣東軍司令官ト鄭國務總理トノ間ノ国防上必要ナル鉱業權ノ設定ニ関スル協定

大同元年九月九日鄭國務總理与武藤閣東軍司令官所訂

フ

製鉄及製鋼（特殊鋼ヲ含ム）用原鉱、輕金屬原鉱、石炭、石油、油母頁岩、鉛鉱、亜鉛鉱、ニッケル鉱、硫化鉄鉱、アンチモニー鉱、錫鉱、白金鉱、水銀鉱、黒鉛、石棉、硝石等

第四条 満州国政府ハ国防上必要ナル鉱物ニ対スル封鎖地域ノ設定及其ノ解放ニ関シ予メ日本国政府ト協議スヘキモノトス

第五条 本協定ニ依ル鉱業權ニ付テハ満州国政府ニ於テ新ニ鉱業法規ヲ施行スルニ至ル迄ハ鉱業權取得ノ資格及資本ノ持分ノ制限ニ関スル条項ヲ除ク外現行弁法ニ拠ルモノトス

満州国政府ハ国防上必要ナル鉱物ニ関スル鉱業法規ノ制定又ハ改正ニ方リテハ予メ日本国政府ノ同意ヲ得ヘキモノトス

第六条 本協定ハ調印ト同時ニ効力ヲ発生ス

第七条 本協定ハ日本文及漢文ヲ以テ各二通ヲ作成ス

日本文本文ト漢文本文トノ間ニ解釈ヲ異ニスルトキハ日本文本文ニ拠ルモノトス

關於設定国防上必要之鉱業權之協定

国防上必要ナル鉱業權ノ設定ニ関スル協定

日滿両国ハ協同シテ国家ノ防衛ニ当ルコトノ必要ヲ認ムルニ依リ両国ノ国防上必要ナル満州国領域内ニ於ケル鉱業權ノ設定ニ関シ下名等ハ左ノ通協定ス

第一条 満州国政府ハ自国領土内ニ於テ既ニ日本帝国臣民（法人ヲ含ム）ノ取得シタル一切ノ鉱業權ヲ尊重シ且国防上ノ目的達成ノ為必要ニ応シ既存ノ取極又ハ契約ニ改正ヲ加フヘキコトヲ約ス

前項ノ權利中採掘權ハ凡テ無期限トス

第二条 満州国政府ハ別表諸鉱山ノ鉱業權ヲ日滿両国政府ノ協議指定スル日滿合弁ノ法人ニ許スルモノトス但シ既得ノ權利ニ付テハ此ノ限リニ在ラス

第三条 前条ニ掲記セサルモノト雖国防上必要ナル鉱山ニ付テハ満州国政府ハ日滿両国ノ何レカ又ハ双方ノ国籍ヲ有スル日滿合弁ノ法人ニ限り其ノ鉱業權ヲ許与スヘキコトヲ約ス

国防上必要ナル鉱山トハ左記ノ鉱物ヲ埋藏スルモノヲ謂

昭和七年九月九日  
大同元年九月九日

日本国閣東軍司令官 武藤 信義 印  
満州国 國務總理 鄭 孝 胥 印

別表

| 所在地     | 省 県 名   | 鉱 種 |
|---------|---------|-----|
| 阜 新     | 熱河省阜新県  | 石 炭 |
| 新 邱     | 同 省阜新県  | 石 炭 |
| 北 票     | 同 省阜新県  | 石 炭 |
| 本 溪 湖   | 奉天省本溪県  | 石 炭 |
| 復 州     | 同 省復 県  | 石 炭 |
| 西 安     | 同 省西安県  | 石 炭 |
| 鶴 立 崗   | 黒竜江省湯原県 | 石 炭 |
| 八 道 壕   | 奉天省黒山県  | 石 炭 |
| 尾 明 山   | 同 省遼陽県  | 石 炭 |
| 札 賚 諾 爾 | 興安省贛浜県  | 石 炭 |
| 甘 河     | 黒竜江省布西県 | 石 炭 |
| 綏 芬 河   | 吉林省東寧県  | 石 炭 |
| 九 仏 堂   | 熱河省凌源県  | 石 炭 |



|      |         |         |
|------|---------|---------|
| 豐寧   | 同省豐寧県   | 石油      |
| 海拉爾  | 興安省海拉爾県 | 石油      |
| 煙台   | 奉天省遼陽県  | 輕金属原鉱   |
| 復州   | 同省復県    | 輕金属原鉱   |
| 本溪湖  | 同省本溪県   | 輕金属原鉱   |
| 大石橋  | 同省蓋平県   | 輕金属原鉱   |
| 海城   | 同省海城県   | 輕金属原鉱   |
| 橋頭   | 同省本溪県   | 輕金属原鉱   |
| 馬鞍山  | 同省突泉県   | 製鉄製鋼用原鉱 |
| 牛心台  | 同省本溪県   | 製鉄製鋼用原鉱 |
| 廟兒溝  | 同省本溪県   | 製鉄製鋼用原鉱 |
| 杉松崗  | 同省輝南県   | 製鉄製鋼用原鉱 |
| 小嶺   | 吉林省阿城県  | 製鉄製鋼用原鉱 |
| 歪頭山  | 奉天省興城県  | 製鉄製鋼用原鉱 |
| 老虎洞山 | 同省興城県   | 製鉄製鋼用原鉱 |
| 黄家大嶺 | 同省鳳城県   | 製鉄製鋼用原鉱 |
| 仙人洞  | 吉林省磐石県  | 製鉄製鋼用原鉱 |
| 石門寨  | 奉天省撫順県  | 油母頁岩    |
| 缸窰   | 吉林省舒蘭県  | 油母頁岩    |

国防上必要之鉱山者即指埋蔵左開鉱物者謂之

製鉄及製鋼(特殊鋼在內)所用之原鉱、輕金属原鉱、煤炭、煤油、油母頁岩、鉛鉱、亜鉛鉱、白銅鉱、硫化鉄鉱、錒鉱、錫鉱、白金鉱、水銀鉱、黒鉛、石棉、硝石等類

第四条 満州国政府對於国防上必要之鉱物如欲設定封鎖

地域或解放該地域時必須預先与日本国政府協議

第五条 關於本協定所定之鉱業權満州国政府未訂新鉱業法

而施行以前除關於取得鉱業權之資格及出資額數之限制之

條款外須照現行法規并理

満州国政府關於国防上必要之鉱物如欲制定或改訂其鉱

業法規時必須預先得日本国政府之同意

第六条 本協定自簽訂之日起發生効力

第七条 本協定繕成漢文及日本文各二份漢文原文与日本文

原文之間如遇解釈不同之處以日本文原文為準

大同元年九月九日

昭和七年九月九日

満州国國務總理 鄭孝胥  
日本国関東軍司令官 武藤信義 印

伊通 同省伊通県 油母頁岩  
阜新 熱河省阜新県 油母頁岩  
九仙堂 同省遼源県 油母頁岩  
豐寧 同省豐寧県 油母頁岩  
青城子 奉天省鳳城県 鉛  
寬甸 同省寬甸県 ニッケル鉱

關於設定国防上必要之鉱業權之協定

満日両国因認協同当防衛国家之必要關於両国国防上必要之在満州国領域内鉱業權之設定記名両員為協定如左

第一条 満州国政府尊重在自国領土内日本帝国臣民(法人在内)既得之一切鉱業權且約定為達成国防上之目的遇有必要可更正既存之約款及契約

前項權利中所有採掘權為無限期

第二条 満州国政府允許將付表所開諸鉱山之鉱業權付与於満日両国政府所協議而指定之満日合弁法人

但關於既得權利不在此限

第三条 前条付表所列鉱山之外另有国防上必要者満州国政府約定限於有満日両国一方或双方国籍之満日合弁法人允許付与其鉱業權

付表

| 所在地  | 省 県 名   | 鉱 種   |
|------|---------|-------|
| 阜新   | 熱河省阜新県  | 煤 炭   |
| 新邱   | 同省阜新県   | 煤 炭   |
| 北票   | 同省阜新県   | 煤 炭   |
| 本溪湖  | 奉天省本溪県  | 煤 炭   |
| 復州   | 同省復県    | 煤 炭   |
| 西安   | 同省西安県   | 煤 炭   |
| 鶴立崗  | 黒竜江省湯原県 | 煤 炭   |
| 八道壕  | 奉天省黒山県  | 煤 炭   |
| 尾明山  | 同省遼陽県   | 煤 炭   |
| 札賚諾爾 | 興安省贛浜県  | 煤 油   |
| 甘河   | 黒竜江省布西県 | 煤 油   |
| 綏芬河  | 吉林省東寧県  | 煤 油   |
| 九仙堂  | 熱河省遼源県  | 煤 油   |
| 豐寧   | 同省豐寧県   | 煤 油   |
| 海拉爾  | 興安省海拉爾県 | 煤 油   |
| 煙台   | 奉天省遼陽県  | 輕金属原鉱 |
| 復州   | 同省復県    | 輕金属原鉱 |

|      |   |      |         |
|------|---|------|---------|
| 本溪湖  | 同 | 省本溪県 | 軽金属原鉱   |
| 大石橋  | 同 | 省蓋平県 | 軽金属原鉱   |
| 海城   | 同 | 省海城県 | 軽金属原鉱   |
| 橋頭   | 同 | 省本溪県 | 軽金属原鉱   |
| 馬鞍山  | 同 | 省突泉県 | 製鉄製鋼用原鉱 |
| 牛心台  | 同 | 省本溪県 | 製鉄製鋼用原鉱 |
| 廟兒溝  | 同 | 省本溪県 | 製鉄製鋼用原鉱 |
| 杉松崗  | 同 | 省輝南県 | 製鉄製鋼用原鉱 |
| 小嶺   | 同 | 省阿城県 | 製鉄製鋼用原鉱 |
| 歪頭山  | 同 | 省興城県 | 製鉄製鋼用原鉱 |
| 老虎洞山 | 同 | 省興城県 | 製鉄製鋼用原鉱 |
| 黄家大嶺 | 同 | 省鳳城県 | 製鉄製鋼用原鉱 |
| 仙人洞  | 同 | 省盤石県 | 製鉄製鋼用原鉱 |
| 石門寨  | 同 | 省撫順県 | 油母頁岩    |
| 缸窰   | 同 | 省舒蘭県 | 油母頁岩    |
| 伊通   | 同 | 省伊通県 | 油母頁岩    |
| 阜新   | 同 | 省阜新県 | 油母頁岩    |
| 九仙堂  | 同 | 省凌源県 | 油母頁岩    |
| 豊寧   | 同 | 省豊寧県 | 油母頁岩    |

布シ内ニ旧来ノ暗黒政治ヲ排除シテ王道政治ヲ実行シ又外ニ対シテハ信義ヲ重シ和親ヲ求メ其ノ他既存ノ義務ヲ尊重シ門戸開放機会均等主義ヲ遵守スヘキコト等内外ニ対スル極メテ公正妥当ナル政綱ヲ明カニセリ次テ同国政府ハ同月十日帝國其ノ他十六ヶ国政府ニ通牒ヲ發シテ右建設綱領ノ趣旨ヲ反復スルト共ニ同国トノ正式外交関係ノ設定ヲ要請スル所アリタリ

爾来帝國政府ハ半歳ニ亙リ多大ノ関心ト細密ノ注意トヲ以テ満州国ニ於ケル事態ノ發展ニ留意シ来レル処同国ノ前記内外ニ対スル政策ノ実行ニ関スル誠意ト熱心トハ正ニ信ヲ置クニ足ルモノアリ就中治外法権ノ撤廃及一般外国人ニ対スル内地開放問題其ノ他条約ノ改訂ニ付テハ特ニ委員会ヲ設ケ諸般ノ準備ヲ整フルト共ニ一方の措置ヲ以テ之ヲ廃棄スル等ノコトナク飽迄関係国トノ合意ニ依リ之カ改訂ヲ實現セムトスル態度ノ顯著ナルモノアリ財政其ノ他諸般ノ施政ニ付テモ改善ノ跡既ニ見ルヘキモノアリ今ヤ満州国ハ着トシテ独立ノ実ヲ挙げ其ノ前途ニ対シ多大ノ希望ヲ囑セシム

帝國政府ハ叙上満州国ノ内外ニ対スル態度ニ顧ミ又満蒙ノ

青城子 奉天省鳳城県 鉛 鉍  
寬甸 同 省寬甸県 白 銅 鉍

311 昭和7年9月15日 政府発表

満州国承認に関する日本政府声明

(昭和七年九月十五日)

帝國政府声明

満蒙ハ曾テ帝國カ国運ヲ賭シテ其ノ危急ヲ救ヒタルノ地ナリ爾来廿有七年我カ官民一致シテ同地方ノ開發ニ参与シ苦心經營ノ結果今日ノ繁榮ヲ致シ今ヤ同地方ハ国防上国民的生存上帝國ト不可分ノ関係ニ立ツニ至レリ而モ近年過激思想ニ累セラレタル支那ノ排外的革命外交ノ為満蒙ニ於ケル我カ重大權益ハ日ニ月ニ蚕食セラレタルカ遂ニ九月十八日事件ノ勃發ヲ見我カ自衛權ノ發動トナレリ

然ルニ右満州事變ノ發生ニ伴ヒ旧東北政權ノ覆滅ヲ見ルヤ其ノ機ニ乗シ奉天、吉林、黑龍江、熱河ノ四省、東省特別区及蒙古各旗盟等ノ官紳士民相集リ協議ノ結果本年三月一日建國宣言ヲ發シテ即日中華民國トノ関係ヲ離脱シ満州新國家ヲ創立スルコトヲ宣スルト共ニ新國家ノ建設綱領ヲ昭

地カ我カ国防ノ安危、国民の生存ノ繫ル所ナルニ鑑ミ此ノ際速ニ満州国ヲ承認シテ同地方ノ安定ヲ促進シ帝國ノ康寧ト東洋ノ平和トヲ永遠ニ確保スルノ基礎ヲ鞏固ナラシムコトヲ期シ本十五日武藤特命全權大使ヲシテ満州国政府當局トノ間ニ議定書ヲ締結セシメ以テ同国ニ対シ正式ノ承認ヲ与ヘタリ右承認ノ実行カ帝國ノ加盟セル何レノ条約ニモ抵触スルコトナキハ本年八月二十五日帝國議會ニ於ケル外務大臣ノ演說ニ之ヲ明カニセリ

本議定書ハ満州国カ其ノ住民ノ自由意思ニ基キ成立セル独立國家タルコトヲ確認スルト共ニ同国ニ於テ帝國及帝國臣民カ從來条約其ノ他ノ約定ニ依リ有スル一切ノ權益ヲ確認尊重スヘキコトヲ定メ満蒙ニ於ケル我カ各種權益ニ関スル從來ノ紛糾ヲ一掃スル外、満蒙ニ対スル一切ノ脅威カ同時ニ帝國ノ康寧ニ関スルニ顧ミ日滿両国共同シテ國家ノ防衛ニ当ルヘク之カ為メ所要ノ帝國軍ヲ満州国内ニ駐屯セシムルモノナルコトヲ規定シ以テ両国間ノ善隣關係ヲ永遠ニ鞏固ニシ東洋ノ平和ヲ確保セムトスルモノナリ

帝國ニ於テ満蒙ニ対シ何等ノ領土的異図ヲ有セサルハ帝國政府ノ累次宣明シ来リシ所ナルカ今次議定書前文中ニ於テ

モ日満両国ハ相互ニ其ノ領土権ヲ尊重スヘキコトヲ掲ケタリ將又満州国政府ハ其ノ三月十日付対外通牒ニ於テ外國人ノ經濟活動ニ関シ門戸開放主義ヲ尊重スヘキコトヲ明カニシ居レルカ元來帝國ノ滿蒙ニ對シ要望スル所ハ同地方ニ於ケル我カ正當ノ權益ヲ確保スルト共ニ一切ノ排外施政ヲ廢除シ内外人均シク其ノ生ヲ安シスルニ在ルヲ以テ帝國政府カ滿蒙ニ於テ各國人何レモ均等ノ機會ノ下ニ經濟活動ニ從事シ同地方ノ開發ヲ繁榮トニ寄与セムコトヲ希望スルハ固ヨリ言フ俟タス

惟フニ滿州国上下ノ其ノ内外ニ對スル政策実行ニ関スル誠實真摯ノ態度ハ逐次全世界ノ認識ヲ深メ信頼ヲ博スルニ至ルヘク列国亦早キニ及ンテ同国トノ外交關係ニ入ルヘキヲ疑ハス茲ニ帝國政府ハ滿州国ヲ承認スルニ當リ同国ノ前途ヲ祝福スルト共ニ帝國官民一致協力シテ克ク善隣ノ誼ヲ全ウシ日滿共存共榮ノ実ヲ挙クルニ於テ遺憾ナカラムコトヲ望ム

312 昭和7年9月16日 在長春田中總領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

ブラゴエシチェンスク駐在滿州国領事一行の

313 昭和7年9月16日 在米田加藤(外松)臨時代理大使より  
内田外務大臣宛(電報)

日滿議定書、日本の滿州国承認に関する政府

声明に対する報道振りについて

ワシントン 9月16日後発  
本 省 9月17日後着

第四七五号

日滿条約全文及帝國政府聲明書要領ハ十六日当地方各新聞ニ掲載セラレタル処目下国内問題ノ幅濫シ居ルニ加ヘ滿州国承認以前ヨリ予期セラレ居タル為カ其ノ報道振極メテ冷静ニシテ第一面ノ書出シニハ支那カ連盟及九国条約締約國ニ對シ訴ヘタル記事ヲ掲ケ日本政府ノ聲明滿州条約及華府通信等ハ他面ニ掲クルモノ多キ有様ナリ紐育「タイムス」「ボルチモア・サン」等ノ十五日華府通信ハ「スチムソン」長官ハ日本ノ滿州国承認問題乃至極東ノ時局ニ関シ何等議論スル事ヲ避ケタルカ右態度ハ米國カ「リットン」委員會ノ報告提出迄其ノ態度ノ闡明ヲ差控フ可シトノ予テヨリノ報道ヲ「コンファーム」スルモノト認メラル又日本ノ行動ニ関シ支那カ抗議シタル場合ニハ國務省ニ於テハ之ヲ講究

赴任予定について

長春 9月16日後発  
本省 9月16日後着

第六一二号(暗)

本官発駐滿全権宛電報

第四七号

大橋ノ内話ニ依レハ「ブラゴエ」駐在滿州国領事一行ハ十八日当地出發清津、浦潮經由赴任ノ予定ニテ蘇連側ハ既ニ領事、副領事、書記生ニ對シテハ旅券ニ外交査証ヲ、雇員二名ニハ公用ヲ与ヘ尚知多、浦潮、「ハバロフスク」ニ領事館設置ヲ承認セルカ新タニ滿州国ヨリ要求シタル「ウエルチェンスク」、「ニコリスク」二ヶ所(蘇側ハ滿州国内ニ六個ノ領事館ヲ有スルニ依リ相互主義ニ基キ要求セルモノナリ)ニモ主義トシテ異存ナキ模様ナルモ一応莫斯科ニ請訓スルコトナレリ

右領事館設置ノ承認及外交査証ハ蘇側カ滿州国ニ對シ事實上默示ノ承認ヲ与ヘタルモノトモ見ラルヘントノコトナリ大臣、北平、奉天ヘ転電セリ

ス可キモ右ニ関シ何等意向ヲ明カニスル迄ニハ相当ノ時日ヲ要ス可ク又連盟ニ於テ「リットン」委員會報告ヲ討議スル場合米國カ代表者ヲ出席セシム可キヤ否ヤハ疑問トセラレ Foreign Policy Association ユリ米國ハ有力ナル代表者ヲ派遣ス可シトノ請願ヲ受理セルモ何等態度ヲ變更スル所無シトノ趣旨ヲ報シ居レリ又「ヘラルド・トリビューン」ノ同日華府通信ハ國務省ハ差当リ何等ノ措置ヲ執ル事無カル可シトノ趣旨ヲ報シタル上同省ニ於テハ滿州国問題ハ「フーヴァー・ドクトリン」ニ依リ「カヴァー」セラレ居ルトノ態度ヲ依然維持シ居リ又「リットン」報告ノ発表セララル迄何等ノ措置ヲ執ル事無カル可ク右報告発表後ニ於テモ或ハ理事会若ハ總會ノ開会ヲ待チ連盟ト協同ノ措置ニ出ツ可ク米國单独ニテ新ニ日本ト抗争スルカ如キ意向全然無シ「リットン」委員會ノ報告ニ関シテハ國務省ノ一部ニ於テハ右報告カ難局ヲ打開スル為ノ日本トノ交渉ノ基礎トナル可シトノ希望ヲ懷キ居ルモノ有リ蓋シ右委員會ハ何等カノ形ニ於テ滿州国ノ独立ヲ「レコメンド」ス可シトノ報道伝ハリタルカ為メナル可シ但シ目下ノ所ハ日本ハ軍事占領ニ依リ滿州国ヲ建設セリトノ印象依然存シ支那ハ其ノ領土

ノ分割ヲ強制セラレタルヲ抗議シ居ルヲ以テ行政部ノ大体ノ意見ハ九国条約ハ侵犯セラレタリト為スニアルモノノ如ク「リットン」委員会報告ハ満州国ハ日本ノ武力ニ依リ作ラレタルモノナル事ヲ確認スルモノト予期シ居ルカ如シト特ニ報道シ居レリ

巴里連盟ニ転電シ土ヲ除ク在欧各大使ニ転電セシム

314 昭和7年9月17日

在ソ連広田大使より  
内田外務大臣宛(電報)

#### 満州国承認問題カラハンに打診について

モスクワ 9月17日後発  
本省 9月19日前着

第五三一号(暗)

十六日「カラハン」ニ会见ヲ申込ミタル処同人ハ政府ノ会議アルニ付其後ニ致度トノ事ニテ十七日「カ」ヲ往訪先ツ本使ヨリ御承知ノ通十五日日滿議定書調印ヲ見日本ハ正式ニ満州国ヲ承認シタル次第ナリト述ヘタルニ「カ」ハ万事滞リ無ク終了シタル様承知シ居レリト云ヒタルニ依リ本使ハ茲一両日ノ当地新聞ヲ見ルニ本件ノ取扱振極メテ冷静ニシテ結構ト思考シ居ルカ蘇政府ニ於テハ満州国ノ承認問題

在欧米各大使、連盟、在満大使、長春ニ転電セリ

315 昭和7年9月17日

内田外務大臣より  
在パリ沢田連盟事務局長、在米国出  
淵大使宛(電報)

#### 満州国関税改正に関する声明書発表について

合第一八四九号

満州国ハ九月十五日外交部総長ノ名ニ於テ同国支那間関税関係ニ関シ左記声明書ヲ国民政府外交部支那海關総稅務司在東京及北平各国使臣在満各国領事及連盟事務總長宛ニ電報シタル旨同日外交部ヨリ発表アリタリ

満州国ハ其ノ建国当初ニ於テ諸外国トノ関税並ニ通商航海関係ニテハ当分ノ中従来ノ制度其ノ儘ヲ踏襲スヘキコトヲ中外ニ声明シ今日迄之ヲ実行シ来レリ

然ルニ満州国ハ其ノ後新興國ノ名実ヲ整備シツツアルノミナラス日本國ニ於テモ右ノ事実ヲ認メ之ヲ承認スルニ至リタル今日関税並ニ通商航海関係ニ於テ中華民國ヲ内國ト同一ニ取扱フカ如キハ其ノ儘之ヲ放置スル能ハス

茲ニ於テ満州国ハ今回関税並ニ通商航海関係ニ関シ中華民國ヲ純然タル外国トシテ取扱ヒ従来ノ變則的關係ヲ改ムル

ヲ如何ニセラルル考ナリヤト尋ネタルニ「カ」ハ蘇連邦ノ輿論ハ正ニ貴使ノ云ハル通りニシテ極メテ冷静ナリ又政府トシテモ満州事件勃發以來執リ来リタル不干渉主義ヲ持続スルモノニシテ今回日本ノ満州國承認ニ依リ蘇政府ノ不干渉政策ハ變更スルコトナシ尤モ満州國ノ承認ニ付蘇連邦トシテハ未タ何等ノ決定ヲ為シ居ラス依然研究中ニテ之ニ付意見ヲ申上クル程度ニ達シ居ラスト述ヘタルニ依リ本使ハ満州國ハ蘇連邦ノ接壤國ニテモアリ貴國カ満州國ヲ列國ニ先ンシテ承認セラレナハ極東ニ於ケル事態ヲ明確ニシ極東ニ於ケル平和ヲ確立スル上ニ於テ効果鮮カラサルヘシト思考ス又右承認ハ共ニ満州國ニ隣接スル貴我兩國ノ關係ヲ一層確立スル出发点トモナルヘシト思考ス要スルニ貴國ノ満州國承認ハ早ケレハ早キ程極東ノ平和ニ貢獻スヘシ自分ハ愈二十四日又ハ満州通過可能ナラハ廿五日出發帰朝ノ途ニ就ク考ナルカ夫レ以前ニ本件ニ付貴國政府ノ決定乃至方針ヲ承知スルヲ得ハ幸ナリト述ヘタルニ「カ」ハ満州國ノ承認問題ハ事甚タ複雑重大ニシテ諸般ノ事情ヲ充分考慮ノ上ナラテハ決定シ難シ勿論御出發前御知ラセスルコトアレハ申上クヘシト答ヘタリ

コトニシ大同元年九月二十五日ヨリ左記ノ如ク実施スルコトトセリ

- 一、満州國ヨリ海路又ハ陸路ニ依リ中華民國ニ仕向クル物品(満州國生産品ノ意味)ニ対シテハ現行稅率ニ依リ輸出稅ヲ課ス
- 二、中華民國ヨリ海路又ハ陸路ニ依リ満州國ニ輸入スル物品ニ対シテハ現行稅率ニ依リ輸入稅ヲ課ス
- 三、噸稅ノ賦課ニ付テハ中華民國ニ於テ發給セラレタル噸稅納稅済証書ハ満州國ニ於テハ其ノ効力ヲ有セサルモノトス
- 四、満州國諸港ト中華民國間ノ内水航行權ハ之ヲ認メス中華民國ニ於テ發給セラレタル内水航行免狀ハ満州國ニ於テ其ノ効力ヲ有セサルモノトス

五、右實施ノ為山海關其ノ他必要ノ地点ニ稅關ヲ設置シ徵稅ヲ開始ス満州國ハ此ノ變革ニ依リ中外商民ニ不測ノ損害ヲ蒙ラシムルコトヲ避クルカ為本聲明ノ日ヨリ相当ノ猶予期間ヲ置キテ之ヲ實施スルコトシタルカ尚右實施ノ日以前ニ荷主ニ於テ善意ニ中華民國以外ノ港ヨリ積出シ中華民國諸港ニ於テ輸入稅ヲ徵收セラレ實施ノ日以後

ニ於テ満州国諸港ニ到着スル貨物ニ付テハ本声明ノ適用  
上不当ノ損害ヲ与ヘサル様相当ノ考慮ヲ為スノ用意アリ  
右声明ス

連盟ヨリ在欧各大使ニ転報アリタシ

316 昭和7年9月22日 在濟南西田(畔一)総領事より  
内田外務大臣宛

日本の満州国承認に関する馮玉祥の談話要領  
について

普通第四三〇号

昭和七年九月二十二日

在濟南

総領事 西田 畔一

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

満州国承認ニ対スル馮玉祥ノ談話要領報

告ノ件

日本ノ満州国承認ニ対シ当地東魯日報記者カ泰安ニ馮玉祥  
ヲ往訪シテナシタル会谈要領トシテ本月二十日同紙ニ掲載  
セラレタル所左ノ如シ

問 日本ノ満州国承認ニ関スル感想如何

事實上不抵抗主義ニ等シ但シ日本ノ帝國主義者ハ此ノ  
國際多事ニシテ中国執政不抵抗ノ時ニ乗シ此種ノ人ノ  
真意ヲ接受スルヲ肯セス東三省問題ニ対シ徹底的ニナ  
シテ名、実双方ヲ収メ日本ノ満州承認ハ一切妥協論者  
ノ幻想ハ其ノ方面ヲ完全ニ粉碎シ武力ヲ以テ抵抗シ、  
武力ヲ以テ東三省回復アルノミナルヲ証明セリ

問 具体的弁法ニ付意見アリヤ

答 本問題ニ関シテハ此ノ一年間已ニ発表セルモノ少ナカ  
ラス現状ニ付キテ言ハハ直ニ左記五項ヲ弁理スヘシ

一、三全大会ヲ開会シ党禁ヲ解除シ力量アリ弁法ア  
ル政府ヲ改組ス

二、国内大團結シテ国内問題ハ概ネ和平、政治的解  
決ス

三、抗日ノ武人ニ限ラス一致外侮ニ当リ民衆ノ力量  
ト政府ト切実ニ合作セシム

四、外交上迅速ニ自動外交ヲ行ヒ徒ニ国連ノ鼻息ヲ  
ノミ窺ハス

五、満州ニ対シ討伐令ヲ下シ実力ヲ以テ失地ヲ回復  
シ真ノ抗日戦争ノ準備ヲナスヘシ

答 之レ日本カ滿蒙ヲ併吞スヘキ必然ノ一過程ニシテ何等  
驚異トスルニ足ラス

問 其ノ理由如何

答 日本ハ微力ヲモ費サスシテ東三省ヲ占領シテヨリ既ニ  
一年ニシテ手製ノ傀儡政府ヲ成立セシハ占領後半年ニ  
過キス然ルニ中国ハ國際連盟ニ呼籲セル外ニハ外交ナ  
ク紙面ノ抗議ヲナスモ対策ナシ又内部團結ノ成意ナク  
弁法モナケレハ斯ル局面下ニ於テハ日本ハ何等畏ルル  
所ナク其ノ自制ノ偽國家ヲ承認シ得ヘシ

問 日本ノ満州承認ニ対シ國際上反響ナキヤ

答 國際連盟及英、米各國ハ或ハ多少ノ反響アランモ右ハ  
口頭の講演的ノモノニシテ決シテ實際的効果アラスシ  
テ最大限度日本ノ一定的侵略段階ヲ阻止シ又ハ其ノ承  
認ヲ失効セシムル能ハス

問 然ラハ我國ハ如何ニスヘキヤ

答 上海停戦以来自驕者ハ遠見アル政治家、外交家ノ主張  
スル日本ノ承認ハ中国ノ東三省政治主權、一切ノ經濟  
上、軍事上ノ利益ヲ完全ニ放棄スヘシ此種ノ主張ハ東  
三省ノ名ヲ存シ実ヲ亡ホシ國民ヲ欺騙スルモノニシテ

問 如何ナル弁法カ有効ナリヤ

答 唯一ノ方法ハ國民自己ニ依リ組織シ政府ヲ監督シテ最  
後ノ救國機會ヲ捉ヘルニアリ

右馮ノ談話ハ必スシモ真意ト認メ難ク主トシテ人氣ヲ博セ  
ン為メノ所言ニシテ中央政府及蔣介石等ニ対スル不平不滿  
ノ一部ヲ暗ニ吐露セルモノト認メラルルニ付御参考迄報告  
ス

本信写送付先

公使 北平 青島 天津 上海 南京

駐滿全權大使

317 昭和7年9月23日 在上海有吉公使より  
内田外務大臣宛(電報)

對滿州輸出入品税率に関する中国税関当局の  
意向について

第一二〇五号(暗、極秘)

往電第一二〇三号末段ニ関シ

二十三日岸本ヨリ堀内ニ対スル極秘ノ内話ニ依レハ支那税

上海 9月23日後発  
本省 9月23日後着

関当局ハ二十五日以後満州トノ輸出入品ニ対シ適用スヘキ  
税率ニ付大体ニ於テ

(一)原則トシテ内国貿易ト看做シ満州海関ニ於テ徴収スヘカ  
リシ税(即チ満州輸出ノ際ノ転口税)ハ同海関閉鎖ノ為  
是ヲ支那本部海関ニテ徴収スル建前トシ其ノ内発送地ノ  
不明ナルモノニ対シテノミ外国輸入税ヲ適用スル事

(二)大連差立ノ物品ニ対シテハ外国税率ヲ適用シ其ノ内  
Native goods ノ証明アルモノハ(一)ニ準シ転口税ヲ賦課  
スル事

ニ決シ中央ニ請訓中ニテ近ク回訓アリ次第公表スル管ナル  
モ中央カ右方針ヲ許可スルヤ否ヤハ今ノ処尚不明ナル趣ナ  
ルカ支那側トシテハ満州国側カ其ノ宣言セル外債部分ノ送  
金ヲ実行スルヤ否ヤニ付相当不安ヲ感シ居リ右満州国側ノ  
実行振如何ニ依リ前記支那側ノ方針モ或ハ根本的ニ変更サ  
ルルヤモ計ラレサルモノト認メラル

尚本件内話ノ内容ハ支那側ニ於テ何分ノ公表アル迄外部ニ  
通牒セサル様特ニ御注意ヲ請フ

駐満全権、北平、青島、天津、南京、芝罘へ転電シ、上海  
へ転報セリ

318 昭和7年9月23日 在長春田中総領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

鮑駐日代表一行の長春出発について

長春 9月23日後発  
本省 9月23日後着

第六三五号(暗)

往電第六三〇号ニ関シ

(鮑親造)  
鮑駐日代表一行ハ本廿三日朝当地出発予定通り廿六日乗船  
渡日ノ筈ナリ

尚二十日夜当地大和「ホテル」ノ鮑ノ居室ニ何者カ強迫状  
ヲ抛込ミタルモノアリ同人モ少カラス不安ヲ感シ居ルニ付  
テハ大連迄ハ我憲兵隊及警察ニ於テ保護ノ手配ヲ講シ居ル  
ニ付一行内地陸後ニ於ケル保護並便宜供与方特ニ御配慮  
相成度シ

駐満全権へ転電セリ

319 昭和7年9月30日

在奉天森島総領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

満州国承認問題に関するソ連側の動向につい

て

日滿産業統制委員会設置について

(昭和七年九月三十日對滿蒙実行策案審議委員  
會ニ於テ拓務省側ノ留保付ニテ可決)

(極秘)

日滿産業統制委員会設置ニ関スル件

方針

日滿両国間ノ産業統制ニ関シテハ對滿蒙実行策案審議委員  
會ノ外ニ別ニ資源局長官ヲ委員長トスル日滿産業統制委員  
會ヲ設置シ以テ両国間ノ産業ノ統制ニ関スル方策ヲ研究審  
議スルモノトス

要領

日滿産業統制委員会ハ内閣総理大臣ノ監督ニ属シ日滿産業  
統制ニ関スル事項ヲ研究審議シ事ノ重要ナルモノハ之ヲ對  
滿蒙実行策案審議委員会ニ付議シタル後閣議ニ提出シ事ノ  
輕易ナルモノハ閣議ニ諮ルコトナク主務官庁ニ於テ直ニ之  
カ実行ニ着手スルモノトス

一、審議事項

日滿産業統制ニ関スル事項

二、委員会編制

## 事項2 満州国の成立と日本の承認

320

昭和7年9月30日 對滿蒙実行策案審議委員会

第一二七八号(暗)

本官發駐満全権宛電報第一一号

奉天 9月30日後発  
本省 9月30日後着

当地露国総領事近ク帰国ノ次第ハ往電第三号ノ通ノ処当地  
ノ「タス」通信員「スレパツク」モ最近二ヶ月ノ予定ニテ  
帰国ヲ命セラレ其ノ後任トシテ在上海通信員 Chernoff 既  
ニ廿九日上海ヲ出發シタル趣ナルカ同総領事並ニ「ス」カ  
引続キ帰国ヲ命セラレタルハ蘇連政府ニ於テ満州問題ニ関  
スル報告並ニ所見ヲ徴スルニ在ル事推察ニ難カラス尚廿九  
日同総領事ノ招宴ノ際同総領事館員数名並ニ「スレパツ  
ク」ト夫々会谈ノ機ヲ得タルヲ以テ蘇連ノ満州国承認問題  
ニ氣ヲ引キ見タルニ孰レモ蘇連トシテ満州国ヲ承認スルニ  
何等反対スヘキ理由ヲ見出シ得サルモ承認ニ先立チ日蘇又  
ハ蘇滿両国間ニ不可侵条約ノ締結ヲ必要トストノ点ニ於テ  
所見ヲ一ニシ居レリ御参考迄

大臣、哈爾賓、支、北平、齊々哈爾、長春へ転電セリ

委員長 資源局長官  
委員 左記各官庁ノ局長級一名乃至二名  
外務省  
大蔵省  
陸軍省  
海軍省  
商工省  
拓務省  
農林省  
資源局

三、幹事会

委員会ニ付議スヘキ議案ノ準備及決議ノ整理等ヲ行フ為  
幹事会ヲ設ク

幹事長 資源局部長  
幹事 左記各官庁ノ課長級一名乃至二名  
外務省  
大蔵省  
陸軍省  
海軍省

商工省  
拓務省  
農林省  
資源局

四、専門事項ニ関シテハ委員又ハ幹事以外ノモノヲ隨時委員  
会又ハ幹事会ニ列席セシメ其ノ意見ヲ徴スルコトヲ得  
五、委員会及幹事会ニ関スル庶務ハ資源局ニ於テ掌理ス  
六、委員会及幹事会ハ各々其ノ長ノ召集ニ依リ隨時適當ノ  
場所ニ開会ス

321

昭和7年10月3日 在長春田中総領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

満州国政府官制の一部改正について

長春 10月3日後発  
本省 10月4日前着

第六六五号(暗)

本官発駐満全権宛電報

第八七号

本三日ノ國務會議ニ於テ駒井ヲ総務長官ヨリ退カシメ参議  
府ニ送り國務院総務庁ハ長官ヲ廃シテ庁長ヲ置キ阪谷ヲ庁

長代理ニ任命セリ尚各部総長ハ所管事項ニ関シ今後國務総  
理ト共ニ執政ニ対シ副署ノ責ニ任スル事ニ改正セラレタリ  
大臣ヘ転電セリ

322

昭和7年10月8日 在チチハル内田(五郎)領事より  
※内田外務大臣宛(電報)

満州国承認祝賀大会の模様について

第一八五号

本官発駐満全権宛電報第二八号

日本ノ満州国承認祝賀大会ハ本八日午前九時ヨリユウサ  
公園ニ於テ日滿両国側軍警警護ノ下ニ開会執政教書及國務  
總理訓示ノ朗読ニ次キ韓省長及張警備司令ノ開会ノ辞並ニ  
松木師団長及本官其他数名ノ祝辞及演説アリ最後ニ当地祝  
賀大会ノ名ヲ以テ英米仏伊独蘇連等主要国ニ対シ満州国承  
認要求通電發送方ヲ決議シ会スル者約三千極メテ順序ヨク  
進行十一時終了次テ祝賀宴ニ移リ日滿両国人約八百盛會裡  
ニ午後一時半散会シ其他旗行列モアリ多大ノ効果ヲ収メタ  
ルカ伝單、標語等ノ宣伝力未タ乏シキコトハ支那本部ノ此

ノ種催シニ比シ稍々淋シサヲ感シタリ  
外務大臣ニ転電セリ

323

昭和7年10月12日 在満州国武藤大使より  
内田外務大臣宛

在満朝鮮人関係事務処理統轄機關の設置につ

いて

公機密第六六号

昭和七年十月十二日

在満

外務大臣伯爵 内田 康哉殿 帝國特派全権大使 武藤 信義

在満朝鮮人関係事務処理統轄機關ニ関スル  
件

本月六日田中朝鮮總督府外事課長当全権事務所ヲ来訪シ現  
在在満關係領事館ニ總督府派遣員ヲ出張セシメ居ル処今般  
全権部設置セラレタルニ顧ミ總督府トシテモ将来總督府事  
務官ヲ新京ニ常駐セシメ是等派遣員ヲ指導スルト共ニ同府  
所管ノ在満朝鮮人關係事務ヲ統轄セシムルコトヲ致度旨申出  
ノ次第アリタルニ付種々協議ノ結果大体左記要項ノ通り打

合セヲ了シタルニ付右ニ御了承相成度此段報告申進ス

記

一、朝鮮総督府ハ在満鮮人関係ノ同府ニ属スル事務統轄ノ目的ヲ以テ高等官三等程度ノ才能識見アリ且調和性アル事務官一名ヲ新京（全権事務所所在地）ニ派遣ス総督府ハ将来属、囑託、雇若千名ヲ派遣シ事務官ヲ輔佐セシム

二、右事務官ハ全権事務所総務課兼勤トス

三、右事務官ハ出来得レハ外務事務官（又ハ適當ノ官）ヲ兼任セシム

四、朝鮮総督府ハ将来別ニ事務官一名ヲ奉天ニ派遣駐在セシメ度キ意向ナリ

本信写送付先、朝鮮総督府、奉天、長春、哈爾濱、吉林、間島、鉄嶺、遼陽、安東

324

昭和7年10月13日

在満州国武藤大使より  
内田外務大臣宛（電報）

満州市場閉鎖に関する米新聞記事への反駁材料について

奉天 10月13日後発  
本省 10月13日後着

ニ日本ハ各品目共大体ニ於テ増加セルモ米国ハ各品目共一樣ニ減少シタル次第ナリ機械類、薬剤及薬品、小麦粉、煙草等ハ減少セルモ紙及石油ニ於テ著シキ進展ヲ示シ紙ニ於テ約十倍石油ニ於テ約六倍ノ増加ヲ示セルニ依リテ觀ルモ前記ノ増減カ満州国建設ニ伴フ門戸閉鎖ニ原因スルモノニ非スシテ大部分自然ノ經濟的原因又ハ特殊局地的原因ニ依ルモノナル事ヲ知ルヘシ

(2) 即チ日本ノ輸入貿易増進ハ

(一) 円為替ノ暴落

(二) 旧東北軍閥ノ排日的「ディスクリミネーション」ニ依リ不自然ニ圧迫セラレ居リタル日本商品カ他国商品ニ対シ機會均等ノ立場ニ立戻リタル事

(三) 中南支ニ失ヘル我國ノ經濟上ノ利益ヲ当方面ニ於テ取戻サントスル邦商ノ努力

第一八三号（暗）

貴電第一五一号紐育「タイムス」記事ハ大体左ノ趣旨ニ依リ反駁シ得ヘク御見込ミニ依リ米ヘ又貴電第一五七号ノ關係上参考トシテ桑港ヘ転電アリ度シ

大連經由輸入貿易ハ昭和六年ニ於テ各国共前年ニ比シ著シキ減退ヲ示シタルカ（日本ハ八千五百七十万円ヨリ六千五百万円ニ米国ハ一千六百万円ヨリ九百八十万円ニ減少セリ）満州国建設以来一般ニ漸次回復ノ徴ヲ示シ（往電第一五七号参照）昭和六年及七年三月乃至八月ノ比較ニ於テ日本ハ二千九百万円ヨリ六千三百百万円ニ増加シタルニ対シ米国ハ一百二十百万円ヨリ一百百万円ニ減少シ居レル処増加セルハ独リ日本ノミニ非ス支那ノ如キハ一千二百四十百万円ヨリ一千九百八十万円ニ英国ハ八十万円ヨリ一百六十百万円ニ露国ハ三十八百万円ヨリ八十万円ニ仏国ハ三百万円ヨリ十九万円ニ増加シ居リ之ニ反シ減セルハ独リ米国ノミニ非ス独逸ノ如キハ一百八十万円ヨリ一百百万円ニ減少シ居レリ他ノ諸國ノ増減ヲ無視シ單ニ日本ト米国ノミヲ比較シ日本ノ増加シタルニ反シ米国カ減少シタルカ故ニ直ニ門戸閉鎖ヲ云々スルカ如キハ根拠無キ謬論ト言フヘシ更ニ輸入品目ニ付觀ル

(四) 邦人ノ増加ニ伴フ日本人向商品ノ進出等ニ基因スルモノニシテ又米国輸入貿易中或種品目ノ減退ハ

(一) 弗為替ノ昂騰

(二) 満州ニ於ケル米国商人ハ独逸商人ト同シク兵工廠其他ノ軍閥ニ対シ機械材料等ノ売込ミヲ主トシタルモノナルカ軍閥ノ凋落ト共ニ兵工廠其他ノ閉鎖ノ結果之等品目ノ輸入ノ減少シタルハ当然ノ事ナリ等ノ理由ニ基クモノニシテ之等ノ原因ニモ係ラス一般ノ需要品タル紙、石油等ノ著シキ増進ハ米国商人ニ対シ満州国建設ニ依リ対滿貿易ノ有望ナル事ヲ教フルモノニシテ旧政權ノ下ニ於テハ門戸ヲ或國ニ対シ或程度迄閉鎖セラレ居リタルモノカ満州國ノ建設ニ依リ門戸開放機會均等ノ主義ヲ完全ニ實現セラレ自由競争ノ天地開カレタルモノト見ルヲ至当トスヘク日本人顧問ノ傭聘ハ大イニ此点ニ貢獻シタルモノト言フヘシ